

Japan Institute of the Moving Image

日本映画大学

映画学部
シラバス

2025年度

日本映画大学 映画学部

シラバス

(授業内容)

2025 年度

「シラバス」は、受講科目を選択する上で必要となる各科目の授業内容を記載したものです。各科目の記載内容をよく読んで、十分に活用してください。

本書のほかに『学生便覧』（入学時のみ）、「授業時間割表」、「科目配分表」を配付します。これらには履修上必要な事柄が記載されていますので、大切に保管し履修に役立ててください。

履修に関する事項、授業に関する事項など、学生支援部からのお知らせは、各校舎の掲示板または日本映画大学メールで行いますので必ず確認してください。

目 次

目次	2
学年暦・授業日程一覧	4
教育方針	5
カリキュラムについて	6
シラバスの見方	7
成績評価	8
欠席時の対応	9

【シラバス（授業内容）】

教養科目（1年）

ベーシック・スキル1	10
ベーシック・スキル2〈コミュニケーションⅠ〉	11
ベーシック・スキル2〈日本語Ⅰ〉	12
人間総合研究	13
日本映画史1（前期）	14
映画史概論（前期）	15
日本映画史1（後期）	16
映画史概論（後期）	17
映画史基礎（1年生）	18
映画分析論（前期）	19
表象文化論1	20
映画分析論（後期）	21
テーマ研究1〈アジア映画入門〉	22
サブ・カルチャー論	23
シナリオ研究1	24
文芸映画論	25
映画と文学	26
芸能概論	27
映画で学ぶ歴史と社会1〈ジェンダーとセクシュアリティ〉	28
映画で学ぶ歴史と社会2〈現代の日本〉	29
中国語	30

教養科目（2年）

ベーシック・スキル3〈コミュニケーションⅡ〉	31
ベーシック・スキル3〈日本語Ⅱ〉	32
ベーシック・スキル2〈コミュニケーションⅠ〉（編入生）	33
日本映画史2〈今村昌平論〉	34
ドキュメンタリー映画史	35
映画史基礎（2年生）	36
映画解釈論	37
テーマ研究2〈メロドラマの歴史、発展と想像力〉	38
表象文化論2	39
ファッション文化史	40

美術史1〈日本美術史〉	41
映画と演劇	42
写真論	43
文学	44
美術史2〈西洋美術史〉	45
映画流通論	46
社会学	47
デジタル映像技術概論	48
英語1	49
韓国語	50

教養科目（3・4年）

テーマ研究3〈ジョージ・A・ロメロとゾンビの世界〉	51
フィルム・アーカイヴ	52
アニメーション・特撮文化論	53
シナリオ研究2	54
テーマ研究5〈シャレード概論〉	55
テーマ研究4〈映画風景論〉	56
テーマ研究6〈1968年映画論〉	57
日本文化論	58
映画と音楽	59
映画と哲学	60
演劇史	61
英米文学	62
映像と美術	63
映画で学ぶ歴史と社会3〈国際情勢〉	64
映画と法	65
映画で学ぶ歴史と社会4〈ネイションとエスニシティ〉	66
映画で学ぶ歴史と社会5〈現代思想〉	67
映画で学ぶ歴史と社会6〈映像民俗学〉	68
英語2	69
こども映画教育Ⅰ	70
文章表現	71
英語3	72
こども映画教育Ⅱ	73
キャリア・サポート	74
映画史基礎（4年生）	75

教養科目（1～4年）

国際合同制作〈日韓合同映画制作〉	76
------------------	----

基礎科目

シナリオ基礎演習	77
映画制作基礎演習	78
長編シナリオ演習Ⅰ	79
長編シナリオ演習Ⅱ	80
長編シナリオ演習Ⅰ（編入生）	81

長編シナリオ演習Ⅱ（編入生）	82
長編シナリオ演習Ⅱ（再履修）	83

専門基礎科目（1年）

演劇WS	84
------	----

専門基礎科目（2年）

ドキュメンタリーWS	85
映像リテラシーWS	86
文芸WS	87
演出論1	88
録音WS	89
動画配信WS	90
映画プロデュースWS	91
映画美術WS	92

専門基礎科目（3年）

脚本創作論	93
編集実践技術論	94
特殊撮影・VFXWS1	95
演出論2	96
特殊撮影・VFXWS2	97
上映企画WSⅠ	98
上映企画WSⅡ	99

専門科目（2年）

演出基礎演習Ⅰ〈ドキュメンタリー〉	100
撮影照明基礎演習	101
録音基礎演習	102
編集基礎演習	103
VFX特殊撮影基礎演習Ⅰ	104
マネジメント基礎演習Ⅰ	105
文章系基礎演習Ⅰ	106
演出基礎演習Ⅱ〈ワンシーン〉	107
撮影照明専門演習	108
録音専門演習	109
編集専門演習	110
VFX特殊撮影基礎演習Ⅱ	111
マネジメント基礎演習Ⅱ	112
文章系基礎演習Ⅱ	113

専門科目（3年）

演出専門演習〈3分エチュード〉	114
身体表現専門演習	115
ドキュメンタリー専門演習Ⅰ	116
技術合同演習（撮影照明コース）	117
技術合同演習（録音コース）	118

技術合同演習（編集コース）	119
VFX特殊撮影専門演習Ⅰ	120
マネジメント専門演習Ⅰ	121
脚本専門演習Ⅰ〈短編映画制作〉	122
文芸専門演習Ⅰ〈読解・ライティングWS〉	123
合同制作（演出コース）	124
合同制作（身体表現・俳優コース）	125
合同制作（撮影照明コース）	126
合同制作（録音コース）	127
合同制作（編集コース）	128
ドキュメンタリー専門演習Ⅱ	129
VFX特殊撮影専門演習Ⅱ	130
マネジメント専門演習Ⅱ〈プロデュース〉	131
マネジメント専門演習Ⅱ〈マネジメント〉	132
脚本専門演習Ⅱ〈脚色〉	133
文芸専門演習Ⅱ〈批評〉	134

専門科目（4年）

卒業制作〈ドラマ〉（演出コース）	135
卒業制作〈公演〉	136
卒業制作〈ドキュメンタリー〉	137
卒業制作〈ドラマ〉（撮影照明コース）	138
卒業制作〈ドラマ〉（録音コース）	139
卒業制作〈ドラマ〉（編集コース）	140
卒業制作〈VFX特殊撮影ドラマ〉（VFX特殊撮影コース）	141
卒業制作〈マネジメント〉	142
卒業制作〈シナリオ〉	143
卒業制作〈文芸〉	144

実務経験のある教員等による授業科目	145
科目別索引	146
授業担当教員	148

2025年度学年暦・授業日程一覧

授業実施日

授業調整日 (ガイダンス・補講・試験等)

【前期】 4月1日～9月30日

	日	月	火	水	木	金	土
4月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

	日	月	火	水	木	金	土
5月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

	日	月	火	水	木	金	土
6月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

	日	月	火	水	木	金	土
7月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

	日	月	火	水	木	金	土
8月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

	日	月	火	水	木	金	土
9月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

4月 2日 (水)	前期ガイダンス (2・3・4年)
2日 (水) ～4日 (金)	前期履修登録 (2・3・4年)
3日 (木)	入学式・総合ガイダンス
4日 (金) ～7日 (月)	新入生ガイダンス
4日 (金) ～5日 (土)	前期履修登録 (1年)
4日 (金) ～5日 (土)	学生定期健康診断
7日 (月)	授業開始
8日 (火) ～10日 (木)	追加履修登録
29日 (火・祝)	昭和の日 (授業実施日)
5月 3日 (土)	憲法記念日 (休日)
4日 (日・祝)	みどりの日 (休日)
5日 (月・祝)	こどもの日 (休日)
6日 (火・休)	みどりの日振替休日 (休日)
6月 16日 (月) ～7月31日 (木)	学内奨学金申請手続期間
7月 21日 (月・祝)	海の日 (授業実施日)
8月 4日 (月) ～5日 (火)	授業調整日
5日 (火)	前期授業終了
11日 (月・祝)	山の日 (休日)
18日 (月)	前期履修結果発表
29日 (金)	前期再試験日
9月 2日 (火) ～12日 (金)	夏期集中科目授業期間
8日 (月)	後期ガイダンス (2・3・4年)
8日 (月) ～10日 (水)	後期履修登録
9日 (火)	後期ガイダンス (1年)
13日 (土)	学内奨学金選考結果発表
15日 (月・祝)	敬老の日 (授業実施日)

【後期】 10月1日～3月31日

	日	月	火	水	木	金	土
10月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

	日	月	火	水	木	金	土
11月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

	日	月	火	水	木	金	土
12月			1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

	日	月	火	水	木	金	土
1月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

	日	月	火	水	木	金	土
2月							
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

	日	月	火	水	木	金	土
3月							
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

9月 15日 (月・祝)	後期授業開始
16日 (火) ～18日 (木)	追加履修登録
23日 (火・祝)	秋分の日 (授業実施日)
26日 (金)	前期末卒業式
10月 4日 (土)	夏期集中科目履修結果発表
13日 (月・祝)	スポーツの日 (授業実施日)
15日 (水)	創立記念日
11月 3日 (月・祝)	文化の日 (授業実施日)
10日 (月) ～15日 (土)	授業調整日
23日 (日・祝)	勤労感謝の日 (休日)
24日 (月・休)	勤労感謝の日振替休日 (授業実施日)
12月 22日 (月) ～26日 (金)	授業調整日
26日 (金)	年内授業終了
27日 (土) ～1月4日 (日)	事務局休業
1月 5日 (月)	授業再開
12日 (月・祝)	成人の日 (休日)
26日 (月) ～2月7日 (土)	春期集中科目授業期間
2月 6日 (金) ～3月31日 (火)	学年末休業
7日 (土)	後期授業終了
11日 (水・祝)	建国記念の日 (休日)
13日 (金)	後期履修結果発表
20日 (金)	後期再試験日
23日 (月・祝)	天皇誕生日 (休日)
3月 2日 (月)	卒業生発表
19日 (木)	卒業式
20日 (金)	春分の日 (休日)

教育方針

建学の精神

1975 年、今村昌平監督は「横浜放送映画専門学院」を開設した。

かつては映画人の育成は撮影所が行っていた。しかし撮影所にもうその余裕はなく、映画を志す若者たちの行き場がなくなっていたのである。

今村が目指したのは映画人による実践的な映画教育だった。「既成のルールを拒否し、曠野に向かう勇気ある若者たちよ、来たれ！」という呼びかけに全国の若者たちが集まった。

その後、横浜から川崎新百合ヶ丘に移り、「日本映画学校」と名を変えても、途切れなく映画界、芸能界に人材を供給してきた。それ以外の卒業生たちも、ここで学んだ映画的思考を武器に、他の分野で活躍している。

映画は伝統芸能ではない。技術革新に対応し社会変化に連動し、時代によってその形を変えていくものだ。白黒からカラー、サイレントからトーキー、フィルムからデジタル——それまでの常識が否定されたとき、映画表現は一気に拡大した。改革を怖れず、新しい技術を駆使し、人種国境文化の壁を軽々と越え、人間の営み、その愚かさと美しさを描いてきた。

社会が変われば映画も変わり、映画に必要とされるものも変化していく。激動の世界に対応できる才能を育てるため、2011 年春「日本映画学校」は「日本映画大学」に生まれ変わった。

未来の映画人には、これまで以上に高い技術力と広い教養、世界に通じる見識が求められるだろう。

しかし、最も大切なのは自由な精神、未踏の地に踏み込む勇気である。

これからも我々は、「曠野に向かう勇気ある若者たち」の集まる場所であり続けたい。そう願っている。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

日本映画大学は以下のような学生を求めています。

- 1) 美醜や善悪および人間の欲望全般に強い関心を持っている。
- 2) 映画や小説をはじめ芸術・芸能が好きである。
- 3) 他人と協力することができる。

カリキュラム・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

日本映画大学は、以下の科目構成によって、映画制作の技術を実践的に体得し、映像文化の歴史を理論的に理解し、社会に貢献する教養と人格を身につけた学生を育成します。

- 1) 教養科目 ……映像文化の歴史を知り、映像を読み解くための基礎的な学力を身につける。同時に、映画にとどまらず広く社会一般を洞察する力を養う。
- 2) 基礎科目 ……演習を通して映画制作の基礎的な知識と技術を学ぶ。
- 3) 専門基礎科目 ……各コースの基礎を学ぶとともに、専門科目で修得する知識や技術をさらに発展させるための力を身につける。
- 4) 専門科目 ……各コースに分かれて専門性を究めるとともに、他のコースと合同で課題に取り組むことでチームワークの重要性を理解し、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 5) 4 年間の学びの集大成として、卒業制作に取り組む。社会との関わりを持つため、成果の公表まで学生の手で行う。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

日本映画大学は、以下の要件を満たした学生に、学士（映画学）の学位を授与します。

- 1) 映画制作の技術の実践的な体得 [技術]
- 2) 映像文化の歴史の理論的な理解 [理論]
- 3) 社会に貢献するための教養と人格 [教養]
- 4) 他者とともに問題解決に臨む姿勢 [協調]

カリキュラムについて

本学のカリキュラムは、学生全員が映画制作の全体像を知り、技術を修得すると同時に、映像や文化、社会に対する知識と幅広い教養を身につけることを目的として編成されています。

それぞれの授業科目は、専門性の度合や履修する上での条件、授業の形態、時間割の特徴などによって以下のように区別されています。

【1】科目区分

専門性の度合に応じて、「教養科目」「基礎科目」「専門基礎科目」「専門科目」の4つの科目区分があります。

【2】科目分類

履修する上での条件に応じて、3つの科目分類があります。

必修科目と、選択必修科目のうち系やコースごとに決められた科目は、修得しなければ次のステップに進めなくなるので注意してください。

必修科目	必ず修得しなければならない科目です。
------	--------------------

選択必修科目	指定された科目群の中から、決められた科目数および単位数を修得しなければならない科目です。次の2種類があります。 ①系・コースごとに決められた科目 ②系・コースを問わず決められた単位数を選択して履修する科目。
--------	--

選択科目	興味に応じて自由に選択できる科目です。ただし、教養科目は各群から最低1科目以上を修得する必要があります。
------	--

【3】授業形態と単位数

授業の形態に応じて、必要な学修時間と単位数が定められています。

講義	主に教員が学生に対して学問研究の内容を説明することにより知識を授ける授業です。 15時間の授業をもって1単位とします。この他に30時間相当の自習学修が必要です。
----	---

演習	教員の講義だけでなく、学生も作品制作・発表等を行いながら指導を受ける授業です。 15時間（または30時間）の授業をもって1単位とします。この他に30時間（または15時間）相当の自習学修が必要です。
----	---

実習	学んだ知識をもとに実際の場で学習する授業です。 30時間（または45時間）の授業をもって1単位とします。30時間の授業の場合は、この他に15時間相当の自習学修が必要です。 ※ 1コマ（90分）の授業時間を2時間相当と計算する。
----	---

【4】授業期間

各授業科目は、次の授業期間に配当されています。なお、前期・後期をそれぞれ8週ごとに区切るターム制を導入しています。

半期科目	前期または後期の半期間を通して行われる授業科目です。成績は各期末に付与されます。
------	--

通年科目	前期および後期の1年間を通して行われる授業科目です。成績は後期末に付与されます。
------	--

集中科目	夏期・春期休業期間に連続して数日間実施される授業科目です。後期科目として配当され、成績も後期末に付与されます。
------	---

【5】講義型

それぞれの授業科目には、時間割編成上の「講義型」が設定されています。「講義型」を見ると時間割のパターンがわかります。※ 1コマは90分。

B (3×5)	1週目から3コマ連続の授業が5週行われます。
---------	------------------------

C1 (1+2×7)	初回1週目は1コマの授業、翌週から2コマ連続の授業が7週行われます。
------------	------------------------------------

C2 (2×7+1)	1週目から2コマ連続の授業が7週行われ、最終8週目は1コマの授業となります。
------------	--

C3 (2×6+3)	1週目から2コマ連続の授業が6週行われ、最終7週目は3コマの授業となります。
------------	--

C4 (2×8)	1週目から2コマ連続の授業が8週行われます。
----------	------------------------

D (日数型)	演習型の科目など、1日単位で行われる授業となります。
---------	----------------------------

W (週数型)	演習型の科目など、1週間単位で行われる授業となります。
---------	-----------------------------

E (集中)	夏期や春期などの休業期間に集中的に行われます。
--------	-------------------------

F (その他)	上記のいずれにもあてはまらない科目です。
---------	----------------------

シラバスの見方

「シラバス」には、本学のすべての授業科目についての詳細が記載されています。必ず履修したい科目のシラバスを読み、授業内容や到達目標、成績評価項目・評価方法をよく理解したうえで履修登録をしてください。

科目名	授業科目名のほか、〈 〉には副題が、() [] にはコースまたはクラスの指定がそれぞれ記載されています。 科目名のローマ数字（Ⅰ・Ⅱ）は順番に履修しなければならない科目、アラビア数字（１～６）は順番に関係なく自由に選択できる科目（必修を除く）です。
担当教員	この科目を担当する教員（演習型科目については専任教員・特任教員のみ）が記載されています。 複数の担当者が記載されている場合は、先頭の教員が科目責任担当教員となります。
科目区分	専門性の度合に応じて、「教養科目」「基礎科目」「専門基礎科目」「専門科目」に区分されます。
科目分類	履修する上での条件に応じて「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に分類されます。
授業形態・単位数	すべての授業科目は、「講義」「演習」「実習」のいずれかに属します。これら授業の形態に応じて、必要な学修時間と単位数が定められています。学修時間には授業外の自習時間も含まれます。「授業外学習」欄を参照してください。
履修学年	この科目を履修できる学年を表しています。他の学年での履修はできません。
開講学期・ターム	授業が行われる時期を表しています。前期の前半がターム1、後半がターム2、後期の前半がターム3、後半がターム4です。 「通年」の科目は前期と後期を通して授業が行われます。
講義型	各授業科目には、時間割編成上の「講義型」が設定されています。「講義型」を見ると時間割のパターンがわかります。 くわしくは３ページを参照してください。
校舎	授業が行われる校舎（白山校舎か新百合ヶ丘校舎か）を表しています。
DPとの対応	この科目と本学の卒業認定・学位授与の方針である「ディプロマ・ポリシー」（DP）の関係を数値で示したものです。 ディプロマ・ポリシーは、卒業するためにどのような能力や資質を身につけなくてはならないかを表します。 １）映画制作の技術の実践的な体得 【技術】 ２）映像文化の歴史の理論的な理解 【理論】 ３）社会に貢献するための教養と人格 【教養】 ４）他者とともに問題解決に臨む姿勢 【協調】 数値は、この科目がDPのどの能力・資質と密接に関連しているか、その科目の履修を通してどの能力・資質を身につけることができるかを表します。合計がその科目の単位数の10倍の値になるように設定されています。
科目コード	授業科目に5ケタの番号を付し分類することで、学習の段階や順序等、教育課程の体系性を表しています。 左から、年度（N：2025年度）、科目区分（1：教養、2：基礎、3：専門基礎、4：専門）、学年、履修分類
履修条件	その科目を履修する前に履修しなければならない科目（先修条件）、履修しておくことが望ましい科目が記載されています。また履修に制限や条件がある場合もこの欄に記載されています。
授業概要	授業で扱う学問的テーマ、ねらい、授業の進め方など、授業内容の概略が記載されています。
到達目標	この科目を履修した結果、どのような知識や能力を身につけられるかが記載されています。
授業計画	毎回の授業計画が記載されています。各回に何を学ぶのか、どのような授業が行われるのかをあらかじめ知ることができます。
授業外学習	授業外での事前・事後の自習学習（予習・復習）に必要な時間や学習内容等についての指示が記載されています。
教科書・参考文献	使用する教科書、参考文献等が記載されています。教科書はその科目を履修するうえで必ず入手しなくてはなりません。教科書の入手方法は掲示によって行います。
評価項目・評価方法	この科目の成績評価が、どのような評価項目について、どのような評価方法に基づいて行われるのかが記載されています。どの科目も出席するだけで単位を修得することはできません。評価方法と評価項目をよく読んで授業にのぞんでください。

成績評価

成績評価は、シラバスに記載されている評価方法に従って行われます。

成績の評価基準

本学における成績の評価基準は次のとおりです。

成績区分	評価	評点	Grade Point	評価内容
合格	S	100～90点	4.0	特に優れた成績
	A	89～80点	3.0	優れた成績
	B	79～70点	2.0	合格が妥当と認められる成績
	C	69～60点	1.0	合格が妥当と認められる最低限の成績
	N	認定	対象外	—
不合格	F	59点以下	0	合格と認められない成績

- ・履修登録した科目について、学期末および学年末に学修状況とその結果を考査した結果、合格した者に対して、授業担当教員がその科目の修了を認定し、所定の単位を与えます。
- ・評価は、平常の学修状況、定期試験、レポート等の結果によります。
- ・単位が認定された科目は、成績が不本意でも科目の評価を取り消したり、再度その科目を履修しなおすことはできません。
- ・入学前の既修得単位として単位認定された科目等の評価は、「N」で表示されます。

GPA制度

科目の履修にあたっては、単に卒業するために必要な単位を修得するだけでなく、学業成績の状況を自分自身で的確に把握し、主体的かつ充実した学修効果が得られるよう努力していく必要があります。そのため本学では、学修成果の評価方法として、GPA（Grade Point Average＝成績平均値）制度を導入しています。この制度は、各科目の成績評価から数値の平均値が算出され、その値をもとに学修到達レベルの的確な把握や履修指導、カリキュラムの見直しなどといった学修支援に用いられます。学期ごとに算出されるGPAを検証し、履修計画に役立ててください。

履修した各授業科目の単位数にGrade Pointを乗じて、その合計を履修単位数の合計で除したものがGPAです。GPAの計算式と算出例は以下のとおりです。

$$\frac{(Sの単位数 \times 4.0) + (Aの単位数 \times 3.0) + (Bの単位数 \times 2.0) + (Cの単位数 \times 1.0)}{\text{総履修登録単位数（不合格Fおよび再履修を含む）}}$$

GPAについての注意点

- ・ GPAには学期GPA、年度GPAと通算GPAがあり、学期GPAは当該学期に評価された科目のGPA、年度GPAは当該年度に評価された科目のGPA、通算GPAはこれまでに評価されたすべての科目のGPAです。
- ・ 前期および後期終了後、成績確認のために学生に配付並びに保証人に送付する「学業成績通知書」には、学期GPA、年度GPAと通算GPAが記載されます。進学や就職などで使用する「成績証明書」には、通算GPAのみが記載されます。
- ・ 対象となる科目は、卒業に必要な単位として開講される授業科目のみで、自由科目など卒業に必要な単位として認められていない科目は計算から除外されます。
- ・ 不合格となり、次年度以降再履修をして合格となった場合は、その科目のGrade Point は合格したGrade Pointに書き換えられます。なお、再履修前の不合格評価については、通算GPAには算入されませんが、学期GPAまたは年度GPAには算入されます。
- ・ 単位認定科目「N」および履修を取り消した科目は、原則としてGPAの算出から除外されます。
- ・ 追試験・再試験による成績評価もGPAの対象となります。

GPAによる履修指導

一度に多くの科目を履修すると予習・復習の学習時間を確保することができず学修効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を1年次は46単位、2年次以降は42単位（2023年度のみ3・4年次も46単位）と定めています。なお、学生個人の学修状況に応じて、履修単位数の上限は次のように変動します。

ア 前年度のGPAが3.5以上の学生は、履修単位数の上限に6単位が加算されます。

イ 前年度のGPAが3.0以上の学生は、履修単位数の上限に4単位が加算されます。

ウ 前年度のGPAが1.5未満の学生は、学修指導の必要上、履修単位数の上限を減じることがあります。

前学期のGPAが1.5未満となった学生に対しては、学生支援部による助言や担当教員からの指導を行います。また、必要に応じて保証人（保護者）と面談を行うことがあります。

欠席時の対応

授業に出席しない場合はどのような理由であれ欠席となります。事前に欠席することが明らかな場合は、まず授業担当教員に相談してください。欠席をどのように扱うかは、授業担当教員にゆだねられています。事務室に欠席する旨を申し出ても授業担当教員への伝達はいきませんので、シラバスに記載されている「教員への連絡方法」により直接連絡し、指示を仰いでください。

長期にわたって欠席をする場合は、授業担当教員等と緊密な連絡をとり、その科目の履修と単位修得に遺漏のないようにしてください。

学校感染症に感染した場合

学校保健安全法により定められた学校感染症と診断された場合は、感染拡大を防ぐため、主治医から就学可能の判断があるまでは大学に登校することができません。出席停止となる感染症の種類は、学校保健安全法施行規則第18条により次のとおり定められており、感染症の種類に応じて出席停止の期間が決められています。感染症に罹患した場合は病院または自宅で療養するとともに、すみやかに学生支援部に連絡し、必要な手続きを行ってください。

	感染症の種類
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスに限る）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスに限る）、特定鳥インフルエンザ感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第7項から第9項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症
第二種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルスに限る）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

- ・登校可能となった日を含む7日以内に、「欠席（公欠）届」（教学様式第10号）と「罹患・治癒証明書」を学生支援部に提出してください。
- ・学生支援部により押印された「欠席届」をコピーし、授業担当教員に提出してください。
- ・罹患期間内の授業の欠席は、欠席回数には算入されません。ただし授業に出席していないことに変わりはありませんので、この届出により単位が修得できることを保証するものではないことに注意してください。
- ・試験期間に欠席となった場合は、追試験を受験することができますので、所定の期間に手続きを行ってください。

裁判員制度に伴う欠席

裁判員選任手続き期間または裁判員に選任された公判のため、裁判所へ出頭する必要があり、授業を欠席しなければならない場合は、裁判所から送付された書類をよく読み、自身の授業スケジュールを確認したうえで、手続きを行ってください。

裁判員に選任された場合

公判終了日の翌日から7日以内に、裁判所が発行する、裁判員の職務従事期間についての「証明書」を持参し、学生支援部備え付けの「欠席（公欠）届」（教学様式第10号）に必要事項を記入のうえ、学生支援部に提出してください。

裁判員に選任されなかった場合

選任手続き期日の翌日から7日以内に、裁判所出頭日の証明を受けた「選任手続き期日のお知らせ（呼出状）」を持参し、学生支援部備え付けの「欠席（公欠）届」（教学様式第10号）に必要事項を記入のうえ、学生支援部に提出してください。

その他

- ・学生支援部により押印された「欠席届」をコピーし、授業担当教員に提出してください。
- ・授業の欠席は、欠席回数には算入されません。ただし授業に出席していないことに変わりはありませんので、この届出により単位が修得できることを保証するものではないことに注意してください。
- ・試験期間に欠席となった場合は、追試験を受験することができますので、所定の期間に手続きを行ってください。

科目名		ベーシック・スキル 1						担当教員		ハン・トンヒョン、井土紀州 ほか					
科目区分	教養(基幹)			科目分類	必修	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1	開講学期	前期	ターム	1	講義型	D9	校舎	新百合・白山		5	5	5	5	
履修条件	1 年次必修。この科目が不合格になると後期「映画制作基礎演習」の履修資格を失うため留年となる。														
授業概要	大学での学びへの導入となる科目である。本学で映画を学んでいくうえで必要な心構えや教養を、学長・理事長による授業や校外学習、クラス別の授業を通じて身につけながら、後半は、第2ターム必修の実習「人間総合研究」に備えていく。 (授業開始時間は校舎によって異なるため、注意すること)														
到達目標	①映画を学んでいくうえで必要な心構えや教養に触れる。 ②自分のクラスに慣れ、「人間総合研究」に備える。														
授業計画	日数	内 容													
	1	プロに学ぶ映画の見方①【4/10】 担当：天願大介学長（映画監督・脚本家） 校舎：新百合ヶ丘校舎4階大教室													
	2	プロに学ぶ映画の見方②【4/17】 担当：富山省吾理事長（映画プロデューサー） 校舎：新百合ヶ丘校舎4階大教室													
	3	クラス別授業①【4/24】 担当：クラス担任教員 校舎：白山校舎													
	4	「人間総合研究」に向けて①【5/8】 担当：ハン・トンヒョン教授（1年担当）・井土紀州准教授（1年担当・映画監督・脚本家） 校舎：新百合ヶ丘校舎4階大教室													
	5	校外学習（映画鑑賞） 「宙ぶらりん映画祭」5月9日（金）～11日（日）、川崎市アートセンター 4年生「上映企画WSⅡ」の履修者が企画する映画祭です。													
	6	「人間総合研究」に向けて②【5/15】 担当：ハン・トンヒョン教授（1年担当）・井土紀州准教授（1年担当・映画監督・脚本家） 校舎：新百合ヶ丘校舎4階大教室													
	7	クラス別授業②【5/22】 担当：クラス担任教員 校舎：白山校舎													
	8	全体交流授業【5/29】 担当：クラス担任教員 校舎：白山校舎													
	9	クラス別授業③【6/5】 担当：クラス担任教員 校舎：白山校舎													
授業外学習	各授業を担当する教員の指示に従うこと。														
教科書 参考文献	必要な資料は配布する。														
評価項目 評価方法	①理解度・積極性（全体授業で提出するリアクションペーパー・最終日までに提出する「人間総合研究」企画書）60% ②積極性（校外学習への参加度）10% ③積極性（クラス別授業での発言、クラスメイトや教員とのコミュニケーションなどの参加態度）30% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		ベーシック・スキル 2〈コミュニケーション I〉						担当教員		守内映子、横田和子					
科目区分	教養(基幹)			科目分類	必修	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1	開講学期	前期	ターム	1	講義型	D16	校舎	白山		3	8	2	7	
履修条件		日本語を母語とする者、及びそれに匹敵する日本語力を有する留学生													
授業概要		大学生活において人間関係を構築するために重要な能力となる「 コミュニケーション・スキル 」に必要な知識の獲得とトレーニングを行う。そこでは、異文化理解や異文化コミュニケーションをめぐる基本的な知識についても学習し、視覚資料や映像資料をもとに、議論しながら思考するエクササイズを実施する。(火曜日：守内が担当) また、大学における主体的・能動的な学修の力を形成するための「 スタディ・スキル 」を習得する。具体的には、授業の受け方、学術的な文章の読み方、要約の仕方、レポートの書き方、文献の調べ方、発表の仕方などを学ぶ。(水曜日：横田が担当) なお、初回の授業ではオリエンテーションを実施し、最終の授業では、「 コミュニケーション・スキル 」および「 アカデミック・スキル 」で学んだことを活かしたグループ発表を行う。授業は、AグループとBグループに分けて実施する。 指定されたグループで、火曜日と水曜日の2限または3限のいずれかを受講する。													
到達目標		・大学で学ぶために必要な基礎技術を身につけ、自律的な学修態度への転換ができる。 ・コミュニケーション活動に対して、積極的な参加行動が取れるようになる。 ・論理的思考力を発揮しながら、チームでの話し合いや活動に参加することができる。													
授 業 計 画	日数	内 容													
	1	【火曜】 オリエンテーション：「大学での学びとは」「ネットリテラシーについて」(基本的な設定と情報共有) *2限のみ実施													
	2	【水曜】 スタディ・スキル(1)「大学での学び～ノートの取り方」「テキストの読み方と要約－『地域の記憶』」													
	3	【火曜】 コミュニケーション・スキル(1) コミュニケーションについて「コミュニケーションとは」「文化とコミュニケーション」 エクササイズ【見える文化と見えない文化】													
	4	【水曜】 スタディ・スキル(2)「レポートの書き方」その1：レポートのルールを知る。 『地域の記憶』シェアリングとディスカッション 『地域の記憶』をめぐる400字レポート執筆、基礎的な引用の方法													
	5	【火曜】 コミュニケーション・スキル(2) 自己とアイデンティティ「社会・文化的アイデンティティ」 エクササイズ【自己開示】⇒課題テキスト①を配布し、宿題の提示													
	6	【水曜】 スタディ・スキル(3)「400字レポートのピアリーディング」「課題テキスト①」 「レポートの書き方」その2：問いの立て方、根拠の探し方、執筆計画の立て方													
	7	【火曜】 コミュニケーション・スキル(3) コミュニケーションの障壁と対人コミュニケーション「障壁の種類」「共文化コミュニケーション」 エクササイズ【共感(エンパシー)】													
	8	【水曜】 スタディ・スキル(4)「レポートの書き方」その3：文献の調べ方とさまざまな引用のルール・図書館の使い方(グループワーク)													
	9	【火曜】 コミュニケーション・スキル(4) 言語コミュニケーション「コミュニケーションスタイルとコンテキスト」「外から見た日本語」 ⇒課題テキスト②を配布し読解と解説													
	10	【水曜】 スタディ・スキル(5)「レポートの書き方」その4：推敲、仕上げ、提出に向けて(執筆経過報告とディスカッション)													
	11	【火曜】 コミュニケーション・スキル(5) 非言語コミュニケーションと対人コミュニケーション 「アサーティブ・コミュニケーション」 エクササイズ【しぐさとジェスチャー】													
	12	【水曜】 スタディ・スキル(6)・レポートのピアリーディングと修正・発表に向けて(グループ分け、テーマ設定、役割分担、計画作成等)													
	13	【火曜】 コミュニケーション・スキル(6) 異文化間コミュニケーションに関する映画の視聴 エクササイズ【コミュニケーション・セルフチェック】⇒レポート提出(宿題)													
	14	【水曜】 スタディ・スキル(7) レポートの提出 最終発表の準備⇒各グループ、授業外でも準備し、発表前にリハーサルしておくこと。													
	15	【火曜】 コミュニケーション・スキル(7) 最終発表の準備 ⇒各自、授業外でも準備し、発表前にリハーサルしておくこと。													
	16	【水曜】 最終発表・この授業の振り返り グループ発表(ニュースショー)													
授業外学習		配布資料をしっかり読んで理解する。(週2時間程度) 出された課題で授業内に終わらない部分や宿題に取り組む。(週2時間程度)													
教科書 参考文献		【教科書】世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック 6訂版』(世界思想社、2021年版)1200円＋税													
評価項目 評価方法		スタディスキル習熟度(提出課題、授業内レポート)30% コミュニケーションスキル習熟度(エクササイズ参加態度、リアクションペーパー)30% プレゼンテーション力習熟度(最終発表における役割への取り組み、発表内容、発表態度)40% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		ベーシック・スキル 2〈日本語 I〉						担当教員		守内映子、横田和子、寺浦久仁香					
科目区分	教養(基幹)			科目分類	必修	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1	開講学期	前期	ターム	1	講義型	D16	校舎	白山		3	8	2	7	
履修条件		1 0 0 %の出席率を保つこと。欠席の場合は事前に教員にメール連絡をし、次週までの課題を受け取ること。 出された課題は必ず提出して、その都度の評価を受けること。日本語を母語としない学生は必ず履修すること。													
授業概要		3名の教員が日本語の4技能を指導する。学生は週に4時限の授業を受け、それを8週繰り返す。基本的に週4時限（火曜と水曜の2・3限）受講する。加えて、 初回はオリエンテーションとプレイメントテストの実施を、最終回は授業内試験を行う。【話す】 相手が話せる環境を作る会話技術、言葉づかい、視線、うなづきなどについて練習する。短い会話文を演じるパフォーマンスをし、他のグループの発表についてもコメントをする。発音の問題点を見つけて直す。擬態語の語彙を広げる。（火曜日：横田が担当） 【書く】 大学で必要な、様々な形式の文章が書けるようになることを目標とする。失礼にならないEメールの書き方、大学で書くリアクションペーパーやレポートの書き方などの練習をする。（火曜日：寺浦が担当） 【読む】 ショートストーリーや中上級レベルの文章を読み、物語の内容やテーマについて理解しディスカッションをする。また、読解の基礎技術を身に着ける練習を行う。使用教材は、星新一作品など。（水曜日：守内が担当） 【聴く】 毎回、聴解力を鍛えるための練習問題に取り組み、上級レベルの語彙に触れる。また、映画に関する実際の講義を聴いて内容をまとめる練習を行い、アカデミックな授業を受ける上での問題点を突き止める。（水曜日：守内が担当）													
到達目標		・日本語における自身の弱点に気づき、それを克服するために必要なことを発見し自律学習ができるようになる。 ・他の人と助け合いながら日本語を学ぶことができるようになる。 ・協働で作品を制作するために必要な日本語でのコミュニケーション技術を身につける。													
授 業 計 画	日数	内 容													
	1	【火曜】 授業オリエンテーション（受講ルールとマナー、4 教室移動の順番と曜日、欠席後の指導、サポートデスクの説明） プレイメントテスト *3限のみ実施													
	2	【水曜】 〈第1回〉読む、聴く													
	3	【火曜】 〈第1回〉話す、書く													
	4	【水曜】 〈第2回〉読む、聴く													
	5	【火曜】 〈第2回〉話す、書く													
	6	【水曜】 〈第3回〉読む、聴く													
	7	【火曜】 〈第3回〉話す、書く													
	8	【水曜】 〈第4回〉読む、聴く													
	9	【火曜】 〈第4回〉話す、書く													
	10	【水曜】 〈第5回〉読む、聴く													
	11	【火曜】 〈第5回〉話す、書く													
	12	【水曜】 〈第6回〉読む、聴く													
	13	【火曜】 〈第6回〉話す、書く													
	14	【水曜】 〈第7回〉読む、聴く													
	15	【火曜】 〈第7回〉話す、書く													
	16	【水曜】 期末試験とふり返り													
授業外学習		書く（週2時間）・読む（週2時間）・聴く（週1時間）													
教科書 参考文献		【教科書】平野共余子 著 『日本の映画史：10のテーマ』（くろしお出版、2014年）1,400円＋税、教室内配布プリント													
評価項目 評価方法		読解力習熟度(提出課題、授業内小テスト、受講態度):20%、作文力習熟度(提出課題、文章力、受講態度):20% 会話力習熟度(発表、グループ参加態度・取り組み):20%、聴解力習熟度(リアクションペーパー、提出課題、受講態度):20% 総合的日本語力到達度(期末試験):20% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		人間総合研究						担当教員		ハン・トンヒョン、井土紀州、細野辰興 ほか					
科目区分	教養(基幹)			科目分類	必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1	開講学期	前期	ターム	2	講義型	W8	校舎	白山・新百合		25	30	5	20	
履修条件		1 年次必修。この科目が不合格になると後期「映画制作基礎演習」の履修資格を失うため留年となる。													
授業概要		「個々の人間に相対し、人間とはかくも汚濁にまみれているものか、人間とはかくもピュアなるものか、何とうさんくさいものか、何と助平なものか、何と優しいものか、何と弱々しいものか、人間とは何と滑稽なものなのかを、真剣に問い、総じて人間とは何と面白いものかを知って欲しい。そしてこれを問う己は一体何なのかと反問して欲しい。個々の人間観察をなし遂げる為にこの学校はある」(創始者、今村昌平)という本学の理念を象徴する看板授業。魅力的な「人」を探し、その人について掘り下げていくいわば「ドキュメンタリー」を、動画を使わず、写真や音声素材をまとめて30分の作品として構成し、合評会で発表する。1クラスに担任教員を含む2人の担当教員がつき指導とアドバイスを行うが、企画の立案から調査、取材(撮影、録音)、発表まで、すべて学生たち自身がグループごとに協力しながら行うことになる。 人間総合研究は、自分ではない誰かについて調べ、向き合って、迫り、それを表現する演習だが、その人を表現するためにはその人の内面のみならずそれを支える外面、つまりその人がよって立つ個人的、社会的背景についても掘り下げ、立体的に把握していかななくてはならない。またグループ内でのチームワークも重要で、まさに映画を学ぶうえでの第一歩となる総合的な演習だ。													
到達目標		ものづくりの基本となる調査と探求を共同で行うことを通じ、挑戦と失敗、つまり試行錯誤を繰り返すなかで、対象者と世の中、そして自分と他人について知り(何を知らないのか、何ができないのかも知り)、今後4年間の糧とする。													
授業計画	回数	内 容													
	1	1. 企画立案・プレゼンテーション クラス全員が企画を考え、企画書を作成してプレゼンテーションをする。企画の発表では、ひとことという「どのような人物を取り上げたいのか。それはどうしてなのか。そのようにして発表したい作品のテーマと面白さとは何なのか」をアピールする。学生どうして企画に関するディスカッションを行い、調査やブレ取材も行う。													
	2	2. 企画決定・班編成 投票や議論を通じて企画を絞り、最終的に1クラスあたり2つの企画に決定する。企画決定後は、企画別にクラスを2班にわけ、班ごとにプロデューサー、副プロデューサー、インタビュアー、調査班、撮影班、録音班などの分担を決め、決まった企画に一丸となって取り組んでいく(写真撮影と録音に関しては、プロの写真家、録音技師から、機材の基本的な使い方を学ぶ特講が開かれる)													
	3	3. 調査・取材① 文献(書籍、新聞、雑誌その他)などを通じて対象者とその背景にあるものについての調査を深めながら、対象者と周辺人物、関連する現場などを直接訪ね、取材を行う。インタビューをはじめとする取材のための交渉、手配など、あらゆる準備は学生自身が行う。インタビュー音声は全員で手分けして文字に起こす。ミーティングを重ねながら、さまざまなハードルをクリアして調査、取材を進めるなかで、対象者とその背景に対する理解を深め、テーマに迫っていく。													
	4	3. 調査・取材②													
	5	4. 制作・構成① 取材、調査して集めた写真、音声などの多くの素材のなかから何を使い、どう伝えるかを考え、まとめていく。改めて構成台本・演出の担当者を決め、班のメンバーで議論を重ねながら発表用の構成台本を練る。ナレーション、音楽、効果音、場合によってはパフォーマンスなども取り入れ演出も考える。それに合わせて写真や資料を選んでパワーポイントを作成し、音声を編集していく。合評会で発表する際の、ナレーター、パワーポイント、音声、照明などの分担も決める。													
	6	4. 制作・構成②													
	7	5. リハーサル 完成した構成台本にもとづき、全員が役割分担に沿って協力しながらリハーサルを繰り返し、調整を重ねて発表に磨きをかけていく。													
	8	6. 合評会 すべての1年生と教員たちの前で発表したあと、全員がひとことずつコメントしたうえで、学生と教員による合評が行われる。なかには厳しいコメントもあるかもしれないが、映画づくりへの第一歩を踏み出すための貴重な財産となるはずだ。													
授業外学習		授業の進捗状況に応じて、各担当教員から指示する。													
教科書 参考文献		必要に応じて、各担当教員から指示する。													
評価項目 評価方法		①活躍度(リーダーシップ・チームへの貢献) 30% ②協調性(共同作業への参加態度・他者とのコミュニケーション) 40% ③成長度(授業を通じての成長・変化) 30% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		日本映画史 1（前期）						担当教員		石坂健治					
科目区分	教養(映画史)			科目分類	選択		授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	1	開講学期	前期	ターム	1	講義型	C2	校舎	白山				15	5	
履修条件	前期・後期それぞれで開講（内容は同じ）。前期・後期のいずれかで履修すること。前期に不合格となった場合「日本映画史 1（後期）」を履修することはできない。「映画史概論」とともに1年生は必ず履修すること。														
授業概要	毎週 2 コマで「上映と講義」をおこなう。上映作品は日本映画史上、重要な 4 人の監督の 4 本である。上映後は教科書を参照しながら解説をおこなう。														
到達目標	日本映画史の「1 丁目 1 番地」を学ぶ授業である。1950年代は日本映画の黄金時代といわれるが、その時代に日本の映画人たちがどれほど豊かな創造性を発揮して新しい主題や方法を発見していったかを知り、それに対する驚きと感動と誇りを持てるようになってもらいたい。														
授業計画	回数	内 容													
	1	上映①：黒澤明監督作品													
	2	解説①：教科書『日本の映画史』の第6章「時代劇とチャンバラ映画」（93-107頁）を読む。													
	3	上映②：黒澤明監督作品（前回の続き）													
	4	解説②：解説①の続き													
	5	上映③：小津安二郎監督作品													
	6	解説③：教科書『日本の映画史』の第 1 章「日本映画に描かれる家族」（13-29頁）を読む。													
	7	上映④：小津安二郎監督作品（前回の続き）													
	8	解説④：解説③の続き													
	9	上映⑤：溝口健二監督作品													
	10	解説⑤：教科書『日本の映画史』の第2章「Jホラーと怪談」（31-43頁）を読む。													
	11	上映⑥：溝口健二監督作品（前回の続き）													
	12	解説⑥：解説⑤の続き													
	13	上映⑦：成瀬巳喜男監督作品													
	14	解説⑦：教科書の該当箇所を読む。													
15	日本映画のBig4についてのまとめ														
授業外学習	・教科書や参考書を読む（週 2 時間）。 ・授業で論じた監督の他の作品を、DVDや配信サイトなどで見て比較研究すること（2 時間× 3 本＝週 6 時間）。														
教科書 参考文献	【教科書】平野共余子『日本の映画史 10のテーマ』（2014年、くろしお出版）を購入すること（白山校舎にて販売予定）。参考書としては、佐藤忠男著『日本映画史』（全四巻、岩波書店）、四方田犬彦『日本映画史110年』（2014年、集英社新書）など。														
評価項目 評価方法	授業の理解度（リアクションペーパー30%＋期末レポート70%） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		映画史概論（前期）						担当教員		伊津野知多										
科目区分	教養(映画史)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	1	開講学期	前期	ターム		1	講義型	C2		校舎	白山				15		5			
履修条件	前期・後期に同じ科目を開講する。前期・後期のいずれかで履修すること。前期に不合格となった場合「映画史概論（後期）」を履修することはできない。「日本映画史 1」もあわせて履修することを強く勧める。また、知識を補強するためにほかの映画史科目も履修してほしい。（2年編入生は前期のみ履修可）																			
授業概要	若い芸術である映画にもすでに130年の歴史がある。社会の変化と技術の革新、そして人間の欲望の変化に伴って映画は常に姿を変えてきた。この歴史の層の一番表面の部分が、今見えている映画なのだ。 この授業では、映画の誕生から1970年代まで、時代ごとに重要な社会的出来事や用語、作品について解説しながら映画の姿の変化を追う。授業は講義と参考上映で構成され、毎回、前回の授業内容についての小テストを行う。 映画史を7週間に凝縮するので、細部に分け入るのではなく、映画史の大まかな見取り図を描くことを目的としている。これから映画を学ぶ上で支えとなる視点と、基本的な知識を修得してほしい。																			
到達目標	①映画史の大きな流れが理解できるようになる。 ②映画史上の重要な用語や監督、作品についての知識を身につけることができる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。																			
授 業 計 画	回数	内 容																		
	1	1895～1900年代： 映画の誕生 ①1890年代：動く映像のもたらした驚き																		
	2	②1900年代：映像で語る物語へ——映画表現技法の発見																		
	3	1900～1910年代： 映画産業の始まり、映画表現技法の発達と洗練 ①映画産業の始まりとハリウッドの誕生																		
	4	②映画表現技法の発達と浸透、物語る映画の洗練																		
	5	1920年代： サイレント映画の時代、アヴァンギャルドの隆盛 ①1920年代という時代：新しい価値観への転換 ②アメリカ：ハリウッド映画産業の成長と「垂直統合」																		
	6	③ヨーロッパのアヴァンギャルド（前衛）映画 ④ソヴィエトのモンタージュ派 ⑤日本映画のサイレント時代																		
	7	1920年代末～1930年代： トーク映画の到来、古典的ハリウッド映画の確立 ①1930年代という時代：社会不安と戦争の影 ②トーク映画の到来 ③カラー映画の技術革新																		
	8	④ハリウッド映画の黄金時代 ⑤フランスの詩的リアリズム																		
	9	1930年代末～1940年代： 戦争と映画（プロパガンダ映画） ①1940年代という時代：第二次世界大戦とその影響																		
	10	②戦時下のプロパガンダ映画 ③占領下の日本映画																		
	11	1940年代～1950年代：戦争から戦後へ、古典的ハリウッド映画の変容 ①瓦礫の中からの出発——イタリアのネオリアリズム ②古典的ハリウッド映画の変容（1940年代～）																		
	12	③1950年代という時代：東西冷戦と赤狩り ④ハリウッドのスタジオ・システムの弱体化																		
	13	1960年代～1970年代：スタジオ・システムの終焉と映画の新しい波 ①1960～70年代という時代：政治の季節——社会と価値観の変革のための闘い ②ハリウッドのスタジオ・システムの終焉																		
	14	③新たな産業構造の成立と「ニュー・ハリウッド」の誕生 ④アメリカ映画の変容 ⑤各国映画の新しい波																		
	15	最終テスト（60分） ※スマートフォン、資料の持ち込み禁止。辞書（電子辞書含む）は持ち込み可。 終了後解説																		
授業外学習	・授業内で部分的に上映した作品、名前を挙げた作品をできるだけ多く自分で見ること（「映画史基礎」の準備にもなる）。（週3時間程度） ・知識を自分のものにできるよう、配布したプリントや参考文献に示した本を読んで復習すること。（週1時間程度）																			
教科書 参考文献	初回の授業で参考文献表と授業で扱う映画作品の一覧を配布する。また、各回の授業で参考となる映画作品を指示する。																			
評価項目 評価方法	①授業の理解度（小テスト）20％：小テストは3問の質問に解答する形式。毎回授業の開始時に、前回の授業内容についての小テストを行う（遅刻に注意）。 ②授業の理解度（リアクションペーパーの内容）20％：リアクションペーパーは、毎回授業終了時に提出。 ③授業の理解度（最終テスト）60％：最終テストは最後の授業内に実施し、授業終了時に提出。 ※すべて出席してもテストの成績が悪いと不合格になる場合があるので注意すること。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																			

科目名		日本映画史 1（後期）						担当教員		石坂健治										
科目区分		教養(映画史)		科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年		1	開講学期	後期	ターム	4	講義型	C2	校舎	白山			15	5						
履修条件		前期・後期それぞれで開講（内容は同じ）。前期・後期のいずれかで履修すること。前期に不合格となった場合「日本映画史 1（後期）」を履修することはできない。「映画史概論」とともに1年生は必ず履修すること。																		
授業概要		毎週 2 コマで「上映と講義」をおこなう。上映作品は日本映画史上、重要な 4 人の監督の 4 本である。上映後は教科書を参照しながら解説をおこなう。																		
到達目標		日本映画史の「1 丁目 1 番地」を学ぶ授業である。1950年代は日本映画の黄金時代といわれるが、その時代に日本の映画人たちがどれほど豊かな創造性を発揮して新しい主題や方法を発見していったかを知り、それに対する驚きと感動と誇りを持てるようになってもらいたい。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	上映①：黒澤明監督作品																		
	2	解説①：教科書『日本の映画史』の第6章「時代劇とチャンバラ映画」（93-107頁）を読む。																		
	3	上映②：黒澤明監督作品（前回の続き）																		
	4	解説②：解説①の続き																		
	5	上映③：小津安二郎監督作品																		
	6	解説③：教科書『日本の映画史』の第 1 章「日本映画に描かれる家族」（13-29頁）を読む。																		
	7	上映④：小津安二郎監督作品（前回の続き）																		
	8	解説④：解説③の続き																		
	9	上映⑤：溝口健二監督作品																		
	10	解説⑤：教科書『日本の映画史』の第2章「Jホラーと怪談」（31-43頁）を読む。																		
	11	上映⑥：溝口健二監督作品（前回の続き）																		
	12	解説⑥：解説⑤の続き																		
	13	上映⑦：成瀬巳喜男監督作品																		
	14	解説⑦：教科書の該当箇所を読む。																		
	15	日本映画史のBig4についてのまとめ																		
授業外学習		・教科書や参考書を読む（週2時間）。 ・授業で論じた監督の他の作品をDVDや配信サイトなどで見て比較研究する（ 2 時間× 3 本＝週 6 時間）。																		
教科書 参考文献		【教科書】平野共余子『日本の映画史 10のテーマ』（2014年、くろしお出版）を購入すること（白山校舎にて販売予定）。参考書としては、佐藤忠男著『日本映画史』（全四巻、岩波書店）、四方田犬彦『日本映画史110年』（2014年、集英社新書）など。																		
評価項目 評価方法		授業の理解度（リアクションペーパー30%＋期末レポート70%） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		映画史概論（後期）						担当教員		伊津野知多										
科目区分	教養(映画史)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	1	開講学期	後期	ターム	4	講義型		C2		校舎	白山				15		5			
履修条件		前期・後期に同じ科目を開講する。前期・後期のいずれかで履修すること。前期に不合格となった場合「映画史概論（後期）」を履修することはできない。「日本映画史 1」もあわせて履修することを強く勧める。また、知識を補強するためにほかの映画史科目も履修してほしい。																		
授業概要		若い芸術である映画にもすでに130年の歴史がある。社会の変化と技術の革新、そして人間の欲望の変化に伴って映画は常に姿を変えてきた。この歴史の層の一番表面の部分が、今見えている映画なのだ。 この授業では、映画の誕生から1970年代まで、時代ごとに重要な社会的出来事や用語、作品について解説しながら映画の姿の変化を追う。授業は講義と参考上映で構成され、毎回、前回の授業内容についての小テストを行う。 映画史を7週間に凝縮するので、細部に分け入るのではなく、映画史の大まかな見取り図を描くことを目的としている。これから映画を学ぶ上で支えとなる視点と、基本的な知識を修得してほしい。																		
到達目標		①映画史の大きな流れが理解できるようになる。 ②映画史上の重要な用語や監督、作品についての知識を身につけることができる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	1895～1900年代： 映画の誕生 ①1890年代：動く映像のもたらした驚き																		
	2	②1900年代：映像で語る物語へ——映画表現技法の発見																		
	3	1900～1910年代： 映画産業の始まり、映画表現技法の発達と洗練 ①映画産業の始まりとハリウッドの誕生																		
	4	②映画表現技法の発達と浸透、物語る映画の洗練																		
	5	1920年代： サイレント映画の時代、アヴァンギャルドの隆盛 ①1920年代という時代：新しい価値観への転換 ②アメリカ：ハリウッド映画産業の成長と「垂直統合」																		
	6	③ヨーロッパのアヴァンギャルド（前衛）映画 ④ソヴィエトのモンタージュ派 ⑤日本映画のサイレント時代																		
	7	1920年代末～1930年代： トークー映画の到来、古典的ハリウッド映画の確立 ①1930年代という時代：社会不安と戦争の影響 ②トークー映画の到来 ③カラー映画の技術革新																		
	8	④ハリウッド映画の黄金時代 ⑤フランスの詩的リアリズム																		
	9	1930年代末～1940年代： 戦争と映画（プロパガンダ映画） ①1940年代という時代：第二次世界大戦とその影響																		
	10	②戦時下のプロパガンダ映画 ③占領下の日本映画																		
	11	1940年代～1950年代：戦争から戦後へ、古典的ハリウッド映画の変容 ①瓦礫の中からの出発——イタリアのネオリアリズム ②古典的ハリウッド映画の変容（1940年代～）																		
	12	③1950年代という時代：東西冷戦と赤狩り ④ハリウッドのスタジオ・システムの弱体化																		
	13	1960年代～1970年代：スタジオ・システムの終焉と映画の新しい波 ①1960～70年代という時代：政治の季節——社会と価値観の変革のための闘い ②ハリウッドのスタジオ・システムの終焉																		
	14	③新たな産業構造の成立と「ニュー・ハリウッド」の誕生 ④アメリカ映画の変容 ⑤各国映画の新しい波																		
	15	最終テスト（60分） ※スマートフォン、資料の持ち込み禁止。辞書（電子辞書含む）は持ち込み可。 終了後解説																		
授業外学習		・授業内で部分的に上映した作品、名前を挙げた作品をできるだけ多く自分で見ること（「映画史基礎」の準備にもなる）。（週3時間程度） ・知識を自分のものにできるよう、配布したプリントや参考文献に示した本を読んで復習すること。（週1時間程度）																		
教科書 参考文献		初回の授業で参考文献表と授業で扱う映画作品の一覧を配布する。また、各回の授業で参考となる映画作品を指示する。																		
評価項目 評価方法		①授業の理解度（小テスト）20％：小テストは3問の質問に解答する形式。毎回授業の開始時に、前回の授業内容についての小テストを行う（遅刻に注意）。 ②授業の理解度（リアクションペーパーの内容）20％：リアクションペーパーは、毎回授業終了時に提出。 ③授業の理解度（最終テスト）60％：最終テストは最後の授業内に実施し、授業終了時に提出。 ※すべて出席してもテストの成績が悪いと不合格になる場合があるので注意すること。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		映画史基礎（1年生）						担当教員		伊津野知多、石坂健治、田辺秋守					
科目区分	教養(映画史)			科目分類	選択	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1-2	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F	校舎	白山				15	5	
履修条件	原則として全員履修すること。1年次は仮登録となる。1年次に条件（20作品以上鑑賞し、鑑賞ノートを提出）を満たした学生のみ、2年次に履修登録することができる。途中で失格となった学生も4年次に本科目を履修登録して続きを書くことができるので、自分のノートは保存しておくことを勧める。														
授業概要	日本映画大学に入ったからには最低限見ておかねばならない映画史上重要な作品50本を各自で鑑賞し、鑑賞ノートを作成する。今後の学習の基盤となる知識を身につけ、映画についてことばで表現できるようになるための訓練である。 定期的に実施する授業では、映画の見方や映画についての文章の書き方を指導し、映画史的知識を補足する。 映画を理解するには、まず見なければならぬ。しかし、素晴らしい映画は必ず喜びを与えてくれる。ぜひ楽しんでできる限り多くの作品に触れてほしい。														
到達目標	①映画史上重要な作品について理解を深めることができる。 ②映画について考えたことをことばで表現できるようになる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。														
授業計画	週数	内 容													
	1年次	各自で映画を鑑賞し、鑑賞ノートを期日に提出する（見る順番は自由）。年に数回の授業日がある。あらかじめシラバスを読み、チャレンジしたい人は4月18日（金）6限の授業①に参加したうえで、「映画史基礎鑑賞ノート」を購入して仮登録する必要がある。以下のスケジュールを各自で把握しておくこと。初回の授業で知らせるほか、随時掲示板で確認できる（メールでのスケジュール連絡はしない）。 4月18日（金）6限 授業① ガイダンス／この科目の説明と詳しいスケジュールについて ※「映画史基礎鑑賞ノート」購入 6月5日（木）17:00まで 鑑賞ノート提出①（白山校舎事務室） 5作品以上記入すること。この時点で5作品鑑賞していることが必須。 9月10日（水）4・5限 授業②＋鑑賞ノート提出②（授業内） 5作品以上記入すること。この時点で10作品鑑賞していることが必須。 11月26日（水）17:00まで 鑑賞ノート提出③（白山校舎事務室） 5作品以上記入すること。この時点で15作品鑑賞していることが必須。 2026年1月20日（火）5・6限 授業③＋鑑賞ノート提出④（授業内） 5作品以上記入すること。この時点で20作品鑑賞していることが必須。20作品に満たない人は2年次に履修登録できない。 以下は2026年度2年次のスケジュール概要。													
		2年次	4月第2週 授業①＋鑑賞ノート提出①（授業内） 5作品以上記入すること。この時点で25作品鑑賞していることが必須。 5月最終週 授業②＋鑑賞ノート提出②（授業内） 5作品以上記入すること。この時点で30作品鑑賞していることが必須。 9月第2週 鑑賞ノート提出③（白山校舎事務室） 10作品以上記入すること。この時点で40作品鑑賞していることが必須。 11月第1週 授業③＋鑑賞ノート提出④（授業内） 5作品以上記入すること。この時点で45作品鑑賞していることが必須。 2025年2月第2週 授業④＋鑑賞ノート提出⑤（授業内） 50作品分の鑑賞ノート提出 ※鑑賞ノートの返却日は別途掲示。												
授業外学習	指定された50本の映画を鑑賞し、鑑賞ノートにレポートを書く。（指定された授業日以外は全て各自の授業外学習である。）														
教科書 参考文献	仮登録時に、「映画史基礎鑑賞ノート」を購入すること。 作品のDVDは図書館と白山事務室で借りることができる。貸出のルール（ガイダンスで知らせる）を守って利用すること。														
評価項目 評価方法	①積極性（授業での発言や発表などの参加態度）10％ ②理解度・応用力・成長力（鑑賞ノートの内容）90％ 期日までに指定の本数が記入された鑑賞ノートを提出しなければ、その時点で失格となるので注意すること。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		映画分析論（前期）						担当教員		田辺秋守					
科目区分	教養(映画文化)			科目分類	選択		授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	1	開講学期	前期	ターム	1	講義型	C2	校舎	白山				15	5	
履修条件	前期・後期に同じ科目を開講する。前期・後期のいずれかで履修すること。前期に不合格となった場合「映画分析論（後期）」を履修することはできない。映画の秘密を知りたいと思っている人、映画を知的に理解したい人に向いている。														
授業概要	映画を前にして、すべての人は観客である。スクリーンやモニターを眺める映画の観客が、ただぼんやりと（漠然と）映画を見るのではなく、意識的に映画を見るときにやっていることは何かを考えてみる。つまり、映画を分析的に見る見方を考えること。考えるだけでなく、それを自分なりに実行し、映画をよりよく理解できるようにする。これは、映画の魅力（楽しみ）の秘密を知るための第一歩である。														
到達目標	映画を分析する際の、最も基本的な語彙を理解する。 映画を見るときには様々な観点があることを知る。 一本の映画を見たあとで、その映画について、短い印象や感想ではなく、根拠のある説明ができるようにする。														
授業計画	回数	内 容													
	1	映画を分析すること：映画を定義する試み													
	2	フレームと空間構成（構図）、奥行き、透視図法													
	3	運動論：映画における運動とはなにか													
	4	カメラワークの重要性：カメラ・レンズ、カメラの位置、カメラの移動													
	5	モンタージュ論：ショット、シーン、シークエンス													
	6	「つなぎ」の意味、マッチングの技法、場面転換、8つの連辞系													
	7	音響論：サウンド・セリフ・音楽													
	8	音響の効果、音楽の意味													
	9	時間論：時間を操作する													
	10	時間の引き延ばし、スローモーション、ファストモーション、フラッシュバック、フラッシュフワード													
	11	構造論：映画の構造と語り													
	12	制限された語りと全知の語りと焦点化 フラッシュバック、フラッシュフワード													
	13	類型論：ジャンル・人物（キャラクター）・プロット													
	14	美学論：映画の良し悪しはどこにあるか？ 芸術としての映画はいかにして可能か？													
	15	分析の実践、まとめ／教場レポート													
授業外学習	授業の中で部分的に取り上げた映画を必ず見ること。（週3時間程度）														
教科書 参考文献	ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』晃洋書房、ルイス・ジアネッティ『映画技法のリテラシーⅠ・Ⅱ』フィルムアート社、ジェニファー・ヴァン・シル『映画表現の教科書』フィルムアート社														
評価項目 評価方法	毎回の理解度（リアクションペーパーの内容）30% 授業で修得した語彙、方法の応用度（期末レポートの内容）70% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		表象文化論 1						担当教員		伊津野知多					
科目区分	教養(映画文化)			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1	開講学期	前期	ターム	1	講義型	C2	校舎	白山				15	5	
履修条件		—													
授業概要		「表象」(representation)とは、人間が自分や周囲の世界をイメージ化し、メディアを使って表現する(かたちに表す)こと、およびその行為を通じて生み出されたものを指す。絵画や写真、映画、彫刻、絵本や地図、建築など、さまざまなメディアが人間の表象行為に関わっている。 この授業は「表象」をていねいに読み解くための基礎的な講義である。表象のひとつである映画・映像について考察しながら、人間の創造行為を捉え直すことを目的とする。毎回参考上映を行うほか、グループや個人で行う「エクササイズ」を随時設ける。できるだけ受講者と対話しながら進めるので積極的に参加してほしい。													
到達目標		「印象」や「感想」で終わらずに、映画や映像を読み解くことができるようになる。													
授業計画	回数	内 容													
	1	①「表象」とはなにか 【エクササイズ①：地図を描く】													
	2	②写真(映画)という表象の特殊性について 【エクササイズ②:写真を読む】													
	3	映像の空間を読む													
	4	①フレーム 【エクササイズ：絵画を自分のフレームで切り取り物語を作る】 ②画面と画面外													
	5	映画における視点と視線													
	6	①映画の視点：誰がどこから見ているのか ②登場人物たちの視線：目は口ほどにものを言う													
	7	映像の時間を読む——写真の時間・映画の時間 ①時間とは何か ②静止した映像(写真)にとらえられた運動と時間・写真の物語性													
	8	③写真と映画の時間性のちがい ④映画における時間の操作													
	9	映画における音 ①視覚と聴覚の共感覚性：映像が喚起する音、音が喚起する映像 【エクササイズ①：目で聞く、耳で見る】													
	10	②映画における音と映像(画面)との関係 【エクササイズ②：映画の音から映像を想像する】 ③映画の音の3つの区分：フレーム内の音(インの音)／フレーム外の音／オフの音													
	11	映像に触る——映画の触覚性													

科目名		映画分析論（後期）						担当教員		田辺秋守										
科目区分	教養〈映画文化〉			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	1	開講学期	後期	ターム		4		講義型		C2		校舎	白山					15	5	
履修条件		前期・後期に同じ科目を開講する。前期・後期のいずれかで履修すること。前期に不合格となった場合「映画分析論（後期）」を履修することはできない。映画の秘密を知りたいと思っている人、映画を知的に理解したい人に向いている。																		
授業概要		映画を前にして、すべての人は観客である。スクリーンやモニターを眺める映画の観客が、ただぼんやりと（漠然と）映画を見るのではなく、意識的に映画を見るときにやっていることは何かを考えてみる。つまり、映画を分析的に見る見方を考えること。考えるだけでなく、それを自分なりに実行し、映画をよりよく理解できるようにする。これは、映画の魅力（楽しみ）の秘密を知るための第一歩である。																		
到達目標		映画を分析する際の、最も基本的な語彙を理解する。 映画を見るときには様々な観点があることを知る。 一本の映画を見たあとで、その映画について、短い印象や感想ではなく、根拠のある説明ができるようにする。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	映画を分析すること：映画を定義する試み																		
	2	フレームと空間構成（構図）、奥行き、透視図法																		
	3	運動論：映画における運動とはなにか																		
	4	カメラワークの重要性：カメラ・レンズ、カメラの位置、カメラの移動																		
	5	モンタージュ論：ショット、シーン、シークエンス																		
	6	「つなぎ」の意味、マッチングの技法、場面転換、8つの連辞系																		
	7	音響論：サウンド・セリフ・音楽																		
	8	音響の効果、音楽の意味																		
	9	時間論：時間を操作する																		
	10	時間の引き延ばし、スローモーション、ファストモーション、フラッシュバック、フラッシュフワード																		
	11	構造論：映画の構造と語り																		
	12	制限された語りと全知の語りと焦点化 フラッシュバック、フラッシュフワード																		
	13	類型論：ジャンル・人物（キャラクター）・プロット																		
	14	美学論：映画の良し悪しはどこにあるか？ 芸術としての映画はいかにして可能か？																		
15	分析の実践、まとめ／教場レポート																			
授業外学習		授業の中で部分的に取り上げた映画を必ず見ること。（週3時間程度）																		
教科書 参考文献		ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』晃洋書房、ルイス・ジアネッティ『映画技法のリテラシー I・II』フィルムアート社、ジェニファー・ヴァン・シル『映画表現の教科書』フィルムアート社																		
評価項目 評価方法		毎回の理解度（リアクションペーパーの内容）30% 授業で修得した語彙、方法の応用度（期末レポートの内容）70% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		テーマ研究 1〈アジア映画入門〉						担当教員		石坂健治					
科目区分	教養〈映画文化〉			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1	開講学期	後期	ターム	4	講義型	C2	校舎	白山				15	5	
履修条件		アジアの映画に関心のある者の履修を望む。													
授業概要		20世紀前半、映画は娯楽として世界中に普及していったが、そのころアジアの大半は植民地だった。第二次世界大戦後、多くの国が独立を果たし、やっと独自の文化芸術を創作することが可能になったとき、作家たちは映画というメディアを使ってユニークな表現を作り上げ、今日のアジア映画の興隆を導き出した。本講では、①欧米や日本と異なる歴史を歩んだアジア諸国の映画史を概観し、②上海、ボンベイ、マニラ、ソウルなど、アジア映画史の焦点となった国や都市、つまり「映画の都」を時代ごとに概説し、③そうしたなかで生まれた巨匠や傑作の数々を見ていくこととする。													
到達目標		映画を通じてアジア諸国とのご近所付き合いを深める。													
授業計画	回数	内 容													
	1	アジアの映画に親しむ①—— 予告編大会													
	2	アジアの映画に親しむ②—— 予告編大会													
	3	アジア映画史の焦点 1 —— 21世紀 韓国映画の躍進													
	4	アジア映画史の焦点 2 —— 21世紀 韓国映画の躍進													
	5	アジア映画史の焦点 3 —— 1980年代 台湾ニューシネマの輝き													
	6	アジア映画史の焦点 4 —— 1980年代 台湾ニューシネマの輝き													
	7	アジア映画史の焦点 5 —— 1970年代 香港カンフー映画の歴史													
	8	アジア映画史の焦点 6 —— 1970年代 香港カンフー映画の歴史													
	9	アジア映画史の焦点 7 —— 1990年代 中国映画の第五世代から第六・第七世代へ													
	10	アジア映画史の焦点 8 —— 1990年代 中国映画の第五世代から第六・第七世代へ													
	11	アジア映画史の焦点 9 —— 映画王国インド													
	12	アジア映画史の焦点10—— 映画王国インド													
	13	アジア映画史の焦点11—— 21世紀 東南アジア映画の興隆													
	14	アジア映画史の焦点12—— 21世紀 東南アジア映画の興隆													
	15	アジア映画史の焦点13——イラン・トルコ・中東映画の素晴らしさ													
授業外学習		参考書を読む（週2時間）。授業で扱った国の映画をDVDや配信サイトで観る（週6時間）。													
教科書 参考文献		石坂健治ほか監修『アジア映画の森—新世紀の映画地図』（森話社、2012）、石坂健治ほか編著『アジア映画で〈世界〉を見る—越境する映画、グローバルな文化』（森話社、2013）、石坂健治ほか編著『躍動する東南アジア映画—異文化・越境・連帯』（論創社、2019）													
評価項目 評価方法		授業の理解度（リアクションペーパー30%＋期末レポート70%）													
		出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		サブ・カルチャー論						担当教員		藤田直哉					
科目区分	教養〈映画文化〉			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1	開講学期	後期	ターム	4	講義型	C2	校舎	白山				15	5	
履修条件		特になし。													
授業概要		サブ・カルチャーとは、その社会で支配的な「主流文化」に対して、「傍流」であったり「少数派」であったり「対抗的」であったり「下位」であると見做される文化である。日本においては、アニメ・マンガ・ゲーム・特撮などが、サブ・カルチャーとされてきた。しかし、現在ではそれらは「クールジャパン」を担う「メディア芸術」と見做され国立新美術館で展示されたり、日本を代表する主流文化のように扱われもするようになった。本講義は、一般的に「オタクカルチャー」とも呼ばれる日本において特殊に花開いた文化について、それが一体どのようなもので、どのような魅力と意義があるのかを、映画との関係において探っていくものである。													
到達目標		日本におけるサブ・カルチャーの歴史と意義についての理解が深まる。現在の自分たちが当たり前のように接している文化が、実は世界的にも歴史的にも当たり前なものではないものとして考えられるようになる。自分たちが作品を送り出す世界についての知見が得られる。													
授 業 計 画	回数	内 容													
	1	イントロダクション——サブカルチャーとは何か													
	2	『AKIRA』——日本を代表するアニメーション													
	3	60年代Ⅰ——カウンターカルチャーの時代													
	4	60年代Ⅱ——『イージーライダー』													
	5	70年代Ⅰ——『仁義なき戦い』と連合赤軍事件とサンリオ													
	6	70年代Ⅱ——シラケ世代の誕生													
	7	80年代Ⅰ——オタクの誕生													
	8	80年代Ⅱ——繁栄と平和の時代													
	9	90年代Ⅰ——内向と自閉、『新世紀エヴァンゲリオン』													
	10	90年代Ⅱ——内向と自閉Ⅱ、『新世紀エヴァンゲリオン』													
	11	ゼロ年代Ⅰ——セカイ系と「萌え」の発展、新海誠『ほしのこえ』													
	12	ゼロ年代Ⅱ——インターネットの普及、ネットカルチャーの隆盛、『バトル・ロワイヤル』													
	13	10年代Ⅰ——空気系・日常系・BL『けいおん！』													
	14	10年代Ⅱ——SNSによる革命、政治的エンターテインメントの隆盛													
	15	まとめ——戦後日本のサブカルチャーはどのように変遷してきたか													
授業外学習		授業内で観ることのできない作品も多いので、紹介した作品や本は図書館やインターネットなどで見ていくように。気になったり興味が惹かれた作品には積極的に触れていくこと。毎週8時間程度の自習時間が望ましい。													
教科書 参考文献		藤田直哉『シン・エヴァンゲリオン論』（河出書房新社、2022年）、『新海誠論』（作品社、2022年）、スーザン・ネイピア『現代日本のアニメ』（中央公論新社、2020年）、アン・アリスン『菊とポケモン』（新潮社、2010年）、東浩紀『動物化するポストモダン』（講談社、2001年）													
評価項目 評価方法		1授業の理解度（毎回のリアクションペーパーの内容）：30% 2授業の応用度（期末レポートの内容）：50% 3積極性（授業内での発言やディスカッションへの参加態度）：20% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		シナリオ研究 1						担当教員		井土紀州				
科目区分	教養(映画文化)			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	1	開講学期	後期	ターム	4	講義型	C2	校舎	白山				15	5
履修条件	特になし													
授業概要	・この授業では、名作シナリオの分析・読解を通じてより深く映画を理解することを目指します。名作シナリオを数回に分けて分析し、スリリングな物語や魅力的なキャラクターなど、映画の面白さがいかんにして設計されているのかを解き明かしていきます。創造の秘密、映画のメカニズムを解き明かす授業です。 ・長編シナリオを書くためには、しっかりとした構成力と魅力的な登場人物が必要です。名作シナリオを分析し丁寧に読み解いていくことで、構成とは、人物とは何かということを学びます。授業では分析対象として、三本ほど映画/シナリオを取り上げますが、なるべくジャンルが重ならないように考えています。例えば①ミステリー/サスペンス、②恋愛ドラマ、③家族のドラマといった具合に様々なジャンルのシナリオの構造について分析していく予定です。ちなみに2024年度に取り上げたシナリオは『チャイナタウン』（脚本：ロバート・タウン）、『少年』（脚本：田村孟）、TVドラマ『ふぞろいの林檎たち』（脚本：山田太一）の三本でした。													
到達目標	シナリオが読めなければ、シナリオは書けません。それは監督や俳優、カメラマンや録音技師らの技術パートも同じで、シナリオが読めなければ映画の仕事をすることはできないのです。この授業に取り組むことで、作り手にとって必要なシナリオの読解力を養うことを目指しています。													
授 業 計 画	回数	内 容												
	1	シナリオとは何か？ 映画/シナリオについての概論的な講義を行います。												
	2	映画Aのシナリオ分析① 選んだ映画Aのシナリオを三つのブロックに分けて、その前半部分のシナリオを読んだり、映画をみたりして、分析します。												
	3	映画Aのシナリオ分析② 映画Aのシナリオの中盤部分のシナリオを読んだり、映画をみたりして、分析します。												
	4	映画Aのシナリオ分析② 映画Aのシナリオの中盤部分のシナリオを読んだり、映画をみたりして、分析します。												
	5	映画Aのシナリオ分析③ 映画Aのシナリオの後半部分のシナリオを読んだり、映画をみたりして、分析します。												
	6	映画Aのシナリオ分析③ 映画Aのシナリオの後半部分のシナリオを読んだり、映画をみたりして、分析します。												
	7	3回に分けて分析した映画Aのシナリオについての総論的講義。												
	8	映画Bのシナリオ分析① 選んだ映画Bのシナリオを三つのブロックに分けて、その前半部分のシナリオを読んだり、映画をみたりして、分析します。												
	9	映画Bのシナリオ分析② 映画Bのシナリオの中盤部分のシナリオを読んだり、映画をみたりして、分析します。												
	10	映画Bのシナリオ分析③ 映画Bのシナリオの後半部分のシナリオを読んだり、映画をみたりして、分析します。												
	11	映画Cのシナリオ分析① 選んだ映画Cのシナリオを三つのブロックに分けて、その前半部分のシナリオを読んだり、映画をみたりして、分析します。												
	12	映画Cのシナリオ分析② 映画Cのシナリオの中盤部分のシナリオを読んだり、映画をみたりして、分析します。												
	13	映画Cのシナリオ分析③ 映画Cのシナリオの後半部分のシナリオを読んだり、映画をみたりして、分析します。												
	14	映画Cのシナリオ分析④ 映画Cのシナリオについて総論的に、構成やキャラクターなどを分析します。												
	15	授業内レポートの実施。これまでのシナリオ分析を踏まえたレポートを書いて提出。												
授業外学習	授業で取り上げるシナリオをあらかじめ読んでくる。次の授業で取り上げるシナリオは事前に配布します。（原作がある場合は、原作も読んでくるのが好ましい）（週2時間程度）													
教科書 参考文献	野田高梧「シナリオ構造論」（フィルムアート社）、岡田晋「シナリオの設計」（ダヴィッド社）、「別冊宝島 シナリオ入門」（宝島社）													
評価項目 評価方法	①理解度（授業内レポート） 50% ②受講姿勢（積極性、主体性） 30% ③応用力（自分でシナリオを分析して提出する。授業内レポートとは別です） 20% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		文芸映画論						担当教員		大澤信亮					
科目区分	教養(文学・芸術)			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1	開講学期	前期	ターム	1	講義型	C3	校舎	白山				5	15	
履修条件		とくになし。ただし、3年次に「文芸コース」または「脚本コース」を希望する可能性のある学生は率先して受講しておくこと。													
授業概要		この講義では、主に日本の近現代文学を原作とする映画作品を題材に、私たちにとって身近かつ切実なテーマを文学や映画がいかに描いてきたのかを紹介する。取り上げる作家・作品はいずれも、文学史的によく知られたものであり、受講者は日本の近現代文学（および一部マンガ）についての基本的な知識を学ぶことができる。この講義は3年時に「文芸コース」に進む可能性のある学生は受講しておくべきだが、現在の実写映画の多くが小説やマンガ等を原作としていることから、他コース希望の学生の受講も歓迎する。 講義の進め方としては、毎回、講義—上映—講義—リアクションペーパー執筆、という流れを繰り返す。なお、講義スケジュールは変更する可能性がある。その場合、講義が開始する前にあらかじめ告知することにする。													
到達目標		日本の近現代文学の全体像を理解する。小説と映画を比較できるようになる。小説を読み、論じるための視点を身につける。													
授業計画	回数	内 容													
	1	柴崎友香『寝ても覚めても』／濱口竜介『寝ても覚めても』から「現実と映画の関係」を考える													
	2	東日本大震災、一人二役、運命的な恋愛の断念、出演者のスキャンダル、許せない相手と生きていく													
	3	岡崎京子『リバーズ・エッジ』／行定勲『リバーズ・エッジ』から「死」について考える													
	4	死体、いじめ、セックス、ドラッグ、ゲイ、過食、殺人、自殺、この平坦な戦場を生き延びること、文学のようなマンガ													
	5	よしもとばなな『TUGUMI』／市川準『つぐみ』から「郷愁」について考える													
	6	田舎の海辺町、わがままな病気の少女、複雑な家庭環境、少女マンガのような文学													
	7	村上春樹『ノルウェイの森』／トラン・アン・ユン『ノルウェイの森』から「性欲」について考える													
	8	精神病の女の子、親友の自殺、性欲と恋愛、学生運動、高度資本主義社会の手前													
	9	三島由紀夫『美しい星』／吉田大八『美しい星』から「使命」について考える													
	10	転生、環境問題、マルチ商法、レイプ、壊れた家族の再生、大いなる使命を持つことの滑稽さと切実さ													
	11	太宰治『パンドラの匣』／富永昌敬『パンドラの匣』から「希望」について考える													
	12	若者、病気、詩、自由思想、天皇陛下とキリスト、卑小さと偉大さ、「かるみ」と「よわさ」													
	13	芥川龍之介『羅生門』、『藪の中』／黒澤明『羅生門』から「映画とは何か」を考える													
	14	時代劇、原作と脚色、劇の構成、光と闇、ヒューマニズム													
	15	総論													
授業外学習		各回の原作を自主的に読んでおくこと。（週6時間程度）													
教科書 参考文献		なし。													
評価項目 評価方法		授業の理解度（各回のリアクションペーパーの内容）100% 全7回の平均点で評価する。													
		出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		映画と文学						担当教員		関川夏央										
科目区分	教養(文学・芸術)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	1	開講学期	後期	ターム		4		講義型		C2		校舎	白山					10	10	
履修条件		特になし。																		
授業概要		おもに1950年代から1960年代までに製作され、「文芸映画」に分類された作品を分析的に見ながら、言語表現と映像表現の特性を知る。それぞれの作品を生み出した日本社会の時代相、および時代を表象した俳優たちについて考察する。研究対象作品と作家は、予告なしに変更することがある。																		
到達目標		文学表現と映像表現の関係を考察しながら、1950年代末から1960年代前半までの日本映画（一部1990年代）をていねいに見て、日本社会の変化を読みとり、同時に日本映画史像を形成する。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1 2	野村芳太郎監督『張込み』（1958年）では、野村芳太郎と脚本の橋本忍が松本清張の原作を、どう修正・省略し、どう映画的に再構成したかを見る。それまで撮影所では、たんに仕事の速い器用な監督と見られていた野村芳太郎による、九州行き長距離夜行急行列車の車中と九州ロケ・シーンのリアリティに注目する。																		
	3 4	1と2のつづき。参考作品として野村・橋本が脚本・監督したおなじ松本清張の小説を原作とした『砂の器』（1974年）の部分を見て、いたずらに長い小説を、どう分解・整理したか、あるいは分解・整理しきれなかったかを検討する。																		
	5 6	市川崑監督『おとうと』（1960年）で、幸田文の同名原作小説を市川崑と脚本の水木洋子が行った大胆な省略の仕方を知る。1920年から1925年までの「大正時代」を表現するために、撮影の宮川一夫と市川崑が発明した現像方法「銀残し」による「時代をつけ方」を見る。																		
	7 8	5と6のつづき。参考作品として、おなじ幸田文の小説『流れる』を原作として、東京柳橋の芸者置屋をえがいた成瀬巳喜男監督『流れる』（1956年）の部分を見る。撮影所時代の精華ともいべき大女優たちの競演を体験する。																		
	9 10	新藤兼人82歳の監督作品、老人しか出てこない映画『午後の遺言状』（1995年）を見て、新藤兼人のキャリアと困難な映画製作をつづけた独立プロ（近代映画協会）の歴史を学び、彼の人生観にふれる。																		
	11 12	9と10のつづき。新藤兼人監督『裸の島』（1960年）の部分を見て、その「映画詩」ともいべき映像の裏にひそむ独立プロの困難な状況を知る。																		
	13 14	黒澤明監督、複数の共同脚本による『天国と地獄』（1963年）を分析的に見る。その複数カメラによる撮影と膨大な数のエキストラのさばき方を知り、推理映画ではなくドキュメンタリータッチの犯罪映画の傑作を味わう。																		
	15	13と14のつづき。参考作品はなし。期末レポートを課す。																		
	授業外学習		授業でとりあげた作品の原作小説、原作ノンフィクションは、部分でも読んでおくことが望ましい。																	
教科書 参考文献		特になし。																		
評価項目 評価方法		積極性（受講態度・授業内での発言等）50％ 理解度（中間・期末レポート）50％																		
		出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		芸能概論						担当教員		天願大介、石坂健治、田辺秋守、藤田直哉、高橋世織					
科目区分	教養(文学・芸術)			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1	開講学期	後期	ターム	4	講義型	C3	校舎	白山				5	15	
履修条件		特になし													
授業概要		芸能の歴史を学び、その本質について考える。 古来、芸能は神事と深く関わり、同時に激しく差別されてきた。それは洋の東西を問わず、形を変えて現在まで続いている。 芸能を持たない民族・文化は存在しない。そして、それぞれの芸能は意外なところで繋がっている。 映画もまた芸能であり、芸能を知るとは映画を知ることでもある。 各講師が様々な芸能を取り上げ、角度を変えて芸能について講義し、その広がりや意味について考察する。													
到達目標		日本の芸能の歴史を中心に、アジア、ヨーロッパ、アメリカの諸芸能について基本的な知識を身につける。 芸能の持つ普遍的な役割と未来を考える視点を身につける。													
授業計画	回数	内 容													
	1	放浪する門付け芸と差別について　〔天願〕　参考＝高橋竹山、北島三郎、藤圭子													
	2	地べたの芸と板の上の芸　表現とは何か　〔天願〕 ○ 小沢昭一の仕事について													
	3	能の基本的な見方を学ぶ　〔藤田〕　能は、形式でも内容でも不思議な特徴を持っている。神事や儀式に似ており、西洋の演劇とは文法が異なる。その意義や意味を考察する。　○『土蜘蛛』『翁』													
	4	弱者たち、滅びゆく者たち　〔藤田〕　世阿弥らは、被差別階級に属していた。寺や権力者に庇護されつつ、時に諫め、論ず役割を果たすこともあった。その緊張感と呼吸に触れる。　○『隅田川』『恋重荷』『鞍馬天狗』『善知鳥』『安達原』													
	5	狂言　庶民たちの力強さ、ユーモアとは何か　〔藤田〕　権力や権威の圧が強い能と違い、狂言は庶民や人間のダメな姿を肯定する。　○『萩大名』『棒縛り』『靱猿』『若市』『武悪』													
	6	来訪神と民俗芸能　〔藤田〕　能は、ほかのさまざまな民族芸能の影響を受けている。現在でも残る様々な芸能と比較し、そこにある信仰や形式を比較する。													
	7	芸能の真髄としてのオペラ（朗唱し、独唱し、合唱する）　〔田辺〕 ○ギリシャ古典を音楽によって可視化する　○バロックオペラとパトロンとの関係													
	8	バロックオペラ最大のスター「カストラート」　〔田辺〕 参考＝ジェラルド・ホルビー監督『カストラート』（1994）													
	9	モーツァルトによるオペラの革命　〔田辺〕　○ダ・ポンテ+モーツァルト：オペラの喜劇化、『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『コシ・ファン・トゥッテ』の現代性　○パトロンからの自立、崇高にして通俗であること　参考＝ミロス・フォアマン監督『アマデウス』（1984）													
	10	オペラは海を渡る　〔田辺〕　○日本へのオペラ（オペレッタ）の移入、ローシーと帝国劇場　○浅草オペラの隆盛から衰退（関東大震災まで）　○浅草公園六区という場所　○藤原義江、高田せい子、田谷力三の活躍													
	11	郷土芸能の効用と諸課題【祭・祀・政（マツリゴト）のポリティクス】〔高橋〕　○アエノコト（奥能登輪島、饗の祭り）における柳田國男のフィールド・ワーク　○観光資源としての鬼剣舞、黒川能、秋田竿灯まつり、尾張の三河万歳　参考『最後の万歳師』（日川好平）													
	12	土俗と前衛〔高橋〕 ○暗黒舞踏・土方巽(秋田出身) から考察する足芸の系譜 「畔で放尿する姿態がベース」（郡司正勝）													
	13	東アジアの芸能〔石坂〕　○韓国の民俗芸能パンソリ（歌い手と鼓手による二人芸）と放浪芸の世界について。『春香伝』『沈清伝』といったパンソリの人気演目が20世紀後半に繰り返し映画化されていく過程についてもふれる。													
	14	参考＝イム・グォンテク監督『風の丘を越えて～西便制（ソピョンジェ）』（1993）、イ・ジョンピル監督『花、香る歌』（2016）													
	15	担当教員5名による座談会													
授業外学習		授業内であげた作品をなるべく多く見て、文献に触れておくこと。													
教科書 参考文献		小沢昭一の諸著作。その他、各講師が講義の中で紹介する。													
評価項目 評価方法		積極性（質疑応答などの受講態度）60％ 理解度（リアクションペーパーの内容）40％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		映画で学ぶ歴史と社会 1〈ジェンダーとセクシュアリティ〉						担当教員		大友りお							
科目区分	教養〈歴史・社会科学〉			科目分類	選択		授業形態	講義	単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	1	開講学期	前期	ターム	1	講義型	C2	校舎	白山					5	15		
履修条件		内容に関心があり、独自に研究課題に取り組むことができる人。															
授業概要		本講の第一目標は、これまで「あたりまえ」だと思っていたことが、実は歴史的に形成されたひとつの視点であったことに気づくことである。大学で身につける教養は、「あたりまえ」にひそむ歴史的な背景とそれに関わる権力の存在を知ること、そしてその上で新たな自分の視点を獲得することだとも言える。ここでは、映画作品の分析を通して、性差の複雑なメカニズムについて一緒に考え、この「あたりまえ」を検証していく。授業は、映画を鑑賞し、ワークシートの質問に答え、それをもとに意見交換をする。講義では第三の波と呼ばれるフェミニストたちが到達したクイア理論と、その過程に大きく関わったミッシェル・フーコーの思想を中心に、身体、欲望、他者、表象などについて分かりやすく解説していく。															
到達目標		受講後学生は、文学テキスト、広告、映像メディアを通して表現されるすべての物語を、性差の局面から分析することができるようになる。自分自身の生き方と創作に、この科目を通して身につけた視点を反映させることができるようになる。															
授 業 計 画	回数	内 容															
	1	TVコマーシャルが構築する男らしさと女らしさ:ワークシートとディスカッション															
	2	ポルノグラフィと西洋絵画：描かれる女性の身体															
	3	映画『ミルク』に見る1970年代のアメリカ：同性の身体を欲望すること															
	4	講義：ミッシェル・フーコー『性の歴史』解説：アイデンティティとしてのホモセクシュアリティ															
	5	映画『ハーヴェイ・ミルクの生涯』に見る1970年代のアメリカ：異性愛という規範への執着															
	6	ワークシートとディスカッション：ドキュメンタリーとドラマの間で何が起ころか															
	7	映画『プリシラ』に見る性差をパフォーマンスする身体															
	8	ワークシートとディスカッション：異性装、自己の性認識、トランスという選択															
	9	映画『ウェディング・バンケット』にみる異文化の表象とセクシュアリティ															
	10	ワークシートとディスカッション：「家」という概念と異性愛															
	11	映画『ハッシュ』に見る結婚しない女性と「家」制度															
	12	ワークシートとディスカッション：異性愛を脱構築する映画															
	13	映画『マイ・ビューティフル・ランドレット』に見る移民と階級のクイアな空間															
	14	ワークシートとディスカッション：異性愛を脱構築する映画															
15	期末レポートを完成させて提出																
授業外学習		毎週の課題ワークシートやレポートを書く（週2時間程度）															
教科書 参考文献		なし															
評価項目 評価方法		積極性・主体性（宿題・提出物への取り組み姿勢）60% 内容の理解度・応用力（期末レポート）40% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。															

科目名		映画で学ぶ歴史と社会 2（現代の日本）						担当教員		横田和子					
科目区分	教養（歴史・社会科学）			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1	開講学期	後期	ターム	4	講義型	C2	校舎	白山				5	15	
履修条件	特になし														
授業概要	本授業では主に1960年代から2000年代初頭までの日本社会を描写した映画を手がかりに、そこにこめられた人間の欲望、美醜等を考察し、現代日本社会の変容について検討する。本授業で取り上げるテーマは、差別、貧困、戦争など、全く終わっていないばかりか、私たちが生きている間に終わることを予想することすら難しい直接的/構造的暴力とその痛みである。しかしそこには同時に、他者との連帯や希望を回復することの可能性という夢を見出すことができるだろう。授業ではディスカッションを通して、映画の持つ可能性と力に学びながら、人権、差別、平和、戦争、あるいは人間の弱さ・狡さ・いびつさ・複雑さを味わう。その上で、現代日本社会が何を見ないようにしているのか、蓋をしようとしているものは何か、映画ができることは何かなど、それぞれの現時点での問いを見出してほしい。														
到達目標	映画を通して20世紀後半から21世紀初頭までの日本社会の歴史と課題を知り、日本社会への理解を深め、問いを見出す。 暴力とその痛み、トラウマをめぐる社会課題に対して知識を深め、また、それについて他者に対話することができる。他者の意見を尊重しながら、自己の思考を言語化することができる。 社会課題と映画の関係性を考察し、映画というメディアの持つ可能性と課題を考えることができる。														
授業計画	回数	内 容													
	1	オリエンテーション。授業の目的、進め方等を説明する。また社会課題、構造的暴力について概要を説明する。													
	2	鑑賞予定の作品を決定づけるテーマで、グループワークを行う。													
	3	黒澤明監督『どですかでん』（1970）を見る。原作は山本周五郎『季節のない街』（1962）。													
	4	スラムのような街で繰り広げられる群像劇をもとに、人間の弱さ、狡さ、愚かさ、救いのなさなどを味わい、2024年のインクルージョンとの関わりを検討する。													
	5	野村芳太郎監督『砂の器』（1974）を見る。原作は松本清張（1961）。													
	6	名作とされる一方で、当事者からこの映画に対する懸念が表明されていたことも同時に考える。また、らい予防法の廃止後も根強く残る偏見についても考える。													
	7	国立ハンセン病資料館からゲストスピーカーを招く。国家により温存された差別の構造とその後の検証、記憶の継承について検討する。													
	8	ゲスト講義を受けて、ディスカッションを行う。													
	9	大島渚監督『戦場のメリークリスマス』（1983）を見る。原作：ローレンス・ヴァン・デル・ポスト『影の獄にて』（2006=1954）。													
	10	河合隼雄（1976）『影の現象学』をもとに、影の自覚、社会の影について検討する。													
	11	是枝裕和監督（1999）『ワンダフル・ライフ』を見る。													
	12	個人の記憶と集散的記憶の継承について検討する。													
	13	是枝裕和監督（2001）『DISTANCE』を見る。													
	14	オウム真理教の一連の事件をもとに、加害の記憶について検討する。													
15	振り返りとまとめ。レポートのピアリーディングを行う。														
授業外学習	個々の作品で描かれている社会問題についての学習が必要である。映画を鑑賞する時間が授業内で確保できない場合、配信等で事前に見ておくことを指示する場合がある。映画の日本語の理解が難しい場合、授業外で事前に鑑賞することを推奨する。														
教科書 参考文献	授業内で指示する														
評価項目 評価方法	①授業の理解度(毎回提出するリアクションペーパー・提出物の内容) 30% ②授業の理解度（期末レポート） 40% ③積極性・主体性（ディスカッションへの参加） 30%														
	出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		中国語						担当教員		劉書明										
科目区分	教養(コミュニケーション)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	1	開講学期		後期		ターム		4	講義型		C2		校舎	白山				5		15
履修条件		中国語学習初心者（中国人留学生は履修不可）。																		
授業概要		初めて中国語に接する初心者を対象に、中国語の基礎知識（中国語とは、中国語の発音とは、中国語の文法とは）を講義する。発音、文法、文型、文字（略字）を始め、基本会話を中心に行う。																		
到達目標		中国語の基礎知識を身につける。 今後、各自が独学ができる技術を身につける。 中国人と交流をはかる際に参考にできる教養を身につける。																		
授 業 計 画	回数	内 容																		
	1	授業内容、進行方法等の概説																		
	2	第1回 発音①																		
	3	第2回 第1課 御名前は？																		
	4	第3回 練習、復習																		
	5	第4回 第2課 これは何ですか？																		
	6	第5回 練習、復習																		
	7	第6回 第3課 どこへ行きますか？																		
	8	第7回 練習、復習																		
	9	第8回 第4課 これはいくらですか？																		
	10	第9回 練習、復習																		
	11	第10回 第5課 ご飯食べましたか？																		
	12	第11回 練習、復習																		
	13	第12回 第6課 夕方に時間がありますか？																		
	14	第13回 総合復習																		
15	まとめ。テスト																			
授業外学習		発音を繰り返し練習する。																		
教科書 参考文献		【教科書】「中国語はじめての一步」白水社（2200円） 【参考書】日中辞典、中日辞典 小学館																		
評価項目 評価方法		積極性・主体性（授業への活発な参加態度）70% 理解度（テスト）30% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		ベーシック・スキル 3〈コミュニケーションⅡ〉						担当教員		横田和子、守内映子					
科目区分	教養(基幹)			科目分類	必修	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	後期	ターム	3	講義型	C2	校舎	白山		5	3	2	10	
履修条件	日本語が母語の人、及び、それに相当する日本語能力を有すると判断された留学生を受講対象者とする。本必修科目の単位を取得できなかった場合は、次学年への進級はできない。														
授業概要	この授業では、ジブンゴトになりづらいさまざまな社会課題をめぐって、意見の異なる他者との対話を成立させるための基礎的な力を獲得することを目指す。前半 4 回では構造的暴力と平和、当事者性、ジェンダーなどの問題を扱いながら、グループワーク、レポートの執筆やピアリーディングを行う。後半は、移民難民問題、気候変動等を取り上げレポート執筆やグループワークによって自己の関心や知識を深めていく。トピックはいずれも容易に解を用意することのできない社会課題であり、そこには常に対立や葛藤が伴うため粘り強い思考と対話が必要になる。その過程においては、意見の異なる他者の話を聞く、自分の意見を書く・話す、さまざまな角度から情報を読む、イメージを伝える、といったやりとりが必要になる。対話のベースとなる広い視野、複眼的思考、批判的思考、想像力などを養い、対話の難しさや面白さを学ぶと同時に、一人ひとりの論理的な文章表現力の向上も目指す。														
到達目標	・複眼的思考・批判的思考・想像力をもって他者と対話し、協働できる。 ・論理的な文章表現を用いて、説得力のある論を展開できる。														
授 業 計 画	回数	内 容													
	1	授業オリエンテーション、ダイヤモンドランキング													
	2	社会課題と映画													
	3	平和と構造的暴力													
	4	当事者性と環状島モデル ミニ・レポート執筆													
	5	ミニ・レポートのピア・リーディング①（暴力）													
	6	ジェンダー													
	7	ミニ・レポートのピア・リーディング②（ジェンダー）													
	8	自分達にできること													
	9	気候変動と環境の変化													
	10	インタビューを要約して記事を書く													
	11	移民・難民と多文化共生													
	12	資料をもとに論じる													
	13	キャリア形成－AIと仕事													
	14	社会に提言する													
	15	振り返りとまとめ（教場レポート）3限のみ													
授業外学習	関連する分野の文献を探して読む、同じく映画を見る、課題（発表準備、レポートの準備）（毎週 3 時間）														
教科書 参考文献	参考文献は教室で適宜提示する。														
評価項目 評価方法	授業の理解度(提出課題)50% コミュニケーション力(積極性、受講態度、ディスカッション参加態度)20% 論理的な文章表現力習熟度(期末レポート)30% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		ベーシック・スキル 3〈日本語Ⅱ〉						担当教員		守内映子、横田和子					
科目区分	教養(基幹)			科目分類	必修	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	後期	ターム	3	講義型	C2	校舎	白山		5	3	2	10	
履修条件		日本語が母語ではない人を受講対象者とする。本必修科目の単位を取得できなかった場合は、次学年への進級はできない。													
授業概要		本授業は、すでに蓄積されている学習者の日本語の知識と本来備わっている言語運用以外の知識を融合しながら、タスクを通してその運用力を磨いていくものである。具体的には、個人やグループによる協働学習を通して、読解・聴解・文章表現にわたる分野を総合的に取り扱い、日本語のレベルアップの練習を繰り返す。そして、学び・気づき・考えたことを可視化しながら、より実践的な日本語力を身につける。													
到達目標		・系やコースに進んでから、また、将来の進路に向けて、自分の言葉で語り・伝え・動けるような日本語を習得する。 ・留学生以外の同級生との共修授業において、対等にディスカッションできる日本語力とグループ活動に貢献できる行動力を身につける。													
授 業 計 画	回数	内 容													
	1	授業オリエンテーション、将来の進路につながる「自己分析」、日本語のスキルアップ①「書き言葉と話し言葉」													
	2	感じる・考えるを体験するワークショップ：絵を読む													
	3	日本語スキルアップ②「敬語の種類と使い分け」													
	4	リーディング＆ライティング：文章の読み方と書き方の基本的な実践練習－意見など													
	5	日本語スキルアップ③「敬語」													
	6	リーディング＆ライティング：文章の読み方と書き方の基本的な実践練習－提案・勧誘・承諾など													
	7	日本語スキルアップ④「授受表現」													
	8	リーディング＆ライティング：文章の読み方と書き方の基本的な実践練習－依頼・謝罪など													
	9	学術的な文章の読み方 1													
	10	要約の書き方、レポートの構想													
	11	学術的な文章の読み方 2													
	12	資料の調べ方、引用の仕方													
	13	学術的な文章の読み方 3													
	14	レポートのピアリーディング、推敲													
	15	振り返りとまとめ（テスト）2限のみ													
授業外学習		書く、タスクの作成、宿題（週2、3時間）													
教科書 参考文献		中澤務・森貴史・木村康哲著『知のナビゲーター』（くろしお出版、2010年）1,800円＋税／小川誉子美・前田尚子著『上級日本語文法演習 敬語を中心とした対人関係の表現』（スリーエーネットワーク、2015年）1,300円＋税／後藤倫子著『思考力を育てる発表プロジェクト』（凡人者出版、2019年）2,000円＋税													
評価項目 評価方法		授業の理解度(実践練習問題、提出課題)35% コミュニケーション力(積極性、受講態度、グループワーク取り組み)35% 総合的な日本語力習熟度(期末テスト)30% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		日本映画史 2〈今村昌平論〉						担当教員		細野辰興					
科目区分	教養(映画史)			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	前期	ターム	1	講義型	C2	校舎	白山				15	5	
履修条件		特になし。													
授業概要		来年生誕100年を迎える日本映画大学の創始者であり世界的な鬼才・今村昌平監督の「人と作品」に関する連続講義。 日本映画大学が普通の大学ではないのだから、創始者である今村昌平監督も普通の映画監督ではない。20本の監督作品の殆どは「社会通念」や「公序良俗」では語れないものばかり。 8週間で全貌は語れないが、助監督時代からデビュー作を経て『復讐するは我にあり』(1979)での復活までを4ブロックに分け、作品の完全上映と解説、私が直接見聞きした言動なども交え紹介したい。また、今村昌平監督が、どの様に自己を解き放ち今までにない「新しい映画」を連続して誕生させたのかの「創作のミステリー」にも挑みたい。 ※有志のため、授業後の全作品完全上映の会も催し、一本でも多くの関連作品を観て貰う場を設ける。													
到達目標		①「今村昌平監督の人と作品」を知ることにより「 今村イズム 」を学び、日頃観ているアニメやハリウッドを中心とした映画たちとは極北にある映画の醍醐味、魅力を識ることが出来る。 ②世の中の「 良識と云う名の嘘 」を見抜けるような知見を得ることが出来る。 ③映画創作において「 一面的でない人間 」を描く感動を得ることが出来る。													
授業計画	回数	内 容													
	1	イントロダクション 今村昌平とは何者か？(前) 監督デビュー前の今村昌平。今村イズムの胎動を考える。													
	2	上映作品/『 幕末太陽伝 』(脚本&助監督作品 110分) ☆講義終了後の上映作品/『 酔いどれ天使 』(黒澤明監督作品98分) ※尚、上映作品は変更する可能性あり													
	3	イントロダクション 今村昌平とは何者か？(後) 「猥雑なる滑稽さ」の始まりを確認する。													
	4	上映作品/『 盗まれた欲情 』(デビュー作90分) ☆講義終了後の上映作品/『 西銀座駅前 』(52分)													
	5	「より良くてきた映画」の完成(前) デビュー作～『豚と軍艦』まで 重喜劇の誕生。													
	6	上映作品/『 果てしなき欲望 』(101分) ☆講義終了後の上映作品/『 にあんちゃん 』(101分)													
	7	「より良くてきた映画」の完成(後) デビュー作～『豚と軍艦』まで どの様に人間の個の根源的な生命力の追求を極めて行ったか。													
	8	上映作品/『 豚と軍艦 』(108分) ☆講義終了後の授業外上映作品 (事前に知らせる)													
	9	「新しい映画」への挑戦(前) 『 につぼん昆虫記 』から『 神々の深き欲望 』まで 「より良くてきた映画」から「新しい映画」への飛躍を検証													
	10	上映作品/『 につぼん昆虫記 』(123分) ☆講義終了後の上映『 神々の深き欲望 』前半													
	11	「新しい映画」への挑戦(後) 『 につぼん昆虫記 』から『 神々の深き欲望 』まで 「新しい映画」における「異化効果」を検証													
	12	上映作品/『 人間蒸発 』(129分) ☆講義終了後の授業外上映作品『 神々の深き欲望 』後半													
	13	9年間のブランクからの復活 『神々の深き欲望』の興行的失敗から「横浜放送映画専門学院」開校を経て更なる「新しい映画」である『復讐するは我にあり』での復活まで													
	14	上映作品/『 復讐するは我にあり 』(143分) ☆講義終了後の授業外上映作品 (事前に知らせる)													
15	「家」から見た今村作品 今村作品の中の「家父長制」における「今村のフェミニズム」とは。 上映作品/『 赤い殺意 』(150分) ☆講義終了後の上映は無し														
授業外学習		授業後上映会への有志参加 (週2時間程度)。日本映画大学紀要の2号と3号に載っている私・細野辰興と今村組の録音技師・紅谷恒一氏との対談『【良識と云う名】の嘘を暴けッ』の青春篇と野望篇、今村昌平監督が記した日本映画大学の「創立理念」ぐらゐは読んでおくこと。													
教科書 参考文献		教科書的noteを講義ごとに配布する。参考文献も別紙にリストを作り配布する。													
評価項目 評価方法		授業の理解度(①毎回のリアクションペーパー20% ②期末レポートの内容50%) 積極性(質疑応答などの参加態度30%) 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		ドキュメンタリー映画史						担当教員		石坂健治				
科目区分	教養(映画史)			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	2	開講学期	前期	ターム	1	講義型	C2	校舎	白山				15	5
履修条件	ドキュメンタリー映画からTVニュースまで、広い意味のノンフィクション映像に関心のある者に開かれた講座である。事前の心がけとしては、新聞に載るニュースをその後も自分なりにフォローしてスクラップするなど、身の回りの社会的な事件に意識的になることが肝要である。													
授業概要	ドキュメンタリーとは何か？文学と映画の分野で使われるこのコトバの本来の意味は？劇映画と別のカテゴリーに分類される理由は？だが本当に劇映画と異なるものなのか？……こうした基本的な疑問を抱きながら、ドキュメンタリー映画史の大海原へ飛び込もう。映画史初期（リュミエール、メリエス、ギイ、フラハティ）、戦意昂揚映画、社会主義プロパガンダ、ダイレクトシネマ、戦後日本と社会派ドキュメンタリー（土本、小川、大島、今村）、アジア・ドキュメンタリーの興隆、デジタル作法とセルフドキュメンタリー論争、などについて概説する。授業は、映画研究者のマーク・ノース（ミシガン大学教授）が提唱するドキュメンタリー映画史の6つの区分（初期、戦争、啓蒙、闘争、セルフ、漂流）に沿って進めていくこととする。													
到達目標	ドキュメンタリーの歴史を理解すると同時に、ドキュメンタリーの未来形を各自が自覚的に追究することができるようになること。													
授業計画	回数	内 容												
	1	ドキュメンタリーとは何か——文学と映画の分野で使われるコトバの起源												
	2	初期映画——リュミエールとメリエスの「ドキュメンタリー性」の違い												
	3	フラハティ——『ナヌーク（極北の怪異）』における「自然」と「演出」について												
	4	戦争とドキュメンタリー——ナチス・ドイツのプロパガンダ映画を分析する												
	5	リーフェンシュタール——『民族の祭典』とファシズムの美学について												
	6	社会主義とドキュメンタリー——ヴェルトフの創作理論を解説												
	7	ダイレクトシネマ——戦後の米仏にあらわれた「観察の映画」の思想とその成果												
	8	戦後日本のドキュメンタリー——左翼運動とドキュメンタリー映画の軌跡 校外学習：川崎・しんゆり芸術祭アルテリッカ2025 市川崑総監督『東京オリンピック』（昭和音楽大学テアトロ・ジリオ・ショウワ）鑑賞												
	9	土本典昭と小川紳介——高度経済成長期の暗黒面である「水俣」と「三里塚」												
	10	大島渚と今村昌平——大島の「朝鮮半島」と今村の「東南アジア」												
	11	アジア・ドキュメンタリーの興隆 1 —— 文革後の中国、民主化後の韓国												
	12	アジア・ドキュメンタリーの興隆 2 —— 東南アジアや中東でタブーに挑む作家たち												
	13	デジタル時代の表現——21世紀の新しいドキュメンタリー作法について考える												
	14	日本映画学校とセルフドキュメンタリー論争——21世紀の日本で巻き起こったドキュメンタリー論争												
	15	ドキュメンタリー映画の未来について考える												
授業外学習	参考書を読む（週 2 時間）。公開中のドキュメンタリーを映画館で鑑賞する（週 2 時間）。授業と関連する作品をDVDや配信サイトで観る（週 4 時間）。													
教科書 参考文献	石坂健治・土本典昭共著『ドキュメンタリーの海へ』（現代書館、2008年）、原一男著・石坂健治＋井土紀州編『踏み越えるカメラ』（フィルムアート社、1994年）、佐藤忠男ほか編『シリーズ 日本のドキュメンタリー（全 5 巻）』（岩波書店、2010年）													
評価項目 評価方法	授業の理解度（リアクションペーパー30％＋期末レポート70％） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		映画史基礎（2年生）						担当教員		伊津野知多、石坂健治、田辺秋守										
科目区分		教養(映画史)		科目分類		選択		授業形態		演習		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年		1-2	開講学期	通年		ターム		—		講義型		F		校舎	白山				15	5
履修条件		1年次に条件（20作品以上鑑賞し、鑑賞ノートを提出）を満たした学生のみ履修可能。 この科目が不合格になった場合も、4年次に再度履修登録して続きを書くことができるので、自分のノートを保存しておくことを勧める。																		
授業概要		日本映画大学に入ったからには最低限見ておかねばならない映画史上重要な作品50本を各自で鑑賞し、鑑賞ノートを作成する。今後の学習の基盤となる知識を身につけ、映画についてことばで表現できるようになるための訓練である。 定期的に実施する授業では、映画の見方や映画についての文章の書き方を指導し、映画史的知識を補足する。 映画を理解するには、まず見なければならぬ。しかし、素晴らしい映画は必ず喜びを与えてくれる。ぜひ楽しんでできる限り多くの作品に触れてほしい。																		
到達目標		①映画史上重要な作品について理解を深めることができる。 ②映画について考えたことをことばで表現できるようになる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。																		
授業計画	週数	内 容																		
	—	各自で映画を鑑賞し、鑑賞ノートを期日に提出する（見る順番は自由）。年に数回の授業日がある。 以下のスケジュールを各自で把握しておくこと。初回授業で知らせるほか、随時掲示版で確認できる（メールでのスケジュール連絡はしない）。 4月11日（金）2限 授業①＋鑑賞ノート提出①（授業内） 5作品以上記入すること。この時点で25作品鑑賞していることが必須。 5月30日（金）4・5限 授業②＋鑑賞ノート提出②（授業内） 5作品以上記入すること。この時点で30作品鑑賞していることが必須。 9月8日（月）17:00まで 鑑賞ノート提出③（白山校舎事務室） 10作品以上記入すること。この時点で40作品鑑賞していることが必須。 11月4日（火）5・6限 授業③＋鑑賞ノート提出④（授業内） 5作品以上記入すること。この時点で45作品鑑賞していることが必須。 11月14日（金）2・3限 授業④＋鑑賞ノート提出⑤（授業内） 50作品すべて鑑賞していることが必須。 ※鑑賞ノートの返却日は別途掲示。																		
授業外学習		指定された50本の映画を鑑賞し、鑑賞ノートにレポートを書く。（指定された授業日以外は全て各自の授業外学習である。）																		
教科書 参考文献		「映画史基礎鑑賞ノート」 作品のDVDは図書館と白山事務室で借りることができる。貸出のルール（ガイダンスで知らせる）を守って利用すること。																		
評価項目 評価方法		①積極性（授業での発言や発表などの参加態度）10％ ②理解度・応用力・成長力（鑑賞ノートの内容）90％ 期日までに指定の本数が記入された鑑賞ノートを提出しなければ、その時点で不合格になるので注意すること。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		映画解釈論						担当教員		田辺秋守										
科目区分	教養〈映画文化〉			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	2	開講学期	前期	ターム		1	講義型	C2	校舎	白山				15	5					
履修条件		なし。																		
授業概要		映画はただ単に見るだけのものではない。文学と同じように、映画は読むもの、読解するものである。映画をよりよく理解する、より面白く読むためには、背景となる世界について浅く広い知識を必要とする。この授業では、まず、ふだん意識することのない理解の「枠組み」を明らかにする。さらに映画を解釈するには、解釈する仕方やそれを表現するための言葉が必要である。解釈する技術・知識を自分のものにできるようにしたい。授業予定で上げている映画は、あくまでも参考である。これ以外の映画も取り上げる。																		
到達目標		映画を「読む」ということを理解する。 映画を読解するための技術と語彙を修得する。 一本の映画を見たあとで、それなりに筋の通った解釈や批評をことばで表現できるようにすること。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	印象批評よさらば：映画を解釈するために、理解の「枠組み」について、解釈の多様性																		
	2	映画を作家から見ること（作家主義）とテーマから見ること（テーマ論） マイケル・チミノ監督『ディア・ハンター』前半の細部を見る																		
	3	歴史的解釈（解釈学）：歴史的分析：映画の歴史性／スタイルの分析； 古典的リアリズム、モダニズム（アヴァンギャルド）、ポストモダニズム、図像、隠喩・象徴の解釈																		
	4	タルコフスキー映画の図像的な解釈 ヴィム・ヴェンダース『ベルリン天使の詩』の象徴と隠喩																		
	5	認知的な解釈（認知主義） 映画の物語叙述（ナレーション）：全知の語りと部分的な語り、異化作用と同化作用																		
	6	小津安二郎の認知的構造（『東京物語』『お早よう』『秋刀魚の味』） ホン・サンスの諸作（『カンウオンドの恋』、『ハハハ』、『3人のアンヌ』）																		
	7	心理的な解釈：精神分析学；フロイト、ラカン、ジジェク																		
	8	『芳華 Youth』（2017）における転移的關係 『桐島、部活やめるってよ』転移する映画愛																		
	9	記号的な解釈（記号学・構造主義）： 構造、二項対立という関係性、記号論的四角形																		
	10	ディアオ・イーナン『薄氷の殺人』『鷺鳥湖の夜』を記号学的に見る																		
	11	政治的な解釈（イデオロギー批判）：政治的なキーワード；自由・平等・友愛、映画とイデオロギー、 政治的な解釈とは何か																		
	12	イデオロギー批判の応用：『ファオレスト・ガンブ／一期一会』のイデオロギー																		
	13	解釈の解体（「脱構築」）：デリダ 『昭和残侠伝』シリーズを脱構築的に見る																		
	14	ドゥルーズ／フーコー的な解釈 バク・チャヌク『オールド・ボーイ』と怪物のモチーフ																		
15	まとめ：解釈から批評へ																			
授業外学習		授業で引用した映画の本編は必ず見るようにする。（週3時間程度）																		
教科書 参考文献		ドナルド・リッチ『映画のどこをどう読むか』徳間書店、マイケル・ライアン/メリッサ・レノス『Film Analysis 映画分析入門』フィルムアート社、トマス・エルセサー/ウォーレン・バックランド『現代アメリカ映画研究』書肆心水																		
評価項目 評価方法		毎回の理解度（リアクションペーパーの内容）30% 授業で修得した語彙、方法の応用度（期末レポートの内容）70% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		テーマ研究 2（メロドラマの歴史、発展と想像力）						担当教員		晏妮（アンニ）					
科目区分	教養〈映画文化〉			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	後期	ターム	3	講義型	C2	校舎	白山				15	5	
履修条件		—													
授業概要		サイレント期にアメリカ映画が確立したとされる古典的メロドラマ映画は、ドイツからハリウッドに渡ったダグラス・サークらによって発展し、深化するに至った。現在でもハリウッドをはじめ、世界各国で様々な政治、社会、文化を背景にメロドラマ映画が盛んに製作されている。本講義はそうしたメロドラマの映画史をふまえつつ、映画史に名作として語られてきた作品に絞って、メロドラマの物語構造、形式、カメラワーク、または歴史、政治状況と文化背景などについて、様々な視点から考察し、ジャンル映画としてのメロドラマの発展、その有効性と大衆の受容のあり方を再考する。													
到達目標		映像学の分析法を用いて作品を考察し、映画を論理的に思考する力を身につける。より多元的に映画を解読できる歴史、社会と異文化の知識を学びながら映画の感性を磨き、それを自らの言葉で表現する力を鍛える。また具体的な作品の脚本、演出、撮影、照明、音響、編集などについても分析し、映画の技術やテクニクに対する理解を深める。													
授業計画	回数	内 容													
	1	オリエンテーション(本講義の概説：メロドラマとは何かー古典・歴史と現在)													
	2	作品鑑賞:母親ものメロドラマの古典『ステラ・ダラス』（1937）													
	3	成瀬巳喜男と林芙美子の世界ー戦時と戦後の連続性													
	4	『浮雲』（成瀬巳喜男、1955）を鑑賞、分析													
	5	親子（父と息子）のメロドラマとエリア・カザン													
	6	『エデンの東』（エリア・カザン、1955）を鑑賞、分析													
	7	『秋津温泉』における敗戦、恋愛と男女の身体表象ー『浮雲』と比較して													
	8	『秋津温泉』（吉田喜重、1962）を鑑賞、分析													
	9	不毛な愛を描く群像劇													
	10	『スプリング・フィーバー』（ロウ・イエ、2009）を鑑賞、分析													
	11	社会現実に向き合うメロドラマー難民問題と兄妹愛													
	12	『希望のかた』（アキ・カウリスマキ、2017）を鑑賞、分析													
	13	「ロマンポルノ」、ミュージカルと混交する「純愛」													
	14	『西瓜』（蔡明亮 ツァイ・ミンリャン、2005）を鑑賞、分析													
	15	総括													
授業外学習		毎回の授業前に、指定する参考文献を読み、取り上げる作家の関連する作品を一、二本見ておく。週三時間ほど自習してください。													
教科書 参考文献		必要時に文字資料を配布するが、pptを学生向けにアップする。参考文献：ピーター ブルックス Peter Brooks 著、四方田犬彦等訳『メロドラマ的想像力』（産業図書、2002年）、ジョン・マーサー等著 中村秀之等訳『メロドラマ映画を学ぶ ジャンル・スタイル・感性 』（フィルムアート社、2013）、河野真理江『メロドラマの想像力「泣ける映画」はどこから来て、どこへ行くのか』（青土社、2023）など。													
評価項目 評価方法		授業の理解度（毎回のリアクションペーパーの内容）30%、授業の理解度（期末レポート）50%、積極性（質問や教員とのコミュニケーションなど）20%。													
		出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		表象文化論 2						担当教員		伊津野知多					
科目区分	教養〈映画文化〉			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2・4	開講学期	後期	ターム	3	講義型	C2	校舎	白山			5	10	5	
履修条件		「表象文化論1」を履修していることが望ましいが必須条件ではない。グループワークを行うので受講者の積極性を求める。													
授業概要		この授業では、表象と密接な関係を持つ「記号」という概念について考える。まず、映像や映画を含むあらゆる文化的事象を何らかの意味を伝える記号と捉え、その意味伝達のしくみを考察する「記号論」という方法を理解しよう。次いで、言語を対象にして始まった記号論を映像や映画に適用する際に生じる問題について考える。映像が観客に意味を伝えるしかたは言語の場合とどう違うのか、映像で物語を語るとはどういうことか、映画固有の意味作用とは何か、などのテーマで、「記号」としての映像・映画について考えてみよう。随時参考上映、グループワークとディスカッションを行う。													
到達目標		①記号論の基礎的な概念や考え方が理解できるようになる。 ②映像や映画を記号論的に分析することができるようになる。 ③グループワークやディスカッションを通して、思考をことばにして他者に伝える技術が修得できる。													
授業計画	回数	内 容													
	1	①記号論（記号学）という考え方 ②映画はどんな記号なのか？——現実の世界と映画の世界のちがい													
	2	③さまざまな映画の工夫 グループワーク①【映画のシーンから家の間取りを考える】													
	3	①映画の3つの意味の層（記録性・表現性・物語性） ②ことばと映像の意味作用は何かちがうのか													
	4	グループワーク②【絵で概念を伝える】													
	5	記号論（記号学）の基本概念： ラング（コード）、パロール（メッセージ）、シニフィアン、シニフィエ、デノテーション、コノテーション、恣意性と動機性													
	6	グループワーク③【テキストを読んで記号論の概念を理解する】													
	7	言語記号と視覚的記号のちがい													
	8	グループワーク④【写真のみを使ってメッセージをできるだけノイズを含まずに伝える】													
	9	映像の記号論 ①写真の意味作用と映画の意味作用のちがい ②広告写真・動画の記号論的分析													
	10	グループワーク⑤【広告写真を読む】													
	11	映画の記号論： 映画の意味作用の分析 期末レポート事前課題・解答用紙配付													
	12	グループワーク⑥【クリント・イーストウッド『グラン・トリノ』（2008）の抜粋を見て様々な意味を読み取る】													
	13	映画の記号論： 映画の意味作用の分析													
	14	『グラン・トリノ』の一部を分析する													
15	期末レポート当日課題発表 レポート作成（40分） ※スマートフォン、資料の持ち込み禁止。辞書（電子辞書含む）は持ち込み可。 終了後、事前・当日課題の解説														
授業外学習		映画だけでなく、身近にある事象（標識、ポスターやCM、ファッションなど）を観察し、記号という観点から意味を考える練習をしてみること。（週2時間程度）													
教科書 参考文献		池上嘉彦『記号論への招待』（岩波新書、2013）／ショーン・ホール著、前田茂訳『イメージと意味の本：記号を読み解くトレーニングブック』（フィルムアート社、2013）／ロラン・バルト著、諸田和治編訳『ロラン・バルト映画論集』（ちくま学芸文庫、1998）／ロラン・バルト著、蓮實重彦他訳『映像の修辞学』（ちくま学芸文庫、2005）													
評価項目 評価方法		①授業の理解度と積極性（各回のリアクションペーパーの内容＋ディスカッションやグループワークへの参加態度）50％ ②授業の理解度と応用力（期末レポート） 50％：期末レポートは事前課題と最終日に発表する当日課題からなる。事前課題についてはあらかじめ準備して解答用紙に記入し、最終日に持参すること。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		ファッション文化史						担当教員		ハン・トンヒョン						
科目区分		教養(文学・芸術)		科目分類	選択	授業形態	講義	単位数		2	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		2・4	開講学期	前期	ターム	1	講義型	C2	校舎	白山					5	15
履修条件		とくになし。														
授業概要		「あなたは今日何を着ていますか？ それ着ているのはなぜですか？」——哲学者の鷲田清一は、「人が衣服をまとうのは身体に意味づけをするため」と指摘した。そのような意味づけを行うのは、それをまとっているその人でありまたその人が属している社会である。だとしたら衣服を読み解くことで、その人とその人が属している社会を知ることができるのではないか。だからこそ、映画において衣装や小道具が重要になってくる。 そのため前半では近代の産物としてのファッションの歴史について学ぶ。後半では現代社会における装うことの意味について考える。 映画を中心にした資料や事例を参照しつつ講義し、毎回何らかの課題を出すので、意欲を持って参加してほしい。														
到達目標		現代社会における服飾・ファッションの重要性を認識し、歴史的な知識を踏まえたうえで、映画の鑑賞や制作に活用できるようになる。														
授 業 計 画	回数	内 容														
	1	ガイダンス・イントロダクション														
	2	ファッションについて学ぶ意味														
	3	歴史（上）身分からの解放とパリモードの誕生①														
	4	歴史（上）身分からの解放とパリモードの誕生②														
	5	歴史（中）世界の洋装化、ニューヨークと既製服①														
	6	歴史（中）世界の洋装化、ニューヨークと既製服②														
	7	歴史（下）ファッションの現在へ①														
	8	歴史（下）ファッションの現在へ②														
	9	装うことの意味（上）①														
	10	装うことの意味（上）②														
	11	装うことの意味（下）①														
	12	装うことの意味（下）②														
	13	映画とファッション①														
	14	映画とファッション②														
15	最終まとめ															
授業外学習		週4時間程度。課題が宿題として出た際は必ず次回までやってくる（評価にかかわる）。欠席した回の課題についても同様。映画を見る際には学んだことを参考にして衣装・小道具に注目すること。														
教科書 参考文献		教科書はなし。参考文献はその都度紹介する。														
評価項目 評価方法		毎回リアクションペーパーを課す。前半（歴史編）は毎回まとめ課題を課す。後半に2回の課題（必須）を課す。 ①理解度・成長力（リアクションペーパーなどの平常点）30％ ②理解度・応用力（まとめと2回の課題）70％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		美術史 1〈日本美術史〉						担当教員		家田奈穂										
科目区分	教養(文学・芸術)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	2	開講学期	前期	ターム	1	講義型		C2		校舎	白山				5		15			
履修条件		特になし。																		
授業概要		この講義では、縄文時代から江戸時代までの日本美術の歴史を概観する。日本美術は各時代における海外美術の摂取によって展開してきた。海外美術の受容をきっかけとした新たな造形の獲得、それによって変容していく時代ごとの特質について、作品に即してみたい。また、作品鑑賞の幅を広げるため、専門用語のほか、作品が制作された背景や作品の持つ機能についても可能な限り説明する。講義で扱うジャンルは、絵画、彫刻、版画、工芸品を主とし、パワーポイントで作品図版を示しながら解説する。 毎回、講義内容に関するリアクションペーパーの提出を求める。																		
到達目標		①日本美術史の大まかな流れを理解する。 ②作品を鑑賞するための基礎知識を身につける。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	縄文時代・弥生時代 原始の造形																		
	2	古墳時代・飛鳥時代 権力の具象化																		
	3	奈良時代 仏教彫刻の展開																		
	4	平安時代① 密教美術の登場																		
	5	平安時代② 浄土へのあこがれ																		
	6	平安時代③ 装飾への熱中																		
	7	平安時代④ 絵巻：展開する物語																		
	8	鎌倉時代 “現実感”への関心																		
	9	室町時代 水墨画の受容と展開																		
	10	桃山時代 天下人の形象																		
	11	江戸時代① 前期：転換期の実りー狩野探幽と江戸狩野、京狩野、浮世絵誕生																		
	12	江戸時代② 前期から中期：町衆の活躍と明清文化の流入ー琳派、南蘋派、南画の登場																		
	13	江戸時代③ 中期から後期：京都画壇の革新ー伊藤若冲・曾我蕭白・池大雅・与謝蕪村・円山応挙ら																		
	14	江戸時代④ 中期から後期：江戸画壇の展開ー洋風表現、錦絵、琳派、南画																		
	15	江戸時代⑤ 後期：大衆化する美術ー葛飾北斎、歌川国芳・広重ら歌川派																		
授業外学習		美術館・博物館で、実際に作品を鑑賞することを推奨する。																		
教科書 参考文献		教科書は用いない。 参考文献は講義内で適宜紹介する。																		
評価項目 評価方法		①毎回の理解度（リアクションペーパーの内容、質疑応答などの受講態度） 60% ②応用力（講義内容を踏まえた期末レポートの内容） 40% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		映画と演劇						担当教員		天願大介										
科目区分		教養(文学・芸術)		科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年		2・4	開講学期	後期	ターム	3	講義型	F	校舎	白山			10	10						
履修条件		事前の知識はとりあえず必要とされない。																		
授業概要		演劇は映画の母である。演劇を知らぬ者に映画を作る資格はない。映画と演劇の歴史を学びその深い関係を知り、異質なものがぶつかり合うことで生まれるパッションこそが映画の原点であり、未来の映画の豊かな可能性がそこにあることを理解する。																		
到達目標		舞台芸術・芸能に興味を持つこと。演劇と映画の歴史とその関係を理解すること。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	映画の本質〈どこから映画は誕生したか〉 ルーツに学ぶ意味と演劇の影響。																		
	2	映画と演劇の違い 演劇的手法と各国作家たちの様々な模索。																		
	3	「リアル」を巡る映画と演劇の進化 産業革命と無意識の発見。																		
	4	女優の誕生とモンタージュ 演劇改良運動とスタニスラフスキー。																		
	5	ギリシャ悲劇とアリストテレス「詩学」 演劇の形式の誕生と悲劇の本質。																		
	6	ウディ・アレン「誘惑のアフロディーテ」 オイディプス王とギリシャ神話。																		
	7	能・狂言とその形式 能とギリシャ悲劇との共通点。																		
	8	シェイクスピア（エリザベス朝演劇） ギリシャ以降のヨーロッパ演劇史。																		
	9	黒澤明「蜘蛛巣城」 黒澤映画の演劇的手法。																		
	10	小沢昭一の仕事 「日本の放浪芸」と芸能の本質。																		
	11	落語・浪曲・講談 語り芸の系譜とそれぞれの違い。																		
	12	川島雄三「幕末太陽傳」 川島雄三と立川談志。																		
	13	近代演劇と現代演劇 リアリズムから実存主義へ。																		
	14	カウンター・カルチャーとヌーベルバーグ アングラの誕生——寺山修司と唐十郎。																		
	15	寺山修司「書を捨てよ町へ出よう」 不条理劇の誕生。ベケットとプレヒト。																		
授業外学習		舞台芸術・芸能に直接触れる。																		
教科書 参考文献		授業の中で提示。																		
評価項目 評価方法		毎回リアクションペーパーを課す。最後にレポートを課す。 積極性（質疑応答などの受講態度）60％ 理解度（リアクションペーパー）10％（レポート）30％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		写真論						担当教員		田辺秋守										
科目区分	教養(文学・芸術)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	2	開講学期	後期	ターム		3	講義型	C2	校舎	白山				15	5					
履修条件	なし																			
授業概要	デジタル写真の普及で写真はあまりにも身近なものになった。現在、スマホでの撮影は、かつてのメモ書きとそんなに変わらない。この授業では、意図的にすこし写真に対して距離を取り、写真を見ることの楽しみ、写真を撮ることの楽しみ、つまり「写真の快楽」についてまず考える。そのうえで、写真の歴史を詳しく辿っていく「写真史」と写真とは何かという、哲学的な観点の2つの観点から写真にアプローチする。なお、授業期間中に主題に合わせて、何度か写真を撮ってきてもらう。それをもとに講評もおこなう。																			
到達目標	一枚の写真を見たときに、写真史的な知識を元に、その良し悪しがわかるようになること。 自分で写真を撮るときに、過去の著名な写真の構図が思い出せること。 一枚の写真から映画的な広がりが想像できるようになること。逆に、映画のワンシーンを一枚一枚の写真として把握できるようになること。																			
授 業 計 画	回数	内 容																		
	1	「写真の快楽」について、写真の誕生 写真の本質 写真技術の歴史																		
	2	写真の歴史：初期写真から近代写真へ																		
	3	ストレートフォトとヨーロッパモダニズム（写真と前衛芸術）																		
	4	アメリカ写真のモダニズム、シュルレアリズムの写真、構成主義、バウハウス、新即物主義																		
	5	ポートレート写真の魅力：アウグスト・ザンダーの驚き 裏面史としてのヌード、E.J. ベロックの女たち																		
	6	スナップショット／ストリートフォト：アンリ・カルティエ・ブレッソン、ロバート・フランク、ダイアン・アーバス、リー・フリードランダー、森山大道																		
	7	ランドスケープ：シティーとネーチャー、アッジェ、アンセル・アダムス																		
	8	ニュートポグラフィクス：ロバート・アダムス、ルイス・バルツ、廃墟写真																		
	9	ドキュメンタリー写真：ウォーカー・エバンスの視線																		
	10	フォトジャーナリズム：マグナムの登場、ロバート・キャパ、ユージン・スミス																		
	11	ニューカラーフォトの挑戦：写真におけるカラーの登場、ウィリアム・エグルストンの功績																		
	12	ニューウェーブ タイポロジー コンストラクティッド・フォトグラフィ（構成的写真）																		
	13	写真の哲学：ベンヤミン、ロラン・バルト、フルッサーの写真論																		
	14	行為類型としての写真																		
	15	写真の中の映画、映画の中の写真 写真と映像の未来 課題レポート説明																		
授業外学習	課題に合わせて、何度か実際に写真を撮ってきてもらう。授業中に講評もおこなう。																			
教科書 参考文献	『世界写真全集（全12巻）』集英社、『日本の写真家（全40巻）』岩波書店、イアン・ジェフリー『写真の読み方』創元社、飯沢耕太郎編『世界写真史』美術出版社																			
評価項目 評価方法	理解度（リアクションペーパーの内容・提出写真）30% 応用力（課題レポートの内容）70%																			
	出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																			

科目名		文学						担当教員		関川夏央					
科目区分	教養(文学・芸術)			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	後期	ターム	3	講義型	C2	校舎	白山					20	
履修条件		とくになし。													
授業概要		【テーマ】小説『坊っちゃん』に見る漱石の自己像 日本近代文学の巨匠、漱石夏目金之助の作品中の中編小説『坊っちゃん』を精読する。 その過程で、漱石の倫敦体験を通じて19世紀末から20世紀初め（明治末年）までの日本近代史の流れを追い、「常識的」歴史観を形成する。中間と期末、2回のレポートを課す。													
到達目標		近代文学テキストの読解を通じて、近代日本人の外国文化との接触・受容・批評のあり方を学び、日本と東アジアの近・現代像を把握する。同時に近代書き言葉の成立過程を見る。													
授 業 計 画	回数	内 容													
	1 2	『坊っちゃん』精読① 1906年（明治39年）春、職業作家となる以前、39歳の漱石（夏目金之助）が短期間で書いた中編小説『坊っちゃん』を精読する。全11章だが、そのうちの一部を受講生に順番に朗読してもらいながら、漱石の生育とその文化的背景をさぐる。													
	3 4	『坊っちゃん』精読②——1895年、28歳の漱石の不可解な松山赴任、および1900年～1903年の英国留学と1906年の『坊っちゃん』執筆の相関を考察する。													
	5 6	『坊っちゃん』精読③——漱石留学中の日記、書簡、およびその成果として1909年に東京朝日新聞紙上に発表された『永日小品』のうちから「クレイグ先生」を読む。「クレイグ先生」の影響下に魯迅（周樹人）が後年書いた「藤野先生」を読む。													
	7 8	漱石の英国体験の結実——「クレイグ先生」「下宿」「過去の匂い」を読み、漱石の英国文化受容と創作の方法を検証する。また20世紀初頭における世界のありかた、および日本と東アジアのイメージを知る。中間レポートを課す。													
	9 10	『坊っちゃん』精読④。帰国後の漱石は、東京帝国大学教授の地位を捨て、東京朝日新聞の社員作家に転職する。その大胆な行動の動機を考える。													
	11 12	『坊っちゃん』精読⑤。漱石は1895年、東京高等師範講師を辞して伊予尋常中学に赴任して、のちにその経験を小説『坊っちゃん』に書くのだが、大学准教授をやめて高校教師になるような変則的な人事の動機をさぐる。													
	13 14	『坊っちゃん』精読⑥。「赤シャツ」と呼ばれる悪役が漱石の自画像であることを考えながら、『坊っちゃん』が巷間いわれるような「勧善懲悪」の物語なのか検討する。													
	15	13、14のつづき。期末レポートを課す。													
授業外学習		夏目漱石『坊っちゃん』はあらかじめ通読しておきたい。													
教科書 参考文献		【教科書】夏目漱石『坊っちゃん』（新潮文庫）を購入する。それ以外のテキストはコピーを配布する。													
評価項目 評価方法		積極性（受講態度・授業内での発言等）50％ 理解度（中間・期末レポート）50％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		美術史 2〈西洋美術史〉						担当教員		佐川美智子					
科目区分	教養(文学・芸術)			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	後期	ターム	3	講義型	C2	校舎	白山				5	15	
履修条件		特になし。													
授業概要		古代ギリシア・ローマ時代から近代まで、西欧の様々な美術作品は人類共通の遺産であり、現代でもなお視覚芸術の重要な源泉です。この講義では毎回スライドや動画を使って西洋美術史上の多様な作品(建築、絵画、彫刻等)を通史に沿いつつ紹介していきながら、作者や時代背景、作品の主題、解釈、造形の特色など、理解を深めるために不可欠な事柄も含め、各時代や地域の重要なトピックを取り上げていきます。また美術作品の実物に触れることを重要視しているので、優れた作品の所在地情報や、鑑賞するに値する美術館、展覧会等の情報も随時伝えますので、受講生は積極的に足を運ぶことを推奨します。さらには美術史の知識を持っているとより深く理解できる映画・ドラマ等も紹介します。 この講義を通じ、長きにわたり西欧の視覚芸術の根源を形成してきた伝統とその革新というダイナミックな動きに触れるとともに、現代社会で生み出されている映画やアニメーション、ゲームといった一見古いものとは無縁に思える創作物の中でも、西洋の古典的な世界が様々に参照され、引用され生かされている事実に気づくことができ、また同時にその源泉を理解することを目標とします。													
到達目標		西欧の視覚芸術の歴史に対する知識を身につけ理解を深める。 多様な美術作品に触れることで広い視野を持つことができるようになる。 異文化に対する理解力を身につける。 現代の映像表現に西洋美術がどのような形で生きているかについての認識力を深める。													
授業計画	回数	内 容													
	1	導入編：なぜ西洋美術を学ぶのか、その意義や面白さについて／西欧世界の美の規範、そのルーツ① 古代ギリシアの建築と美術（古典古代）													
	2	西欧世界の美の規範、そのルーツ② <偉大なるローマ> 古代ローマの建築と美術													
	3	キリスト教美術の基礎知識：教会、為政者、民衆－ロマネスクからゴシックへ													
	4	ルネサンス① イタリアの都市国家の発達と美術／ボッティチェリ、レオナルド・ダ・ヴィンチなど													
	5	ルネサンス② 天才の時代／ミケランジェロ、ラファエロなど													
	6	北方ルネサンス／宗教改革期の美術－神、人間、自然 アルブレヒト・デューラー、ルーカス・クラナハ（父）ほか													
	7	バロック期 レンブラントの光と影、ルーベンスの豊穡、カラヴァッジオの演劇性													
	8	廃墟の美学－人はなぜ廃墟に魅せられるのだろう													
	9	ダンテ『神曲』の旅－描かれた地獄、煉獄、天国を巡る													
	10	近代の幕開け：戦慄と奇想の画家たち－ボス、ブリューゲル、ゴヤ、ブレイクなど													
	11	19世紀 変革の時代、視覚の革命－リアリズムから印象派へ													
	12	20世紀－世界大戦の時代 変貌を遂げてゆく美術表現													
	13	ドイツの美術 19世紀ロマン派からワイマール期													
	14	戦後のドイツ美術 負の遺産を抱えて													
	15	現代の美術 多様化する表現領域													
授業外学習		講義中に足を運ぶ意義のある展覧会を紹介します。個人でもできるだけ実物に触れる機会を作うことを推奨します。													
教科書 参考文献		講義中に紹介。													
評価項目 評価方法		理解度（リアクションペーパーの内容）40％ 理解度（期末レポートの内容）50％ 積極性（授業および見学に積極的に参加する姿勢）10％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		映画流通論						担当教員		石坂健治、富山省吾					
科目区分	教養〈歴史・社会科学〉			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	前期	ターム	1	講義型	C2	校舎	白山		3		10	7	
履修条件		映画業界の多様な仕事に関心のある者の履修をのぞむ。													
授業概要		担当教員 2 人と、映画業界の第一線で活躍するゲスト講師が登場する。それぞれが映画界の中でおこなっている仕事を具体的に解説する。たとえば石坂は「東京国際映画祭プログラマー」と「映画批評家」としての仕事、富山は「映画プロデューサー」と「映画宣伝」、さらに「日本アカデミー賞協会」「日本映画制作適正化機構」の仕事について語る。ゲストもまた、製作、配給・宣伝の各分野で自ら携わっている仕事のことを語る。それらを通して受講生は、映画界には多種多様な仕事があり、それぞれが重要な役割を果たし、相互に連環していることを知るだろう。（講師の都合により授業計画が前後する場合があります。）													
到達目標		映画の世界には、映画を「つくる」ことだけでなく、映画を「届ける」ことや「みせる」ことに関する多種多様な仕事があり、それぞれが連携し合って産業を形づくっていることを理解する。													
授業計画	回数	内 容													
	1	映画流通とは何か①（石坂）													
	2	映画流通とは何か②（石坂）													
	3	映画流通とは何か③（石坂）													
	4	映画流通とは何か④（石坂）													
	5	映画を製作する①【ゲスト講師】													
	6	映画を製作する②【ゲスト講師】													
	7	映画を配給する①【ゲスト講師】													
	8	映画を上映する①（石坂）													
	9	映画を上映する②（石坂）													
	10	映画宣伝（パブリシティと宣伝プロデューサー）の仕事を作品を元に具体的に知ることで理解し、映画業界での宣伝の仕事と役割を把握できるようになる（富山）													
	11	映画プロデューサーの仕事を「ゴジラシリーズ」など30本の製作作品の具体的な仕事内容を知ることで理解し、プロデューサーの仕事と役割を把握出来るようになる（富山）													
	12	日本アカデミー賞協会と同授賞式の運営の内容を具体的に知ることで理解し、映画人が主催する映画賞の役割と意味を把握できるようになる（富山）													
	13	城戸賞・ndjcによる脚本家・監督育成や地域の上映組織の集合体であるコミュニティシネマ、その他の映画界に関する活動について、その実施内容や目的、成果などを具体的に知ることで理解し、日本の映画界を支える多種多様で幅広い活動があることを把握できるようになる（富山）													
	14	映画流通についての総括（石坂）													
15	映画流通についての総括（石坂）														
授業外学習		参考書を読む（週 2 時間）。授業で扱った映画を観る（週 4 時間）。映画産業に関係する場所を見学する（随時）。													
教科書 参考文献		中野理恵『すきな映画を仕事にして』（現代書館、2018）、附田斉子『映画の仕事はやめられない』（岩波ジュニア新書、2005）													
評価項目 評価方法		授業の理解度（リアクションペーパー30%＋期末レポート70%） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		社会学						担当教員		ハン・トンヒョン										
科目区分	教養(歴史・社会科学)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	2・4	開講学期	前期	ターム		1		講義型		C2		校舎	白山						20	
履修条件		なし																		
授業概要		社会学は、自分自身がかかわる社会事象を正面から扱う学であり、その考え方の基本は「常識をうまく手放す」ことである（佐藤俊樹『社会学の方法』）。自分自身、つまり自己は絶対的なものではなく、他者との関係の中に、自己と他者を含む社会との関係の中に存在する。このように、人は生物学的な存在であることを超えて「社会的な存在」なのであり、社会学が扱うのは、そのようなものとしての人間の連なりからなる「社会」だ。すべての社会事象、社会問題はそこに起因しており、あらゆる芸術やエンタテインメント作品はそのようなものとしての社会学の射程から逃れられない。社会学的な視点は、芸術やエンタテインメントにかかわる者にとっておそらく有効な道具となるだろう。本講義は、社会学説の基本を踏まえたうえで有用な概念を身につけ、自らが拠って立つ日本社会の成り立ちに触れることで、それまで見てきた世界（と自分自身）をとらえ直し、よりよく見通せるようになるきっかけを作ることを目指す。																		
到達目標		社会学的な視座を獲得するためのきっかけをつかむ。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	ガイダンス・イントロダクション～社会学とは？																		
	2	社会とは？～実在するのか、しないのか：デュルケムとウェーバー																		
	3	個人と集団：ジンメルほか																		
	4	自己と他者：ミードとゴフマン																		
	5	ここまでのまとめとディスカッション																		
	6	プレゼンテーションと課題																		
	7	ネイションとエスニシティ：「○○人」であるということ①																		
	8	ネイションとエスニシティ：「○○人」であるということ②																		
	9	セクシュアリティとジェンダー：「性」をめぐる①																		
	10	セクシュアリティとジェンダー：「性」をめぐる②																		
	11	マイノリティとマジョリティ～アイデンティティと文化①																		
	12	マイノリティとマジョリティ～アイデンティティと文化②																		
	13	差別はつくられる①																		
	14	差別はつくられる②																		
15	最終まとめと課題																			
授業外学習		週4時間程度。未読の配布資料は授業後に必ず読むこと。普段から社会の一員として社会問題に関心を持ち、自分の問題と思うことは違う立場から、他人事に思えることは自分の問題として、考えてみる練習をすること。																		
教科書 参考文献		教科書はなし。参考文献はその都度紹介する。																		
評価項目 評価方法		毎回リアクションペーパーを課す。前半（学説編）はまとめを課す。グループワークを踏まえて2回の課題（必須）を課す。 ①理解度・成長力（まとめ・リアクションペーパーなどの平常点）30％ ②理解度・応用力（グループワーク・2回の課題）70％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		デジタル映像技術概論						担当教員		港郁雄							
科目区分	教養(歴史・社会科学)			科目分類	選択		授業形態	講義	単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	2	開講学期	後期	ターム	3	講義型	C2	校舎	白山					15	5		
履修条件		—															
授業概要		映画やテレビの技術発展及び「静止画（写真）」「動画」に関するデジタル処理について理解する。 アナログビデオ映像を基礎としてデジタル映像圧縮技術を学習し、現在使われているデジタル技術とはどのようなものか、分かりやすく説明する。 また、ITネットワーク環境を含む最新のデジタル技術の概要についても紹介する。															
到達目標		映像技術（ビデオ技術）の基本および映像・音声のデジタル技術を理解し、映像制作に必要な知識を身につける。															
授業計画	回数	内 容															
	1	イントロダクション／自己紹介（各学生含む）、どんなことを勉強するかの説明。 テレビ技術・ビデオ技術① 映画・テレビの開発及び同期信号、走査線、フレーム数など映像信号とはどういうものか、について理解する															
	2	テレビ技術・ビデオ技術② 光の3原色、映像調整信号（カラーバー）の成り立ち、コンポーネント信号、コンポジット信号／NTSC映像信号について															
	3	ビデオモニターの仕組みと種類（ブラウン管、液晶モニター、有機ELなどビデオモニターの種類）、ガンマ特性、画質を決める要素、モニターの調整など															
	4	ビデオカメラの仕組みと高画質映像について／ ビデオカメラの原理、開発、撮像管、イメージセンサ、ガンマ補正、4K/8K、HDR、撮影レンズ、撮影方法など、テレシネの原理、ビデオカメラの変遷															
	5	映像記録システムについて（VTRの開発、種類と変遷 コンポーネントデジタル信号、タイムコード）、世界のアナログテレビ方式（NTSC、PAL、SECAM）															
	6	前半のまとめ／小テスト															
	7	テスト解答及び解説 編集システムについて／リニア編集システム、ノンリニア編集システム、映像合成、オフライン編集、編集ワークフロー															
	8	HDTV（高精細放送）の開発、放送電波、デジタル放送について、映像配信方式について															
	9	デジタル技術の基礎 ① 音声信号のデジタル化、PCM音声の原理															
	10	デジタル技術基礎 ② 音声圧縮技術について、音声ファイルフォーマット															
	11	デジタル技術基礎 ③ 映像のデジタル化について、静止画圧縮技術の基礎、JPEG圧縮技術															
	12	デジタル技術基礎 ④ 映像のデジタル化について、動画圧縮技術の基礎、MPEG圧縮技術															
	13	記録メディアについて（DVDフォーマット、Blu-rayフォーマット）、フラッシュメモリー、映像コーデック、映像配信について															
	14	後半のまとめ／小テスト															
15	テスト解答及び解説 映画における音場（モノラル・ステレオ・センタースピーカ、3-1方式、5.1ch）、映画音響のデジタル化とイメージサウンドについて																
授業外学習		映像技術が実際の映像制作にどのように活用されているか、ネット上に上がっている様々な活用例を調べたり、実習の中でそれを使ってみて、体験することが重要。またInterBee等の展示会で最新技術について情報を得る。															
教科書 参考文献		授業では、独自のパワーポイント（PPT）資料を使って説明する。著作権の関係で講義資料の配布は行わないが、参考資料としてポストプロダクション技術マニュアル（日本ポストプロダクション協会）がまとまっている。デジタル映像技術では、兼六館出版やNHK出版の書籍があるが、内容が難しい。また、インターネット上に、映像制作に関する情報が多数上がっているので、講義の予習復習に利用できる。															
評価項目 評価方法		前半と後半に2回の小テストを行う。 理解度（前半・後半2回の小テスト）80％ 積極性（質疑応答など授業への参加態度）20％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。															

科目名		英語 1						担当教員		上原遼										
科目区分		教養〈コミュニケーション〉		科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年		2	開講学期	前期		ターム		1	講義型	C2	校舎	白山			5			15		
履修条件		英検 2 級程度の英語力を持っていること。履修登録の前に自己採点テスト（10分）を受けて合格点以上であること。																		
授業概要		この授業では、実用的な英語を「 聞く力 」をつける。ミステリードラマ『オリーブ・グリーン』のストーリーを追いつながら、そこで使われる英語表現を学ぶ。オンライン上の映像と音声ファイルを使用し、ワークブックに添って進め、リスニングとスピーキングの練習を繰り返す。また、伝わる発音と抑揚に焦点を当てて個別指導も行う。自分の英語を発見することを意識して、自身の持つ目標（短期留学や仕事のための英語力）に近づくための自主トレの習慣が身につくようサポートする。																		
到達目標		知っている英単語を会話の中で使いこなせるようになる。																		
授 業 計 画	回数	内 容																		
	1	授業の進め方説明と練習																		
	2	Chapter 1 Job Offer: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																		
	3	Chapter 2 The Murrays: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																		
	4	Chapter 3 Old Berry's Best B&B: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																		
	5	Chapter 4 Homemade Soup and Wine: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																		
	6	Chapter 5 Jogging: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																		
	7	Chapter 6 In the Pub: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																		
	8	Chapter 7 Review 1: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																		
	9	Chapter 8 Thistle Flowers: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																		
	10	Chapter 9 Making the Plan: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																		
	11	Chapter 10 Shopping for a Dress: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																		
	12	Chapter 11 Party Time: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																		
	13	Chapter 12 It's Time to Steal: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																		
	14	Chapter 13 Run!: warming up→dictation→ comprehension→ role play																		
	15	まとめ、授業内最終テスト																		
授業外学習		宿題（毎週2時間程度）																		
教科書 参考文献		【教科書】『Olive Green: Learning English through a Mystery Drama（CEFR-A1）』（Asahi Press, 2021）																		
評価項目 評価方法		理解度（文法宿題）60% 理解度（授業内最終テスト）40% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		韓国語						担当教員		ハン・トンヒョン					
科目区分	教養(コミュニケーション)			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2・4	開講学期	後期	ターム	3	講義型	C2	校舎	白山			5		15	
履修条件		完全な初心者対象（韓国語留学生をはじめネイティブスピーカー、使いこなせる学生は履修不可）。													
授業概要		完全な初心者を対象に、ハングル（文字）の読み書きから始め、韓国語であいさつと簡単な自己紹介、ごく初歩的な会話ができるレベルを目指す。また折に触れて朝鮮半島の歴史、社会、文化などについても紹介することで、学生たちの視野を広げることに寄与したい。ゆっくり進めるが、語学なので毎回の出席および積極的な参加に加え、地道な復習および練習なしには身につかない。単位のためにと安易に履修しないよう注意してほしい。													
到達目標		ハングルを読めること、自分の名前が書けること、韓国語であいさつと簡単な自己紹介、ごく初歩的な会話ができること。													
授 業 計 画	回数	内 容													
	1	ガイダンスとイントロダクション													
	2	第1課 1. 母音(1) 2. 子音(1) 鼻音・流音 3. 母音(2) 4. 終声(1)													
	3	第2課 1. 子音(2) 平音 2. 発音変化(1) 有声音化 3. 複合母音 4. 発音変化(2) 連音化													
	4	第3課 1. 子音(3) 濃音 2. 子音(4) 激音 3. 終声(2) 4. 2文字のPATCHム													
	5	復習と練習①													
	6	復習と練習②													
	7	第4課 1. ～は 2. ～です・ですか？ 3. ごさあ言葉													
	8	第5課 1. ～が 2. 漢数詞 3. ～ではありません													
	9	第6課 1. ～に 2. あります・ありません 3. 位置名詞													
	10	復習と練習③													
	11	第7課 1. 해요体① 2. ～を 3. 疑問詞													
	12	第8課 1. 해요体② 2. ～で 3. ～したいです													
	13	第9課 1. 해요体③ 2. 固有数詞 3. ～から…まで													
	14	第10課 1. ～してください 2. ～に 3. ～しません													
	15	最終試験とまとめ													
授業外学習		週4時間程度。原則として毎回課す予定の小テストのためにも授業後の復習を欠かさないように。教科書にあるQRコードから教科書会社のサイトに入り、音声資料や解説動画、単語クイズなどを活用すること。日常的に韓国語への関心を持ち意識を高めることも重要。													
教科書 参考文献		【教科書】山崎玲美奈『キムチ①』（朝日出版社、2022年、税込2,090円）＊白山事務室で割引販売するので、初回の授業前もしくはガイダンス後の休憩時間に購入すること。なお、教科書は変更する可能性があります。【参考書】稲川右樹『高校生からの韓国語入門』（ちくまプリマー新書、2021年）													
評価項目 評価方法		毎回小テストを行い、最終日に最終試験を行う。 ①理解度（小テスト・最終試験）20％ ②応用力（最終試験）80％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		テーマ研究 3〈ジョージ・A・ロメロとゾンビの世界〉						担当教員		伊津野知多					
科目区分	教養〈映画文化〉			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3・4	開講学期	前期	ターム	2	講義型	C2	校舎	白山				15	5	
履修条件	スプラッター映画のジャンルであるゾンビ映画を扱うため、毎回大量の血液や内臓の露出などの描写を目にすることになります。苦手な人は絶対に受講しないでください。														
授業概要	恐怖を描き、それを楽しむことは人間の文化的想像力の大きな一部を占めている。映画も例外ではなく、映画史の初期から、人々は飽くことなく様々な恐怖の形象（謎の怪物、宇宙人、巨大生物、凶暴化した動物、殺人鬼、幽霊、ゾンビ…）をスクリーンに描き出してきた。それは私たちにとって見たくない、排除したい、関わり合いになりたくない他者だ。ホラー映画は執拗にこの嫌な他者を突き付けることで、裏側から人間をあぶり出す。 この授業では、膨大な量と複数のサブ・ジャンルをもつホラー映画の中で、近年大流行中の、究極に厄介な他者と言える「ゾンビ」に焦点を絞って考える。第1回目と2回目にホラー映画・ゾンビ映画の歴史と広がりを見学。第3回目以降は、ゾンビ映画の父、ジョージ・A・ロメロ監督の6本のゾンビ映画を、ジャンル論と作家論、社会と映画との関係という多角的な視点から分析する。随時関連作品の参考上映も行う。 「授業外学習」欄にあるロメロのゾンビ映画6本を授業開始前に見ておくこと。毎回受講者とディスカッションしながら進める（指名して意見を言う）ので、積極的な参加を求める。														
到達目標	①ホラー映画の大まかな歴史やジャンルの広がり理解できる。 ②ジャンル論、作家論、社会と映画の関係など、映画を分析するときの複数の視点と方法論を身につけることができる。 ③ディスカッションを通して映画について語る技術が修得できる。														
授業計画	回数	内 容													
	1	ホラー映画・ゾンビ映画史概論（映画草創期から現代まで）													
	2	ジョージ・A・ロメロについて													
	3	ジョージ・A・ロメロ『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド Night of the Living Dead』（1968）を読む													
	4	部分上映と分析、ディスカッション													
	5	ジョージ・A・ロメロ『ゾンビ Dawn of the Dead』（1978）を読む													
	6	部分上映と分析、ディスカッション													
	7	ジョージ・A・ロメロ『死霊のえじき Day of the Dead』（1985）を読む													
	8	部分上映と分析、ディスカッション													
	9	ジョージ・A・ロメロ『ランド・オブ・ザ・デッド Land of the Dead』（2005）を読む													
	10	部分上映と分析、ディスカッション													
	11	ジョージ・A・ロメロ『ダイアリー・オブ・ザ・デッド Diary of the Dead』（2007）を読む													
	12	部分上映と分析、ディスカッション													
	13	ジョージ・A・ロメロ『サバイバル・オブ・ザ・デッド Survival of the Dead』（2009）を読む													
	14	部分上映と分析、ディスカッション													
	15	期末レポート課題発表・レポート作成（80分）⇒ 授業後に提出 ※資料やノートの参照不可。スマートフォンなどインターネットに接続できる機器の利用禁止。辞書のみ利用可（電子辞書も可）。													
授業外学習	授業で扱うジョージ・A・ロメロによるゾンビ映画6作品を授業開始前に各自見ておくこと。授業時間外（授業終了後）に全編上映の機会を設ける。また、授業で案内するロメロ以外のゾンビ映画やホラー映画もできるだけ見ておいてほしい。（週3時間程度）														
教科書 参考文献	伊藤美和『ゾンビ映画大事典』（洋泉社、2003）、野原祐吉『ゾンビ・サーガ―ジョージ・A・ロメロの黙示録』（ABC出版、2010）、ノーマン・イングランド監修『決定版ゾンビ究極読本』（洋泉社、2019）、『ジョージ・A・ロメロの世界 映画史を変えたゾンビという発明』（Pヴァイン、2021）ほか。初回授業時に参考文献表・参考映画リストを配布する。														
評価項目 評価方法	①授業の理解度と積極性（各回のリアクションペーパーの内容＋ディスカッションへの参加態度）50% ②授業の理解度と応用力（期末レポート）50%：期末レポートの課題は最終日に発表する。授業時間内に書いて提出。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		フィルム・アーカイヴ						担当教員		伊津野知多 ほか					
科目区分	教養〈映画文化〉			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3・4	開講学期	前期	ターム	2	講義型	C3	校舎	白山				15	5	
履修条件		特になし													
授業概要		「映画を保存すること」について考える。 授業はオムニバス形式で、講義・校外学習・ワークショップの3つで構成される。講義では、フィルム・アーカイヴ活動の歴史と現状、映画フィルムの物質としての特性とその保存・復元の重要性、デジタル時代の映画保存の課題など、さまざまなテーマについて映画保存の専門家から学ぶ（関連する作品の参考上映も行う）。校外学習では、映画の保存施設である「国立映画アーカイブ相模原分館」を見学する。ワークショップでは、映写技師からフィルムの映写について具体的に学ぶ。 映画フィルムに関心がある人、デジタルシネマの保存やリマスターに興味がある人、映画制作のみならず映画の上映・映写・保存・復元等について知識を得たい人に履修してほしい。													
到達目標		①フィルムという記録媒体の特性を理解する。 ②映画保存の重要性とその諸課題について理解を深める。 ③映画が後世に残すべき「文化遺産」であることを理解する。													
授 業 計 画	回数	内 容													
	1	【講義】 担当：伊津野知多 ・オリエンテーション（この授業について）													
	2	・映画保存に関連する映像作品を鑑賞し、ディスカッション。													
	3	【講義】 担当：石原香絵氏（NPO法人映画保存協会） ・映画フィルムとは？													
	4	・映画フィルムの劣化 ・フィルムアーカイブとは？													
	5	【講義】 担当：石原香絵氏（NPO法人映画保存協会） ・日本映画の残存率 ・文化遺産としての映画資料													
	6	・地域や家庭に眠る映画資料 ・災害対策 ・なぜ映画フィルムを保存するのか													
	7	【校外学習】 国立映画アーカイブ 相模原分館見学 ※現地集合・現地解散。最寄りJR横浜線・淵野辺駅。													
	8	7月8日（予定） 校外学習の日時は正式に決定次第知らせる。													
	9	【講義】 担当：岡田秀則氏（国立映画アーカイブ） ・映画のアーカイブは何をしているか？：アーカイブの理念型／アーカイブの6つの仕事／映画の発掘と復元													
	10	・物質としての映画：映画アーカイブ活動の現状／フィルムからデジタルへ／フィルムベースの化学的3世代／デジタル・ジレンマ													
	11	【講義】 担当：岡田秀則氏（国立映画アーカイブ） ・映画保存の歴史と国際連携：映画史の始まりから現在まで													
	12	・作品だけが「映画」ではない：ノンフィルム資料の世界													
	13	【ワークショップ】 担当：神田麻美氏・石川亮氏（映写技師）													
	14	・35mmフィルムの補修体験													
15	・16mmフィルム映写機を使つての映写体験														
授業外学習		積極的に以下を実践すること。①国立映画アーカイブに行ってみる、②35mmフィルムで上映されている作品を映画館で見る、③主要参考書やwebサイトを読む。													
教科書 参考文献		【参考書】石原香絵『日本におけるフィルムアーカイブ活動史』（美学出版、2018年）、岡田秀則『映画という《物体X》フィルム・アーカイブの眼で見た映画』（立東舎、2016年）、ミツヨ・ワダ・マルシアノ編『映像アーカイブ・スタディーズ』（法政大学出版局、2025年）【参考webサイト】国立映画アーカイブ<https://www.nfaj.go.jp/>、Fシネマップ(<http://fcinemap.com>)													
評価項目 評価方法		授業の理解度（リアクションペーパーの内容）：100% ※毎週授業開始時に出席確認をする。遅刻2回で欠席1回とする。 リアクションペーパーは全7回、以下のテーマについて書く。①授業内で出された課題についての回答（400字程度）、②その日の授業で最も印象に残ったことについて（300字程度）。授業終了後、20:00までにgoogleフォームで提出（締切厳守）。文字数の少ないもの、課題や授業と無関係な内容は減点。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		アニメーション・特撮文化論						担当教員		藤田直哉										
科目区分	教養(映画文化)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	前期	ターム		2		講義型		C3		校舎	白山					15	5	
履修条件		—																		
授業概要		戦後の日本で花開いたアニメーション・特撮文化。それは、第二次世界大戦後の日本という特殊な環境の中で、その影響を受け、大衆的な意識と深い関係を持ちながら発展したユニークな文化である。グローバルな映画産業の中でも『ゴジラ』がハリウッド映画化され、ヴェネチア国際映画祭で金獅子賞に輝いたギレルモ・デル・トロ監督が、作中に「KAIJYU」という単語を出すなど、ローカルな文化がグローバル化しつつある。そのような状況にある日本のアニメーションや特撮文化を、戦後日本精神史との関係から立体的に理解するための講義である。																		
到達目標		戦後日本において、アニメーションや特撮が、どのような心理的・思想的意義を担ったのかが理解できる。歴史的背景を理解することができる。それらの特殊性や歴史を踏まえた上で、グローバル時代において文化をどのように展開すれば良いのかのアイデアを得ることができる。後半では、世界の醸成を意識し、戦争や歴史的痕跡をどのように描き、どのようなイメージが形成されてきたのかを検討する。																		
授 業 計 画	回数	内 容																		
	1	円谷英二Ⅰ——戦争と特撮、『ゴジラ』『ハワイ・マレー沖海戦』																		
	2	円谷英二Ⅱ——『ウルトラマン』『ウルトラQ』、特撮とは何か																		
	3	手塚治虫——『鉄腕アトム』と『桃太郎 海の神兵』																		
	4	変身——『仮面ライダー』と、魔法少女																		
	5	戦争の影Ⅰ——『宇宙戦艦ヤマト』																		
	6	戦争の影Ⅱ——『機動戦士ガンダム』																		
	7	宮崎駿Ⅰ——テクノロジーと自然、国際政治への絶望『風の谷のナウシカ』																		
	8	宮崎駿Ⅱ——アニミズムの回帰、『千と千尋の神隠し』																		
	9	押井守Ⅰ——変貌する都市、見えない戦争『機動警察パトレイバー 2』																		
	10	押井守Ⅱ——情報化した戦争																		
	11	原爆投下をどう描くかⅠ——『はだしのゲン』『この世界の片隅で』																		
	12	原爆投下をどう描くかⅡ——『原爆の仔』『黒い雨』																		
	13	戦争をどう描くかⅠ——『独立愚連隊』『野火』																		
	14	戦争をどう描くかⅡ——『戦場でワルツを』『夜と霧』																		
	15	まとめ——アニメーションと特撮は、何を表現してきたのか																		
授業外学習		授業内で扱うのは作品の「さわり」の部分だけなので、紹介した作品は図書館やインターネットなどで見ていくように。気になったり興味が惹かれた作品には積極的に触れていくこと。毎週8時間程度の自習時間が望ましい。																		
教科書 参考文献		福嶋亮太『ウルトラマンと戦後サブカルチャーの風景』(PLANETS/第二次惑星開発委員会、2018年)、杉田俊介『宮崎駿論』(NHK出版、2014年)、藤田直哉『シン・ゴジラ論』(作品社、2016年)『新海誠論』(作品社、2022年)、スーザン・ネイピア『現代日本のアニメ』(中央公論新社、2020年)、アン・アリスン『菊とポケモン』(新潮社、2010年) 氷川竜介『日本アニメの革新』(角川書店、2023年)、藤津亮太『アニメと戦争』(日本評論社、2021年)																		
評価項目 評価方法		1授業の理解度(毎回のリアクションペーパーの内容):30% 2授業の応用度(期末レポートの内容):50% 3積極性(授業内での発言など):20%																		
		出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		シナリオ研究 2						担当教員		青島武										
科目区分		教養(映画文化)		科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年		3・4	開講学期	前期	ターム	2	講義型	C2	校舎	白山			15	5						
履修条件		授業内容に基づいて課題でシナリオを書き進める形式であるため、シナリオを書くという意欲のある学生の受講が望ましい。																		
授業概要		【副題】実践的シナリオ術 すでに学んでいるシナリオ執筆のノウハウを復習しながら、書きたい題材やテーマにどうアプローチしたらシナリオに書き上げられるのかを、実践的な執筆術として学ぶ。授業内で学んだことを毎回課題として自作に反映させながら、15回の授業のなかで、各自がオリジナルの短編シナリオを発想からプロット、ハコ書きなどを経て書き上げる。(課題での執筆の進捗については内容欄に目安を記しておく)																		
到達目標		30分程度の短編シナリオを書き上げることで、過去に学んだシナリオ技法を復習するとともに実践的な執筆方法を身につける。																		
授 業 計 画	回数	内 容																		
	1	シナリオとは? (書式などの復習)																		
	2	「テーマ」と「題材」①				<課題>シナリオ書式を復習する				<課題>自作の「テーマ」と「題材」を考える										
	3	「テーマ」と「題材」②				※自作の「テーマ」と「題材」を検討する														
	4	「ログライン」を考える				<課題>自作の「ログライン」を考える														
	5	「キャラクター」を作る①																		
	6	「キャラクター」を作る②				<課題>自作の「キャラクター」を考える														
	7	「ストーリー」とは?																		
	8	「ストーリー」を作る①				<課題>自作の「プロット」を書く														
	9	「ストーリー」を作る②				※自作の「プロット」を検討する														
	10	「構成」とは? (ハコについて学ぶ)				<課題>自作の「ハコ」を割る														
	11	「ハコ」を検討する																		
	12	シーンの書き方とシナリオ技法について				<課題>「ハコ」の修正														
	13	シナリオを書く①																		
	14	シナリオを書く②				<課題>シナリオを書く														
15	シナリオを書く③				<課題>シナリオを書く															
授業外学習		授業内で学んだことを実践する形で、自宅学習において自作を「ログライン」から「シナリオ」へと段階的に書き進めていく。																		
教科書 参考文献		必要に応じて、授業内でテキストを配布する																		
評価項目 評価方法		理解度40%(提出課題) 応用力60%(成果物の完成度) 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		テーマ研究 5〈シャレード概論〉						担当教員		細野辰興					
科目区分	教養〈映画文化〉			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3・4	開講学期	前期	ターム	2	講義型	C2	校舎	白山		5		10	5	
履修条件	なし														
授業概要	「説明的な描写」を排除し観客の想像力を喚起させ、興味を惹きつける「シャレード」と云う「作劇術」&「演出／演技術」の本質を探る。 サイレントから始まった映画(映像)は、本来「説明的な描写」を排除したい特性を持っている。トーキーに成ってからも映画作家たちはその特性を利用し数多の名作、傑作を生みだして来た。「台詞に頼らず観客の想像力を喚起させる映像表現」＝「シャレード」を駆使して映画を創るのが映画の王道。 過去の名作、傑作、珍作から多種多様な参考映像を上映して解説する。 最後に纏めとして短い「シャレード」の創作とパフォーマンスに挑み体得してもらう。														
到達目標	① 映画クリエイターとして、台詞に頼らぬ、観る者の想像力を喚起させる魅力的な脚本、演出、演技、撮影、そして録音、編集などの作劇術を理解し、想像力を豊かにする。② その上で短い「シャレード」を創作、発表し、表現技術と思考を立体的に習得する。③ 映画作家として必要な「映画リテラシー」と「批評性」も身につける。														
授業計画	回数	内 容													
	1	講義の目的と目標の提示 「映画誕生の歴史」から考え、「映画作家」が何をすべきなのかを考える。													
	2	シャレードの定義の解説 或る有名な作品の衝撃シーンから解かるシャレードの面白さと「サブテキスト」との関係性を解説。													
	3	シャレードの仕分け ①「脚本に描かれたシャレード」と「演出＆演技上のシャレード」の決定的な違いを知る。													
	4	②「シャレードの種類」を解説 キャラクター、状況などシャレードで何を表現できるのかを考える。													
	5	名作における「シャレード」の解説、分析 黒澤明監督作品から一本を選び、「脚本上のシャレード」「演出／演技上のシャレード」に分け、徹底解析する。													
	6	5の続き													
	7	他の巨匠作品の「シャレード」の解説、分析 ①「性」に関するシャレード。 小津安二郎、今村昌平、内田吐夢、成瀬己喜男監督作品など。													
	8	7の続き ②今村昌平監督作品における独自のシャレードを学ぶ。													
	9	同じ脚本で別監督の二作品を比較しての「シャレード」の解説、分析 作品を比較しシャレードから解かる「演出力」「コンテ」「演技」「編集」の相対的な関係を視て行く。													
	10	「シャレード」が失敗した作品を解析 決定稿と完成作品を比較し、どうシャレードとして失敗しているのかを検証。													
	11	台詞のない役をシャレードで演じる方法論を考える。 脚本に描かれていない芝居を演じた名優たちのシャレード演技を徹底検証する。													
	12	11の続き 台詞と科白の違いを考えてみる。													
	13	シャレードを創作 脚本でシャレードを描く「ワークショップ」を体験。													
	14	13の続き 御題に則した「シャレード創作」を行なう。講師より改良点の指摘を受け推敲、決定稿を作成後、複数でパフォーマンスを発表。講評													
15	現代のシャレード 説明社会＆コンプライアンス社会である現代に於いて何を「シャレード」で表現すべきなのかについて考える。														
授業外学習	参考テキストとしての上映中の映画鑑賞など。														
教科書 参考文献	新井一『シナリオの基礎技術』（ダヴィッド社）。自家製のプリント。														
評価項目 評価方法	授業の理解度（①毎回のリアクションペーパーの内容 30% ②期末レポートの内容 40%） ③積極性（グループワークへの参加態度） 15% ④主体性（質疑応答などの受講態度） 15% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		テーマ研究 4〈映画風景論〉						担当教員		田辺秋守										
科目区分		教養〈映画文化〉		科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年		3・4	開講学期	後期		ターム		4	講義型		C2		校舎	白山					15	5
履修条件		特に履修条件はない。																		
授業概要		映画とその風景とは切っても切り離せない。映画が写してきた風景は、おもにロケーションとセットである。映画にとってロケーションの良し悪しはどこにあるのか。ロケーションは撮影や美術（プロダクション・デザイン）によってどんな風になるのか。この授業では映画のロケーションを具体的な作品に即して検討する。ロケーションの中心には都市や建築があり、まずはそれらの魅力を知ってほしい。授業を通じて、映画がどのように都市・建築・インテリアを映像として切り取っているかを理解し、自分自身のロケーション感覚を養う。最後に架空のロケハンをレポートにまとめてもらう。																		
到達目標		①ロケーションの魅力を理解する。建築の様式を知る。②映画美術、プロダクションデザインの仕事を知る。③ロケーションの良し悪しがわかり、自分で適切なロケ場所を探すことができる力を身につける。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	「映画風景論」という課題：空間、場所、風景、都市、ロケーションの美学																		
	2	都市の風景の変化（江戸から東京へ） 場所の探求・風景の発見：モデルケース																		
	3	映画と建築：建築からのアプローチ；都市機能からみた建築																		
	4	ハリウッド神話との戯れ；デヴィッド・リンチ『マルホランド・ドライブ』 プロダクションデザインの画期的な転回；リドリー・スコット『ブレードランナー』																		
	5	記憶（記録）の中の東京、現存する東京：東京のスクラップ・アンド・ビルド																		
	6	小津安二郎の駅舎・ホーム：『晩春』の鎌倉駅、『東京物語』の東京駅、『早春』の蒲田駅、『お早よう』の八丁畷駅、『秋刀魚の味』の石川台駅 成瀬巳喜男の裏路地：『めし』『流れる』『浮雲』；東京の海をもとめて：『秋立ちぬ』																		
	7	川島雄三の中心と周縁：『幕末太陽傳』と品川宿のオープンセット 『しとやかな獣』と晴海団地																		
	8	『赤坂の姉妹より 夜の肌』と花街・赤坂 『女は二度生まれる』と九段下																		
	9	70年代以降の風景：1970年代、日本映画の不毛																		
	10	篠田正浩『化石の森』と東京のモダン建築 70年代の問題作・長谷川和彦『太陽を盗んだ男』と危険区域																		
	11	80年代、90年代の混迷する東京：根岸吉太郎『探偵物語』と富裕層の住む街																		
	12	北野武のオフセンター：『その男、凶暴につき』、『キッズ・リターン』、『菊次郎の夏』 東京の多国籍化：崔洋一『月はどっちに出ている』																		
	13	2000年代以降、保守的な国際都市Tokyo：黒沢清の探偵的視線、『トウキョウソナタ』、『クリーピー 偽りの隣人』																		
	14	是枝裕和の異物的な目線：『誰も知らない』、『空気人形』 ノスタルジアの場所：トラン・アン・ユン『ノルウェイの森』、山下敦弘『マイ・バック・ページ』																		
	15	まとめ：ロケ地探索（架空ロケハン）の課題あるいはロケ地解説																		
授業外学習		課題の映画を授業前に見ておくこと。（週3時間程度）																		
教科書 参考文献		飯島洋一『映画の中の現代建築』彰国社、佐藤忠男『映画の中の東京』平凡社ライブラリー、フィオメラ・ハリガン『映画美術から学ぶ「世界」の作り方 プロダクション・デザインという仕事』フィルムアート社、『東京映画地図』キネマ旬報社																		
評価項目 評価方法		毎回の理解度（リアクションペーパーの内容）30% 授業で修得した語彙、方法の応用度（期末レポートの内容）70% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		テーマ研究 6〈1968年映画論〉						担当教員		晏妮（アンニ）					
科目区分	教養〈映画文化〉			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3・4	開講学期	後期	ターム	4	講義型	C2	校舎	白山				15	5	
履修条件		—													
授業概要		1968年をテーマにしてはいるが、1968年とは具体的な時間ではなく、1968年前後の映画を対象にしている。国際的な背景から見れば、1966に中国でプロレタリア文化大革命が勃発した。それが契機になり、文化的に閉鎖的な中国で展開した「文化革命」（国内の内乱をもたらした）はフランスを中心とするヨーロッパに輸入され、日本に代表されるアジアにも影響を与えるようになった。他方、1965年に始まったアメリカのベトナムへの軍事介入に反対するアメリカ内外の民衆運動が高まり、1968年を境に、アメリカ軍のベトナムでの後退が始まった。このような国際的転換期では、ゴダールに代表される一部の映像作家は刺激され、革命と毛沢東思想に対する省察を映画に持ち込む映画運動を起こした。他方、日本において、1960年代初頭に発生した松竹ヌーヴェルヴァーグと称される作家もラジカルな映画創作を行い、映画批評分野で創作と連動するような批評活動を展開していた。本講義は1968年前後に焦点を絞り、ゴダール、大島渚を中心に、フランス映画と日本映画の代表作家とその作品をとりあげる。また革命輸出の大本営である中国の映画実態を紹介しつつ、文革がもたらした文化の崩壊を明らかにする。1968年前後の映画はどのように革命を表象したのか、既成の映画文法に対して作家たちはどんな革新を行ったのか、またそれは映画史的に何らかの遺産を残し、後世の映画作家によってどう継承されていったかを検証する。													
到達目標		到達目標は以下の三点を目指す。（１）歴史、文化の文脈と切り離すことのできない映画を分析する方法を学び、得た歴史、文化と映画の知見を自分の言葉（日本語）で伝える能力を身に付ける。（２）講義中取りあげた作品を論理的に語る力と批評性を習得する。（３）具体的な作品の脚本、演出、撮影、照明、音響、編集など、映画の技術面に対する理解を深める。													
授業計画	回数	内 容													
	1	オリエンテーション(本講義の概説)1968年前後の世界情勢を概説し、取り上げる作家と作品のおかれていた歴史的、文化的コンテクストを説明する。													
	2	作品鑑賞：『ジャン＝リュック・ゴダール 反逆の映画作家（シネアスト）』（シリル・ルティ、2022）													
	3	ゴダールの「映像革命」と毛沢東思想の表象													
	4	作品鑑賞：『中国女』（1967）を鑑賞、分析													
	5	ゴダールとジガ・ヴェルトフ集団の映像運動													
	6	作品鑑賞：『万事快調』（1972）													
	7	大島渚映画における歴史・他者													
	8	作品鑑賞：『絞死刑』（1968）													
	9	大島渚の前衛性と彼のカメラに対する省察													
	10	作品鑑賞：『東京戦争戦後秘話』（1970）													
	11	篠田正浩－伝統芸能と革新的映像の融和													
	12	作品鑑賞：『心中天網島』（1969）													
	13	吉田喜重－近代史を再考する三部作													
	14	鑑賞作品『戒厳令』（1973）													
15	総括と質問応答														
授業外学習		毎回の授業を実施する前に、指定する参考文献を読み、取り上げる作家の関連する作品を一本見ておく。三時間ほど自習してください。													
教科書 参考文献		四方田犬彦・平沢剛編著『1968年文化論』（毎日新聞社、2010）、リチャード・ウォーリン著 福岡愛子訳『1968 パリに吹いた「東風」フランス知識人と文化大革命』（岩波書店、2014）、ジャン＝リュック・ゴダール ―1930-2022― ムック『ユリイカ』2023年1月臨時創刊号総特集（青土社、2022、12）、四方田犬彦著『ゴダール、ジャン＝リュック』（白水社、2024）、「吉田喜重特集」『ユリイカ』臨時増刊号（青土社、2003、4）など。													
評価項目 評価方法		授業の理解度（毎回のリアクションペーパーの内容）30%、授業の理解度（期末レポート）50%、積極性（質問、教員とのコミュニケーションなど）20%。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		日本文化論						担当教員		高橋世織					
科目区分	教養(映画文化)			科目分類	選択	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3・4	開講学期	後期	ターム	4	講義型	C2	校舎	白山				5	15	
履修条件		特になし。													
授業概要		《芸能と声》が副題。 日本という弧状列島特有の気候文化・風土に根差した祭礼しきたり、義理人情、無常観などが日本映画を染め上げ織りなしてきた。制作側はもとより、観て解析・批評する際に少しでも資するような観点から切り込んで講義を進めます。従って一般的な大学授業で展開されるような文化史や文化誌、民俗誌といった既存の枠組み・態勢は崩れています。文芸も美術も音楽も取り込み混然・一体化した演劇的身体が、さらに異次元にワープ、変換される磁場としての《映画》を前提にした授業です。無声映画時代の語り芸カツペンもライブで実体験してもらいます。民俗誌的傾向の映画も併映します。15回目に、日本文化を徹し付けている基礎キーワードを纏めてレクチャーします。													
到達目標		自国の文化や伝統に疎いのでは困ります。自文化を異文化のように捉え返せる思考や感性のしなやかさを培いたい。留学生は、自国の文化と日本のそれとを比較・検討できる着眼点をより豊かにしたい。知識や情報の取得も大事ですが、そうした観るまなざしや吟味するセンスや感度を意識的に身に付ける事も目指しましょう。例えば「物腰」といった和語に対してもセンシティブにかつ貪欲に探究し勉強していきましょう。													
授 業 計 画	回数	内 容													
	1	歌と声・・・《言霊(信仰)思想》とは何か 歌謡の始原としての『万葉集』、『古今和歌集』。能・狂言などを声の思想文化として捉え直す													
	2	災害立国における芸能・文藝・芸道・・・自然災害のデパート日本弧状列島の悲嘆とレジリエンス 親雪文化（『北越雪譜』とかまくら(水神様)）。本邦初の自然災害ルポルタージュ『方丈記』													
	3	江戸町人文化・・・近松門左衛門の描く純愛と刹那(切なさ)。心中の思想と系譜。『檀山節考』(1983) 再考 凄じく近松人形浄瑠璃『曾根崎心中』『心中天の網島』。「虚実皮膜（ひにく）論」（『難波みやげ』第六節）													
	4	近世の経世済民思想・・・井原西鶴『世間胸算用(せけんむねさんよう)』から学ぶ 『好色一代男』『西鶴諸国ばなし』は今なお斬新。宝の山													
	5	日本人の耳VS.ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の耳 日本の音声・音響と怪談。俳人で地球音響物理学者＝寺田寅彦（1878-1935）の聴覚認知と映画理論(1930-35)													
	6	邦楽と洋楽の違いと融合(和楽器の深遠なる細部) 武満徹の音楽観、映画音楽への態度（今村昌平『黒い雨』1989と紅谷恒一録音技師）													
	7	カツペン(弁士・澤登翠)をライブで体感する。稲垣浩『隣の母』（1931、片岡千恵蔵、山田五十鈴）、小津安二郎『生れてはみたけれど』（1932）													
	8	佐藤忠男(1930-2022)の澤登翠論(女詞と敬語法) 『日本映画と日本文化』（1987、未来社）『俳優の美学』(同)を読む													
	9	宮澤賢治と東北論・・・環境思想の萌芽、嚆矢としての賢治の演劇的ゴシック・ワールド 寺山修司、井上ひさし、土方巽、大野一雄、新渡戸稲造、棟方志功、石川啄木、野村胡堂らを傍らに													
	10	盲者の文化誌・・・谷崎潤一郎『盲目物語』『春琴抄』。清水宏監督『按摩と女』(1938、松竹)再評価 宮城道雄、替女、高橋竹山、座頭市、塙保己一、狂言「月見検校」、新藤兼人『竹山ひとり旅』（1977）													
	11	風景画の成立・・・旅と女と水の表象(歌川広重・葛飾北斎の浮世絵) ヴィジュアルテの異文化受容(映画前史)、印象派絵画を胎動させたジャポニズリー													
	12	日本絵画(やまと絵、水墨山水画、浮世絵)と西洋絵画の違いと相互受容 リュミエール映画の日本表象													
	13	能舞台と土俵。最古の稽古論『風姿花伝』、稽古とは何か チカラビトの記号学(神事としての大相撲、四股名)、声のコスモロジー（呼出・立行司と観客）													
	14	和食、書道、生け花、茶の湯、盆栽、着物、古民家・木造住宅(陰翳礼賛)・・・クール・ジャパンの功罪 どれも国際語・世界語に。世界遺産登録の功罪。観光資源とは何か。映画を媒介に夢想する《瀬戸内海学》													
	15	【基礎キーワード21の講釈】 見立てとモドキ、佯び、幽玄、無常観、粹、野暮、山川草木悉皆成仏、もののあわれ、軽み、不易流行、則天去私、風流(ふりゅう)、忖度、漆と膠、旬のもの(和食)、手漉き和紙、金継ぎ、雨降らしと邦画、廁と糞力、日本のゴッホ、アイヌの所有観													
授業外学習		休憩時間に、教卓横の大机に関連する古文書・古典籍や生資料を並べておきますので 極力手に取って現物の感触を感じ取ってください。モノ自体から学ぶ習慣を身に付けてもらいたい為です。対面授業ならではの特権です。													
教科書 参考文献		教科書はありません。毎回入手しにくい資料等は配布し、『民映研作品総覧1970-2005 日本の基層文化を掘る』（2021、はる書房）など参考文献は適時紹介していく。中沢新一・小林康夫・高橋の座談集『哲学の東北』（1998、幻冬舎文庫）は、賢治とアイヌに共通する自然観・所有の概念、唯物論に関心の向きには、お手頃。旧帝大(北大)にはアイヌ語学科が存在し、アイヌの教授（知里真志保ら）も居た。													
評価項目 評価方法		積極性（リアクション・ペーパーの充実度（感想・自分の意見・質問等がしっかり記述されているか））70% 理解度（期末レポートの内容）30% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		映画と音楽						担当教員		岩瀬政雄										
科目区分	教養(文学・芸術)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	前期	ターム		2		講義型		C2		校舎	白山		3			10	7	
履修条件		「映画ソムリエ・プログラム」の取得を目指すものはできるだけ履修しておくこと。																		
授業概要		映画音楽に正解はない。監督が最後まで御せないものは音楽である。監督と音楽家は様々な方法を使ってコミュニケーションを図る。時に音楽は監督の意図を超えて映像に驚く様な深味を作る。その時、打ち合わせはどの様に行われていたか。監督と音楽家の間で通訳として経験したことを語ることだけは出来る。けれどそれはあくまで参考例、そこから先は個々のやり方を作り出すしかない。そんな参考例の経験談講義である。																		
到達目標		第一段階、音楽を気にして映画を観るようになること。第二段階、何故そこに音楽を付けるかを考えるようになること。第三段階、監督と音楽家はどのようにしてコミュニケーションを取ったか、その実例を知ること。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	ドキュメンタリー「素晴らしき映画音楽たち」(93分) ハリウッドの映画音楽の歴史と現状を俯瞰する。																		
	2	講義の全体像。映画音楽はまず音色である。例「裸の大将」1958、「蟲師」2006,「パリ、テキサス」1984,「カミハテ商店」2012																		
	3	何の為に音楽を付けるか。感情の増幅、シーンの明確化、キャラクターに付ける、スピード感等。映画音楽の付け方の定番																		
	4	「七人の侍」「用心棒」「スターウォーズ」「ロッキー」「ひまわり」等																		
	5	映像の奥にあるテーマに付ける。黒澤作品に即して「羅生門」(早坂文雄)「赤ひげ」(佐藤勝)「影武者」(池辺晋一郎)																		
	6	「どですかでん」「乱」(武満徹)「はなれ瞽女おりん」(篠田正浩/武満徹)																		
	7	監督と作曲家のコミュニケーション。言葉と具体的音楽(黒澤のやり方)。コントラプンクト。																		
	8	名演奏家がひとりいれば。「夜叉」「あなたへ」(降旗康男/トウーツ・シールマンsharmonica)																		
	9	'お任せします' という方法。伊福部昭と「ゴジラ」																		
	10	伊福部昭と「ゴジラ」平成版 「ゴジラvsメカゴジラ、M 録り映像」音楽録音の現場はこんなだった。																		
	11	既成曲 の効果 「パリタクシー」「パーフェクト・デイズ」「ジョーカー」																		
	12	既成曲 (INST) 使用で監督は音楽家の地位を手に入れた。「ノマドランド」の音楽																		
	13	音楽を付ける効果、付けない効果 「天国と地獄」																		
	14	アニメの音楽 レポートの課題作品告知																		
15	著作権について。レポートを書くにあたっての視点。																			
授業外学習		授業で取り上げた映画を可能な限り鑑賞する																		
教科書 参考文献		なし																		
評価項目 評価方法		理解度 (全講座終了後の課題レポートの内容) 50% 理解度 (出席の有無と毎回のリアクションペーパーの内容) 50% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		映画と哲学						担当教員		田辺秋守										
科目区分	教養(文学・芸術)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	前期	ターム		2		講義型		C2		校舎	白山					10	10	
履修条件		特に履修条件はない。																		
授業概要		【テーマ】「映画の哲学」を読む：スタンリー・カヴェルの場合 この授業では、映画を哲学的な観点から見ることを学ぶ。また、そのための哲学的な概念を同時に解説する。その際、やり方としては「映画の哲学」を築いた古典的な著作とその哲学者の思想を詳細に読解する。本年度はアメリカの哲学者スタンリー・カヴェル（1926-2018）を取り上げる。昨年カヴェルの哲学的な主著『理性の呼び声』の邦訳が出版され、カヴェル哲学の全貌を日本語で迎えられるようになった。授業では、映画の哲学の主著である『眼に映る世界 映画の存在論についての考察』、『幸福の追求 ハリウッドの再婚喜劇』、『涙の果て 知られざる女性のハリウッドメロドラマ』などをもとにカヴェルの映画への哲学的なアプローチを具体的に読解してゆく。 カヴェルが彼の映画の哲学で前提しているのは、ほぼアメリカ映画（ハリウッド映画）である。授業の最後で果たしてカヴェルの考え方が日本映画やアジア映画にも当てはまるのかを検討する。																		
到達目標		哲学はどんなことをするのかを理解する。 映画について哲学はどのようなことを述べてきたかを知る。映画のジャンルを哲学的に考える。 受講後に、映画の本質についてより深い観点から考えられるような地点に立っているようにする。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	哲学的背景：・スタンリー・カヴェルとは誰か 言語行為論、懐疑論、ウィトゲンシュタイン																		
	2	映画についてのあれこれ：「映画の本質的な要素とは何か」「映画には何が可能か、何が不可能か」「リアリティとリアリズムの違い」																		
	3	『眼に映る世界』を読む。映画のメディア（メディア）の問題：写真、視覚と音、俳優、観客																		
	4	映画における様々な類型：キャラクター、ジャンル、シリーズ																		
	5	カラー映画の問題、映画の自動性																		
	6	映画とモダニズムの問題：芸術上のモダニズムとは何か、映画のモダニズムと何か																		
	7	ジャンル論の彼方 1：スクリーンボール・コメディを「再婚喜劇」として読み直すこと。『幸福の追求』を読む																		
	8	『レディ・イヴ』、『或る夜の出来事』、『赤ちゃん教育』																		
	9	ジャンル論の彼方 2『フィラデルフィア物語』、『ヒズ・ガール・フライデー』																		
	10	『アダム氏とマダム』、『新婚道中記』																		
	11	ジャンル論の彼方 3：メロドラマのジャンル論的考察、『涙の果て 知られざる女性のハリウッドメロドラマ』を読む																		
	12	スタンリー・カヴェルによる読解：「見知らぬ女」のメロドラマ、『ガス燈』、『忘れじの面影』																		
	13	ジャンル論の彼方 4：女性の声の取り戻し																		
	14	スタンリー・カヴェルによる読解：『情熱の航路』、『ステラ・ダラス』																		
	15	映画の哲学の射程：「映画と道徳性」「道徳的完成主義」とは何か。日本映画、アジア映画のなかのスタンリー・カヴェル																		
授業外学習		授業では断片的にしか触れられない著作（オリジナルな著作）を、一編は読むこと。（週3時間程度）																		
教科書 参考文献		スタンリー・カヴェル『眼に映る世界——映画の存在論についての考察』、『幸福の追求 ハリウッドの再婚喜劇』、『涙の果て 知られざる女性のハリウッドメロドラマ』																		
評価項目 評価方法		理解度（リアクションペーパーの内容）30% 応用力（教場レポートの内容）70% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		演劇史						担当教員		石坂健治										
科目区分	教養(文学・芸術)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	前期	ターム		2		講義型		C3		校舎	白山					5	15	
履修条件		脚本・戯曲など創作の原理に関心のある者、演技者を志す者、映画や演劇の演出に興味を持つ者の参加を望む。																		
授業概要		【テーマ】物語の原型を探る 映画の大学で演劇史を学ぶことの意味は何か。ずばり、「物語の原型」に数多く接することに尽きる。古くから演じられ、語り継がれてきた物語の数々は、なぜ現代まで色褪せることがないのか。物語の普遍性とは何なのか。それを問うことは、今村昌平の言う「人間とは何と滑稽なものなのか」「総じて人間とは何と面白いものか」を検証することでもある。したがって本講は平坦な通史ではなく、現代の創作にとって重要な「物語の原型」を演劇史の中に見出すことを目標とする。本年度はギリシャ悲劇とシェイクスピアを中心に据え、西洋演劇の歴史や日本の芸能との比較も織り交ぜながら進めることとする。戯曲を朗読する面白さにも目覚めてほしい。																		
到達目標		受講生が自ら創作や演技などの表現をおこなう際の「引き出し」が増えて豊かになることをめざす。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	ガイダンス——映画の大学で演劇の歴史を学ぶことの意味を考える																		
	2	ギリシャ悲劇（１）——「オイディプス王」「メディア」「エレクトラ」「アンティゴネー」「オレステス」などを取り上げる。主なキーワードは、神、予言、国家、王、民衆、血縁、陰謀、欲望、殺戮、不条理、など。																		
	3	ギリシャ悲劇（２）——「オイディプス王」前半を読む																		
	4	ギリシャ悲劇（３）——「オイディプス王」後半の展開をたどる																		
	5	シェイクスピア（１）——「ハムレット」「リア王」「マクベス」などを取り上げる。キーワードはギリシャ悲劇の項とほぼ重なる。																		
	6	シェイクスピア（２）——「マクベス」前半の山場を読む																		
	7	シェイクスピア（３）——「マクベス」中盤の山場を読む																		
	8	シェイクスピア（４）——「マクベス」後半のクライマックスを読む																		
	9	チーホフ（１）——「かもめ」「桜の園」「三人姉妹」などを取り上げる。近代演劇の始まりについて考える。																		
	10	チーホフ（２）——「三人姉妹」を読む																		
	11	イプセン——「人形の家」を読む																		
	12	20世紀の演劇（１）																		
	13	20世紀の演劇（２）																		
	14	20世紀の演劇（３）																		
15	演劇との戯曲と映画の脚本について																			
授業外学習		授業で扱った戯曲を読む（週２時間）。戯曲の映画化作品を観る（週４時間）。劇場で演劇を鑑賞する（随時）。																		
教科書 参考文献		授業時に指示する。																		
評価項目 評価方法		授業理解度（リアクションペーパー30%＋期末レポート70%）																		
		出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		英米文学						担当教員		大友りお										
科目区分	教養(文学・芸術)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	前期	ターム		2		講義型		C2		校舎	白山		5					15
履修条件		毎週与えられた物語（日本語訳）を全て読み、ディスカッションに積極的に参加できる人																		
授業概要		マジック・リアリズムの旗手であり、女性の性と欲望を肯定した物語を生み出したイギリスの作家アンジェラ・カーター(1940～92)の作品を読む。短編集『血染めの部屋』をキーテキストに、ジェンダーの問題を考える。カーターは、おとぎ話を読み替え、語り直し、映画作家にも大きな影響を与えた。彼女と同時代の日本の作家による同様の短編集、倉橋由美子著『大人のための残酷童話』、佐野洋子著『嘘ばっか』を読み比べると、彼女たちのメッセージがさらに明らかになる。本講では『赤ずきん』『白雪姫』『美女と野獣』『青ひげ』のヴァリエーションをたどる。																		
到達目標		文学テキストと映像メディアを通して表現されるすべての物語を、性差の局面から分析する。物語の構成を理解し、自身の創作に役立てる。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	講義：性差とは何か テキスト：「赤ずきん」のテーマ(グリム・ペロー)																		
	2	テキスト：「赤ずきん」のテーマ（佐野洋子） 精読と問題提起																		
	3	講義：フェミニズムの文学の手法 テキスト：「赤ずきん」のテーマ（カーター）「狼人間」「狼たちの仲間」																		
	4	テキスト：「赤ずきん」のテーマ（カーター）「狼アリス」「ピーターと狼」 精読と問題提起																		
	5	講義：ポーモン夫人とディズニー映画が表象する女性の幸福 映画鑑賞：『美女と野獣』（ジャン・コクトー、1946）																		
	6	テキスト：「美女と野獣」のテーマ（カーター）「野獣の求愛」「虎の花嫁」 精読と問題提起																		
	7	講義：近代小説とファンタジー（幻想小説）：ペロー『青ひげ』の意図																		
	8	講義：近代小説とファンタジー（幻想小説）：「青ひげ」のテーマ（カーター）「血染めの部屋」																		
	9	映画鑑賞：『スノーホワイト』（ルパート・サンダース、2012）・ディスカッション																		
	10	課題制作「おとぎ話のバリエーションを書く」背景は現代日本・文字サイズ、行間、文字数規定																		
	11	映画鑑賞『人魚姫』（チャウ・シンチー、2017）・ディスカッション																		
	12	講義：倉橋由美子の残酷童話・「人魚の涙」																		
	13	映画鑑賞：『五日物語』（マッテオ・ガローネ、2015）・ディスカッション																		
	14	互いの作品を読みあう																		
15	講義：マスキュリティ研究に向けて																			
授業外学習		関連する物語を読む（週2時間）・自分の創作の準備をする（週1時間）																		
教科書 参考文献		アンジェラ・カーター著『血染めの部屋』（プリント配布）・倉橋由美子著『大人のための残酷童話』新潮文庫・佐野洋子著『嘘ばっか』講談社文庫・S・ペロー著『完訳ペロー童話集』岩波文庫・ポーモン夫人著『美女と野獣』角川文庫・グリム兄弟著『グリム童話集・全5巻』岩波文庫・アンデルセン著『アンデルセン童話集・全7巻』岩波文庫																		
評価項目 評価方法		積極性（授業内ディスカッションと発表に取り組む態度）50％ 授業の理解度・応用力（創作物語の内容）50％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		映像と美術						担当教員		藤田直哉										
科目区分	教養(文学・芸術)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	後期	ターム		4		講義型		C2		校舎	白山					10	10	
履修条件		—																		
授業概要		現代の美術は、映像を使った作品が多い。時に映画との境界が曖昧なケースもある。日本映画大学・学校の出身者も活躍しており、たとえばヴェネチア・ビエンナーレにドイツ代表として出品したヒト・シュタイエルは本学出身である。あるいは、世界的に評価されている監督の中には、美術の影響を映画に持ち込んだ作家が少なからずいる。本講義では、現代美術の基礎知識を学び、具体的にどのような実践が行われているのかを学習する。																		
到達目標		現代美術の知識を獲得し、映像で出来ることの可能性を理解する。創造性を発揮する方法論を理解する。新しい映画の可能性に対する柔軟性を身に着ける。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	近代絵画と映画Ⅰ——黒澤明『夢』																		
	2	近代絵画と映画Ⅱ——北野武『アキレスと亀』																		
	3	現代美術と映画Ⅰ——北野武『あの夏、いちばん静かな海』																		
	4	現代美術と映画Ⅱ——北野武『ソナチネ』『TAKESHIS'』など																		
	5	非物語的な映画Ⅰ——アヴァンギャルド映画、『パレエ・メカニック』『カメラを持った男』『アンダルシアの犬』など																		
	6	非物語的な映画Ⅱ——『2001年宇宙の旅』『ファンタジア』『DOG STAR MAN』『BLUE』など																		
	7	関係性の美術Ⅰ——田中功起																		
	8	関係性の美術Ⅱ——加藤翼、北澤潤																		
	9	関係性の美術Ⅲ——濱口竜介『ドライブマイカー』																		
	10	関係性の美術Ⅳ——濱口竜介『ドライブマイカー』																		
	11	関係性の美術Ⅴ——濱口竜介『ハッピーアワー』																		
	12	関係性の美術Ⅵ——濱口竜介『ハッピーアワー』																		
	13	アートとしての映像作品から（「映画で学ぶ歴史と社会4」と合同）																		
	14	アートとしての映像作品から（「映画で学ぶ歴史と社会4」と合同）																		
15	まとめ																			
授業外学習		紹介された作品を見たり、展示を観に行く。週に8時間程度の自習が望ましい。																		
教科書 参考文献		藤田直哉編『地域アート 美学・制度・日本』（堀ノ内出版、2016年）																		
評価項目 評価方法		1授業の理解度(毎回のリアクションペーパーの内容):30% 2授業の応用度(期末レポートの内容):50% 3積極性(授業内での発言など):20% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		映画で学ぶ歴史と社会 3〈国際情勢〉						担当教員		熊岡路矢							
科目区分	教養〈歴史・社会科学〉			科目分類	選択		授業形態	講義		単位数	2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	前期	ターム	2		講義型	C2		校舎	白山				5		15
履修条件	テーマ【戦争と停戦・和平、国際協力の課題を読み解く】に関わる教科書、参考書、新聞記事、ネットニュースなどの一部を読んでおくこと。受講学生は、今後のキャリア形成、国際理解分野での問題意識や自身の教養獲得のための目標を整理しておくこと。																
授業概要	国際紛争（戦争と平和、パレスチナ・ウクライナの事例）、これに関わる国連や国際協力NGOについての基礎教養を身につける。 概要 1）何を教えるのか。： ①地球規模課題（紛争、貧困、人権、環境の4大重要課題）についての基礎教養。②特に現代の国際政治の歪みから生ずる、各紛争・難民問題の構造、原因、現状、解決策について。 ②紛争解決、環境問題解決における、国連、政府、市民、NGOの役割について。 2）方法： ①問題解明に役立つ映画・映像も活用する。②現在進行形の戦争・紛争と、和平への動き、構造分析も扱う。新聞（国際面）、TV国際報道ニュース・解説も活用する。③自由に質問を受け、学生の意見表明や議論、ディベートが活発になる環境を醸成し、協調性が身につくように進める。																
到達目標	一般社会やメディアで扱われる、現代国際社会、国際問題（特に政治と紛争、その他、貧困／格差、人権、環境など）に対して、基礎教養と関心を身に着け、授業内の議論を通して協調性と批判的理解（リテラシー）を獲得する。																
授業計画	回数	内 容															
	1	オリエンテーション（はじめに）： 国連用語としての4つの地球規模課題（紛争＝戦争、貧困、人権、環境）とは何か。人類社会を追い詰める戦争と環境破壊（地球温暖化／感染症）－ユーラシア／世界の事例															
	2	0） 地球規模課題 ①戦争・紛争・難民。（ウクライナ、パレスチナ、アジア等）、カンボジア紛争を事例に ②環境、貧困／格差、人権															
	3	1） ①第一次世界大戦（～1918）と第二次世界大戦（～1945）と中東（パレスチナ） ②英国の三枚舌外交（一九一五）と、国連によるイスラエル独立承認（1947）															
	4	＊ パレスチナの現在。4回にわたる中東戦争（～1976）と、実現されなかった「オスロ合意」（1993）															
	5	1）米国、英国等と中東（西アジア）における戦争の原因、二つのイラク戦争															
	6	イスラムとは。 スンニ派の国々、シーア派の国々と周辺国・大国との対立。															
	7	1）核戦争の脅威と、原発事故の脅威（核保有五大国＋イスラエル、インド、パキスタン、北朝鮮など）															
	8	＊ ベトナム戦争の起源とどう解決したか。 カンボジアでの戦争とポル・ポト時代。															
	9	2） 国際協力NGOとその活動 世界の事例、 日本の事例。															
	10	2） 国連の役割。そしてNGO s＝英国、OXFAM、米国 CARE、フランス MSF等。（日本）『ベシャワールの会』、『JVC』等。															
	11	3）国際政治と現代の戦争： ①20世紀という「戦争と映画の世紀」について学ぶ。戦争の起源、原因。															
	12	＊ 一般市民を巻き込む大量殺りく型戦争の原点としての第一次／第二次世界大戦。中東紛争の基となった「サイクス・ピコ」条約															
	13	3）現代国際政治の戦争、停戦・和平への道のり：															
	14	3） 全体まとめ、質疑と討論。															
15	4）今日の国際情勢、まとめ（過去－現在－未来）。授業内試験実施																
授業外学習	本テーマに関する本、新聞記事、映画、TVプログラム、ネットニュースを通して学ぶこと。必要資料は講義の中で紹介していく。																
教科書 参考文献	【教科書】あり。授業開始前に知らせます 熊岡路矢『戦争の現場で考えた 空爆、占領、難民－カンボジア、ベトナム、イラクまで』（彩流社／2014年）																
評価項目 評価方法	リアクション・ペーパーを記入・提出し、各自の理解の度合いを評価し、翌週の講義で補足補正する。宿題への応答を評価。 理解度（期末試験）60％ 積極性（リアクション・ペーパーの内容と受講態度）40％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																

科目名		映画と法						担当教員		石坂健治 ほか										
科目区分	教養(歴史・社会科学)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	前期	ターム		2		講義型		C2		校舎	白山					10	10	
履修条件		「映画ソムリエ・プログラム」の取得を目指す者は必ず履修すること																		
授業概要		法治国家である以上、映画を含むアート、エンターテインメントの世界もまた法のもとにある。本講では複数のゲスト講師による多角的な視点から、映画の流通に関わるさまざまな法＝理念とその実行＝現場について考える。キーワードは「芸術と法」「表現の自由」「映画流通の利益と不利益」「エンタメ産業の保護」など。あいちトリエンナーレ、KAWASAKIしんゆり映画祭、アップリンク訴訟、ミニシアター・エイド基金、SAVE the CINEMA運動、映画演劇界の性加害事件など、最近話題になった事象にも関心を持って授業に臨んでほしい。（講師の都合により授業計画が前後する場合があります。）																		
到達目標		①映画にまつわる法とその理念を学び、②それを踏まえて映画制作や上映の現場をいかに充実したものにするか、各自が理解することをめざす。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	映画ソフトと著作権 ゲスト講師																		
	2	映画・映像ソフトと著作権について基本的な解説をします。																		
	3	映画上映と法 石坂健治教授																		
	4	映画上映と法律について基本的な解説をします。																		
	5	ハリウッドと法 ゲスト講師																		
	6	ハリウッドと法律と事件と裁判について映画史的に概説します。																		
	7	芸術と法をめぐるトラブルを振り返る ゲスト講師																		
	8	近年の芸術祭などで起こったことと表現の自由の問題を取り上げます。																		
	9	芸術と法をめぐるトラブルを振り返る（続） ゲスト講師																		
	10	引き続き近年の芸術祭などで起こったことと表現の自由の問題を取り上げます。																		
	11	文化芸術基本法と劇場法 ゲスト講師																		
	12	文化芸術基本法と劇場法について解説します。																		
	13	映画と法のまとめ ゲスト講師																		
	14	地域の映画祭や美術館の視座から芸術と法の問題を考えます。																		
	15	映画と法のまとめ（続） ゲスト講師 同上																		
授業外学習		授業で取り上げた映画や美術などを鑑賞する（週2時間）。参考書を読む（週2時間）。その他関心のあることを調べる（随時）。																		
教科書 参考文献		【教科書】福井健策著『18歳からの著作権入門』（ちくまプリマー新書、2015年）を購入すること（白山校舎にて販売予定）。																		
評価項目 評価方法		授業の理解度（リアクションペーパー30％＋期末レポート70％） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		映画で学ぶ歴史と社会 4（ネイションとエスニシティ）						担当教員		ハン・トンヒョン										
科目区分		教養（歴史・社会科学）		科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年		3・4	開講学期	後期		ターム		4	講義型		C2		校舎	白山					5	15
履修条件		とくにないが、「社会学」を履修しておくことが望ましい。																		
授業概要		「誰々が〇〇人だ」という場合、それはどのようにして決まるのか。国籍？血筋？生まれ育った場所？身につけている文化——？「〇〇人であること」はこれらの組み合わせや取捨選択によってできており、それは時代や場所によって変わる。思われているほど自明でも強固でもないのに、自明で強固だと思われがち「〇〇人であるということ」——エスニシティやネイション（日本語だと民族（性）や国民に当たる）——について、映画作品を題材に、主にそのボーダー上にいる人びとに焦点を当てつつ考える。																		
到達目標		「（自他ともに）人々の拠り所」としての国や民族を相対化する視座を持つ。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	ネイションとエスニシティ①																		
	2	ネイションとエスニシティ②																		
	3	植民地支配と多民族帝国①																		
	4	植民地支配と多民族帝国②																		
	5	多文化主義なき多文化社会日本①																		
	6	多文化主義なき多文化社会日本②																		
	7	移民・難民と向き合う①																		
	8	移民・難民と向き合う②																		
	9	「先住民族」について①																		
	10	「先住民族」について②																		
	11	レイシズムについて考える①																		
	12	レイシズムについて考える②																		
	13	アートとしての映像作品から（「映像と美術」と合同）①																		
	14	アートとしての映像作品から（「映像と美術」と合同）②																		
15	アイデンティティと表現～日本映画のなかの「在日」																			
授業外学習		週4時間程度。配布資料には必ず目を通すこと。課題が宿題として出た際は必ず次回までやってくる（評価にかかわる）。欠席した回の課題についても同様。授業内容と関連する社会問題に関心を持ち、学んだことを応用して考えてみる。																		
教科書 参考文献		教科書はなし。参考文献はその都度紹介する。																		
評価項目 評価方法		毎回リアクションペーパーを課す。2回の課題（必須）を課す。 ①理解度・成長力（リアクションペーパーなどの平常点）30％ ②理解度・応用力（2回の課題）70％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		映画で学ぶ歴史と社会 5〈現代思想〉						担当教員		大澤信亮							
科目区分	教養〈歴史・社会科学〉			科目分類	選択		授業形態	講義	単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	後期	ターム	4	講義型	C2	校舎	白山					5	15		
履修条件		とくになし。															
授業概要		本講義の目的は、芸術と社会の結びつきを広範かつ批評的に考えることで、鋭い問題意識を持った創作者を育てることである。創作者に必要なことは、現代社会において何が問うに値する問題であるのかを理解し、その問題意識をもって「現在」から脱出する知性である。この講義では、劇映画、ドキュメンタリー、アニメーション、それぞれのジャンルにおける近年の注目作、現在の時事・事象を考えるときに参照すべき映画、近年話題になっている思想にかかわる映画などを考察する。さらに過去の卒業制作を検討することで、身近なところから問題意識を発見する。（以下の授業計画は昨年のものであり、現代の状況を踏まえた上で変更する場合がある。また、講義で扱う作品にはホラーが含まれる可能性もある。受講者はそれを理解した上で履修すること）。 2025年度は休講															
到達目標		現代における様々な問題を、思想・哲学的に理解し、議論できる力を身に付ける。															
授 業 計 画	回数	内 容															
	1	濱口竜介『PASSION』から現在の劇映画について考える															
	2	現代劇映画における「演出」について、構成された空間を切り裂く「現実」															
	3	平野勝之『監督失格』から現在のドキュメンタリー映画について考える															
	4	セルフ・ドキュメンタリーと「リアル」の行方、人が死ぬところを撮るということ															
	5	新房昭之『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ 新編 叛逆の物語』から現在のアニメーション映画について考える															
	6	二次創作、美少女ゲームと少女消費、魔法少女、現代日本アニメーションにおける「神」の位置															
	7	デイヴィッド・リンチ『イレイザーヘッド』から「反出生主義」について考える															
	8	生命倫理学、出生率低下、生存の苦痛、仏教、生の肯定と死の肯定															
	9	高橋洋『リング』から「魔」を呼び出す装置としての映画について考える															
	10	ホラー、幽霊、呪いのビデオ、心霊写真、不幸の手紙、都市伝説、恐怖という感情について															
	11	卒業制作作品の検討 1 演出コース															
	12	各作品の構造、主題、方法などを、受講者自身の身近な問題意識から考える															
	13	卒業制作作品の検討 2 ドキュメンタリーコース															
	14	各作品の構造、主題、方法などを、受講者自身の身近な問題意識から考える															
授業外学習		週6時間程度。『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ 前編 始まりの物語、後編 永遠の物語』を予め自分で観ておくこと。このほか授業で紹介する作品を見、資料を読むこと。															
教科書 参考文献		授業内で紹介する。															
評価項目 評価方法		授業の理解度（各回のリアクションペーパーの内容）100％ 全7回の平均点で評価する。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。															

科目名		映画で学ぶ歴史と社会 6〈映像民俗学〉						担当教員		今井友樹							
科目区分	教養〈歴史・社会科学〉			科目分類	選択		授業形態	講義	単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	後期	ターム	4	講義型	C2	校舎	白山			3			10	7	
履修条件		特になし。															
授業概要		本講は、国内（一部海外も）のお祭りや芸能、農山村漁村の生活文化などの映像記録、いわゆる「映像民俗学」の世界を取り上げる。目的は「民俗の映像記録」の意義・目的を理解し、基礎的な制作ノウハウを習得することにある。関連作品や講義担当者が制作した作品をテキストに、表現方法などを分析・解説していく。映画は、劇映画とドキュメンタリーだけではない。その影に埋もれている“民俗の映像記録”に、まず触れて欲しい。多様な視点と発想を発見できるはずだ。そして、ぜひ受講者の想像力に役立てて欲しい。															
到達目標		地域の文化と社会を映像で記録することの基礎理解とノウハウが習得できる。															
授業計画	回数	内 容															
	1	「民俗の映像記録」概説①―――民俗における記録と表現は拮抗する															
	2	『遥かなる記録者への道 姫田忠義と映像民俗学』を鑑賞。民族文化映像研究所の活動から、映像民俗学の世界を概説する。															
	3	「民俗の映像記録」概説②―――無形の民俗文化財の種類と目的、映像記録の特性と限界															
	4	民俗文化財の歴史と映像記録の変遷、いま求められている映像記録のあり方を『明日をへぐる』を鑑賞しながら解説する。															
	5	「民俗の映像記録」制作工程―――制作工程（企画から完成・活用まで）と手法															
	6	講義担当者が制作した作品をテキストに、苦労話や失敗談を交えて解説。『ヨッカバイ』の鑑賞。映像記録の課題をいかに克服するかを考察する。															
	7	精神的拠り所―――民俗と震災															
	8	ゲスト講師・遠藤協監督が、『廻り神楽』の制作を通して震災復興の精神的拠り所となった民俗芸能を解説する。															
	9	自然利用と破壊―――民俗と環境問題															
	10	禁止された霞網猟を“生活文化”として描いた『鳥の道を越えて』と、“環境犯罪”として描いた作品を比較検証する。															
	11	民族文化映像研究所作品紹介―――日本列島の民俗映像															
	12	日本列島の民俗のアウトラインを掴むべく、民族文化映像研究所の代表作品の各ダイジェスト映像を見ながら各作品を概説する。															
	13	「映像人類学」紹介―――映像表現の可能性について															
	14	ビデオカメラを持った研究者たちのフィールドワークと眼差しを通して、映像表現の可能性や民俗映像との違いを探究する。															
15	本講義のまとめ																
授業外学習		授業内で案内した映像民俗学や映像人類学作品の鑑賞（週2時間程度）															
教科書 参考文献		民族文化映像研究所『民族文化映像研究所作品総覧』、姫田忠義『忘れられた日本の文化 撮り続けて30年』、北村皆雄・新井一寛・川瀬慈『見る、撮る、魅せるアジア・アフリカ 映像人類学の新天地』、俵木悟『文化財／文化遺産としての民俗芸能 無形文化遺産時代の研究と保護』など															
評価項目 評価方法		積極性（質疑応答など授業への参加態度） 30％ 理解度（リアクションペーパー、期末レポート） 70％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。															

科目名		英語 2						担当教員		上原遼									
科目区分	教養(コミュニケーション)		科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	前期		ターム		2		講義型		C2		校舎	白山			5		15
履修条件		英検 2 級程度以上の英語力を持っていること。履修登録の前に自己採点テスト（10分）を受けて合格点以上であること。英語 1 を未受講でも履修可。																	
授業概要		この授業では、実用的な英語を「話す力」をつける。ミステリードラマ『オリーブ・グリーン』のストーリーを追いつながら、そこで使われる英語表現を学ぶ。オンライン上の映像と音声ファイルを使用し、ワークブックに添って進め、リスニングとスピーキングの練習を繰り返す。また、伝わる発音と抑揚に焦点を当てて個別指導も行う。ネイティブ話者のように話せることがゴールではなく、相手が聞き取れるように話すことを意識して、自身の持つ目標（短期留学や仕事のための英語力）に近づくための自主トレの習慣が身につくようサポートする。																	
到達目標		すでに知っている単語と文法を確認し、映画の会話をある程度聞き取ることができるようになる。																	
授 業 計 画	回数	内 容																	
	1	授業の進め方説明と練習																	
	2	Chapter 1 In the Middle of Nowhere: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																	
	3	Chapter 2 Blackmail: dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																	
	4	Chapter 3 Home Sweet Home: dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																	
	5	Chapter 4 Negotiations: dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																	
	6	Chapter 5 Visiting Cloutier: dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																	
	7	Chapter 6 At Alfie's Place: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																	
	8	Chapter 7 David in a Trap: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																	
	9	Chapter 8 Confrontation: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																	
	10	Chapter 9 Digging a Grave: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																	
	11	Chapter 10 Another Confrontation: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																	
	12	Chapter 11 Great, Now We're Trapped: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																	
	13	Chapter 12 It's Up to You, David: warming up→dictation→ comprehension→ role play（文法セクションは宿題）																	
	14	Chapter 13 Review																	
	15	まとめ、授業内最終テスト																	
授業外学習		宿題（毎週2時間程度）																	
教科書 参考文献		【教科書】『Olive Green: Learning English through a Mystery Drama（CEFR-A2）』（Asahi Press, 2021）																	
評価項目 評価方法		理解度（文法宿題）60% 理解度（授業内最終テスト）40% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																	

科目名		こども映画教育 I						担当教員		村上朗子										
科目区分	教養(コミュニケーション)			科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	前期	ターム		2		講義型		C3		校舎	白山		3		3	7	7	
履修条件		映像教育の理論を学ぶ。コース問わず履修可。「こども映画教育II」の受講は、「こども映画教育I」の履修と単位取得が必須となる。																		
授業概要		こどもから20代までの若年層の映像・映画への興味を育むプログラムづくりとその実践を学ぶ。 近年の国内外の映画教育や美術、演劇教育などの事例を学びつつ、視覚玩具から映画制作、そして映画鑑賞と対話への展開など、さまざまな映像・映画教育を実践する。映画の歴史をひもときながら、映像教育の楽しさとその可能性について考察する。																		
到達目標		映画教育を実践する際のさまざまな手法を獲得できる。また、他者に映像・映画文化を分かりやすく伝えることが出来るようになる。 その知識を活かし、地域のなかで映像教育の企画・運営をすることが可能となる。																		
授業計画	回数	内 容																		
	1	映像教育の必要性について ①現代における映像のありかたと映像・映画教育の必要性																		
	2	②映画というコミュニケーションについて																		
	3	芸術教育としての映像・映画教育について ③芸術教育としての映画教育の可能性（国内と海外の事例から）																		
	4	④映画の歴史と映画用語について 調べる／伝える																		
	5	映像教育の実践 ⑤子ども向けの工作与映像教育の親和性（川崎市アートセンター 3Fコラボレーションスペースで開催）																		
	6	⑥視覚玩具と工作																		
	7	映像教育の実践：映画への導き 映画をみる／つくる（1） ⑦サイレント作品などの映画プログラム																		
	8	⑧リュミエール映画準備																		
	9	映画教育の実践：映画をみる／つくる（2）																		
	10	⑨⑩⑪学外活動：リュミエール映画を学外で撮影、生田緑地教育プログラム見学（グループ）																		
	11																			
	12	映像教育とその可能性 ⑫リュミエール映画鑑賞																		
	13	⑬映画をみること、抜粋をみること																		
	14	⑭鑑賞プログラム発表																		
15	⑮講評と映像教育の可能性について（まとめ）																			
授業外学習		日常的に映画館や美術館、博物館での若年層向けのプログラムなどに関心を持つこと。																		
教科書 参考文献		参考図書：『映画は子どもをどう描いてきたか』佐藤忠男著（岩波書店 2022年）、『こども映画教室のすすめ』（春秋社 2014年）、『「こどもと映画」を考える』（キネマ旬報社 2012年）																		
評価項目 評価方法		積極性（質疑応答など授業への参加態度） 25% 理解度（リアクションペーパー） 25% 理解度（共同作業・発表） 25% 企画力（課題発表） 25% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		文章表現						担当教員		守内映子									
科目区分	教養(コミュニケーション)		科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	前期		ターム		2	講義型	C2		校舎	白山		5		5		10	
履修条件		日本語を母語とする人、及び、それに匹敵する日本語力と学習能力(目安はGPA3.0以上)を有する留学生を受講対象とする。																	
授業概要		本授業は、文章表現力を身に着けるトレーニングを通して、自己・他者・社会への関心を持ち、自分の将来について探求する基礎を作ることを目的とする。大学で求められるアカデミック・ライティングの基本知識について確認する。そして、その延長線上の実践力として、社会生活を営むうえで必要となる言語表現の理解と、状況に応じて「物事を筋道を立てて考える力」を鍛え、「わかりやすく・正確に」伝えられる【文章によるコミュニケーション能力】を養う。そのための具体的な方法は、(1)ことばのドリル学習を積み重ね、(2)目的に応じた文章の型を学びながら書く練習を行い、(3)セルフチェックと他者コメントをもとに自分自身のスタイルを模索し確立する。さらに、毎回の授業では、臨床心理学の理論を拠り所とした「自分の内側にある身体知」に着目したワークに取り組み、自分にしか書くことのできない「自己PR文」や「経験文」の執筆を通し、「書くことによって自分を内側から元気にする」文章表現力を培う。 なお、授業内においては、講義を受けて一人静かに文章作成に向かうだけでなく、グループやペアによるワークショップを行うため、アクティブラーニングを取り入れた授業であることを理解したうえで参加してほしい。																	
到達目標		・適切な日本語表現と表記上のルールを理解し、社会人として必要な言語表現能力を磨く。 ・物事を広い視野で客観的に捉える思考力と、筋道を立てて説明できる論理的な文章表現能力を養う。 ・様々なワークを通して、個人内で捉えた「からだの感覚」や「自分の思い」を言語化し他者に伝える力を身につける。																	
授 業 計 画	回数	内 容																	
	1	授業オリエンテーション、ことばのドリル(文体)、文章表現ワークショップ(ウォーミングアップ編)																	
	2	文章に適した表現－紹介文																	
	3	ことばのドリル(ととのった表現)、文章表現ワークショップ(初級編)																	
	4	文章の種類と構成－意見文																	
	5	ことばのドリル(主観表現と客観表現)、文章表現ワークショップ(初級編)																	
	6	実用的な文章の表現－変化を伝える文章																	
	7	ことばのドリル(文章から箇条書き、箇条書きから文章)、文章表現ワークショップ(初級編)																	
	8	論理的な文章の表現－対立項と時間軸のある文章																	
	9	ことばのドリル(表記の基本とマナー)、文章表現ワークショップ(中級編)																	
	10	論理的な文章作成の実践－資料から論じる文章																	
	11	ことばのドリル(敬語の識別)、文章表現ワークショップ(中級編)																	
	12	論理的な文章作成の実践－経験から論じる文章																	
	13	ことばのドリル(敬語の実践)、文章表現ワークショップ(上級編)																	
	14	文章表現の応用－概念を構造化した理論作成																	
15	授業内試験と最終課題の提出																		
授業外学習		テキストの課題や授業内で終わらなかった課題に取り組む。毎週3時間程度。																	
教科書 参考文献		【教科書】『TAEによる文章表現ワークブック』得丸さと子著 図書文化 2010年 【参考図書】『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳』銅直信子・坂東実子著 図書刊行会 2015年																	
評価項目 評価方法		授業の理解度(各提出課題の到達度評価)40% 授業への参画度(毎回のワークシートと取り組み姿勢評価)40% 総合的な文章表現力習熟度(最終課題評価)20% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																	

科目名		英語 3						担当教員		上原遼										
科目区分		教養(コミュニケーション)		科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年		3・4	開講学期	後期		ターム		4	講義型	C2		校舎	白山				5		15	
履修条件		授業はほぼ英語で行うので、すでに日常英語の聞き取りができ、英語による授業の指示が明確に理解できる学生であること。																		
授業概要		【副題】TOEIC・ビジネスコミュニケーション対策講座 この授業では初回のPre-TestをもとにTOEICの目標スコアを自ら設定し、TOEIC対策に取り組みながら得点アップを目指す。また、TOEICの問題として掲載されている英文等を参考にしながら、Eメールや申請書等の多様なテキストを自ら構成するCreative writingの機会やTOEICにおいて多く出題される雇用の問題や医療の課題等のトピックについて、自らの意見を発表したりディスカッションしたりする機会を設け、実践的な英語コミュニケーション能力の向上も目指す。																		
到達目標		就職や卒業後のビジネスのために有効なTOEICスコアを獲得できるようになり、さまざまなトピックについて多様な英語のテキストを駆使しながら、効果的なコミュニケーションができるようになる。																		
授 業 計 画	回数	内 容																		
	1	Unit 1 Pre-Test (Homework: Grammar Tips & Quiz)																		
	2	Review test→Unit 2 Daily Life																		
	3	Review test→Unit 3 Airport (Homework: Grammar Tips & Quiz)																		
	4	Review test→Unit 4 Traffic→how to write an email																		
	5	Reiview test→Unit 5 Hotel (Homework: Grammar Tips & Quiz)																		
	6	Review test→Unit 6 Bank→how to write a news article																		
	7	Review test→Unit 7 Office (Homework: Grammar Tips & Quiz)																		
	8	Review test→Unit 8 Meeting→how to create an effective speech																		
	9	Review test→Unit 9 Employment (Homework: Grammar Tips & Quiz)																		
	10	Review test→Unit 10 Product→how to fill out an application																		
	11	Review test→Unit 11 Order (Homework: Grammar Tips & Quiz)																		
	12	Review test→Unit 12 Contract→how to write a proposal																		
	13	Review test→Unit 13 Business (Homework: Grammar Tips & Quiz)																		
	14	Review test→Unit 14 Health→how to create an effective presentation																		
15	授業内最終テスト																			
授業外学習		宿題（毎週2時間程度）																		
教科書 参考文献		『New Gateway to the TOEIC L&R Test 』（金星堂）																		
評価項目 評価方法		理解度（文法宿題）60% 理解度（授業内最終テスト）40% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		こども映画教育Ⅱ						担当教員		熊澤誓人 ほか									
科目区分	教養(コミュニケーション)		科目分類		選択		授業形態		演習		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3・4	開講学期	後期（夏期集中）		ターム		—		講義型		E		校舎	白山・外部		5	5	3	7
履修条件		映像教育の実践を学ぶ。コース問わず履修可。「こども映画教育Ⅱ」の受講は、「こども映画教育Ⅰ」の履修と単位取得が必須となる。																	
授業概要		麻生区役所地域みまもり支援センター、イオンシネマ新百合ヶ丘と共催の小学生対象映画制作ワークショップ『こども映画大学』とのコラボレーション。この授業を履修した大学生がワークショップに参加した小学生たちに映画作り（シナリオ作りから撮影・編集・発表会進行まで）を指導しながらともに作品を作り上げ上映する。 こども映画教育Ⅰで学んだこと及び過去に行われた『こども映画大学』の作品及びメイキング映像をもとに、映画の力を活かした教育についてより深く考えながらワークショップの準備を行う。 ワークショップの実践。『こども映画大学』を円滑・安全に行えるよう実行する。映画としての表現方法、発想の過程、その面白さ、チームワーク、課題を体験し、学び合う。＊コロナなど感染症の状況や特殊な事情によりワークショップ内容や授業計画が変更になる場合があります。																	
到達目標		映画のもつ力を教育現場で活かす発想、方法論を身に付ける。また映画を通じた活動によって社会をより豊かにするための方法論を身に付ける。小学生に映画づくりを教えることで今まで得た知識・技術を確認することができる。自分と違う価値観とは何かを考える機会になる。川崎市麻生区の取り組みに参加することで自分の故郷や住んでいる町に置き換え、町と人の関係、町と教育の関係を見つめなおすことができる。																	
授業計画	日数	内 容																	
	1	『こども映画大学』の理解。過去の『こども映画大学』作品鑑賞・メイキング映像を含めた報告 『こども映画大学』の進め方（主題・役割・安全管理・運営方法などの話）・履修した大学生のスタッフ及び役割編成 ワークショップの為の機材取扱い講座①（カメラ・録音・編集） 『こども映画大学』ワークショップ準備①（スタッフ打ち合わせ・会場づくり・プレゼン資料作成）																	
	2	麻生区地域みまもり支援センターの取り組み紹介。 『こども映画大学』ワークショップ準備②（スタッフ打ち合わせ・会場づくり・プレゼン資料作成） 『こども映画大学』進行リハーサル① ワークショップの為の機材取扱い講座②（カメラ・録音・編集）																	
	3	『こども映画大学』ワークショップ準備③（スタッフ打ち合わせ・会場づくり・プレゼン資料作成） 『こども映画大学』進行リハーサル②																	
	4	『こども映画大学』ワークショップ①（小学生参加） 映画の仕組み説明（映画とは？ スタッフの仕事） シナリオ作り 機材の取扱説明（小学生にカメラや録音機材の使い方を教える） シナリオを基にした班決め・配役やスタッフ決め ワークショップ終了後大学生はシナリオをもとに打ち合わせ・小道具など買い出し・撮影準備																	
	5	『こども映画大学』ワークショップ②（小学生参加） ロケハン・本読み・リハーサル・撮影 ワークショップ終了後、大学生は撮った素材を編集機に取り込み、編集準備																	
	6	『こども映画大学』ワークショップ③（小学生参加） 編集・発表会進行表作り・役割決め・発表会リハーサル ワークショップ終了後、大学生は上映会準備																	
	7	『こども映画大学』ワークショップ④（小学生参加） 発表会@イオンシネマ新百合ヶ丘 ワークショップ終了後、大学生はあとかたづけ																	
	8	ワークショップを振り返って（スタッフ報告会・意見交換・来年度へ向けて）																	
授業外学習		「こども映画教育Ⅰ」の理解・復習 映画制作実習及び講義での体験・知識・理解を深めておく																	
教科書 参考文献		千葉茂樹・中山周治編 『映像教育の実践的研究～シネリテラシー教育の可能性を探る』（日本映画大学、2014年）																	
評価項目 評価方法		積極性（ワークショップへの参加態度）50% コミュニケーション力（仲間や小学生たちと連携し遂行する力）25% チーム貢献度（ワークショップを進行・実践するための力）25%																	

科目名		キャリア・サポート						担当教員		富山省吾 ほか									
科目区分	教養(コミュニケーション)		科目分類		選択		授業形態		講義		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3	開講学期	後期		ターム		4	講義型	C1		校舎	白山						20	
履修条件		特になし																	
授業概要		専門コースに進んだ学生へのキャリアサポートを具体的に行う講義。講義全般を通して学生のキャリア形成への理解を促し、自分自身のキャリアのスタートへ向かう心構えを持てるようにする。6週間に亘って映画界の最前線で活躍する本学OBやゲスト講師を招き、それぞれのゲストの専門分野でのこれまでの経験と積み上げた実績とその相関関係を理解し、幅広い視点と知見を得ることで自分自身のキャリア形成への道筋を具体的に考えられるようにする。映像業界のみならず社会人として働くことの意義も認識できるようにする。授業内容例として。●毎年変更が加えられている、国と業界の就活に関連する最新状況を理解する。●最新の映画映像業界の実情を把握する。●就業と就職の違いについて知る。●映画映像業界における起業について学ぶ。●映像業界におけるフリーランスは他業種フリーランスとは異なる専門性と創造性を持つ。映像業界ならではのフリーランスの心得を知る。●留学生が特に留意すべき注意点を知る。●日本映画界の新しい取り組みである「映画制作適正化機関」と「スタッフセンター」について学ぶ。後半2週間はまず企業の人事担当者から就職活動の現状について学び、続いて一線で活躍するキャリアコンサルタント（国家資格名称）から現在の就職活動に必要なノウハウを実践的な講義によって学ぶ。※ゲスト講師の人選と内容は変更になる場合があります。																	
到達目標		自らの進路を具体的に考察するための知識を、ゲスト講師の体験談や仕事の内容の具体的解説から理解する。就職というものについての専門的知識を取得する。それらの知識を元に、自分自身の将来、キャリア形成について現実的で具体的な行動を起こすことが出来るようにする。最終的な目標は進路決定をする手順と心構えを身に着け、実践すること。																	
授業計画	回数	内 容																	
	1	授業ガイダンスに加えて、日本の映画映像業界の現状と展望、課題を認識する。他業種を含めた日本の就職就業の現況を知る。フリーランスと就職の違いについて、さらには映画映像フリーランスの特殊性と現況を学ぶ。																	
	2	ゲスト講師 映画制作の実情を大手映画会社の制作部門の立場から講義、解説してもらう																	
	3																		
	4	ゲスト講師 制作プロダクションから見た日本映画界の現状と展望。起業やプロデューサーが目指す新たな取り組みについて学ぶ																	
	5																		
	6	ゲスト講師 映画界を横断するキャリアを持つ方から話を伺い、日本の映画界の多様性を知ると同時に、全体を俯瞰して自分のキャリア形成への指針とする																	
	7																		
	8	ゲスト講師 制作現場で働く映画大学卒業生の生の声を聴き、働く環境の現状と心構えを認識する(映像制作)																	
	9																		
	10	ゲスト講師 様々な職場で働く映画大学卒業生の生の声を聴き、働く環境の現状と心構えを認識する(映像制作以外の分野)																	
	11																		
	12	ゲスト講師 映画会社や映像制作会社の人事担当者から企業の希望する人材について、就職活動全般について注意点を聞く																	
	13																		
	14	キャリアコンサルタントによる就職ノウハウ講義 エントリーシートの書き方、面接のポイントのほか、グループワークで企業面接の攻略法を探る																	
15																			
授業外学習		目指す業種・企業の研究を進める。3年後期に行うべき就活とは何か？という情報収集をして、自分の就活計画を立てる。映画界、およびマスコミ業界の仕事の仕組みやスタッフの在り様などを、就職本等を読んで理解しておく。																	
教科書 参考文献		「就活手帳2026」（授業内で配布）																	
評価項目 評価方法		毎回授業後にレポート(リアクションペーパー)を必ず提出すること。 授業の理解度・文章力・表現力・積極性（全8回のリアクションペーパーの内容)100%																	
		出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																	

科目名		映画史基礎（4年生）						担当教員		伊津野知多、田辺秋守					
科目区分	教養(映画史)			科目分類	選択	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	4	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F	校舎	白山				15	5	
履修条件		誰でも履修できる（1年次、2年次に本科目を失格・不合格となった者も履修可能）。ただし「映画ソムリエ」は対象外となる。													
授業概要		日本映画大学に入ったからには最低限見ておかねばならない映画史上重要な作品50本を各自で鑑賞し、鑑賞ノートを作成する。最終学年に改めて映画史的知識を復習し、足りない知識を補い、映画についてことばで表現できるようになることを目的としている。 定期的に実施する授業では、受講生それぞれが自分のことばで見た映画についてプレゼンテーションすることを求める。 映画を理解するには、まず見なければならぬ。しかし、素晴らしい映画は必ず喜びを与えてくれる。ぜひ楽しんでできる限り多くの作品に触れてほしい。													
到達目標		①映画史上重要な作品について理解を深めることができる。 ②映画について考えたことをことばで表現できるようになる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。													
授業計画	週数	内 容													
	—	各自で映画を鑑賞し、鑑賞ノートを期日に提出する（見る順番は自由）。年に数回の授業日がある。 以下のスケジュールを各自で把握しておくこと。4月15日の授業①で知らせるほか、随時掲示版で確認できる。（メールでのスケジュール連絡はしない） 1年次、2年次に本科目に挑戦して失格および不合格になった学生は、既に購入・記入済のノートを使用して続きを書くことができる。ノートを紛失した場合は再度購入しなければならない。 4月15日（火）3限 授業① ガイダンス／この科目の説明と詳しいスケジュールについて 「映画史基礎鑑賞ノート」購入 6月3日（火）5・6限 授業②＋鑑賞ノート提出①（授業内） 20作品以上記入すること。この時点で20作品鑑賞していることが必須。 9月9日（火）4・5限 授業③＋鑑賞ノート提出②（授業内） 10作品以上記入すること。この時点で30作品鑑賞していることが必須。 12月23日（火）2・3限 授業④＋鑑賞ノート提出③（授業内） 50作品すべて鑑賞していることが必須。 ※鑑賞ノートの返却スケジュールは別途掲示。													
授業外学習		指定された50本の映画を鑑賞し、鑑賞ノートにレポートを書く。（指定された授業日以外は全て各自の授業外学習である。）													
教科書 参考文献		「映画史基礎鑑賞ノート」 作品のDVDは図書館と白山事務室で借りることができる。貸出のルール（ガイダンスで知らせる）を守って利用すること。													
評価項目 評価方法		①積極性・主体性・表現力（授業でのプレゼンテーションの内容）10％ ②理解度・応用力・成長力（鑑賞ノートの内容）90％ 期日までに指定の本数が記入された鑑賞ノートを提出しなければ、その時点で不合格になるので注意すること。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		国際合同制作〈日韓合同映画制作〉					担当教員	天願大介 ほか						
科目区分	教養〈コミュニケーション〉		科目分類	選択	授業形態	演習	単位数	4	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1・2・3・4	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F	校舎		新百合・白山	15	15	5	5
履修条件		事前の知識はとりあえず必要とされない。												
授業概要		日本映画大学の学生と韓国国立芸術総合学校の学生が交互に監督を出し、共同で短編作品を制作する。撮影は日本と韓国で交互に行われる。日本で撮影する脚本は韓国側が選んだものから日本側が決定する。監督は韓国、撮影技師、録音技師、主要スタッフは日本、仕上げは韓国で行う。主演俳優は韓国。翌年はそれが逆になる。この授業は日本で撮影する場合のもので、準備と現場のみ、隔年開講となる。 ※2025年度は韓国で撮影する年となるため休講となる。												
到達目標		学生時代に合作を経験する。異文化に触れ、映画制作がドメスティックなものでないことを体験する。												
	回数	内 容												
	—	（１） 決定した脚本をもとにスタッフを編成し、ロケハン、キャスティング、諸準備を行う。 （２） 韓国チーム来日。顔合わせ。脚本打ち合わせ。オーディション等。 （３） 韓国チームが帰国している間、諸準備を進める。 （４） 韓国チーム再来日（クランクアップまで）。ロケハン、キャスティング等最終決定。 （５） クランクイン〜クランクアップ。												
授業外学習		韓国文化に触れておくこと。韓国映画を見ておくこと。過去の日韓合同映画制作の作品を見ておくこと。												
教科書 参考文献		特になし。												
評価項目 評価方法		チーム貢献度（責任を持って役割を果たしたか） 50％ 積極性（共同作業に積極的に参加する姿勢） 25％ コミュニケーション能力 25％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。												

科目名		シナリオ基礎演習						担当教員		青島武、井土紀州 ほか											
科目区分		基礎		科目分類		必修		授業形態		演習		単位数		2		DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		1	開講学期	前期	ターム	1	講義型	D7	校舎	白山				10		7	3				
履修条件		この科目が不合格となった場合は留年となる。																			
授業概要		シナリオの書き方の基礎を習得するとともに、映画製作がシナリオ作りから始まることを体験する。ドラマという概念を学び、それがどのようにシナリオとして表現されるのかを既存の作品などの考察などを通して学ぶ。また自作のシナリオ執筆の過程において、プロットの組み立て（構成）、柱、ト書き、セリフ、箱書きなどの執筆上の基本ルールを理解し、さらに人物の作り方、シーンの作り方、ストーリーの展開方法、省略の技法、回想形式などの基本となるシナリオ作法を身につける。																			
到達目標		シナリオを執筆するうえでの基本ルールを理解し、自らの発想をシナリオとして表現できる能力を身につける。																			
授業計画	日数	内 容																			
	1	シナリオとはどういうものか？ 既存のシナリオ（完成した映画）を基に、書式や表現技法を学ぶ。																			
	2	シナリオを書くために必要なことは？ 人物造形、題材、テーマ、ストーリー展開などを学ぶ。																			
	3	与えられた課題でワンシーンを書いてみる。個別での講評によって書式について具体的に学ぶ。																			
	4	短編シナリオ(200字詰め原稿用紙で30枚)のためのプロットを作る。																			
	5	プロットを元にシナリオ執筆に向けて、箱書き（構成）を学ぶ。																			
	6	箱書きを基にシーンに割り、シークエンスやシーンについて理解した上でシナリオ執筆にとりかかる。																			
	7	書き上げたシナリオを個別での講評を経て改訂（直し）をする。 改訂したシナリオを発表して全員で合評する。																			
授業外学習		プロットの執筆。それを元にした短篇シナリオ(200字原稿用紙30枚)の執筆。																			
教科書 参考文献		授業内で配布される既存作品のシナリオ等のプリント。																			
評価項目 評価方法		技術習熟度（シナリオ作品）：50％ 授業の理解度（受講態度）：35％ 授業の理解度（各回の課題）：15％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																			

科目名		映画制作基礎演習						担当教員		井土紀州、細野辰興 ほか					
科目区分	基礎			科目分類	必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	1	開講学期	後期	ターム	3	講義型	W9	校舎	白山・新百合		30	30	15	5	
履修条件	この科目が不合格となった場合は留年となる。														
授業概要	映画制作の過程を講義と実習によって経験する。まず、映画の演出、脚本、制作、演技、撮影、録音、編集などの基礎知識（役割・工程・用語・技法）を、それぞれの専門講師の講義で学ぶ。その後、各クラスにて映画制作を行う。各クラスには、指導監督（演出と制作）、撮影講師（撮影と照明）、録音講師（録音と仕上げ）の専門講師がついて、準備期間、撮影期間、仕上げ期間を通して、一本の映画を完成させる。仕上げ期間からは編集を指導する講師が参加。映画作りを理論と実践の両面から学びつつ、チームワークの大切さを体験する。上映・総括講評を経て、映画制作の全工程を体験する。														
到達目標	映画制作に必要な知識と技術と精神を修得する。今後、自分が映画とどう関わっていくのか、二年生以降のコース選択のための指針とする。														
授業計画	週数	内 容													
	1	【講義期間】 ・各分野の専門講師による講義が行われる。 講義内容（演出・制作・撮影・録音・編集・美術・デジタル技術等）													
	2	【講義＆シナリオ作成期間】 ・シナリオ指導講師とのシナリオ作り（学生の書いたシナリオから2、3本を選抜し、撮影のためのシナリオにリライトする。最終的に一本に絞る）。 ・各分野の専門講師による講義（演出・制作・撮影・録音・編集・美術・デジタル技術等）。													
	3	【準備＆技術習得期間】 ・指導監督、撮影講師、録音講師と合流。 ・カメラやマイクなどの機材が貸し出され、講師による撮影と録音の技術特講が行われる。 ・指導監督による演出特講と撮影のための準備が進められる。（ロケハン＝撮影場所探し、配役、衣裳＆小道具合わせなど）													
	4	【準備＆技術習得期間】 ・指導監督のアドバイスで準備を行う。（メインロケハン、美術打合せ、芝居リハーサルなど） ・撮影講師、録音講師による技術特講が行われる。 ・専門講師によるメイクと美術の特講が行われる。													
	5	【準備＆技術習得期間】 ・指導監督のアドバイスで引き続き準備を進める。（撮影総合スケジュール制作、オールスタッフ打合せなど） ・学生が自分たちで撮影したり照明を使ったり、録音したりできるように講師の指導のもとで練習する。													
	6	【撮影期間】 ・クランクイン、撮影。（演出部、製作部、撮影部、録音部を順番に体験する）													
	7	【撮影＆仕上げ期間】 ・撮影、クランクアップ。片付け。 ・編集講師が合流して、仕上げの講義が行われる。講師のアドバイスで、編集作業を行う。（撮影済みデータなどの取り込み、ラフカットラッシュなど）													
	8	【仕上げ期間】 ・編集講師の指導で編集作業を行う。（編集打合せ、編集ラッシュ、オールラッシュ） ・録音講師の指導で仕上げに必要な音素材を集める。（音ロケ、フォーリー、アフレコ）													
	9	【仕上げ期間＆上映】 ・録音講師のアドバイスで整音作業を行う。（ダビング打合せ・音楽・整音・ダビング＝ファイナルミックス） ・発表会、片付け													
授業外学習	参考試写、ロケーションハンティング・衣裳・小道具の収集・下調べ等及び現場リハーサルなど														
教科書 参考文献	各講師によるテキストの配布														
評価項目 評価方法	授業の理解度（期末レポートの内容） 20％ 積極性（グループワークの参加態度） 40％ チーム貢献度（役割への取り組み） 40％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		長編シナリオ演習Ⅰ						担当教員		青島武、井土紀州 ほか										
科目区分		基礎		科目分類		必修		授業形態		演習		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年		1	開講学期	後期	ターム	4	講義型	D5	校舎	白山	10		7	3						
履修条件		この科目が不合格となった場合は留年となる。																		
授業概要		プロの講師が10人前後の学生に対してマンツーマンの態勢で指導し、「200字詰め原稿用紙で200枚の長編シナリオを書くこと」を目的としたプロット（ストーリー）を書き上げる。題材とテーマを見つけ、人物を造形して、映画になるべきドラマを作り出す。その構想と執筆過程において、シナリオ技術を学び、「ドラマとは人間を描くこと」だと理解し、自らの手でドラマを作り出すことの面白さを学習する。																		
到達目標		長編シナリオ執筆のための題材を見つけてプロット（ストーリー）を書く能力を身につける。																		
授業計画	日数	内 容																		
	1	長編プロット執筆のために「ドラマとは?」「人を描くとは」などの基礎知識を学ぶ。																		
	2	題材やテーマなどを掘り下げ、人物を造形し、ログライン（要約されたストーリー）を経て、ストーリーを考える。																		
	3	ストーリー展開において起承転結、三幕などの「構成」を考え、人物の心理状態や「葛藤」や「対立」などによる心情変化が展開の柱であることを学ぶ。																		
	4	書き上げたプロットの講評を受けて、改訂の方向性を考える。（テーマや人物、ストーリー構成などを再度検討する）																		
	5	改訂したプロットをブラッシュアップし、長編シナリオの執筆に向けた準備をする。																		
授業外学習		プロットの執筆。																		
教科書 参考文献		必要に応じて各講師が選択した既存のシナリオが配布され、DVDによる参考上映が行われる。																		
評価項目 評価方法		技術習熟度（完成したプロット）：50％ 授業の理解度（受講態度）：35％ 授業の理解度（各回の課題）：15％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		長編シナリオ演習Ⅱ						担当教員		青島武、井土紀州 ほか											
科目区分		基礎		科目分類		必修		授業形態		演習		単位数		2		DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		2	開講学期	前期	ターム	1	講義型	D5	校舎	白山					10		7	3			
履修条件		春休み中に書き上げた「200字詰め原稿用紙」で200枚程度のオリジナルシナリオの提出（2025年3月31日17:00提出締切）。																			
授業概要		「長編シナリオ演習Ⅰ」で書いたプロットを元に春休み中に執筆したシナリオを、担当講師による面談指導によって改訂（直し）を行って「決定稿」に仕上げる。200枚という長さに達しているか、ハシラ・セリフ・ト書きなどの書き方がシナリオ書式として適切かという基本的な部分の見直しとともに、書かれている内容が決定稿シナリオとして相応しい出来となるまで、「テーマ」「キャラクター」「ストーリー構成」「セリフとト書きの表現」「心理描写」などを検証して改訂する。 なお、完成したシナリオは学内のシナリオコンペにノミネートされ、外部選考委員による選考が行われ優秀作を決定する。優秀賞等の受賞者は、学長により表彰されるとともに、機関誌『日本映画大学だ！』に掲載される。																			
到達目標		シナリオを書くうえでの基本ルールを復習し、シナリオ（映画）の構造を深く理解することで、オリジナルの長編シナリオを書く力を身につける。																			
授業計画	日数	内 容																			
	1	個別指導①																			
	2	個別指導②																			
	3	個別指導③																			
	4	個別指導④																			
	5	個別指導⑤																			
授業外学習		シナリオの改訂作業。																			
教科書 参考文献		必要に応じて参考資料などを配布する。																			
評価項目 評価方法		技術習熟度（完成したシナリオ）：50% 授業の理解度（各回の改訂進度）：35% 授業の理解度（受講態度）：15% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																			

科目名		長編シナリオ演習Ⅰ（編入生）						担当教員		青島武						
科目区分		基礎		科目分類	必修	授業形態	演習	単位数		2	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		2	開講学期	前期	ターム	1	講義型	D5	校舎	白山			10		7	3
履修条件		編入生														
授業概要		「200字詰め原稿用紙で200枚の長編シナリオを書くこと」を目的としたプロット（ストーリー）を書き上げる。題材とテーマを見つけ、人物を造形して、映画になるべきドラマを作り出す。その構想と執筆過程において、シナリオ技術を学び、「ドラマとは人間を描くこと」と理解し、自らの手でドラマを作り出すことの面白さを学習する。														
到達目標		長編シナリオ執筆のための題材を見つけてプロット（ストーリー）を書く能力を身につける。														
授業計画	日数	内 容														
	1	長編プロット執筆のために「ドラマとは?」「人を描くとは」などの基礎知識を学ぶ。														
	2	題材やテーマなどを掘り下げ、人物を造形し、ログライン（要約されたストーリー）を経て、ストーリーを考える。														
	3	ストーリー展開において起承転結、三幕などの「構成」を考え、人物の心理状態や「葛藤」や「対立」などによる心情変化が展開の柱であることを学ぶ。														
	4	書き上げたプロットの講評を受けて、改訂の方向性を考える。（テーマや人物、ストーリー構成などを再度検討する）														
	5	改訂したプロットをブラッシュアップし、長編シナリオの執筆に向けた準備をする。														
授業外学習		プロットの執筆。														
教科書 参考文献		必要に応じて各講師が選択した既存のシナリオが配布され、DVDによる参考上映が行われる。														
評価項目 評価方法		技術習熟度（完成したプロット）：50％ 授業の理解度（受講態度）：35％ 授業の理解度（各回の課題）：15％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		長編シナリオ演習Ⅱ（編入生）						担当教員		青島武										
科目区分		基礎		科目分類		必修		授業形態		演習		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年		2	開講学期	後期		ターム		3	講義型		D5		校舎	白山			10		7	3
履修条件		編入生。「200字詰め原稿用紙」で200枚程度のオリジナルシナリオの提出。																		
授業概要		提出したシナリオを、担当講師による面談指導によって改訂（直し）を行って「決定稿」に仕上げる。200枚という長さに達しているか、ハシラ・セリフ・ト書きなどの書き方がシナリオ書式として適切かという基本的な部分の見直しとともに、書かれている内容が決定稿シナリオとして相応しい出来となるまで、「テーマ」「キャラクター」「ストーリー構成」「セリフとト書きの表現」「心理描写」などを検証して改訂する。																		
到達目標		シナリオを書くうえでの基本ルールを復習し、シナリオ（映画）の構造を深く理解することで、オリジナルの長編シナリオを書く力を身につける。																		
授 業 計 画	日数	内 容																		
	1	個別指導①																		
	2	個別指導②																		
	3	個別指導③																		
	4	個別指導④																		
	5	個別指導⑤																		
授業外学習		シナリオの改訂作業。																		
教科書 参考文献		必要に応じて参考資料などを配布する。																		
評価項目 評価方法		技術習熟度（完成したシナリオ）：50％ 授業の理解度（各回の改訂進度）：35％ 授業の理解度（受講態度）：15％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		長編シナリオ演習Ⅱ（再履修）						担当教員		青島武										
科目区分		基礎		科目分類		必修		授業形態		演習		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年		4	開講学期	前期	ターム	1	講義型	D5	校舎	白山	10		7	3						
履修条件		「長編シナリオ演習Ⅱ」不合格者。春休み中に書き上げた「200字詰め原稿用紙」で200枚程度のオリジナルシナリオの提出（2025年3月31日17:00提出締切）。																		
授業概要		提出したシナリオを、担当講師による面談指導によって改訂（直し）を行って「決定稿」に仕上げる。200枚という長さに達しているか、ハシラ・セリフ・ト書きなどの書き方がシナリオ書式として適切かという基本的な部分の見直しとともに、書かれている内容が決定稿シナリオとして相応しい出来となるまで、「テーマ」「キャラクター」「ストーリー構成」「セリフとト書きの表現」「心理描写」などを検証して改訂する。																		
到達目標		シナリオを書くうえでの基本ルールを復習し、シナリオ（映画）の構造を深く理解することで、オリジナルの長編シナリオを書く力を身につける。																		
授 業 計 画	日数	内 容																		
	1	個別指導①																		
	2	個別指導②																		
	3	個別指導③																		
	4	個別指導④																		
	5	個別指導⑤																		
授業外学習		シナリオの改訂作業。																		
教科書 参考文献		必要に応じて参考資料などを配布する。																		
評価項目 評価方法		技術習熟度（完成したシナリオ）：50％ 授業の理解度（各回の改訂進度）：35％ 授業の理解度（受講態度）：15％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		演劇WS						担当教員		天願大介、熊澤誓人 ほか						
科目区分	専門基礎			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数		2	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年	1	開講学期	後期（春期集中）	ターム	4	講義型	E	校舎	新百合				10	10		
履修条件		事前の知識はとりあえず必要とされない。しかし、特別にやむを得ない事情のない限り、全回出席することが履修の条件となる。														
授業概要		ワークショップとは体験を通じて学ぶ講座のこと。この講座では演技の基本であるいくつかの要素を体験することで、映画制作における俳優の役割をより深く理解する。しかし俳優を訓練するのが目的ではない。あらゆる表現は筋肉の運動である。その発見を各自の創作活動にフィードバック出来るようにするため、最後に身体を使った短いドラマを創作する（講師の都合によりスケジュールは入れ替わることがある）。														
到達目標		全員が俳優を体験することで、身体がすべての表現の土台であることと、その重要性を理解する。														
授 業 計 画	日数	内 容														
	1	身体を使った表現とは何か 身体表現概論														
	2	舞踏家によるワークショップ（肉体の発見）														
	3	俳優によるワークショップ（感覚の記憶 感情の記憶）														
	4	身体表現でのドラマ作り1														
5	身体表現でのドラマ作り2 上演 （講師のスケジュール次第では2コマ連続で行う）															
授業外学習		生活の中で身体感覚を意識する。														
教科書 参考文献		特になし														
評価項目 評価方法		理解度（レポート）25％（肉体と精神の繋がり、身体操作によって内面を表現する仕組みの理解） 発想25％（各講師に学んだことを応用し、いかに己の身体を使ったか） 積極性25％（各課題に取り組む姿勢、どれだけ積極的に体験・表現したか） 受講態度25％（チームへの貢献、コミュニケーションの努力、意見の提案） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		ドキュメンタリーWS						担当教員		安岡卓治 ほか					
科目区分	専門基礎			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	前期	ターム	1	講義型	D7	校舎	新百合		5	5	5	5	
履修条件		演出系は必ず履修すること。撮影照明コース、録音コース、編集コース、文章系は履修することが望ましい。													
授業概要		ドキュメンタリーとは何か？ 映画そのものの歴史の原初に「ドキュメンタリー」の特質があった。様々な技術的な発展とともに進化し、現在形にまで到達した「ドキュメンタリー」の変遷を授業を通して学習しながら、身近な映像ツールを使って、その進化の過程を体感する。学生それぞれの価値観や映画観、そして創り手としてのまなざしの片鱗を感じ取り、それぞれにとって、これから臨むであろう映画のビジョンを探る発端となることを目指す。「ドキュメンタリーとは事実」という現在の誤解はどこから始まったのか。映画そのものが持つ虚構性を前提にしながら、劇映画とドキュメンタリーの境界領域を探り、現実の様々な創り手がそれぞれのまなざしを通して、どのように切り取られ、それが作品へと紡ぎ上げられるかをワークショップを通して学習する。													
到達目標		①ドキュメンタリーを通して映画の多様性を知る。 ②創作ワークショップを通じて基礎的なドキュメンタリーの制作技術を理解する。 ③企画ワークショップを通じて、現実を注視した映画の企画法を学ぶ。													
授業計画	日数	内 容													
	1	②講義：ドキュメンタリーとは何か？(1) すべてはドキュメンタリーから始まる 映画の原点としてのドキュメンタリー ③④：企画ワークショップ①課題企画案の検討 演出系学生によるプレゼンテーション（企画班編成） ※課題：企画書更新・新規企画書（5/9締切）													
	2	②講義：ドキュメンタリーとは何か？(2) 小型映画という原点 ③④WS：短編制作(1)／参考試写『麻生から吹く風』／風景からはじまる物語：チーム編成＋ロケハン（撮影可・動画＋写真） ※課題：ロケハン（動画・写真撮影含む）													
	3	②講義：ドキュメンタリーとは何か？(3) 今村昌平のドキュメンタリー ③④WS：短編制作(2)：課題検証『風景からはじまる物語』班別プレゼンテーション													
	4	②③④WS：短編制作(3)撮影（動画・写真＋編集）：物語を風景から見出す/ストーリーの核となる人物探し ※課題：構成項目：聴くことリスト＋撮ることリスト』作成													
	5	②課題中間検証：各班進行プレゼンテーション ③④WS：企画ワークショップ②企画づくりに向けたアプローチ													
	6	②③④WS：短編制作(4)撮影＋編集（動画・写真）： ※課題：『風景からはじまる物語』制作													
	7	②③課題合評『風景から生まれる物語』 ④講義：ドキュメンタリーとは何か？④虚構としてのドキュメンタリー（作品抜粋紹介「ドキュメンタリーは嘘をつく」） ■課題「企画書」													
授業外学習		取材調査、企画書立案 撮影													
教科書 参考文献		『日本のドキュメンタリー 2 政治・社会編』岩波書店、『日本のドキュメンタリー 3 生活・文化編』岩波書店、『日本のドキュメンタリー 4 産業・科学編』岩波書店、松本俊夫著「映像の発見」、「311を撮る」岩波書店、佐藤真著「ドキュメンタリーの修辞学」みすず書房、『日本映画大学で実践しているドキュメンタリー映像制作の作法』玄光社													
評価項目 評価方法		○チーム貢献度（役割への取り組み）（30％）。 ○課題企画書提出とその更新（30％）。 ○授業の理解度（毎回のリアクションフォームの内容）（40％）。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		映像リテラシーWS					担当教員		さのてつろう、若林大介 ほか					
科目区分	専門基礎			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	2	開講学期	前期	ターム	1	講義型	D7	校舎	新百合		5	5	5	5
履修条件	1 年次に履修した「映画制作基礎演習」での動画撮影・編集仕上げについて復習しておく。 撮影照明コース、演出系は必ず履修すること。録音コース、編集コース、文章系は履修することが望ましい。													
授業概要	カットを割って映像を撮影していく意味を理解するためのワークショップ授業。 映像表現のみで他者へ意味を伝えることでカットの意味を理解する。 少人数グループのワークショップ形式で進行する。 お題に沿って班内で企画をまとめ、動画撮影を行い、編集をする。 1）モバイル内だけで簡単な映像制作をおこなう。 2）撮影した素材をPCに取り込み、更にハイスベックな編集仕上げの実践をおこなう。 3）授業内で発表を行い、うまくいったところ失敗したところの指摘をおこなう。 お題を発展させて複数回、撮影編集を繰り返すことにより映像のリテラシーを高める。													
到達目標	「引き」「寄り」「アップ」の映像サイズの意味と効用をしっかりと理解しカットを割ることを身につける。 撮影を始める前に、班内で理解を深めることがどれだけ大切かを体感・理解しコミュニケーション能力を向上させる。 画で表現しなければならないことと、演出で表現しなければならないことの差をしっかりと理解する。 カットバックの基本や、イマジナリーラインなど映像リテラシーの基礎を習得する。													
授業計画	回数	内 容												
	1	映像時代に社会マネジメントなどにも必要不可欠な映像の重要性などの解説。 授業内でどのようなことに重きを置いて進めるかななどを説明。 過去の実習作品などをもとにカット割りの解説を行う。												
	2	短編映像制作1本目。 出された課題について各班で内容を話し合い、簡易的なカメラを使い、撮影・編集し作品を作る。 時間の許す限り撮影・編集を繰り返す。 撮影・編集は簡易的に行う。												
	3	短編映像制作1本目講評。 各班で撮影編集した動画に対し、全体で講評・指導を行う。												
	4	短編映像制作2本目。 より難しくなった課題について各班で内容を話し合い、1本目同様に撮影をおこなう。 編集はPCに取り込んで編集ソフトを扱い、ソフトウェアの扱いを学ぶ。												
	5	短編映像制作2本目講評。 各班で撮影編集した動画に対し、全体で講評・指導を行う。												
	6	短編映像制作3本目。 さらに難しくなった課題について各班で内容を話し合い、1、2本目同様に撮影をおこなう。 2本目同様に編集はPCに取り込んで編集ソフトを扱い、ソフトウェアの扱いを学ぶ。												
	7	短編映像制作3本目講評。 各班で撮影編集した動画に対し、全体で講評・指導を行う。 ワークショップ全体を通しての総括を行う。												
授業外学習	自分の持つスマートフォンの撮影機能をしっかりと理解する。 撮影・編集のアプリケーションについて調べておく。													
教科書 参考文献	「デジタルムービー実践ガイドブック」玄光社MOOK、映像制作のためのサウンド収録・編集テクニック													
評価項目 評価方法	各課題に対する取り組みの姿勢（25％） 班員とのコミュニケーションを図る姿勢（25％） 制作した映像から判断される映像の基礎技術の理解度と成長度合い（25％） 最終レポートの内容（25％） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		文芸WS						担当教員		大澤信亮					
科目区分	専門基礎			科目分類	選択必修	授業形態	講義	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	前期	ターム	1	講義型	C1	校舎	白山		10		5	5	
履修条件	毎回、宿題として一定量の文章を読み、授業前に課題を提出することを、出席の条件とする。														
授業概要	この講義は、文芸コースで3年次に演習として行っている授業（「文芸専門演習Ⅰ」「文芸専門演習Ⅱ」）を、圧縮したものである。想定している受講者は、文芸コースを希望している文章系の2年生、文章系以外でも文芸（コース）に興味のある学生である。 全15回（1＋2×7）の授業のうち、前半は小説の読み方と書き方を、後半は評論の読み方と書き方を、実践的に学ぶ。 小説を書くうえで必要なものは、「小説とは何か」という問いである。もちろん、文法、語彙、構成といった「文章力」も必要だが、より重要なことは、小説を書き得る自由な精神をいかに獲得し、それをいかに維持し続けるかである。ここではそれを教科書（購入すること）をもとに学ぶ。 評論を書くうえで必要なものも、「評論とは何か」という問いである。ここでも、論理、構成、引用といった論文のルールはあるが、重要なことは、何をいかに論じるのか、その過程で自分がいかに「自分」を放棄して、対象に接近できるかである。ここではそれをいくつかの映画論をもとに学ぶ。 どちらも共通するのは「読むこと」が大切だということだ。自分以外のものに出会うということでもある。そして「書くこと」もまた出会いとしてある。自分（の考え）を書くのではなく、出会いそれ自体を書くこと。なのでこの授業では毎回、読み、書かなければならない。学力は問わない。														
到達目標	小説や評論を読めるようになること。小説や評論を書けるようになること。														
授 業 計 画	回数	内 容													
	1	イントロダクション（授業の進め方、目的、評価方法、各回の課題の書き方、その他）													
	2	小説とは何か													
	3	高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』 レッスン1～レッスン4（pp.11～68）													
	4	小説をつかまえる													
	5	高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』 レッスン5～レッスン7（pp.71～175）													
	6	自分の「小説」を書く（2000字程度）													
	7	高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』 レッスン8（pp.177～178）													
	8	文章の読み方													
	9	高橋源一郎『「読む」ってどんなこと？』 はじめに（pp.4～25）													
	10	映画とは何か（濱口竜介論1）													
	11	濱口竜介監督『passion』、濱口竜介「偶然を捉えること」													
	12	映画を見るときはどういうことか（濱口竜介論2）													
	13	濱口竜介『『東京物語』の原節子』													
	14	自分の「評論」を書く（2000字程度）													
	15	大塚英志「沢尻エリカの出ていた映画のこと」													
授業外学習	毎回、宿題として一定量の文章を読み、授業前に課題を提出することを、出席の条件とする。														
教科書 参考文献	【教科書】高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』（岩波新書、924円）														
評価項目 評価方法	文章力（第2回、4回、8回、10回、12回の課題）：50% 理解度・応用力（第6回の小説課題・第14回の評論課題）：50% 全7回の課題の平均で評価する。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		演出論 1							担当教員		緒方明 ほか							
科目区分		専門基礎		科目分類	選択必修	授業形態	演習		単位数		2	DPとの対応		技術	協調	理論	教養	
履修学年		2	開講学期	後期	ターム	3	講義型	D5		校舎	新百合			5	5	5	5	
履修条件		演出系は必ず履修すること。																
授業概要		各講師が映画を観せ、テーマに沿って演出の観点から映画演出を検証する。 (授業内容・テーマは変更することがあるので、事前に確認すること)																
到達目標		映画鑑賞力と映画演出の基本の考え方を修得する。																
授 業 計 画	日数	内 容																
	1	「映画の背景～人物たちの身振り、しぐさ」 サウトシキ教授																
	2	「映画表現の自由と不自由」 原正弘准教授																
	3	「映画を『映画』にする『対立』の構造」 細野辰興特任教授																
	4	「脚本と演出の関係性」 天願大介学長																
	5	「演出とは仕草の発見である」 井土紀州准教授																
授業外学習		担当講師の演出・脚本作品を事前に観ておくこと。																
教科書 参考文献		特になし																
評価項目 評価方法		・毎回の講義に対する習得度(リアクションペーパーの内容) 30% ・理解度・応用度 (レポートの内容) 70% レポート課題は、「いずれかの講義(または全ての講義を絡めて)に沿ったテーマで演出について論考する」 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																

科目名		録音WS						担当教員		若林大介、弦巻裕 ほか					
科目区分	専門基礎			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	後期	ターム	3	講義型	D5	校舎	新百合		5	5	5	5	
履修条件		録音コースは必ず履修すること。演出系、撮影照明、編集コース、文章系は履修することが望ましい。													
授業概要		音は映像と並んで、映画の大事な構成要素である。 この講座は映画に携わる者であれば必ず知っておくべき映画の音の基礎知識を、技術に偏らずに解説していく講座である。 映画の音の3要素である台詞・音楽・効果音。それぞれのスペシャリストを招聘しそれぞれ専門的な観点から講義を行う。 映画の音の歴史、映画音楽や効果音の歴史を学ぶと共に、実際の現場ではそれがどのように作られているかを解説する。 技術と共に発展してきた映画音響システムが、現在ではどのような形になっているか。またこれからどのように変化していくか。それを知るために、最先端の映像表現技術の現状を紹介、解説する。 また、様々なメディアでどのような音響設計がなされているかを学ぶ。													
到達目標		・映像、音響の構成要素である音楽、セリフ、効果音について学び、理解を深める。 ・映画および様々な映像メディアの音響フォーマットの理解を深める。 ・それぞれの技術者の思考や観点を知り、映画全般へ理解を深める。													
授業計画	日数	内 容													
	1	映像と音楽(小林洋平) 現役の映画音楽作曲家を招聘。 映画音楽基礎 映画における音楽の役割を考える。 フィルムスコアリングとは何か、映画音楽らしさとは何か、音楽の物理的機能や心理的機能、技術的機能を解説する。 過去の名作をもとに映画音楽がどのように機能しているかを具体的に解説・説明を行う。													
	2	映像と効果音(ゲスト効果音技師) 現役のフォーリーアーティストを招聘。効果音の作り方とその仕事を語ってもらう。 映画音響における効果音の役割。効果音にも様々な要素がある。その種類と役割を解説する。 映画の効果音の時代による変化の推移。 国よっての効果・サウンドデザインの作り方の違い 日本における効果音制作の現状とその特徴。 音響効果技師によるフォーリー作業の実践。													
	3	録音技師の仕事Ⅰ(紅谷・弦巻) 映画録音の歴史と技術の移り変わりを2週にわたって行う。 映画録音界のベテランに映画最盛期の録音の数々を語ってもらう。 監督達との逸話やエピソードなどを語ってもらい、その技術背景を考える。 映画の音響表現が、技術の進歩と共に拡大してきた歴史を考える。 同時録音の苦労とそのメリット、デメリットを考える。													
	4	録音技師の仕事Ⅱ(弦巻) 弦巻特任教授の作品を元に近年のサラウンド音声の作品についてその仕事を語ってもらう。 35mmフィルム作品の上映。 録音技術・音響処理についての具体的な工夫と体験を存分に語る。 「音響から観る映画体験について」討議と受講生とらの質疑応答。													
授業外学習	5	音響基礎(若林) 映画音響フォーマットの推移。 TV音響＆ネットムービーの音響について。 映画音響施設の技術的仕様。 様々なメディアにおける音のミキシングの違い。 最新の音響施設および音響機材の傾向を解説。													
	今村作品を何作品か見ておく。(授業内にて案内)														
教科書 参考文献		授業時に適宜、関連資料を配布する。													
評価項目 評価方法		積極性（受講姿勢）20% 理解度（毎回のリアクションペーパーの内容）40% 理解度（期末レポートの内容）40% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		動画配信WS						担当教員		さのてつろう、藤田直哉 ほか										
科目区分	専門基礎			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	2	開講学期	後期	ターム		3	講義型	D8		校舎	白山		10	5	3		2			
履修条件		インターネットでの配信動画に興味を持っていること。																		
授業概要		昨今の動画配信サイトを中心とした配信系動画を通じて映像表現の可能性を研究する。 YouTubeを中心にどのような動画が配信されどのような動画が多く視聴されているかを学び、実社会や社会活動への影響を考える。 広告収入の仕組みを理解し、企業やアーティストなどがYouTubeというプラットフォームをどのように利用しているかを学ぶ。 法令違反や著作権侵害などコンプライアンスの問題を学ぶ。 実際の制作においては、1分～15分程度の作品を作り、企画立案・撮影・編集を行う。完成した作品は大学のYouTubeで公開する。																		
到達目標		自由な発想をし映像表現の可能性について思考できるようになる。 映像表現においてのコンプライアンスを理解し発信できるようになる。 配信動画を企画・立案から撮影・出演・編集まで、自前で作成することができるようになる。																		
授 業 計 画	日数	内 容																		
	1	YouTube動画概論——配信動画の収益の仕組み、企画、マーケティングの仕方を学ぶ（ゲスト講師）																		
	2	動画配信における著作権——権利を侵害しない動画配信の仕方を学ぶ（ゲスト講師）																		
	3	ショート動画——新しいエンターテインメントの現場から実践を学ぶ（ゲスト講師）																		
	4	コンプライアンスと倫理——人権や倫理、炎上など、ネットでの表現で注意すべき点を事例から学ぶ（藤田）																		
	5	企画・撮影																		
	6	撮影・編集Ⅰ																		
	7	撮影・編集Ⅱ																		
	8	評価・合評・講評・配信																		
授業外学習		授業で講師が言及するYouTubeなどの動画を観ていく。週 8 時間程度が望ましい。校外での撮影などの時間も含む。																		
教科書 参考文献		教員作成によるテキスト／適宜指示																		
評価項目 評価方法		1授業の理解度(毎回のリアクションペーパーの内容):40% 2授業の応用度(完成した作品):40% 3積極性(授業内での発言など):20% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		映画プロデュースWS						担当教員		有吉司、菅野和佳奈 ほか					
科目区分	専門基礎			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	後期	ターム	3	講義型	C1	校舎	白山		10	5	3	2	
履修条件	なし														
授業概要	● 映画とは何か。映画作りに絞っても答えは多様だ。この多岐に及ぶ道を辿って映画を作り上げるのがプロデューサーの仕事だ。授業はまず映画プロデューサーは何をする人間かを明確に提示する。完成した映画は配給・宣伝を経て興行・配信されて行くが、これらの分野にも各々担当するプロデューサーが存在する。今日の映画におけるプロデューサーの仕事の多様さと、その結果として専門化するプロデューサーの業務領域を知って、将来の進路として検討できるようにする。 ● 映画の要諦である脚本作りについて決め手となるメソッドを提供し、プロデューサーとしてのみならず映画人としてのスキルを身につける。 ● 授業の中盤4週間を掛けてプロデューサーとしての実務能力を獲得するために、全員がグループに分かれて「企画開発」「企画書の作成と改訂」をおこない、さらにその発表・合評によって企画書の多様さとプレゼンテーションの重要性を習得する。これにより企画書作成が自身のキャリア向上の大きな戦力になる必修スキルであることが実感できるようになる。 ● 個人の企画書を最終授業日までに完成し、提出する。 ● 日本映画界の未来に向けた取り組み「映画制作適正化」や「スタッフセンター」や、自身の就職・就業に向けた理解を深めることができる。														
到達目標	● 「プロデューサーは何をする人か。その仕事はどのようなものか」を現実感を伴って理解出来るようになる。 ● 4週間のワークショップでグループで企画書を作成し、これからの映画人にとって必須能力である企画書作成力と、グループで一つの目標にたどり着く力を身につけることができる。 ● プロデューサーにとって強い武器となる脚本を読み解いて評価する力、弱点を見つけ改訂する技能が取得できる。														
授業計画	回数	内 容													
	1	講座の目的と目標の提示。今日の世界にあって「映画プロデューサーは何をする人か」を改めて見つめ直す													
	2	映画の立ち上げ<企画>から始まり、資金調達・準備・撮影を経て作品が完成した後も、配給・宣伝・興行・配信と映画を観客に届けるプロデューサーの仕事は続く。プロデューサーの多岐にわたる仕事を各段階の流れに沿って知る													
	3	今日の専門化するプロデューサーの業務区分、加えて時代に呼応して求められるプロデューサーの能力、その立脚点について学ぶ													
	4	映画に欠かす事の出来ない存在である脚本について。名作の実例を上げながらプロデューサーの視点から傑作の神髄を学ぶ													
	5	優れた脚本に求められる要素の解明と、実際の脚本作りとその改訂に欠かせない必須条件や技法を列挙した解説から学ぶ													
	6	企画書作成①週目 映画の企画とは何か。企画開発と企画書の作成について具体的に必要な要素や項目を挙げて学ぶ													
	7	グループに分かれてメンバーの相互理解を図り、協働作業に向かう準備を行う。自分たちの目指す企画と映画について討議する													
	8	企画書作成②週目 各自が作成して来た企画書をグループ内でプレゼンし合い、協議してその中から1本を選ぶ													
	9	選んだ企画について「提案企画書」として仕上げるためのグループ内の役割分担を含めた作業計画を立てる													
	10	企画書作成③週目 グループごとに全員の前で「提案企画書」の発表をおこない、全員での質疑応答をへて課題を発見する													
	11	質疑応答で得た課題や講師からの指摘を受けて、グループ内で「検討企画書」に向けて改訂を始める													
	12	企画書作成④週目 改訂した企画書「検討企画書」の発表をグループごとにおこなう。全員での質疑応答もおこなう													
	13	引き続き「検討企画書」の発表をおこなう。各グループ終了時に2度の発表によって得た成果と経験をメンバー各自が発表する													
	14	企画書作成のまとめ グループ発表の総括をしながら、改めて企画書の意味と作成のポイントを確認する													
	15	デジタル革命とコロナ禍を経て劇的に変容する映画の世界の未来像とプロデューサーの係わり方について考察して展望する													
授業外学習	グループによる企画書作成と改訂作業は授業時間では完了できない。授業後も面談とリモートを活用してチームメンバーで進める事が特に重要。2回のプレゼンテーションの準備にはリハーサルが必ず必要。「各自の企画書」の作成は授業で学んだことの成果を見せる好機となる。														
教科書 参考文献	富山省吾『ゴジラのマネジメント』（アスキー・メディアワークス、2015年）														
評価項目 評価方法	積極性・コミュニケーション力（企画書作成への取り組み姿勢）60％ 主体性・理解度（各自の企画書の内容）20％ 理解度（リアクションペーパーの内容）10％ 積極性（授業での発言・質問）10％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		映画美術WS						担当教員		緒方明、サウトシキ、原正弘 ほか					
科目区分	専門基礎			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	後期（春期集中）	ターム	4	講義型	E	校舎	白山		10	5	3	2	
履修条件		特になし													
授業概要		講師陣（緒方明、サウトシキ、原正弘、美術監督・磯見俊裕）により映画美術の概念・作品と美術の関係・美術のなすべき役割、仕事を解説。課題シナリオをもとに物語の「場」を想定・セットプランを作成セットの建て込み・飾りこみ・撮影を経験しセットワークの基礎を習得。													
到達目標		課題シナリオが美術に求めている物語の「場」について、調べ・考え・皆で協議し・セットプランを作成する。 セットの建て込みを経験し、各工具の扱いの基礎・パネルの扱い・建て方の基本を習得する。 セット飾り・作り物の作成を行い物語に即した生きた空間づくりを経験する。 セットプランの作成、撮影を含めたセットワークを通じ共同作業の必然性を体感・理解する。													
授 業 計 画	日数	内 容													
	1	映画美術について（講義）													
	2	課題シナリオをもとに求められている「場」を考える（講義）													
	3	課題シナリオをもとにしたセットプラン作成（発表） 各自作成したプランの発表、各プランを全員で講評／実行プランの確定・作成／準備における役割、担当分け													
	4	セット建て込み実習①（道具・工具の扱い指導）													
	5	セット建て込み実習②（建てこみ残・建具設置・エイジング・電飾の配線など）													
	6	セット建て込み実習③（セット仕上げ・装飾準備、搬入・作り物仕上げ）													
	7	セット建て込み実習④（飾り込み・修正）													
	8	セット建て込み実習⑤（飾り込み・修正）													
	9	セット建て込み実習⑥（撮影照明セッティング・撮影、バラシ、片付け）													
	10	セット建て込み実習⑦（借り物返却・片付け・清掃・ラッシュ・総括）													
授業外学習		建てるセットの時代考証・出道具&持道具の調査 撮影のための構想・シナリオ・装飾品の調達・撮影した素材をつかっの編集・音仕上げ													
教科書 参考文献		なし													
評価項目 評価方法		1 積極性・主体性（共同作業への自覚と取り組み態度） 40％ 2 作業の理解度・習熟度（セットプランの内容、道具・工具の扱い） 30％ 3 セット制作への貢献度（参加態度） 30％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		脚本創作論						担当教員		青島武、荒井晴彦 ほか										
科目区分	専門基礎			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3	開講学期	前期	ターム		2	講義型	D5	校舎	新百合		3	2	10	5					
履修条件		脚本コースは必ず履修すること。演出コース、文芸コースの学生も履修することが望ましい。																		
授業概要		毎回、脚本家や監督などのゲスト講師を招いて携わった作品を上映する。ゲスト講師と脚本家である担当教員との対話及び学生とのティーチンによって、その作品がどのように作り出されたのかをあきらかにしていく。事前に上映される作品の脚本をプリントで配布するので、必ず読んで出席すること。 ※とりあげる作品及びゲスト講師は、事前に脚本を配布する際に告知する。																		
到達目標		プロによる映画製作において、どのように脚本が作られていくのかを知ることによって脚本作りが創作の原点であることを理解する。																		
授業計画	日数	内 容																		
	1	ゲスト講師① 企画のなりたち、脚本作りの方法、脚本と演出の関係など多面的に上映作品を分析するとともに、ゲストの映画作家としての仕事を通して脚本とは何かを学ぶ。																		
	2	ゲスト講師② 企画のなりたち、脚本作りの方法、脚本と演出の関係など多面的に上映作品を分析するとともに、ゲストの映画作家としての仕事を通して脚本とは何かを学ぶ																		
	3	ゲスト講師③ 企画のなりたち、脚本作りの方法、脚本と演出の関係など多面的に上映作品を分析するとともに、ゲストの映画作家としての仕事を通して脚本とは何かを学ぶ																		
	4	ゲスト講師④ 企画のなりたち、脚本作りの方法、脚本と演出の関係など多面的に上映作品を分析するちともに、ゲストの映画作家としての仕事を通して脚本とは何かを学ぶ																		
	5	ゲスト講師⑤ 企画のなりたち、脚本作りの方法、脚本と演出の関係など多面的に上映作品を分析するとともに、ゲストの映画作家としての仕事を通して脚本とは何かを学ぶ ※全講義終了後、上映作品の中から3本を選んでレポートを提出する。																		
授業外学習		事前に配布する上映作品の脚本を読む。																		
教科書 参考文献		脚本のプリント。																		
評価項目 評価方法		積極性（質疑応答などの受講態度） 20% 授業の理解度（最終提出のレポート） 50% 授業の理解度（毎回のリアクションペーパーの内容） 30% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		編集実践技術論						担当教員		大永昌弘 ほか										
科目区分	専門基礎			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3	開講学期	前期	ターム		2		講義型		D5		校舎	新百合		3		2	10	5	
履修条件		編集コースは必ず履修すること。演出、撮影照明、録音、ドキュメンタリーコースは履修することが望ましい。																		
授業概要		様々なジャンル・媒体の映像編集と編集者あるいは編集周辺に関わる人々を招いて、映画編集者である講師とともに話を聴いたりしながら編集の大切さや面白さを学ぶ。																		
到達目標		様々な編集及び編集関連技術を講義や体験で知り、映像編集の成り立ちを理解し、映像を組み立てる思考を得る。																		
授業計画	日数	内 容																		
	1	注目される映画編集者と編集助手を招いて作品と編集についての講義を行う																		
	2	映画以外の編集者（ドキュメンタリー・アニメーション・CM・予告編など）を招き、作品と編集についての講義を行う																		
	3	映画以外の編集者（ドキュメンタリー・アニメーション・CM・予告編など）を招き、作品と編集についての講義を行う																		
	4	映画編集とは・・・編集者たちのさまざまな技法について学ぶ																		
	5	映画編集とは・・・編集者たちのさまざまな技法について学ぶ																		
授業外学習		授業で紹介された作品、引用された作品は観ておくこと。																		
教科書 参考文献		なし																		
評価項目 評価方法		授業の理解度（授業内での質疑応答）：30% 主体性・積極性（授業への参加態度）：30% 授業の理解度（毎回のリアクションペーパーの内容）：40% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		特殊撮影・VFX WS 1						担当教員		尾上克郎、緒方明 ほか					
科目区分	専門基礎			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	2	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3	開講学期	前期	ターム	2	講義型	D7	校舎	新百合		10	5	3	2	
履修条件	定員を超えた場合は選考を行う。														
授業概要	VFXと特殊撮影の基礎。 現代の映画製作において、作品のジャンルを問わずVFX（ヴィジュアルエフェクト）や特殊撮影技術は必要不可欠なものとなっている。そのため映画制作に携わる人にとって、その職種に関わらずVFXや特殊撮影の制作プロセス、基礎概念や基礎技術を学び理解することは極めて重要である。 このコースでは特殊撮影とVFX（ヴィジュアルエフェクト）の歴史と概念を学び、VFXや特殊撮影を取り込んだ映像制作の実際を学び経験する。														
到達目標	特殊撮影とVFXの基礎的概念を学び、グループWSによりサンプルシークエンス（動画）を制作することで、特殊撮影とVFXシークエンス完成までの制作プロセスを理解するとともに、日々進化し続ける映像制作技術の理解と対応力を養うことを目的とする。														
授業計画	日数	内 容													
	1	【講義1】 特殊撮影の歴史～特撮からVFXへ。特殊撮影の誕生からインカメラエフェクト、オプティカルエフェクト、そしてデジタルエフェクトへ。いかにして技術や概念が発達してきたか 担当：尾上（特撮監督・VFXスーパーバイザー）													
	2	【講義2】 ビハインド・ザ・シーンから学ぶ、最新技術の応用ならびに様々なVFXの手法。 担当：尾上（特撮監督・VFXスーパーバイザー）													
	3	【講義3】～実写映画におけるVFXの基礎① 2 D 合成基礎 ①画面合成基礎（面割り合成）②黒バック撮影などによるダブルエクスポージャー（ダブル合成）の概念③クロマ・キー合成の概念と撮影方法（グリーン・バック/ブルー・バック） 担当：尾上（特撮監督・VFXスーパーバイザー） 【WS1】～静止画を使った画面合成の基礎													
	4	【講義4】～実写映画におけるVFXの基礎② 3 D 合成基礎 ①実写撮影と3 D C G ② 3 D オブジェクトの作成とレンダリング ③オブジェクト・アニメーション ④3Dオブジェクトのライティング ⑤ 2 D 画面と3Dオブジェクトの合成 担当：尾上（特撮監督・VFXスーパーバイザー）													
	5	【WS1（グループ）】～基礎的合成の実践 1 ・あらかじめ用意した撮影素材とCG素材を使用してCG/レイヤー合成の概念習得 ①動画合成ソフトの概要と基本操作 【使用ソフト：After Effects or Digital Fusion】													
	6	【WS1（グループ）】～基礎的合成の実践 2 ・あらかじめ用意した撮影素材とCG素材を使用してCG/レイヤー合成の実習～レイアウトと仮合成 ②個別に撮影された素材の管理方法と合成 ③3DCG素材の合成													
	7	【WS1（グループ）】～基礎的合成の実践3 ・あらかじめ用意した撮影素材とCG素材を使用してCG/レイヤー合成の実習～完成度を上げる ④色や明るさを調整してなじませる ⑤2Dエフェクトを加える ＊ サンプルシークエンスの完成と講評													
授業外学習	授業で紹介された作品、引用された作品は観ておくこと。														
教科書 参考文献	なし														
評価項目 評価方法	理解度（WSで制作したシークエンス）50％ 理解度（課題レポート）50％														
	出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		演出論 2						担当教員		サトウトシキ、原正弘 ほか						
科目区分		専門基礎		科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数		2	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		3	開講学期	後期	ターム	4	講義型	D4	校舎	新百合			5	5	5	5
履修条件		演出、身体表現・俳優コースは原則履修すること。その他コースは履修することが望ましい。														
授業概要		演出家・映画監督は映画をどのように見るのか。 他者が撮った映画から何を受け取るのか。 毎回、各講師（演出家）がテーマを決めて作品を選択し、授業内で観賞。各作品の脚本・演出を検証する。 卒業制作に向けての脚本執筆・制作の参考にする。 （担当講師及びその順番、授業内容は変更することがあるので必ず掲示等で確認すること）														
到達目標		映画を観て読み取る力と演出力（演技指導・カット割りなど）を体得する。														
授 業 計 画	日数	内 容														
	1	映画とは何か？演出とは何か？① 担当：原正弘（映画監督）														
	2	映画とは何か？演出とは何か？② 担当：ゲスト講師														
	3	映画とは何か？演出とは何か？③ 担当：ゲスト講師														
	4	映画とは何か？演出とは何か？④ 担当：サトウトシキ（映画監督）														
授業外学習		授業内で上映される映画の再検証。及び授業内で言及された他の映画も観ることが望ましい。														
教科書 参考文献		なし														
評価項目 評価方法		・理解度・応用度（いずれかの講義を参考にしたレポートの内容） 70% ・毎回の講義に対する習得度（リアクションペーパーの内容） 30% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		特殊撮影・VFX WS 2						担当教員		尾上克郎、緒方明 ほか						
科目区分		専門基礎		科目分類	選択必修	授業形態	演習		単位数	2	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		3	開講学期	後期	ターム	4	講義型	D4		校舎			新百合	10	5	3
履修条件		定員を超えた場合は選考を行う。														
授業概要		実写作品におけるVFXの基礎概念の応用と特殊撮影の実践と理解。 特殊撮影の技法やVFXは、映画の発想を豊かにする。この授業では、基礎概念の理解なくしては完成できないシンプルなサンプルストーリーを元にVFXと特殊撮影を適用した短編作品のプランニングから仕上げまでを実践し、特殊撮影とVFXの応用法を学び経験する。														
到達目標		グループWSによるブレンディングと協業から相互理解を深め、互助の重要性を学ぶ。 VFXシーンのプランニングと特殊撮影の実行と完成までの実践による基礎力の強化。 短編作品の完成を通して、実写映画での特殊撮影/VFXの使用法と発想を習得する。														
授業計画	日数	内 容														
	1	【講義】 講義～特殊撮影・VFX技法の復習と応用。画面合成の理解を深める。 担当：尾上（特撮監督・VFXスーパーバイザー） 【WS1】 チーム分けを行い、サンプルストーリーに基づくカット割りと絵コンテの作成。 撮影プランニング（ロケハン、スケジューリングなど）と撮影準備														
	2	【WS2】 撮影（特殊撮影、グリーンバック撮影などを含む）														
	3	【WS3】 撮影（特殊撮影、グリーンバック撮影などを含む） 及び データ・トランスフォームの体験														
	4	【WS4】 編集と合成作業（VFXカットの編集及び加工プロセスの実践） 短編完成と上映ならびに講評														
授業外学習		授業で紹介された作品、引用された作品は観ておくこと。														
教科書 参考文献		なし														
評価項目 評価方法		積極性（WSへの取り組み姿勢）40％ 理解度（毎回のリアクションペーパーの内容）20％ 理解度（短編作品の成果）40％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		上映企画WS I						担当教員		石坂健治										
科目区分	専門基礎			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		2		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3	開講学期	後期		ターム		4	講義型	D8		校舎	白山		2	5		10	3		
履修条件	「映画ソムリエ」になるための最後の関門である。「日本映画史 1」「映画史基礎」「映画流通論」「映画プロデュースWS」を単位修得済であること。自分でイベントを企画・運営してみたい者の参加をのぞむ。普段からお気に入りの映画館を見つけ、その番組ラインアップをチェックする習慣をつけておくことがのぞましい。																			
授業概要	映画上映の「思想」を学び、段階的なワークショップを行って映画上映のスペシャリストを養成する、東京国際映画祭ディレクターによる実践授業である。最終的には企画コンペを経て、優秀な上映企画を選定することをゴールとして設定する。（引き続き4年次の「上映企画WSⅡ」で学内または学外で優秀企画をイベントとして実施する。） 映画を上映することの意味、プログラムを組み立てることの批評性、名画座や公共上映の歴史と意義、地域コミュニティとの連帯（コミュニティシネマの理念）等も講義しつつ、ワークショップを進める。 （作業の進捗状況により、開講する曜日や教室が一部流動的な場合あり。授業時に告知します。）																			
到達目標	映画上映とは世界に対する「批評的な行為」であるという考えを身につける。																			
授 業 計 画	日数	内 容																		
	1	ガイダンス：そもそも映画を上映することの意味、プログラムを組み立てることの批評性、名画座や公共上映の歴史と意義、地域コミュニティとの連携、といった理念的な側面を概説し、問いを立ててグループ討論を行う。																		
	2	グループ実習①：各班に分かれ、班員それぞれが予算のシミュレーションをしながら上映プログラム（たとえば「5日間で10本を上映する特集のプログラム」）を作成し、グループ内で討議し、各グループが企画を一つずつ決定（つまり地区予選）。																		
	3	担当教員または外部講師による特別講義①：映画上映の歴史について グループ実習②：各グループが企画のプレゼンテーションを行い、全体の最優秀企画を決定（つまり全国大会）。																		
	4	グループ実習③：各グループが企画のプレゼンテーションを行い、全体の最優秀企画を決定（つまり全国大会）。 担当教員または外部講師による特別講義②：興行から非劇場上映までの上映形態について																		
	5	グループ実習④：映像ソフトを調達し、チラシと解説パンフレットを作成。全員が何らかの業務を担当する。																		
	6	担当教員または外部講師による特別講義③：映画上映と配給・宣伝について イベント準備																		
	7	イベント準備																		
	8	イベント準備																		
授業外学習	自分なりの上映候補作品を観る（週6時間）。学外の映画祭などに参加する（週2時間）。																			
教科書 参考文献	特になし																			
評価項目 評価方法	授業の理解度（リアクションペーパー20%＋上映会企画書とそのプレゼンテーション80%） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																			

科目名		上映企画WSⅡ						担当教員		菅野和佳奈、石坂健治						
科目区分		専門基礎		科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数		2	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		4	開講学期	前期	ターム	—	講義型	F	校舎	白山・外部			3	10	2	5
履修条件		「上映企画WSⅠ」に合格した者														
授業概要		3年次の「上映企画WSⅠ」を経て特集上映会の内容が固まったところから、実際に外部の会場（川崎市アートセンター）を使って一般に公開する映画イベントを開催するところまでが本講の範囲である。（曜日、教室などが不定期で流動的になる期間あり。授業時に告知します。）														
到達目標		①映画を観客に届けることを理解する。 ②映画館というリアルな空間で映画を上映することを理解する。														
	週数	内 容														
	—	映画祭の準備①——配給会社との出品交渉、ゲストとの出演交渉など 映画祭の準備②——宣材物やSNSを使った広報宣伝活動など 映画祭の準備③——上映会の進行台本の作成、各自の業務の割り振りなど 「宙ぶらりん映画祭」5/9（1日目） 「宙ぶらりん映画祭」5/10（2日目） 「宙ぶらりん映画祭」5/11（3日目） 上映素材の返却、会計の残務処理、イベントの総括など														
授業外学習		映画祭で上映する作品に関する資料を調べて読み、作品理解を深めること。広報宣伝活動や準備を各自進めること。														
教科書 参考文献		なし														
評価項目 評価方法		上映会の準備作業における貢献度（上映交渉、ゲスト交渉、宣伝、チラシ作成、原稿執筆など50%）＋上映会当日の貢献度（イベント運営、観客対応など50%） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		演出基礎演習Ⅰ〈ドキュメンタリー〉						担当教員		島田隆一、北川常寛、安岡卓治 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	前期	ターム	2	講義型	W9	校舎	新百合		20	20	20	20	
履修条件		演出系。「ドキュメンタリーWS」を履修していること。及び「映像リテラシーWS」を履修していることが望ましい。													
授業概要		本学創設者・今村昌平は、劇映画のみならずドキュメンタリーの名匠として知られている。その精神の根底には、徹底した人間観察への取り組みがある。映画の歴史が100年を超え、デジタル技術の革命的進化にともない、映画の表現方法の選択肢はすでにジャンルを超え多様なものとなっているが、骨太な人間観察の精神が優れた映画の基底にあることを忘れてはならない。本演習は、短編ドキュメンタリーの制作を通して、映画制作フローの多様性を学び、取材対象者との交流を深めながら、学生自らの人間観を拓げ、さらには現実を生きる人間を活写することの困難さ、人間に相対することの面白さを体得し、学生自らの映画ビジョンを深めるものとする。													
到達目標		■ドキュメンタリー映画制作に必要な基礎的な技術の習得 ■ドキュメンタリー映画の多様性を理解する ■短編制作の作業の流れを体験し、ワークフローを習得する													
授業計画	回数	内 容													
	1	■「企画会議」課題企画書の提出と検討 受講する全学生、指導担当の全講師が集い、提出されたすべての企画書を担当学生がプレゼンテーションし、全員で批評し、企画の可能性や課題を明らかにし、追加取材調査の作業の指針を探る。 ※課題：企画書更新													
	2	■「企画会議」＋班編成（6班編成） 更新した企画書を担当学生がプレゼンテーションし、全員で批評しながら、個人企画の共通性を勘案して制作班を編成する。編成された班毎に協議し、企画を一本化するとともに作業分担を図る。取材対象者の許諾書を得た段階で企画書を仕上げ、指導講師の承認を得た上で撮影を開始する。撮影に際しては、技術指導（撮影シミュレーション）を受講する。													
	3	■撮影① 撮影課題毎に技術指導（撮影シミュレーション）を受講した上で撮影する。撮影されたラッシュは指導講師とともにチェックし課題を明らかにしながら、撮影日程を調整する。インタビュー撮影を先行させることが望ましい。インタビューは撮った後編集システムの特講を受講し、速やかに素材タイムライン作成・カット表作成・文字起こし。													
	4	■撮影② 撮影課題毎に技術指導（撮影シミュレーション）を受講した上で撮影する。撮影されたラッシュは指導講師とともにチェックし、作品の主題を吟味し構成を組み立てる。構成に基づき追加撮影課題を明らかにして日程内に撮る。撮った後速やかに素材タイムライン化し、カット表作成、文字起こし。													
	5	■編集① 素材タイムラインからのOK出し・シーン仮組み・仮構成・仮編集・編集試写を繰り返しながら作品を錬成する。													
	6	■編集② 同上													
	7	■編集③＋整音＋カラーグレーディング 本編集を完了させ、音声レベルの調整、音質の調整等を行い、カラーグレーディングを行う。													
	8	■編集④＋整音＋カラーグレーディング 本編集を完了させ、音声レベルの調整、音質の調整等を行い、カラーグレーディングを行う。													
	9	■合評会 大教室に全学生、全講師が集い作品上映。上映後、担当学生が所感を述べ合評する。 ■総括 指導講師と学生が会し各々の作品の成果や課題を討議する。※課題リポート「制作をふりかえって」													
授業外学習		■制作課題：ドキュメンタリー映画企画書作成 ■取材調査													
教科書 参考文献		『日本映画大学で実践しているドキュメンタリー映像制作の作法』（玄光社）、『ドキュメンタリー・ストーリーテリング―「クリエイティブ・ノンフィクション」の作り方』（フィルムアート社）、『映像の発見』（清流出版）、『ドキュメンタリーの修辞学』（みすず書房）、『ヨコハマメリー：かつて白化粧の老娼婦がいた』（河出書房新社）													
評価項目 評価方法		○チーム貢献度（役割への取り組み）（40％）。○合評会での主張（20％）。 ○個人課題への取り組み（20％）。○積極性・主体性・協調性（授業に参加する姿勢）（20％）。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		撮影照明基礎演習						担当教員		さのてつろう、清久素延 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	前期	ターム	2	講義型	W8	校舎	新百合		30	30	15	5	
履修条件		撮影照明コース													
授業概要		撮影・照明についての基礎知識を座学と各種機材を使って学習する。絞りと照明比の関係を学ぶ。色温度と設定について学ぶ。シナリオという文字情報を映像表現に変換することを学ぶ。光をコントロールし映像表現につなげる。各種機材の特性と扱いを学ぶ。													
到達目標		* 露出・照明比・色温度を理解する。 * 共同作業の重要性を理解する。 * フレーム感覚を習得する。* 演出と撮影（照明）の関わりを理解する。 * 技術と同等に思考・思想があることを理解する。													
授業計画	週数	内 容													
	1	・撮影照明コース授業説明 ・撮影現場における撮影照明の役割													
	2	・露出講義。撮影駒数とシャッター開角度と絞り													
	3	撮影・録音合同現場演習①-準備～撮影 ・入射光式、反射光式メーターの使い方 ・グレーチャートの仕様概念と比率													
	4	撮影・録音合同現場演習②撮影 ・撮影・照明機材と特機種の取扱い													
	5	撮影・録音合同現場演習③仕上げ～スタジオ特講 ・光の色と種類と角度と質、その役割 ・フレームにおけるサイズの基本													
	6	撮影・録音合同現場演習④オールラッシュ～整音 ・特別講師による講義													
	7	撮影・録音合同現場演習⑤仕上げ整音～ダビング仕込み ・復習、振り返り													
	8	撮影・録音合同現場演習⑥仕上げ～ダビング ・復習、振り返り													
授業外学習		スマホカメラなどを使って自然光線で風景などを撮影し、検証してみる。スマホアプリなどを使って動画の撮影・編集をする。													
教科書 参考文献		「映画TV技術手帳」映画テレビ技術協会、「35/16mm FILM CAMERAS MANUAL」映画テレビ技術協会、「映画撮影術」フィルムアート社、「カメラ アシスタントマニュアル」西田和憲 日本映画撮影監督協会、「撮影・VFX/CG アナログ基礎講座」古賀信明著 スペシャルエフェクスタジオ													
評価項目 評価方法		* 技術的理解度 4 0 %（各種機材の設定ができる・各種機材の特性を理解し応用できる・照明比を理解している） * 協調性 4 0 %（コミュニケーション力・作品貢献度・積極性） * 理論/教養 2 0 %（映画・演劇は当然ながら、深く芸術に触れている・創作物に対し理論的に説明できる） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		録音基礎演習						担当教員		若林大介、弦巻裕 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	前期	ターム	2	講義型	W8	校舎	新百合		30	30	10	10	
履修条件		録音コース													
授業概要		「映画制作基礎演習」を経て、録音を学ぶことを志した学生のための科目である。 技術部の各セクションに携わるスタッフに必要な知識や心構えの概要の講義を行う。 録音の基礎となる音の物理基礎、電気の基礎、デジタルの基礎など必要な知識を学ぶ。 撮影コース・編集コースの学生と共に10分程度の作品を制作する。制作を行う中で、映画における音の役割と現場からポストプロダクションまで関わる録音技術者の仕事の流れ、つまり、映画における音の役割、録音とは何か、ミキシングとレコーディング、アフレコの技術等を一通り解説しなぞる。 DAW（Protools）やスタジオの使い方の講義を行う。 今後の演習・実習においては、この授業を修了したもののみが録音機材を操作することができる。													
到達目標		音とは何か？その物理的性質を理解する。 録音技術の基本を理解すると共に、マイクロフォンと録音機の基本的な仕組みを理解し、映画録音に最低限必要な機材の使い方を身につける。 スタジオの仕組みを理解し、簡単なアフレコ・フォーリー・ダビング作業を行える知識と技術を身につける。 セリフ・効果・音楽のそれぞれの効用を理解し、作品に音で演出を加えることを学ぶ。													
授業計画	週数	内 容													
	1	技術部(撮影、録音、編集)共通授業 映像作りの技術セクションに携わる人間にとって最低限知っておいた方がよい項目を、撮影・録音・編集それぞれの分野について学ぶ。 録音については、映画における音の役割、録音のワークフローと現場録音の解説、映画の音の遍歴、映画の音の三要素など。													
	2	録音コース基礎授業 録音を担当する人間にとって 音とは何か？録音とは何か？ マイクの仕組み＆ミキサーの取り扱い＆レコーダーとは？＆ケーブルの仕組み													
	3	録音コース基礎授業／撮影・録音合同現場演習①-準備～撮影 技術部にとっての脚本の読み方 現場機材講義 機材準備 撮影準備													
	4	撮影・録音合同現場演習②撮影 機材セッティングとboomオペレート／現場でのミキシングとレコーディング													
	5	撮影・録音合同現場演習③-仕上げ～スタジオ特講 音声素材の管理 編集ゼミとの素材受け渡し スタジオでの音声の基準のとりかた DAW[デジタルオーディオワークステーション]の基本 スタジオ機材の取り扱いの理解と習熟													
	6	撮影・録音合同現場演習④-オールラッシュ～整音 アフレコスタジオでの録音／効果音＆フォーリーの録音 編集部からの素材の受け取り／台詞の整音 いい音とは何か？													
	7	撮影・録音合同現場演習⑤-仕上げ整音～ダビング仕込み アフレコスタジオでの録音／効果音＆フォーリーの録音 編集部からの素材の受け取り／台詞の整音													
	8	撮影・録音合同現場演習⑥-仕上げ～ダビング 素材のミックス(ミックスダウン) 総括													
授業外学習		最近10年ほどの米国アカデミー録音賞、日本アカデミー録音賞、毎日映画録音賞の作品の中から数本を選んで鑑賞し、作品の中で音がどのような役割を果たしているかを考える。													
教科書 参考文献		『映画録音技術』日本映画・テレビ録音協会発行 書籍『はじめての人のための電気の基本がよ〜くわかる本』（発行 秀和システム 1200円＋税）													
評価項目 評価方法		撮影・録音合同現場演習での技能の到達度・仕上げにおけるスタジオ作業での技能到達度の評価 40％ 実習でのリーダーシップ、及びメンバーとのコミュニケーションや自分の役割への取り組み方を評価 40％ 基礎授業での授業理解度とミニテスト 20％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		編集基礎演習						担当教員		大永昌弘 ほか										
科目区分	専門			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		8		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	2	開講学期	前期	ターム		2	講義型	W8	校舎	新百合		30	30	15	5					
履修条件		編集コース。																		
授業概要		「映画制作基礎演習」を経て、編集を専攻することを志向した学生のための基礎講座である。映画における編集の重要性を認識するために編集の発生や成り立ちを把握し、基礎知識を身に付けつつ、技術的作業に要する道具・機材の取り扱い方を身に付け、さらに実験的にモンタージュしてみる。																		
到達目標		編集の発生や成り立ち、様々な編集技術の基礎を知り、初めて＜編集＞を意識して映像を組み立てる思考を体得する。 編集とは？ 編集部とは？を理解する。																		
授業計画	週数	内 容																		
	1	デジタル編集の基礎授業①（システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ） *個々のプロフィール映像を作成してみる																		
	2	デジタル編集の基礎授業②（システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ） *個々のプロフィール映像を作成してみる																		
	3	デジタル編集の基礎授業③（システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ） *個々のプロフィール映像を作成してみる																		
	4	デジタル編集の基礎授業④（システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ） *ワークフローの理解を深める																		
	5	技術3コース（撮影・編集・録音）が合同で演習をする① ……編集																		
	6	技術3コース（撮影・編集・録音）が合同で演習をする② ……編集																		
	7	技術3コース（撮影・編集・録音）が合同で演習をする③ ……ダビング																		
	8	技術3コース（撮影・編集・録音）が合同で演習をする④ ……上映・検証																		
授業外学習		授業で紹介された作品・引用された作品は観ておくこと。																		
教科書 参考文献		なし																		
評価項目 評価方法		技術：デジタル編集に必要な基礎技術の習熟度（作品制作）：40% 協調：基礎授業においての積極性、コミュニケーション能力（参加態度 役割への取り組み）40% 理論／教養：編集作業に対する理解度（作品制作）：20% ※課題を提出しない者は不合格となる。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		VFX特殊撮影基礎演習 I						担当教員		今井聡 ほか					
科目区分		専門		科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		2	開講学期	前期	ターム	2	講義型	W8	校舎			白山	30	30	15
履修条件		VFX特殊撮影コース													
授業概要		「映画制作基礎演習」を経て、VFX特殊撮影を学ぶことを志した学生のための科目である。 ① リテラシー向上 ●VFX・特撮の技術史から学ぶ基礎知識 ●作品鑑賞による技術分析と研究（通年） ② 特殊撮影基礎 ●特殊撮影の基礎概念と、撮影と照明技術の基礎理解。 ●特殊美術の基礎概念 ●特殊撮影によって生み出される特殊効果の基礎的理解と演習。実例手法ごとの技術解析と理解。 ③ 画像合成基礎 ●Photoshop・After Effectsチュートリアル ●画像合成概念													
到達目標		VFX・特撮に関するリテラシー向上と基礎的概念を理解し、最新技法につながる基礎を習得する													
授業計画	週数	内 容													
	1	特殊効果史 特殊撮影基礎 撮影術 照明術 リテラシー向上作品分析研究													
	2	特殊効果史 特撮美術概論 特殊撮影基礎 リテラシー向上作品分析研究													
	3	画像合成概論 画像合成基礎演習 リテラシー向上作品分析研究													
	4	特殊撮影演習 アニメーション基礎 リテラシー向上作品分析研究													
	5	特殊撮影演習 画像合成基礎演習 アニメーション基礎 リテラシー向上作品分析研究													
	6	特殊撮影演習 画像合成概念 リテラシー向上作品分析研究													
	7	特殊撮影演習 画像合成基礎演習 画像合成概論 リテラシー向上作品分析研究													
	8	3DCG基礎 画像合成基礎概念 リテラシー向上作品分析研究													
授業外学習		・技術習得が欠かせないため、授業で扱う編集ソフト、画像合成ソフトに習熟しておく。 ・授業で取り上げた作品、引用した作品を観ておく。													
教科書 参考文献		特になし													
評価項目 評価方法		理解度（毎回のリアクションペーパーの内容）50% 理解度（課題レポート）30% 積極性（授業への取り組み姿勢）20% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		マネジメント基礎演習Ⅰ						担当教員		有吉司、菅野和佳奈 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	前期	ターム	2	講義型	W8	校舎	新百合		30	30	15	5	
履修条件	マネジメントコース														
授業概要	マネジメントコースは映画の始まりである企画プロデュースから始めて、制作後の観客に届けるという映画が流れ着く川下まで両端を学ぶことで、映画のすべてを知ることを目指す。その第一歩として全体の流れ(ワークフロー)を俯瞰し、理解することから始める。 映画制作ワークフロー演習Ⅰでは企画開発から作品完成までの制作の工程を理解する。 映画公開ワークフロー研究では完成後の映画がどのような過程を経て観客に届けられるかを学ぶ。 映画の始まりである企画開発と企画書作成の基礎を学び、実際に企画のプレゼンテーションをする。 映画界で利用されている最新のDX アプリの機能を理解する。 上映会準備では上映会の意味を外部参加者と共有した上で、相応しい作品の選定や上映時期、参加者への告知方法などを共同作業として行い、協働他者との連携について学ぶ														
到達目標	「映画をビジネスとして扱うスキルを身につけること」これこそがコースの到達目標である。そのための手始めとして映画の作り方、売り方の工程を見渡すことで、映画と映画界の全体像を俯瞰できるようにする。映画の種である企画と企画書を作ることができるようになる。地域と連携した上映会準備をしてコミュニケーションと合意形成の重要性を知る。														
授業計画	週数	内 容													
	1	映画制作ワークフロー演習Ⅰ 映画公開ワークフロー研究 企画の立て方（企画書作成とプレゼンテーション）													
	2	映画制作ワークフロー演習Ⅰ 映画公開ワークフロー研究 企画の立て方（企画書作成とプレゼンテーション）													
	3	映画制作ワークフロー演習Ⅰ 映画公開ワークフロー研究 企画の立て方（企画書作成とプレゼンテーション）													
	4	映画制作ワークフロー演習Ⅰ 映画公開ワークフロー研究 企画の立て方（企画書作成とプレゼンテーション）													
	5	製作アプリ実習(現在タブレットで使われている製作アプリを実際に使って、その昨日を理解する)													
	6	映画制作ワークフロー演習Ⅰ 映画公開ワークフロー研究 企画の立て方（企画書作成とプレゼンテーション）													
	7	企画上映会準備 (白山まちづくり協議会共催)													
	8	企画上映会準備 (白山まちづくり協議会共催)													
授業外学習	企画書作成とその改訂作業。														
教科書 参考文献	特になし														
評価項目 評価方法	理解度（毎回のリアクションペーパーの内容）50% 理解度（課題レポート）30% 積極性（授業への取り組み姿勢）20% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		文章系基礎演習Ⅰ						担当教員		大澤信亮、藤田直哉 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	前期	ターム	2	講義型	W8	校舎	白山		30	30	5	15	
履修条件		文章系													
授業概要		文章系に進んだ学生が、脚本コースと文芸コースに分かれる前に、合同で文章執筆の基本を身につけることを目的としている。文章を活字として世に問うためには、思ったことを自由に発表できるネットとは違い、様々な手続きおよび、それに伴う責任が要求される。この授業では、1「協働作業による座談会」、2「個人作業による小説」、それらをコンテンツとして、3「雑誌の制作」を行う。それにより、将来文章を書いていこうと考えている受講生に不可欠の、他者と何かについて話し合う力、ひとりで文章を書く力、出版の基本的なルールを実践的に学ぶ。座談会は原則として企画ごとにチームで動くため、個人の怠慢や勝手は許されない。また、授業時間外での宿題（持ち帰りの作業）が多くなることが想定される。小説は、ただ書いて提出するだけではなく、相互に読み合い、全員で全作品の合評を行う。これらのプロセスを学ぶことは、4年次の文芸コースの卒業制作にも関係してくる。授業終盤には関川夏央先生による文章を書くためのワークショップを行う。													
到達目標		1 座談会を行う（企画立案、原稿執筆、原稿依頼、テープ起こし、まとめ、校正、など） 2 小説を完成させる 3 雑誌刊行の基本的な進进行を身につける													
授 業 計 画	週数	内 容													
	1	オリエンテーション：スケジュール確認													
	2	合宿（企画会議）：企画決定、表紙案決定、役割分担													
	3	編集会議：台割決定、進行確認 制作：個人原稿の執筆、企画原稿の進进行（座談会の収録・起こし・まとめ）													
	4	編集会議：進行確認 制作：個人原稿の執筆、企画原稿の進进行（対談・インタビュー等の収録・起こし・まとめ）													
	5	編集会議：進行確認 制作：掲載原稿（個人、企画）の締め切り													
	6	編集会議：進行確認、ページ数確定 制作：表紙完成、掲載原稿の完成 関川夏央先生によるWS													
	7	編集会議：進行確認 制作：校正作業、編集後記執筆 関川夏央先生によるWS													
	8	入稿（最終的な入稿とゲラの刷り出し） 関川夏央先生によるWS													
授業外学習		・授業開始前の課題提出と合評への参加（4000字程度の小説。締切は3月下旬。合評は4月と5月に各1日の予定。詳細はコース決定後に連絡） ・授業期間中の宿題（雑誌のコンテンツの企画・作成、自分の小説の推敲、WSでの課題）													
教科書 参考文献		とくになし													
評価項目 評価方法		技術習得度（個人課題の小説）40％ コミュニケーション力（共同課題の座談会への取り組み）40％ チーム貢献度（役割への取り組み）20％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		演出基礎演習Ⅱ〈ワンシーン〉						担当教員		緒方明 ほか										
科目区分	専門			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		8		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	2	開講学期	後期	ターム		4		講義型		W9		校舎	新百合		30		30	10	10	
履修条件		演出系。ペラ4～8枚程度の短編シナリオを事前に提出すること。																		
授業概要		①映画の基本である「物語を映像で語る」とはどうか。ワンシーンを演出することによってそのことを体得する。 人間の行為、出来事、感情を簡単なテキストや脚本を基に映像化していく演習。 合わせて、ロケハン、美術準備、演技指導、カット割り、編集作業も演習を通して体得する。 ②講師が監督する短篇作品にスタッフ・キャストとして参加し、作品制作の流れ、及び演出技術を体得する。																		
到達目標		シナリオの読解力を含め、演出の基本要素である演技・カット割りの能力を身につける。 映画制作における集団作業の重要性を学ぶ。 映画制作のノウハウを体得する。																		
授業計画	週数	内 容																		
	1	ゼミ内オリエンテーション…「物語を映像で語る」ために。 ワンシーン実習…準備																		
	2	ワンシーン実習…サイレント① 準備・撮影・編集・検証																		
	3	ワンシーン実習…サイレント② 準備・撮影・編集・検証																		
	4	ワンシーン実習…サイレント③ 準備・撮影・編集・検証																		
	5	ワンシーン実習…シンクロ 準備・撮影・編集・検証																		
	6	シミュレーション実習…指導監督・カメラマンのもと学生がスタッフになり、映画を制作する。 班編成・準備																		
	7	シミュレーション実習…撮影・編集																		
	8	シミュレーション実習…撮影・編集																		
	9	シミュレーション実習…発表・検証																		
授業外学習		・ガイダンスに参加し、教員の撮った作品を出来る限り観賞しておくこと。 ・ペラ4～8枚程度の短編シナリオの執筆。 ・講師に指定された作品、脚本を精読しておく。																		
教科書 参考文献		特になし																		
評価項目 評価方法		①共同作業への積極的な取り組み 40% ②映画制作・演出技術の習得 30% ③スタッフ・キャストとのコミュニケーション能力 30% (準備・撮影・仕上げ、それぞれの期間において2/3の出席を満たすこと) 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		撮影照明専門演習						担当教員		さのてつろう、清久素延 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	後期	ターム	4	講義型	W9	校舎	新百合		30	30	15	5	
履修条件		撮影照明コース													
授業概要		デジタルシネマ技術の特性を解説し、他コースと合同でプレイバック撮影（短編映画制作）を行う。 技術習得の「スキルアップ授業」を実践中心に行う。													
到達目標		*撮影照明の役割を理解し習得した技術を作品に反映できる。機材の運用が的確にできる。 *演出との関わりを深く理解し撮影現場の運営がスムーズにできる。													
授業計画	週数	内 容													
	1	デジタルシネマ基礎知識① ～技術解説													
	2	デジタルシネマ基礎知識② ～実践 ・デジタルシネマカメラを使用しての映像作品の為に、撮影スタジオで照明を学ぶ													
	3	デジタルシネマ基礎知識③ ～実践 ・デジタルシネマカメラを使用しての映像作品の為に、撮影スタジオで照明を学ぶ													
	4	技術三科合同プレイバック実習①／準備 ・「ショートドラマ映像作品」の制作の準備（完成尺10分程度） ・与えられたテーマに基づいて企画を考え、ロケハン等の準備を始める。 ・ロケハンの意味・方法～撮影に至るまで諸準備の重要性。													
	5	技術三科合同プレイバック実習②／撮影 ・技術レベルのスキルアップを図る為、テーマを決めて短編映画の制作をする													
	6	技術三科合同プレイバック実習③／編集 ・「ショートドラマ映像作品」の仕上げ作業への参加 ・技術レベルのスキルアップを図る為、テーマを決めて短編映画の制作をする													
	7	スキルアップ授業① ・スキルアップ短編映画の制作 ～準備													
	8	スキルアップ授業② ・スキルアップ短編映画の制作 ～撮影													
	9	「スキルアップ授業③ ・スキルアップ授業で撮影した映像の編集、グレーディング～上映													
授業外学習		○デジタル一眼レフや動画撮影のできるデジタルカメラを使って様々な光線下で撮影・検証してみる ○メーカー・機材会社などの各ワークショップへの参加 ○ドキュメンタリー映画・劇映画の鑑賞分析													
教科書 参考文献		「映像撮影ワークショップ」板谷秀彰・著/玄光社 MC 「新版 映像ライティング」桜井雅章・著/玄光社 MC 「デジタルムービー実践ガイドブック」玄光社 「デジタルシネマカメラ完全攻略」玄光社													
評価項目 評価方法		* 技術的理解度 4 0 %（各種機材の設定ができる・各種機材の特性を理解し応用できる・照明比を理解している） * 協調性 4 0 %（コミュニケーション力・作品貢献度・積極性） * 理論/教養 2 0 %（映画・演劇は当然ながら、深く芸術に触れている・創作物に対し理論的に説明できる） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		録音専門演習						担当教員		若林大介、弦巻裕 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	2	開講学期	後期	ターム	4	講義型	W9	校舎	新百合		30	30	10	10	
履修条件	録音コース														
授業概要	大きく分けて 3 つの作品制作（短編アニメーションへの音付け、10分強の音楽を主とした作品づくり、自分たちの企画脚本による音声のみのドラマ作品）を行う。 効果音やフォーリーの造詣を深める。スタジオワークを学び、仕上げ作業の流れをしっかりと学ぶ。 プレイバック撮影(音に合わせた撮影)の方法を学ぶ。PA(パブリックアドレス)、現場での収録、ブームオペレートを学ぶ。 作品制作を通じて音の編集や加工を理論的に学ぶ。 サラウンドでの作品制作をするための基礎技術を学ぶ。 音声のみでの作品(音声ドラマ)を制作することにより、音声表現の制約と可能性を学ぶ。														
到達目標	スタジオワークを学ぶ。フォーリーで狙った音が収録できるように技術を習得する。 効果音ライブラリーを積極的に使えるようにする。 プレイバック実習では、現場での音出しやブームオペレート及び現場でのミックスを理解する。 サラウンドでの作品制作を行える基礎知識を得る。音声のみで他者へ物語を伝える事の難しさを理解する。														
授業計画	週数	内 容													
	1	音声ドラマ制作① 自分たちで作品の企画を進める。また、脚本に起こす。（第3ターム内ゼミから継続的に行なっていく） キャスティングや出演交渉なども行う。													
	2	効果音、フォーリー／アニメーションの音声制作① フォーリーアーティストによる特別講義を経て、既存のアニメーションに 1 から音を付けていく演習。													
	3	効果音、フォーリー／アニメーションの音声制作② アニメーションのアフレコ、フォーリー作業、仕込み、ミックス作業を行う。 サラウンドでの制作を行うためのセッティングを学ぶ。													
	4	3科合同プレイバック実習①／準備 撮影部・編集部と合同。 脚本から撮影前に必要な音源が何かを考え収録する。 現場での音源収録方法と、準備した音源の再生方法を考える。													
	5	3科合同プレイバック実習②／撮影 撮影部・編集部と合同。 プレイバック撮影(音に合わせた撮影)の方法を学ぶ。													
	6	3科合同プレイバック実習③／編集 ミックス 撮影部・編集部と合同。 プレイバックの編集方法、音楽のミックスを学ぶ。													
	7	音声ドラマ制作② 自分たちで準備を重ねてきた企画及び台本を元に10分～20分程度でサラウンド音声ドラマを制作する。 企画に基づいてアフレコや効果音収録を行う。													
	8	音声ドラマ制作③ 自分たちで準備を重ねてきた企画及び台本を元に10分～20分程度でサラウンド音声ドラマを制作する。													
	9	音声ドラマ制作④ 自分たちで準備を重ねてきた企画及び台本を元に10分～20分程度でサラウンド音声ドラマを制作する。 仕込み、ミキシングを行い各班発表を行う。													
授業外学習	「映画録音技術」日本映画・テレビ録音協会発行の技術書を熟読する。														
教科書 参考文献	「映画録音技術」日本映画・テレビ録音協会発行														
評価項目 評価方法	アニメ音付け（サラウンド理解と効果ライブラリの使用・フォーリー技術の習得、スタジオワークの理解度）20％ プレイバック実習（プレイバック撮影法に対する理解、現場機材への習熟度、マイクオペレーション習熟度）40％ 音声ドラマ制作（企画・脚本・準備、サラウンド制作に対する技術習得度、取り組み評価）40％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		編集専門演習						担当教員		大永昌弘 ほか						
科目区分		専門		科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数		8	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		2	開講学期	後期	ターム	4	講義型	W9	校舎	新百合			30	30	15	5
履修条件		編集コース。デジタル基礎の応用、それぞれの役割を体験し、課題を整理しておくこと。														
授業概要		「編集基礎演習」での課題を検証し、さらに高度な技術課題について演習する。 自分の言葉で他のコースに編集意図を伝えるトレーニングをする。														
到達目標		デジタル編集基礎を踏まえて短編作品を作ったり映像作成ソフトの使い方を理解する。 他の技術パートとの関連性の深さを知る事で、創作のありかたや編集の重要性を理解する。														
授 業 計 画	週数	内 容														
	1	完成尺30分程度のドラマ素材を用いて編集をする。（ デジタル編集 ）														
	2	完成尺30分程度のドラマ素材を用いて編集をする。（ デジタル編集 ）														
	3	完成尺30分程度のドラマ素材を用いて編集をする。（ デジタル編集 ）														
	4	技術三科合同プレイバック実習① 撮影部・編集部で現場の準備をする。														
	5	技術三科合同プレイバック実習② 撮影														
	6	技術三科合同プレイバック実習③ 編集														
	7	復習期間 映画分析発表。自分で選んだ映画について発表し、質疑応答する。														
	8	Photoshop/Illustratorの使い方を学ぶ。														
	9	映画分析発表。自分で選んだ映画について発表し、質疑応答する。														
授業外学習		多様なデジタル編集に対応できるよう、編集室及び編集機の空いている時間は使用許可を貰い練習をかさねること。 夏休みに出される課題の提出厳守。														
教科書 参考文献		なし														
評価項目 評価方法		技術：40% 映像制作ソフトの使い方の技能習熟度 協調：40% 実習作品を通して、共同作業の参加度と役割への取り組み 理論/教養：20% 知識・作品への理解度 ※課題を提出しない者は不合格となる。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		VFX特殊撮影基礎演習Ⅱ							担当教員		今井聡 ほか									
科目区分		専門		科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		8		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年		2	開講学期	後期		ターム		4	講義型	W9		校舎	白山		30		30	15	5	
履修条件		VFX特殊撮影コース。																		
授業概要		「VFX特殊撮影基礎演習Ⅰ」を経て、さらなるVFX特殊撮影の基礎理解を深め、技術を習熟するための科目である。本演習は、おもに次の7つのテーマから構成される。 ①VFX/特撮演出概論：VFX・特撮の演出手法、プランニングを習得するとともに、実例による技術分析と研究を行う。 ②デジタル合成基礎：映像のデジタル化によってもたらされた効果について学ぶことで、デジタル合成技術の基礎概念を修得する。 ③特殊美術テクニック：特殊美術の役割と具体的な手法をWS形式で学ぶ。 ④プラクティカル・エフェクト基礎：実際に現場で行われる物理効果（特殊効果、操演）を実習を通して理解する。 ⑤アニメーション基礎：アニメーション技術の基礎的な理解を実習を通して学ぶ。 ⑥特殊撮影応用：ミニチュアワークを実践を通して理解する。 ⑦画像合成演習：編集ソフト、画像合成ソフトの習熟。																		
到達目標		・VFX・特撮の演出概念と作品への取り組み方を理解し、適用技術の知識を深める。 ・技術の習得だけでなく、作品分析をとおしてリテラシーの向上に取り組むことで、VFX特殊撮影における汎用的能力を身につける。																		
授業計画	週数	内 容																		
	1	VFX特撮演出概論① 脚本分析と演出法、演出・ロケハン																		
	2	VFX特撮演出概論② 絵コンテ 美術概論テクニック① イメージボード、絵コンテ解析演習、ロケハンと計測																		
	3	VFX特撮演出概論③ 適用技術選択法 特殊美術テクニック② プランニング、セット模型と図面																		
	4	プラクティカル・エフェクト基礎 プラクティカル・テクニック：特殊効果、操演 特殊撮影応用① ミニチュアワーク																		
	5	デジタル合成基礎① ヴィジブル・エフェクト：ヒーロー怪獣概論 リテラシー向上 作品分析研究																		
	6	デジタル合成基礎② ヴィジブル・エフェクト：エフェクトアニメーション、合成バック撮影																		
	7	デジタル合成基礎③ VFX編集 インヴィジブル・エフェクト：マットペインティング、セット・エクステンション、ワイプアウト、アンチエイジング																		
	8	画像合成演習① 3DCG基礎 3D空間の理解、モデリング、レイアウト																		
	9	画像合成演習② 3DCG基礎 3D空間の理解、モデリング、レイアウト																		
授業外学習		・技術習得が欠かせないため、授業で扱う編集ソフト、画像合成ソフトに習熟しておく。 ・授業で取り上げた作品、引用した作品を観ておく。																		
教科書 参考文献		特になし																		
評価項目 評価方法		理解度（毎回のリアクションペーパーの内容）50% 理解度（課題レポート）30% 積極性（授業への取り組み姿勢）20% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		マネジメント基礎演習Ⅱ						担当教員		有吉司、菅野和佳奈 ほか										
科目区分	専門			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		8		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	2	開講学期	後期	ターム		4		講義型		W9		校舎	新百合		30		30	15	5	
履修条件		マネジメントコース。																		
授業概要		マネジメントコースは映画の始まりである企画プロデュースから始めて、制作後の観客に届けるという映画が流れ着く川下まで両端を学ぶことで、映画のすべてを知ることを目指す。その第一歩として全体の流れ(ワークフロー)を俯瞰し、理解することから始める。本演習では、「マネジメント基礎演習Ⅰ」で取り組んだ課題をさらに進めて行く。 ・「地域上映会」を学生自らの手で開催する。 ・「映画公開ワークフロー研究Ⅰ」として、新規ビジネスモデル・国際共同製作・マルチユース計画・ウィンドウプラン・配信ビジネス・SNS・YouTubeなど各分野・部門の現状と可能性を探究する。 ・「映画制作ワークショップⅠ」では、企画開発から作品完成までの映画制作を実践して、短編制作を4週間でこなす。																		
到達目標		・第三者と協働して上映会という目標に辿り着く実体験を持つ。 ・今日様々おこなわれている映画の製作と公開にまつわる取り組みや戦略を知ること、実際の作品の公開に向けた計画を立てられるようにする。 ・映画を企画することと売ることの真ん中にある「映画制作」を身をもって理解することは、プロデュースとマネジメントに大きなアドバンテージをもたらす。映画制作とその現場の理解を増すことで映画人としての立ち位置を固める。																		
授業計画	週数	内 容																		
	1	企画上映会開催 (白山まちづくり協議会共催)																		
	2	映画公開ワークフロー研究Ⅰ① 新規ビジネスモデル研究、国際共同製作研究																		
	3	映画公開ワークフロー研究Ⅰ② マルチユース計画、ウィンドウ戦略研究																		
	4	映画公開ワークフロー研究Ⅰ③ 配信ビジネス研究、SNS・YouTube研究																		
	5	映画制作ワークショップⅠ① 企画開発																		
	6	映画制作ワークショップⅠ② 撮影																		
	7	映画制作ワークショップⅠ③ 仕上げ																		
	8	映画制作ワークショップⅠ④ 発表準備、発表																		
	9	振り返り																		
授業外学習		授業で取り上げた作品、引用した作品を観ておく。																		
教科書 参考文献		特になし																		
評価項目 評価方法		積極性 協働作業への参加度（制作ワークショップへの取り組み姿勢）50% 積極性 協働作業への参加度（上映会への取り組み姿勢）20% 理解度（リアクションペーパーの内容）30% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		文章系基礎演習Ⅱ						担当教員		青島武 ほか						
科目区分		専門		科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数		8	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		2	開講学期	後期	ターム	4	講義型	W9	校舎	白山			30	30	15	5
履修条件		文章系														
授業概要		【副題】着眼力と発想力を磨くトレーニング> シナリオや小説を創作するためのヒントは様々な形で日常の中に存在しているが気づかずに見過ごしてしまっていることが多い。対象への「気づき」や「思いつき」という思考的アプローチ(着眼)によって「発想力」を磨き、実践（創作）するための演習を行う。様々な事物に対して思考的アプローチを重ねて、題材・テーマ・設定・人物造形などの物語へと繋がるヒントを見つけ出して具体的なアイデアに昇華させることを繰り返す。獲得したアイデアは随時、企画書やショートストーリー、短篇シナリオなどを執筆することでアウトプットする。														
到達目標		自分の周りのあらゆる事物が発想の源であることを知り、自分なりの着眼によって発想を膨らませて創作への糸口とする思考力を身につける。														
授 業 計 画	週数	内 容														
	1	※様々な事物（題材）に対して、学生各自の着眼点から発想を行い、「テーマ」「キャラクター」「ストーリー（ログライン）」「設定」などの創作に繋がる具体的なアイデアなどに昇華させる。取り上げる題材については授業の進行具合や理解度によって決定するが、下記に例として一部を列挙しておく。														
	2	演習①② ※題材例【新聞】【写真】【コミック】【短編小説】【エッセイ】【短歌】【SNS】【TVドキュメンタリー】など														
	3	演習③④ ※【感情】【流行】【社会事象】【風俗】なども題材として取り上げる。														
	4	演習⑤⑥ ※発想の視野を広げる実践として校外学習による【取材(見学)】や【街歩き】なども試みる。														
	5	演習⑦⑧ ※発想が単発的なアイデアで留まらぬように、題材毎に「創作物」として文章化する。														
	6	演習⑨⑩ ※創作上において重要度が高い「キャラクター」「ストーリー」に繋がる演習に重きを置く。														
	7	演習⑪⑫														
	8	応用① ※演習によって得た「創作のタネやヒント」を使って短編シナリオを書く														
	9	応用②/まとめ														
授業外学習		各題材から発想した課題の執筆														
教科書 参考文献		必要に応じて参考資料などを授業内で配布し、参考となる映像を試写する														
評価項目 評価方法		技能習熟度（各回の課題）35% 主体性（受講態度）30% 授業の理解度（各回の課題）25% 応用力（各回の課題）10%														
		出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		演出専門演習〈3分エチュード〉						担当教員		サトウトシキ、原正弘 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3	開講学期	前期	ターム	1・2	講義型	W10	校舎	新百合		30	30	10	10	
履修条件	演出コース。映画制作の流れをひと通り理解した上で、スタッフ・キャストとのコミュニケーションが可能であること。 3分間（ペラ6枚）の脚本を事前に提出し、担当講師のOKがあること。														
授業概要	全員が一本ずつ3分間の作品を企画開発・脚本執筆・監督・そして他作品のスタッフ・キャストとして作品を完成させる。 複数班に分かれ、一人一人が複数本の作品を準備・撮影・ポストプロまで色々な役割でスタッフワークする事により、映画制作のノウハウを習得し、合同制作・卒業制作に備える。また、チームプレイの大切さを学び、チーム・映画に貢献できる人間性を育成する。 完成後は講評会で学生・講師の講評を受ける。														
到達目標	映画演出の概念、物語の表現、人間の描き方、テーマの把握などについて、身体表現・俳優コースや外部キャスト、ゼミ生らと共に学習し、講師の講評を受けることで映画リテラシーを体得する。														
授 業 計 画	週数	内 容													
	1	脚本推敲並びに完成、技術特講：デジタル撮影基礎のワークショップ 準備1:スタッフ編成、キャスティング打ち合わせ、衣裳・小道具打ち合わせ、ロケハンなど													
	2	準備2：ロケハン・撮影スケジュール作成、キャスティング、美術打ち合わせなど													
	3	準備3：衣小合わせ、本読み立ち稽古、総合スケジュール完成、オールスタッフ打ち合わせなど													
	4	「撮影A班」「撮影B班」「撮影C班」：リハーサル、撮影計画（コンティニューイティ）の微調整、及び撮影													
	5	「撮影A班」「撮影B班」「撮影C班」：リハーサル、撮影計画（コンティニューイティ）の微調整、及び撮影													
	6	「撮影A班」「撮影B班」「撮影C班」：リハーサル、撮影計画（コンティニューイティ）の微調整、及び撮影													
	7	仕上げ（ポスト・プロダクション）の開始 編集及び編集ラッシュ、セミ・オールラッシュ、効果アフレコ													
	8	仕上げ（ポスト・プロダクション） 編集及びオールラッシュ、作品完成													
	9	仕上げ（ポスト・プロダクション） 編集及びオールラッシュ、作品完成													
10	合評会（作品上映と講評）、作品解析														
授業外学習	3分間の脚本の執筆。執筆にあたり、数回講師と面談・指導を受ける。														
教科書 参考文献	「映画を書くためにあなたがしなくてはならないこと シド・フィールドの脚本術」（フィルムアート社）														
評価項目 評価方法	・共同作業への積極的な取り組み 30% ・映画制作・演出技術の習得度合 30% ・コミュニケーション能力 30% ・作品評価 10%（監督作が完成されない場合も不合格とする） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		身体表現専門演習						担当教員		天願大介 ほか						
科目区分		専門		科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数		8	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		3	開講学期	前期	ターム	1・2	講義型	W10	校舎	新百合			30	30	15	5
履修条件		身体表現・俳優コース。特別にやむを得ない事情のない限り、全回出席することが履修の条件となる。														
授業概要		俳優としての基本態度、基本技術と訓練法、演劇の制作過程を学びながら、演劇作品を作り上演する。														
到達目標		俳優としての基本態度を身につけること。 台本を深く読むための方法を理解すること。 登場人物の身体のある方、変化を意識すること（発声を含む）。 精神と肉体の集中力、持久力を身につけること。 稽古、舞台作りの過程で、チームに貢献し、連携の重要性を理解すること。														
授 業 計 画	週数	内 容														
	1	舞台の基本学習 戯曲の読み方														
	2	戯曲を読む①														
	3	戯曲を読む②														
	4	立ち稽古① スケジュールの確定														
	5	立ち稽古②														
	6	立ち稽古③ 小道具集め														
	7	諸準備と稽古① 美術制作 衣装集め 小道具制作														
	8	諸準備と稽古② 美術制作 舞台作り														
	9	通し稽古 照明プラン 音響プラン														
	10	上演														
授業外学習		自分が演じる役の参考になる情報をできるかぎり集め、身体で表現できるように準備しておく。上演までに、舞台芸術に直接触れておく。 基礎的な肉体訓練を継続する。稽古場で与えられた課題を、翌日までにクリアしておく。														
教科書 参考文献		講義内で配布														
評価項目 評価方法		技術の習得25%（学んだ技術を使えるようになったか） 集中と持続力25%（反復練習をいかに真剣に、最後まで続けたか） 積極性25%（課題にどういう姿勢で取り組んだか） チーム貢献度25%（稽古・公演ともに、全体のためにどれだけ行動したか） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		ドキュメンタリー専門演習 I							担当教員		島田隆一、北川常寛、安岡卓治 ほか						
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養			
履修学年	3	開講学期	前期	ターム	1・2	講義型	W10	校舎	白山		20	20	20	20			
履修条件	ドキュメンタリーコース																
授業概要	映画は映像と音で構成される時間表現である。すべての人にドラマがあるように、すべての街にそのドラマの背景がある。また、人が暮らす部屋には、その人物の歴史や趣味嗜好が反映されている。本演習では、福島県広野町での合宿撮影を行い、その土地と人を描くことを思考する。インタビューや仕事風景、また取材対象者の日常を切り取り、映画言語を獲得することを目的としている。 また、インタビューの撮影を通して、説明としてのインタビュー収録ではなく、主人公の感情を表現するようなインタビュー撮影を目指す。 学生にとっては、縁もゆかりも無い土地で、初めて会う人と関係を築き、撮影をさせて頂くことは、ドキュメンタリー映画制作に必要な「他者性」を獲得する機会となるだろう。 さらに、その映像を編集仕上げることで、自らの課題を洗い出し、合評を通して、何が伝わり、何が伝わらなかったかを厳しく問い返す。																
到達目標	■ドキュメンタリー撮影のワークフローの習得 ■インタビューワークの習得 ■取材・構成・編集ワークの体得																
授業計画	週数	内 容															
	1	【合宿準備・技術特講】 ①演習内容の提示 ②班編成 ③合宿に向けた係決め ④予備取材 ⑤企画書の書き方 ⑥技術特講 ⑦参考作品の試写。先輩が制作した合宿実習作品数本 （山古志・群馬）、広野町関連作品『春を告げる町』（監督：島田隆一）															
	2	【合宿準備・技術特講】 ①予備取材 ②企画書推敲 ③合宿に向けた準備 ④技術特講 ⑤参考作品の試写。先輩が制作した合宿実習作品数本。（山古志・群馬）、広野町で制作された中学生の作品数本															
	3	【撮影】 ①インタビュー撮影(1)（ロケ後に撮影内容の検証、文字起し、インタビュープランの再構築） ②インタビュー撮影(2)（①で確認した課題に基づき、再度インタビュー撮影を行う） ③実景・生活・ワーキングシーンの撮影(1) 映像で物語るためのショットを撮るために ④実景・生活・ワーキングシーンの撮影(2) 映像で物語るためのショットの構成要素															
	4	【撮影】 ①インタビュー撮影(1)（ロケ後に撮影内容の検証、文字起し、インタビュープランの再構築） ②インタビュー撮影(2)（①で確認した課題に基づき、再度インタビュー撮影を行う） ③実景・生活・ワーキングシーンの撮影(1) 映像で物語るためのショットを撮るために ④実景・生活・ワーキングシーンの撮影(2) 映像で物語るためのショットの構成要素 ⑤素材のバックアップ・文字起こし															
	5	【編集特講・編集作業】 ①構成案の検証：「仮構成案」をもとに主要なカットを実際に確認しながら検証する ②編集演習(1)：ノンリニア編集システムの基本操作の復習 ③編集演習(2)：ドキュメンタリー編集におけるノンリニアシステムの使用法 ④編集演習(3)：ノンリニアシステムにおける音声編集操作とテロップ作成操作															
	6	【編集作業①】 ①文字起こし・素材整理 ②構成案に基づいた仮編集 ③ラッシュ															
	7	【編集作業②】 ①構成案に基づいた仮編集 ②ラッシュ															
	8	【編集作業③】 ①構成案に基づいた仮編集 ②ラッシュ															
	9	【仕上げ作業】 ①整音作業 ②必要に応じてグレーディング作業															
	10	【合評会】 レポート作成															
授業外学習	■文献・ネットによる予備取材 ■合宿に向けた買い出し ■企画案策定 ■撮影 ■構成案・編集プランの策定 ■編集																
教科書 参考文献	「日本映画大学で実践しているドキュメンタリー映像制作の作法」玄光社、「ドキュメンタリーとは何か―土本典昭・記録映画作家の仕事」、「映画は生きものの仕事である―私論・ドキュメンタリー映画」未来社、「映画の瞬き―映像編集という仕事」フィルムアート社、「映画もまた編集である―ウォルター・マーチとの対話」みすず書房、『日常という名の鏡―ドキュメンタリー映画の界限』凱風社																
評価項目 評価方法	○チーム貢献度(役割への取り組み)（40%）。○技能習熟度（企画・撮影・編集）（20%）。 ○個人課題(レポート・調べ学習など)への取り組み（20%）。○共同作業への参加度（実習に参加する姿勢）（20%）。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																

科目名		技術合同演習（撮影照明コース）						担当教員		さのてつろう、清久素延 ほか										
科目区分	専門			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		8		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3	開講学期	前期	ターム	1・2	講義型		W10		校舎	新百合		30	30	15		5			
履修条件		撮影照明コース																		
授業概要		撮影・照明技術への理解習得を深めるとともに、ライティングの理解と的確なフレーム作りを習得する。 シナリオのテーマを理解し、作品のクオリティー向上にどうコミットするべきか思考し実践する。 撮影照明・録音・編集の技術3コースの学生が、プロの監督の下で短編作品の制作を行う。																		
到達目標		*映画の撮影・照明の役割を理解し習得した技術を作品に反映できる。他パートと連携しながらの作品制作ができる。 *卒業制作に向けて演出との関わりを深く理解し撮影現場の運営がスムーズにできる。 *技術と同等に重要な思考・思想があることを理解する。																		
授 業 計 画	週数	内 容																		
	1	・2年時に学んだ知識の復習																		
	2	・2年時に学んだ知識から更に専門的な知識を学ぶ ・デジタル技術の基本と復習 [3科合同演習 制作準備]																		
	3	・デジタル技術の復習と応用 ・デジタルカメラ機材の取り扱い [3科合同演習 制作準備]																		
	4	・ライティング基礎知識の応用① [3科合同演習 制作準備＆撮影＆ラッシュ]																		
	5	・ライティング基礎知識の応用② [3科合同演習 撮影＆ラッシュ]																		
	6	・人物照明とコントラスト① [3科合同演習 仕上げ 編集期間]																		
	7	・人物照明とコントラスト② [3科合同演習 仕上げ]																		
	8	・人物の撮り方、フレームの作り方① [3科合同演習 仕上げ]																		
	9	・フレームの授業② *①と②は同じ事を半々の人数に分けて2回行う。 [3科合同演習 仕上げ]																		
	10	・特別講義 [3科合同演習 発表（上映）と合評]																		
授業外学習		*様々な光線下で撮影・検証してみる *メーカー・機材会社などの各ワークショップへの参加 *ドキュメンタリー映画・劇映画の鑑賞分析																		
教科書 参考文献		「映像撮影ワークショップ」板谷秀彰・著/玄光社 MC 「新版 映像ライティング」桜井雅章・著/玄光社 MC 「デジタルムービー実践ガイドブック」玄光社 「デジタルシネマカメラ完全攻略」玄光社																		
評価項目 評価方法		*技術的理解度40％（各種機材の設定ができる・各種機材の特性を理解し応用できる・照明比を理解している） *協調性40％（コミュニケーション力・作品貢献度・積極性） *理論/教養20％（映画・演劇は元より、深く藝術に触れている・創作物に対し理論的に説明できる） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		技術合同演習（録音コース）						担当教員		若林大介、弦巻裕 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3	開講学期	前期	ターム	1・2	講義型	W10	校舎	新百合		30	30	10	10	
履修条件		録音コース													
授業概要		録音コース、撮影照明コース、編集コース合同による15分程度の作品制作。 監督はプロの演出家に依頼。技術部としてプロの演出家にどう相対し作品と向き合うかを学ぶ。 現場ではレコーディング、マイクオペレート、マイクアレンジを深く学ぶ。 また、映画音楽について理解を深め、5.1サラウンドでの映画の音作りを学ぶ。													
到達目標		プロの監督と録音部としてどう相対するのか、その姿勢や制作態度を学ぶ。 ガンマイクでの収録に於いて、マイクの特性を理解し、映像に応じた音を録るためには、適切な位置にマイクを配置する事が重要である事を理解する。 サラウンドの基礎を理解し、作品に応用する。 電気音響の基礎を理解し、デシベルなどの単位を実践的に使えるようにする。 デジタル録音の概念を理解する。セルフ・効果音・音楽の担当者が協同して作品を完成させる事を実践的に理解する。													
授業計画	週数	内 容													
	1	映画音楽 映画音楽の作曲家による授業。一本の映画がどのような音楽で構成されているかを分析・学習。 現場機材習熟① 現場機材・レコーダー・マイク・仕込み機材の習熟を図る。													
	2	現場機材習熟② 現場機材・レコーダー・マイク・仕込み機材の習熟を図る。PA機材や様々なマイクなどを使用。 3科合同演習 制作準備													
	3	3科合同演習 制作準備 撮影、編集と合同で監督を招き、録音部として映画に携わる。 スタッフ編成、キャスト、ロケハン、美術、衣装合わせ、機材チェック、カメラテスト、シンクロテスト、メインロケハン、リハーサル、 撮影スケジュールの決定 録音機およびマイクの取り扱い方 マイクアレンジの基本、映像に即したマイクアレンジの仕方													
	4	3科合同演習 制作準備&撮影&ラッシュ リハーサル、撮影スケジュールの決定													
	5	3科合同演習 撮影&ラッシュ 映像に合わせた台詞の整音と音構成 音構成に合わせた音集め													
	6	3科合同演習 仕上げ 編集期間 ラッシュ&アフレコ&音ロケ 映像に合わせた台詞の整音と音構成 音構成に合わせた音集め													
	7	3科合同演習 仕上げ 編集のF I X & オールラッシュ ダビング打合せ&音楽打合せ&フォーリー&音楽&音の仕込み 映像に合わせた効果の収録 音楽の収録や選曲 ならびに収集した音の貼り付けなど													
	8	3科合同演習 仕上げ：音作業 フォーリー & ダビング仕込み 音の完成作業（ダビング）に向けた最終調整													
	9	3科合同演習 仕上げ：音作業 ダビング仕込み&ダビング 音の完成作業（ダビング）に向けた最終調整													
	10	発表（上映）と合評&作品総括、技術総括													
授業外学習		課題作品の音楽分析を行う。音楽の曲数、バリエーションの数を調べ、また音楽がそのシーンでどのような意味や目的を持って使われているかを考える。 前期実習で使う録音機 ZOOM F4のマニュアルを読み、録音機の機能と使用法を理解すると共にマニュアルを読む力を身につける。 プロツールのマニュアルを読む。完全に理解する必要は無く、どの部分にどのような内容が書かれているかを大雑把に把握する。													
教科書 参考文献		【教科書】「映画録音技術」（発行（協）日本映画・テレビ録音協会。金額4180円） 参考文献「はじめての人のための電気の基本がよ〜わかる本」（発行 秀和システム 1430円）													
評価項目 評価方法		基礎授業を行う中での内容の理解度 10％ 2週目以降は準備段階、撮影段階、仕上げ段階ごとに映画制作への積極的な参加の姿勢、作品と撮影行為の理解力、授業項目の理解度、技術への関心度、技術の習得度、共同作業でのコミュニケーション能力などを評価する。 準備段階 30％、撮影段階 30％、仕上げ段階 30％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		技術合同演習（編集コース）						担当教員		大永昌弘 ほか										
科目区分	専門			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		8		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3	開講学期	前期	ターム	1・2	講義型		W10		校舎	新百合		30	30	15		5			
履修条件		編集コース。																		
授業概要		撮影照明・録音・編集の技術3コースの学生が、プロの監督の下で短編作品の制作編集を行う。 プロの監督の下で、編集に対する理解・作業を深める。																		
到達目標		2年で学んだ知識と技術を、現場での制作で具現化することにより、3年後期の「合同制作」に向けた実践的な技術を身につける。編集と、演出・撮影・照明や録音との関係について理解を深めるとともに、チームワークの必要性を理解しコミュニケーション能力の向上を図る。																		
授 業 計 画	週数	内 容																		
	1	技術合同演習（制作準備）																		
	2	技術合同演習（制作準備）																		
	3	技術合同演習（制作準備）																		
	4	技術合同演習（制作準備・撮影・ラッシュ）																		
	5	技術合同演習（撮影・ラッシュ） 【編集準備】画・音ばらし～組み～【編集】～編集ラッシュ																		
	6	技術合同演習（仕上げ） 【編集】～編集ラッシュ																		
	7	技術合同演習（仕上げ） 【編集】～編集ラッシュ～ファイナル・カット（オール・ラッシュ）まで 音楽・効果音打ち合わせ ～編集データの書き出し／カット表作成／コンフォーム																		
	8	技術合同演習（仕上げ） グレーディング																		
	9	技術合同演習（仕上げ） ダビング準備 技術合同演習（仕上げ） ダビング 0号試写／チェック																		
	10	発表（上映）と合評																		
授業外学習		多様なデジタル編集に対応できるよう、編集室及び編集機の空いている時間は使用許可を貰い練習をかさねること。																		
教科書 参考文献		なし																		
評価項目 評価方法		技術：技術習熟度(作品制作)：40% 協調：積極性、コミュニケーション能力（役割への取り組み）：40% 理論／教養：演習を通しての知識の理解度や応用力（作品制作）：20% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		VFX特殊撮影専門演習Ⅰ						担当教員		今井聡 ほか										
科目区分	専門			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		8		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3	開講学期	前期	ターム	1・2	講義型		W10		校舎	白山		30	30	15		5			
履修条件		VFX特殊撮影コース（2026年度開講）																		
授業概要		2年の「VFX特殊撮影基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を経て、さらなるVFX特殊撮影の理解を深め、技術を習熟するための科目である。 本演習では、VFXや特撮の使用事例から課題解決法を学ぶとともに、窓外合成、セットエクステンション、エフェクト等の適用を実践から学ぶ「ケース・メソッド」を中心に授業を進行する。 「ケース・メソッド」と並行して、エフェクトアニメーションの実践からヒーロー・怪獣作品の概要と作品分析を行う「ヴィジュアル・エフェクト」、エフェクトアニメーションの実習をとおしてVFX編集の基礎技術を習得する「ヴィジュアル・エフェクト演習」、3D空間を理解し、モデリングと実写との合成を行う「3DCG応用」、編集ソフト、画像合成ソフトの習熟を目的とする「画像合成演習」を行う。																		
到達目標		・「ケース・メソッド」によるVFX・特撮の実践を理解する。 ・3DCGの基礎と先端映像についての知識と技術を身につける。																		
授業計画	週数	内 容																		
	1	3DCG応用 実写空間へのオブジェクト合成																		
	2	ケース・メソッド① 巨大化・縮小化 ○結果評定																		
	3	ケース・メソッド② 透明人間 ○結果評定																		
	4	ケース・メソッド③ 窓外 ○結果評定																		
	5	ケース・メソッド④ セットエクステンション ○結果評定																		
	6	ケース・メソッド⑤ 飛行・落下 ○結果評定																		
	7	ケース・メソッド⑥ ウェザー・コントロール ○結果評定																		
	8	先端映像研究 カラーグレーディング、ゲームエンジンとインカメラエフェクト																		
	9	ヴィジュアル・エフェクト エフェクトアニメーションの実践、ヒーロー・怪獣作品の概要と作品分析																		
	10	ヴィジュアル・エフェクト演習 エフェクトアニメーションの実習、VFX編集																		
授業外学習		・技術習得が欠かせないため、授業で扱う編集ソフト、画像合成ソフトを習熟しておく。 ・授業で取り上げた作品、引用した作品を観ておく。																		
教科書 参考文献		特になし																		
評価項目 評価方法		積極性（授業への取り組み姿勢）40% 理解度（メソッドごとの振り返りのリアクションペーパーの内容）40% 授業成果（演習の結果評価）20% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		マネジメント専門演習Ⅰ							担当教員		有吉司、菅野和佳奈 ほか						
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態		演習	単位数		8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3	開講学期	前期	ターム	1・2	講義型	W10	校舎	白山		30		30	15	5		
履修条件		マネジメントコース。（2026年度開講）															
授業概要		マネジメントコースは映画の始まりである企画プロデュースから始めて、制作後の観客に届けるという映画が流れ着く川下まで両端を学ぶことで、映画のすべてを知ることを目指す。本演習では、2年の「マネジメント基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で取り組んだ「映画制作ワークフロー」の理解と「映画公開ワークフロー研究」をさらに発展させる。 「映画制作ワークフロー演習Ⅱ」では、実際の作品を例に挙げて、企画・準備・撮影・仕上げと進行する映画制作の実際を学ぶ。 「映画公開ワークフロー研究Ⅱ」では、世界の映画祭の特質とその場から生まれる様々な事象や影響を知り、映画祭が生み出す波紋と循環を学ぶ。 また、映画の公開場所であるシネコンとミニシアターの特徴と差異を学ぶために、実際に現地を訪れ、両者の現状を理解することとあわせて、映画のもう一つの現場である“劇場”を生で体感する機会をもつ。 さらに、企業訪問・先輩訪問によって映画界の現状に触れて、映画界についての認識のアップデートを進めるとともに、リテラシー向上のための作品を鑑賞し、分析研究をおこなう。															
到達目標		1本の作品の企画開発から完成までを時系列で追いながらスケジュールの課題をみつめ、制作費がどのように予算化され執行されていったかを確認する。そのことから適正なスケジュールと制作費執行がより良い映画制作を実現することを学ぶ。映画祭と映画館の現状を知ること、公開に向けた計画を立てる力を身につける。企業・先輩の現場を知ることのみずからの将来展望を持てるようにする。															
授業計画	週数	内 容															
	1	映画制作ワークフロー演習Ⅱ① 映画祭研究、シネコンとミニシアター研究															
	2	映画制作ワークフロー演習Ⅱ② 映画祭研究、シネコンとミニシアター研究															
	3	映画制作ワークフロー演習Ⅱ③ 映画制作DX実習 映画祭研究、シネコンとミニシアター実地体験															
	4	映画制作ワークフロー演習Ⅱ④ 映画制作DX実習 映画祭研究、シネコンとミニシアター実地体験															
	5	企業訪問・先輩訪問															
	6	企業訪問・先輩訪問 リテラシー向上 作品分析研究															
	7	映画公開ワークフロー研究Ⅱ① 映画祭研究、シネコンとミニシアター研究															
	8	映画公開ワークフロー研究Ⅱ② 映画祭研究、シネコンとミニシアター研究															
	9	映画公開ワークフロー研究Ⅱ③ 映画祭研究、シネコンとミニシアター研究															
	10	映画公開ワークフロー研究Ⅱ④ 映画祭研究、シネコンとミニシアター研究															
授業外学習		授業で取り上げた作品、引用した作品を観ておく。 より多くの劇場、映画祭に足を運ぶ。															
教科書 参考文献		特になし															
評価項目 評価方法		理解度（参加体験レポートの内容）40％ 理解度（リアクションペーパーの内容）40％ 積極性（授業への取り組み姿勢）20％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。															

科目名		脚本専門演習Ⅰ〈短編映画制作〉						担当教員		青島武 ほか						
科目区分		専門		科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数		8	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		3	開講学期	前期	ターム	1・2	講義型	W9	校舎	新百合・白山			30	30	15	5
履修条件		脚本コース。春休み中に30分程度のプロットを執筆すること。														
授業概要		200字詰め原稿用紙で60枚程度の脚本を執筆して、30分程度の短編映画を作る。撮影、録音、編集も含めて、全て自分たちでこなし、ロケ場所、美術、小道具に至るまでの細部を作り上げることで映画制作はあらゆることを具体的に置き換えていかねばならないことを学ぶ。その上で脚本に必要なものは何か、文字で伝わることと、映像で伝えられることの差異を知り、俳優の演技、演出、編集でのモンタージュなどを複合的に考えてみる。														
到達目標		脚本コース内で一本の映画を作りあげることで、映画製作における脚本のあり方を技術や演出面からも体験的に理解する。														
授 業 計 画	週数	内 容														
	1	各自脚本を執筆して、その中から制作する作品の脚本を選定する。														
	2	脚本の分析を行って改稿作業を行う。 パート毎による制作準備。														
	3	外部キャストのキャスティング、衣装合わせ。リハーサル、技術特講など。 パート毎による製作準備。														
	4	撮影														
	5	撮影														
	6	撮影														
	7	編集														
	8	SE、ダビングなどの音響仕上げ。														
	9	完成作品の合評														
授業外学習		プロットと脚本の執筆。撮影のための諸準備。														
教科書 参考文献		必要に応じて授業内で参考資料などを配布し、参考となる映画の試写などを行う。														
評価項目 評価方法		技能習熟度（実習への取り組み）35% 積極性（役割への取り組み）35% 授業の理解度（実習への取り組み）20% + （提出脚本）10%														
		出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		文芸専門演習Ⅰ〈読解・ライティングWS〉						担当教員		藤田直哉 ほか											
科目区分	専門			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		8		DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年	3	開講学期	前期	ターム	1・2	講義型		W9		校舎	白山						30	10	25	15	
履修条件		文芸コース																			
授業概要		文芸とは、文章による芸術のことだ。映画では多くの才能が集まり、知恵と技術と時間と体力を使って表現することを、文芸では一人でやらなくてはならない。それは孤独であるが、自由である。自由であるがゆえに、何をどう書いていいかの足場が必要だ。本演習では、現代の文学を読解し、体感的に理解しながら、「書く」ことを通じて、文学的なセンスと感覚を身に付けていく。校外学習でルポルタージュや取材の仕方も学ぶ。（扱う予定の作品は、受講生次第で変更する可能性がある）																			
到達目標		文学の味わいを理解する。自分なりの短編小説を書けるようになる。小説を書くことを通じて、表現力、思考力、構成力、着想の技術を鍛える。																			
授 業 計 画	週数	内 容																			
	1	創作、読解Ⅰ——『ストーリーメーカー』演習																			
	2	創作、読解Ⅱ——エラリー・クイーン・『ローマ帽子の謎』、ミステリの書き方																			
	3	創作、読解Ⅲ——アーサー・C・クラーク『幼年期の終わり』、SFの書き方																			
	4	創作、読解Ⅳ——三島由紀夫『仮面の告白』、私小説を学ぶ																			
	5	創作、読解Ⅴ——村上春樹『風の歌を聴け』、ドラマとは何か																			
	6	創作、読解Ⅵ——阿部和重『アメリカの夜』、主題をどのように見つけるか																			
	7	創作、読解Ⅶ——松波太郎『カルチャーセンター』、小説を書く構え																			
	8	創作、読解Ⅷ——『マンガ世界の歩き方』、取材をするということ																			
	9	創作——三〇枚の完成																			
授業外学習		毎週一冊は課題の本を読むこと。それぞれの書きたい方向性に応じて個別の課題図書も課すので必ず読むこと。授業時間外でも執筆をすること。良いものを書くために、授業外時間で良い小説をたくさん読み、世界や社会に対する興味関心を磨いてほしい。校外学習なども行う。																			
教科書 参考文献		根本昌夫『小説教室』、高橋源一郎『一億二千万人のための小説教室』、森沢明夫『プロだけが知っている小説の書き方』																			
評価項目 評価方法		コミュニケーション力・授業への貢献度（他の学生の作品への意見などの参加態度）40％ 技術習熟度（最終完成作品）30％ 理解度（毎回の課題）30％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																			

科目名		合同制作（演出コース）						担当教員		サトウトシキ、原正弘 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3	開講学期	後期	ターム	3・4	講義型	W14	校舎	新百合・白山		30	30	15	5	
履修条件	演出コース。ガイダンスに出席し、授業の狙いを理解した上で、ドラマの本質（ドラマツルギー）、映像表現、モンタージュ論、コンテニュティを考慮した15分間ほどの短編映画脚本（200字詰め原稿用紙30枚以内見当）を執筆、提出すること。														
授業概要	ワンシーン演習・3分エチュードに続き、技術3コース、身体表現・俳優コース、外部キャストと共に、15分間の作品を制作する。 監督・演出部・制作部として他者とコミュニケーションをとり、チームプレイ・リーダーシップを発揮して、制作に臨む。 完成作は学内で発表し、学生・講師の講評を受ける。														
到達目標	演出コースとして映画制作の流れを把握し、各パートとの仕事を円滑に出来るようになる。 監督・スタッフとして作品内容をよきものにするための技術を習得する。														
授業計画	週数	内 容													
	1	脚本選定および脚本直し・制作準備・キャスティング・ロケハンなど													
	2	制作準備 キャスティング、ロケハンなど													
	3	制作準備 スタッフ編成・合流、キャスティング、ロケハンなど													
	4	メインロケハン・美術打ち合わせ・衣小合わせ													
	5	リハーサル、撮影スケジュールの決定、この週の後半より撮影開始													
	6	撮影&ニュー・ラッシュ													
	7	この週半ばで撮影終了&ニュー・ラッシュ。 仕上げ準備：仕上げスケジュール作成、基本的に編集部・録音部と共に作品制作にあたる。編集構成打ち合わせ													
	8	編集。編集部や録音部と打ち合わせを重ね、作品を作り上げる。セミオール													
	9	オールラッシュ、音構成及び音楽打ち合わせ、効果音打ち合わせ、音楽打ち合わせ													
	10	フォーリー・アフレコ													
	11	ダビング（MA）準備													
	12	ダビング（MA）準備													
	13	ダビング（MA）・デジタル出力・0号試写													
	14	作品発表会・合評・振り返り													
授業外学習	脚本執筆にあたり講師の指導を数回受け、脚本を完成させる。														
教科書 参考文献	「映画を書くためにあなたがなくてはならないこと シド・フィールドの脚本術」（フィルムアート社）														
評価項目 評価方法	・共同作業への積極的な取り組み 30% ・映画制作・演出技術の習得 30% ・コミュニケーション能力 30% ・作品評価 10% （脚本が提出されない者は不合格となる）（準備・撮影・仕上げ、それぞれの期間において2/3の出席を満たすこと） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		合同制作（身体表現・俳優コース）						担当教員		熊澤誓人 ほか						
科目区分		専門		科目分類	選択必修	授業形態	演習		単位数	8	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		3	開講学期	後期	ターム	3・4	講義型	W14		校舎			新百合	30	30	15
履修条件		身体表現・俳優コース。														
授業概要		声の出し方、活舌、歩き方・所作などの基礎的な身体の使い方を学んだ後、演出コースや技術コースと共に15分の作品制作に参加する。 映画制作において俳優とはどのような役割を担うのか。スクリーンサイズで表現すること、役者として作品へアプローチすること、心構え、立ち振る舞いなどを学ぶ。 また「講談」を通して日本芸能への興味・理解を深め、卒業公演の準備を手伝うことにより、役者として舞台を作り上げる必要なスキルを高める。														
到達目標		○キャラクターを深く理解し言葉や身体での表現を身につける ○映像の中での表現を理解し身につける ○日本芸能に触れ芸能への理解を深め修得する ○舞台制作の裏側を体験し、その過程で必要なスキルと俳優としての心構えを修得する														
授業計画	回数	内 容														
	1	講義・導入授業（合同制作実習説明など）／身体基礎訓練①														
	2	身体基礎訓練②														
	3	合同制作①(シナリオ解析・セット作り)														
	4	合同制作②(キャラクター作り)														
	5	合同制作③(衣小合わせ)														
	6	合同制作④(出演とスタッフワーク)														
	7	合同制作⑤(出演とスタッフワーク)														
	8	日本芸能①　＜講談＞														
	9	日本芸能②　＜講談＞														
	10	舞台制作　＜4年卒業公演裏方の仕事＞														
	11	舞台制作　＜4年卒業公演裏方の仕事＞														
	12	舞台制作　＜4年卒業公演裏方の仕事＞														
	13	舞台制作　＜4年卒業公演裏方の仕事＞														
	14	合評会・振り返り授業														
授業外学習		○今まで習った演技訓練法を持続して行っておく ○渡されたシナリオやテキストについて知らない言葉や事柄を自分で調べる														
教科書 参考文献		必要な場合は授業内でテキストを配布する														
評価項目 評価方法		積極性（参加態度や全体への貢献度）50% 役割への主体的な取り組み（自主的な行動力）25% 理解度（キャラクターや日本芸能への理解）25% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		合同制作（撮影照明コース）						担当教員		さのてつろう、清久素延 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数		8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3	開講学期	後期	ターム	3・4	講義型	W14	校舎	新百合・白山			30	30	15	5
履修条件		撮影照明コース													
授業概要		各専門コースに分かれて学んできた3年生（演出/身体表現・俳優/撮影照明/録音/編集コース）による合同演習。脚本をもとに各班にわかれて撮影し、編集を行いDCP上映に向けて作品を仕上げる。 脚本があり演出があり芝居がある。映画を創作する行程で「背景の選択」「画面構成」「光のコントロール」など撮影・照明設計をし、作品に反映させる方法を 短編劇映画制作を通じて学んでいく。 多くのスタッフ・他パートと関わり作品制作をおこなうことにより、コミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。 あわせて、撮影部だけでCM制作を行い、卒業制作に向けて撮影・照明技術のスキルを上げる。													
到達目標		*映画制作の多様性を深く理解する *技術の前に思考と創造があることを理解する *撮影・照明技術が作品にとってどのように重要であるかを深く理解する *技術・知識の向上、新たな技術の習得													
授業計画	週数	内 容													
	1	・脚本に基づく撮影の考え方 解説と実践① ・実習ワークフロー講義													
	2	・合同制作の趣旨説明と脚本の配布 ・脚本に基づく撮影の考え方 解説と実践② ・セット美術打合せへの参加													
	3	・演出、録音、編集と合流して、合同制作の準備													
	4	～準備													
	5	～準備・撮影													
	6	～撮影													
	7	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作、企画決定													
	8	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～準備													
	9	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～準備													
	10	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～準備													
	11	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～撮影													
	12	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～撮影													
	13	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～撮影													
	14	作品発表会・合評・振り返り													
授業外学習		○関わるシナリオと同系統の小説の解説 ○映画作品鑑賞・演劇鑑賞 ○様々な光線下における撮影と検証													
教科書 参考文献		「映画の文法」（ダニエル・アリホン著、紀伊国屋書店）、「映画の文法/日本映画のショット分析」（今泉容子著、彩流社）、「カメラ アシスタントマニュアル」（西田和憲訳、日本映画撮影監督協会）、「撮影・VFX/CG アナログ基礎講座」（古賀信明著、スペシャルエフェクスタジオ）													
評価項目 評価方法		*技術的理解度 40％（各種機材の特性を熟知し作品に応用できる・作品のルックを創れる） *協調性 40％（コミュニケーション力・作品貢献度・積極性） *理論/教養 20％（映画・演劇は元より、深く芸術に触れている、創作物に対し理論的に説明できる） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		合同制作（録音コース）						担当教員		若林大介、弦巻裕 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3	開講学期	後期	ターム	3・4	講義型	W14	校舎	新百合・白山		30	30	15	5	
履修条件	録音コース														
授業概要	卒業制作に向けた短編映像制作。 各専門コースに分かれて学んできた学生が、一本の台本の元集まり各部の主張の中で一つの作品を作り上げることにより、コミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。撮影はデジタル。仕上げはノンリニア編集、完成は5.1サラウンドDCP(デジタルシネマパッケージ)。 1年半専門課程で学んだことを主体的に発揮し、作品作りに臨む。 録音コースはガンマイクに加え仕込み用のワイヤレスマイクを使用。多チャンネルでの録音と仕上げでのその処理方法を学ぶ。 音楽大学とのコラボにより、作品にオリジナル音楽を制作してもらう。														
到達目標	マイクの特性を理解した上で、映像に応じた音を録るためには、適切な位置にマイクを配置する事が重要である事を理解する。 適切な信号レベルで録音する必要を理解し、実践面でも適切なレベルで歪みのない録音を出来るようにする。 ワイヤレスマイクを使用したマルチトラック録音を行い、仕上げでの選択肢を増やす事を学ぶ。 セリフ・効果音・音楽の担当者が協同して作品を完成させる事を実践的に理解する。 学生の力主体で1本の作品を完成させる。録音部として映画作りに関わり、各パートと協同して自分たちの作品を完成させる。														
授業計画	週数	内 容													
	1	マルチトラック録音／ワイヤレスマイク／ENG録音 ワイヤレスマイクの基礎。電磁波と電波の基礎と電波法の理解。多チャンネルでの録音方法とその注意点など。 ドキュメンタリーやテレビ収録などで見られる撮影隊が行う録音方法であるENG収録について学ぶ。													
	2	ワイヤレス基礎 ENGスタイル収録 動画制作① ワイヤレスマイクの基礎 電波の基礎 ENGスタイルでの動画収録・編集・動画を制作する													
	3	ワイヤレス基礎 ENGスタイル収録 動画制作② ENGスタイルでの動画収録・編集・動画を制作する 音のMixを行う。 動画アップロード＆共有する。													
	4	合同制作 制作準備 スタッフ編成および演出部に合流、準備スケジュールの作成、キャスティング、ロケハン（ロケーションハンティング）、衣装合わせ、美術・小道具、メインロケハン、リハーサル、撮影スケジュールの決定													
	5	合同制作 制作準備＆撮影＆ラッシュ 合同実習に向け、機材のセッティングの確認および未学習の機材を学ぶ。 マイクオペレーションの基礎の確認													
	6	合同制作 現場：撮影＆ラッシュ													
	7	合同制作 仕上げ：編集期間 ラッシュ、音素材送り、編集ラッシュ、整音作業、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ サラウンドのセッティング及び音作り													
	8	合同制作 仕上げ：編集期間 ラッシュ、音素材送り、編集ラッシュ、整音作業、アフレコ、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ サラウンドのセッティング及び音作り													
	9	合同制作 仕上げ：編集の F I X オールラッシュ、ダビング打合せ、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ、フォーリー、音の仕込み													
	10	合同制作 仕上げ：音作業 整音作業、音の素材集め、フォーリー、音の仕込み、ダビング仕込み													
	11	合同制作 仕上げ：音作業 整音作業、音の素材集め、フォーリー、音の仕込み、ダビング仕込み													
	12	合同制作 仕上げ：ダビング仕込み、ダビング													
	13	合同制作 デジタル出力・0号試写													
14	作品発表会・合評・総括														
授業外学習	JPPA『映像音響処理技術者資格認定試験問題集』を使い、自身の音響技術の理解度を確認する。 後期実習で用いるRoland R88とSennheiserEW500-G4のマニュアルを熟読し、機材の使い方を身につけると共にマニュアルを読む力を身につける。														
教科書 参考文献	書籍『サウンドとオーディオ技術の基礎知識』（リットーミュージック 1600円＋税） JPPA『映像音響処理技術者資格認定試験問題集』・ワイヤレスマイクハンドブック（兼六出版）														
評価項目 評価方法	1～3週目ワイヤレス・マルチトラック、ENG実習20％、準備期間4～5週の20％、6週～7週の撮影期間30％、8週～13週までの仕上げ期間30％。以上4つの段階毎に映画制作への積極的な参加の姿勢、作品と各パートの役割の理解力、授業内容の理解度、技術への関心、共同作業でのコミュニケーション能力などから総合的に評価する。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		合同制作（編集コース）						担当教員		大永昌弘 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3	開講学期	後期	ターム	3・4	講義型	W14	校舎	新百合・白山		30	30	15	5	
履修条件		編集コース													
授業概要		各専門コースに分かれて学んできた3年生（演出/身体表現・俳優/撮影照明/録音/編集コース）による合同演習。脚本をもとに各班にわかれて撮影し、編集を行いDCP上映に向けて作品を仕上げる。 編集コースは、演出部の学生監督をフォローし、編集スキルを上げる。													
到達目標		（各専門コースが合同演習することによって）コミュニケーション能力と、編集思考・技術を習得する。 演出意図を理解し、監督を編集でフォローしながら、作品完成に向け責任を持って行動する。													
授業計画	週数	内 容													
	1	映像加工・タイトル作成を学ぶ(Photoshop/After Effects使用)													
	2	映像加工・タイトル作成を学ぶ(Photoshop/After Effects使用)													
	3	外部講師を招き編集技法を学ぶ（映画タイトルWS）													
	4	プレスコアリング撮影素材を編集する													
	5	01) 編集準備を開始する 02) 音付け及び編集作業 編集が固まるまで編集ラッシュを繰り返し、精査する 03) オールラッシュ 04) 音楽および音響効果打ち合わせ 05) 音声・映像データの書き出し													
	6	01) 編集準備を開始する 02) 音付け及び編集作業 編集が固まるまで編集ラッシュを繰り返し、精査する 03) オールラッシュ 04) 音楽および音響効果打ち合わせ 05) 音声・映像データの書き出し													
	7	01) 編集準備を開始する 02) 音付け及び編集作業 編集が固まるまで編集ラッシュを繰り返し、精査する 03) オールラッシュ 04) 音楽および音響効果打ち合わせ 05) 音声・映像データの書き出し													
	8	01) 編集準備を開始する 02) 音付け及び編集作業 編集が固まるまで編集ラッシュを繰り返し、精査する 03) オールラッシュ 04) 音楽および音響効果打ち合わせ 05) 音声・映像データの書き出し													
	9	01) 編集準備を開始する 02) 音付け及び編集作業 編集が固まるまで編集ラッシュを繰り返し、精査する 03) オールラッシュ 04) 音楽および音響効果打ち合わせ 05) 音声・映像データの書き出し													
	10	06) 撮影照明・編集コース合同でグレーディングを学ぶ 07) カット表の作成 08) コンフォーム						A) 予告編作成の講義							
	11	09) グレーディング						B) 予告編の作成							
	12	10) ダビング						C) 予告編の作成							
	13	11) オーサリング						D) 予告編の作成							
	14	12) 作品発表会・合評						E) 予告編の発表会							
授業外学習		デジタル編集習得のため、編集室及び編集機の空いている時間は使用許可を貰い練習をかさねること。													
教科書 参考文献		なし													
評価項目 評価方法		技術：技能習熟度（作品制作）：40％ 協調：積極性、主体性、コミュニケーション能力（演習参加態度および役割への取り組み）：40％ 理論／教養：知識の理解度や応用力（作品制作）：20％ ※「予告編」を提出しない者は不合格となる。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		ドキュメンタリー専門演習Ⅱ						担当教員		島田隆一、北川常寛、安岡卓治 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3	開講学期	後期	ターム	3・4	講義型	W14	校舎	白山		20	20	20	20	
履修条件		ドキュメンタリーコース													
授業概要		卒業制作に向けて、企画立案を行うとともに、最後の短編制作実習を行う。 小田急線沿線の1駅を選び、短編ドキュメンタリー『シン駅ものがたり』を制作。 180秒以内で駅の歴史や駅周辺で生活する人々・店の取材を行う。インタビューや仕事風景、また取材対象者の日常を切り取り、他者性を意識する。とを課題とする。また、ナレーションを駆使し、自らの視点の獲得とその視点の映像化を課題とする。未知の場所、未知の人々を取材対象とすることによって、実践的に撮影を学習する。さらに、その映像を編集仕上げることで、自らの課題を洗い出し、合評を通して、何が伝わり、何が伝わらなかったかを厳しく問い返す。 また、作品研究の一環として、2年に一度の山形国際ドキュメンタリー映画祭に参加し、国内外のドキュメンタリー映画についての知見を深める。													
到達目標		■ドキュメンタリー撮影のワークフローの習得 ■知的好奇心（歴史や社会的背景）の獲得 ■自らの視点を会得し、映像で表現する事を体得 ■国内外のドキュメンタリー映画に触れ、知見を深める													
授業計画	週数	内 容													
	1	【夏期休暇中の課題提出】『私の好きなもの』を講評。卒業制作の企画会議。 【企画会議】短編『シン駅ものがたり』の班編成・駅決定・予備取材・企画立案													
	2	【撮影】①撮影現場指導：各班ともに、講師が現場に立ち会う②撮影ラッシュ：自らの視点や思いを表現できているかの検証。													
	3	【編集①】①撮影内容の解析(1)：OK出し…主要な構成要素を支えるカット、手応えのあるカットなどを抽出②撮影内容の解析(2)：主要な構成要素を検証③構成案の策定：OKカットを有効に生かす構成を模索する④ナレーション原稿の作成⑤追加撮影													
	4	【編集②】①構成案の検証：「仮構成案」をもとに主要なカットを実際に確認しながら検証する。②ショットの意味を読み取り、シーンを作成すること。そしてそのシーンの連なりがシークエンスとなり、1つの物語を描いているかを確認する。													
	5	【仕上げ】①ナレーション収録 ②MA作業 ③合評会													
	6	【卒業制作企画WS】 ①卒業制作の企画立案 ②作品研究													
	7	【卒業制作企画WS】 ①卒業制作の企画立案 ②作品研究													
	8	【卒業制作企画WS】 ①卒業制作の企画立案													
	9	【卒業制作企画WS】 ①卒業制作の企画立案													
	10	【卒業制作企画WS】 ①卒業制作の企画立案													
	11	【卒業制作企画WS】 ①卒業制作の企画立案													
	12	【卒業制作企画WS】 ①卒業制作の企画立案													
	13	【卒業制作企画WS】 ①卒業制作の企画立案													
	14	【卒業制作企画WS】 ①卒業制作の企画立案													
授業外学習		■文献・ネットによる予備取材 ■企画案策定 ■撮影 ■構成案・編集プランの策定 ■編集													
教科書 参考文献		『日本映画大学で実践しているドキュメンタリー映像制作の作法』玄光社、『ドキュメンタリーとは何か―土本典昭・記録映画作家の仕事』、『映画は生きものの仕事である―私論・ドキュメンタリー映画』未来社、『映画の瞬き―映像編集という仕事』フィルムアート社、『映画もまた編集である―ウォルター・マーチとの対話』みすず書房、『薄墨の桜』（羽田澄子）、『JUNK CITY』（クリス・マルケル）、『略称・連続射殺魔』（足立正生）													
評価項目 評価方法		○チーム貢献度（役割への取り組み）（40％）。 ○応用力・成長力（専門演習Ⅰを踏まえてより応用力を獲得し、成長できているか）（20％）。 ○企画力・文章力（個人課題・レポートへの取り組み）（20％）。 ○共同作業への参加度（実習に参加する姿勢）（20％） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		VFX特殊撮影専門演習Ⅱ						担当教員		今井聡 ほか										
科目区分	専門			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		8		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3	開講学期	後期	ターム	3・4	講義型		W14		校舎	白山		30	30	15		5			
履修条件		VFX特殊撮影コース。（2026年度開講）																		
授業概要		「VFX特殊撮影専門演習Ⅰ」を経て、実際の映画作品に展開することを探求する科目である。本演習では、VFX・特撮を取り入れた短編作品を制作することで、これまで習得してきた技術や理論を実践的な場面に展開させる。このことにより課題をあぶりだし、卒業制作への道筋をつける。 ①プランニング：企画開発、脚本執筆を行う。 ②プリ・プロダクション：チームを編成し、ワークフローを策定する。ロケハンと準備を行う。 ③プロダクション：撮影準備と撮影。 ④ポスト・プロダクション：編集とVFXを連携させる。カラーグレーディングに取り組む。 ⑤評価：合評会を開催し、評価評定を行う。 ⑥画像合成演習：編集ソフト、画像合成ソフトの習熟。																		
到達目標		・VFX・特撮を取り入れた短編作品制作により、より実践的テクニックを習得する。 ・グループワークによる協業の訓練を進め、コミュニケーション力を身につける。																		
授業計画	週数	内 容																		
	1	プランニング 企画開発と脚本執筆① 映画製作基礎 復習①																		
	2	プランニング 企画開発と脚本執筆② 映画製作基礎 復習②																		
	3	プリプロダクション 準備①																		
	4	プリプロダクション 準備②																		
	5	プリプロダクション 準備③																		
	6	プロダクション 撮影準備と撮影①																		
	7	プロダクション 撮影準備と撮影②																		
	8	ポストプロダクション①																		
	9	ポストプロダクション②																		
	10	ポストプロダクション③																		
	11	ポストプロダクション④																		
	12	ポストプロダクション⑤																		
	13	ポストプロダクション⑥																		
	14	作品発表会 合評 振り返りと評価																		
授業外学習		・技術習得が欠かせないため、授業で扱う編集ソフト、画像合成ソフトを習熟しておく。 ・授業で取り上げた作品、引用した作品を観ておく。																		
教科書 参考文献		特になし																		
評価項目 評価方法		*技術的理解度 4 0 %（必要に応じた視覚効果の適切な利用） *協調性 4 0 %（コミュニケーション力・作品貢献度・積極性） *理論/教養 2 0 %（作品制作過程における視覚効果の位置付けを理論的に説明できる） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		マネジメント専門演習Ⅱ〈プロデュース〉						担当教員		菅野和佳奈 ほか								
科目区分	専門			科目分類		選択必修	授業形態	演習		単位数		8	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年	3	開講学期	後期		ターム		3・4	講義型	W14	校舎	新百合				30	30	15	5
履修条件	マネジメントコース（2026年度開講）																	
授業概要	マネジメントコースは映画の始まりである企画プロデュースから始めて、制作後の観客に届けるという映画が流れ着く川下まで両端を学ぶことで、映画のすべてを知ることを目指す。本演習では、前期の「マネジメント専門演習Ⅰ」で取り組んだ「映画制作ワークフロー」の理解と「映画公開ワークフロー研究」を実践に展開するため、15分の短編映画制作を、他の専門コース（演出/身体表現・俳優/撮影照明/録音/編集コース）と合同で行う。マネジメントコースが4年次に独自でおこなう卒業制作に向けて、準備と体験のための制作実習として「合同制作」に参加することで、制作部・美術部などのスタッフとして各コーススタッフとコミュニケーションをとり、チームプレイに則って制作に臨み、完遂する。 クランクアップ後は卒制ドラマ制作に向けて、企画作成から始めて脚本開発を進める。																	
到達目標	・卒業制作に向けて映画制作現場で最も必要とされるコミュニケーション能力を習得し、すべてのスタッフが協働して同じゴールを目指す体験を積む。 ・各パートスタッフの現場での取り組み姿勢と制作現場で必要とされる技能を見知ること、映画制作の実際を深く理解する。 ・多くのスタッフ・他パートと関わって作品制作を進めることにより、それぞれのパートの仕事と役割りを理解する。 ・他パートと協働するためにコミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。																	
授業計画 映画	週数	内 容																
	1	映画製作基礎 復習①																
	2	映画製作基礎 復習②																
	3	製作準備 各コースと合流																
	4	製作準備																
	5	撮影スケジュールの決定 撮影																
	6	撮影																
	7	撮影 撮影終了後：仕上げスケジュール作成																
	8	編集 セミオール 卒業制作準備(脚本開発)																
	9	オールラッシュ 卒業制作準備(脚本開発)																
	10	ダビング（MA）準備 卒業制作準備(脚本開発)																
	11	ダビング（MA）準備 卒業制作準備(脚本開発)																
	12	ダビング（MA）準備 卒業制作準備(脚本開発)																
	13	ダビング（MA） 卒業制作準備(脚本開発)																
	14	作品発表会・合評・振り返り 卒業制作準備(脚本開発)																
授業外学習	脚本執筆																	
教科書 参考文献	特になし																	
評価項目 評価方法	チーム貢献度（役割への取り組み）30％ コミュニケーション力 30％ 協働協調性（実習に参加する姿勢）30％ 成長度（レポート）10％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																	

科目名		マネジメント専門演習Ⅱ〈マネジメント〉						担当教員		有吉司 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3	開講学期	後期	ターム	3・4	講義型	W14	校舎	新百合		30	30	15	5	
履修条件	マネジメントコース（2026年度開講）														
授業概要	マネジメントコースは映画の始まりである企画プロデュースから始めて、制作後の観客に届けるという映画が流れ着く川下まで両端を学ぶことで、映画のすべてを知ることを目指す。本演習では、前期の「マネジメント専門演習Ⅰ」で取り組んだ「映画制作ワークフロー」の理解と「映画公開ワークフロー研究」を実践に展開するため、長期(4週間)のインターンシップに参加する。また、「プロデュース班」が合流する、他の専門コース（演出/身体表現・俳優/撮影照明/録音/編集コース）と合同での15分の短編映画制作「合同制作」に、製作宣伝として参加し、ポスター等の宣伝材料を制作する。さらに、4年の卒業制作で取り組む「日本映画大学フェス」の準備にとりかかる。														
到達目標	・映画界でのインターンシップから今日の日本映画界の実際の一端を知り、授業での学びとの擦り合わせを行い、将来の進路の道筋をつける。 ・各パートスタッフの現場での取り組み姿勢と制作現場で必要とされる技能を見知ること、映画制作の実際を深く理解する。 ・多くのスタッフ・他パートと関わって作品制作を進めることにより、それぞれのパートの仕事と役割を理解する。 ・他パートと協働するためにコミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。														
授業計画	週数	内 容													
	1	長期インターンシップ													
	2	長期インターンシップ													
	3	長期インターンシップ													
	4	長期インターンシップ													
	5	合同制作 制作宣伝 ＜日本映画大学フェス＞準備：概要作成から具体化に進み、フェスの規模やコンセプトの絞り込みを行う。													
	6	合同制作 制作宣伝 ＜日本映画大学フェス＞準備													
	7	TIFFCOM参加													
	8	＜日本映画大学フェス＞準備 配給宣伝実践 「合同制作」制作宣伝（現場スケジュール等を把握し、宣伝に必要な映像素材を獲得するための段取りと現場取材を行う）													
	9	＜日本映画大学フェス＞準備 配給宣伝実践 「合同制作」制作宣伝													
	10	＜日本映画大学フェス＞準備 配給宣伝実践 「合同制作」制作宣伝													
	11	＜日本映画大学フェス＞準備 配給宣伝実践 「合同制作」制作宣伝													
	12	＜日本映画大学フェス＞準備 配給宣伝実践 「合同制作」制作宣伝													
	13	＜日本映画大学フェス＞準備 配給宣伝実践 「合同制作」制作宣伝													
	14	合同制作 上映会準備													
授業外学習	・インターンシップ先となる企業の調査・研究・分析 ・＜日本映画大学フェス＞準備														
教科書 参考文献	特になし														
評価項目 評価方法	理解度（インターンシップレポートの内容）50％ 理解度（リアクションペーパーの内容）30％ 積極性（フェス準備・制作宣伝への取り組み姿勢）20％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		脚本専門演習Ⅱ〈脚色〉						担当教員		荒井晴彦、青島武 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	8	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	3	開講学期	後期	ターム	3・4	講義型	W14	校舎	白山		30	10	25	15	
履修条件		脚本コース													
授業概要		原作（小説など）を元に長編シナリオを執筆する。原作を読み込み理解することで、その世界観やテーマを映画という表現に昇華させるためのシナリオ技法を学ぶ。コンストラクション（構成）ダイアログ（台詞）ト書き等、さらに専門的技術を習得するとともに長編シナリオを執筆する持続力を身につける。													
到達目標		小説とは異なるシナリオの構造を理解して、「脚色」に必要なシナリオ技術を習得する。													
授業計画	週数	内 容													
	1	脚色したい原作を選定して箱書きを書き、原作のテーマを見つける。													
	2	原作をそのままシナリオ形式に起こして（ベタ起こし）、小説とシナリオの表現の違いを認識する。													
	3	既成の原作物(長編小説)の映画を原作～シナリオ～完成した映画の順でたどって、解析する。													
	4	既成の原作物(短編小説)の映画を原作～シナリオ～完成した映画の順でたどって、解析する。													
	5	ベタ起こしを元に箱書きを書き、映画としての構成を考える。													
	6	脚色のポイントを映画の特性などを踏まえて考察してプロットにする。													
	7	プロットを元に調査や取材を行う。													
	8	取材で得たことを元にさらにプロットを練る。													
	9	プロットを元に箱書きを作る。													
	10	シナリオ執筆に入る。													
	11	既存の原作物の映画を観て、シナリオ～原作と逆にたどって、解析する。													
	12	既存の原作物の映画を観て、シナリオ～原作と逆にたどって、解析する。													
	13	書き上げた初稿を箱書きに戻し、検証する。検証を元にシナリオを直す。													
	14	個別指導にてシナリオの改訂作業をする。合評。													
授業外学習		プロット及びシナリオの執筆。													
教科書 参考文献		必要に応じて授業内で参考資料を配布し、参考作品を上映する。													
評価項目 評価方法		技能習熟度(完成したシナリオの内容)40％ 原作の批評的読解力(完成したシナリオの内容)30％ 授業の理解度(提出課題)20％ 主体性(受講態度)10％													
		出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		文芸専門演習Ⅱ〈批評〉						担当教員		大澤信亮 ほか										
科目区分	専門			科目分類		選択必修		授業形態		演習		単位数		8		DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	3	開講学期	後期	ターム		3・4		講義型		W14		校舎	白山		30		10	25	15	
履修条件		文芸コース																		
授業概要		この講義では、様々なジャンルの批評文を読み、書く。批評とは、自らの思考や感覚それ自体を、言葉によって作品化する試みである。そのため、批評の本質は、その自由さにあると言える。ここでは何人かの批評家の批評文を取りあげ、それらが対象についていかに思考し、その思考を作品化しているかを学ぶ。受講者は毎週 1 冊ないし 1 本以上の批評文を読み、それについてのレポートを提出した上で、各回の授業に臨む。その間、並行して最終課題のための資料集めや構成などの準備を進める。最終課題では10000字の批評文の提出を求める。テーマは受講者と講師の相談によって決める。講師はテーマによって、担当教員（大澤）以外の者が務める可能性もある。授業開始時には、学生の相互交流と問題意識の向上のため、合宿を予定している。この講義は 4 年次の「卒業制作」で批評を選択する者の準備にもなっている（1～3週は昨年の例。各回についても変更の可能性あり）。																		
到達目標		批評文を読む力・書く力を身につける。																		
授業計画	週数	内 容																		
	1	蓮實重彦『監督小津安二郎』（伊津野知多先生の講義）																		
	2	小津安二郎記念・蓼科高原映画祭（合宿、伊津野先生、藤田直哉先生参加）																		
	3	合評（小津安二郎『父ありき』についての課題文の合評、伊津野先生）																		
	4	「国語教科書」と武田泰淳「審判」について（高橋源一郎『「読む」ってどんなこと？』より）																		
	5	杉田俊介「弱者男性たちが置き去りにされていく」（『男がづらい！ 資本主義社会の「弱者男性」論』より）																		
	6	杉田俊介「成熟と零落」（『宮崎駿論』より）																		
	7	杉田俊介「オトナコドモたちの成熟と喪失」（『ジャパニメーションの成熟と喪失』より）																		
	8	杉田俊介「ロスジェネの水子たち——批評と運動の間」（『神と革命の文芸批評』より）																		
	9	彦坂諦「戦争と性」にまつわる神話」（『男性神話』より）																		
	10	最終課題準備（構成・参考文献の整理）																		
	11	最終課題執筆																		
	12	最終課題執筆																		
	13	最終課題完成（10000字）																		
	14	発表・講評																		
授業外学習		授業で取り上げた作家の他の作品を読む。																		
教科書 参考文献		授業内で指示																		
評価項目 評価方法		技術習得度・応用力（最終課題）40％ 理解度（各回の課題の平均）40％ 各回の授業貢献度（ディスカッションへの参加態度）20％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。																		

科目名		卒業制作〈ドラマ〉（演出コース）						担当教員		緒方明 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	12	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	4	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F	校舎	新百合・外部		40	40	20	20	
履修条件		演出コース。卒制候補脚本を期限までに提出すること。													
授業概要		創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフイング、キャストイング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐えうる作品作りを目指す。完成した作品は学内で発表して、講師・学生の講評を受ける。また外部上映会で一般の観客に向けて公開する。 映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰しも経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどけるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。													
到達目標		・作品として成立させるだけでなく、一般の鑑賞に耐えうるレベルの作品にできるよう演出制作の技術を向上させる。 ・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、作品の評価を獲得することで一般社会とのコミュニケーションを深める。													
授業計画	週数	内 容													
	—	3月下旬…演出コース脚本提出→創作系講師により一次選考 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票 4月下旬…撮影作品決定、班編成、脚本直し開始 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャストイングなど 5月下旬…スケジュール試案、学校に提出 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認 7月上旬…撮影クランクIN（危険撮影は講師立ち合い）、ラッシュチェック 7月下旬…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ 9月中旬…オールラッシュ、整音開始 9月下旬…グレーディング 10月上旬…ダビング（MA） 10月下旬…0号試写、完成 11月下旬…合評会 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成 12月中旬…作品の展開とパブリシティ 1月下旬…劇場公開準備 卒業制作作品劇場公開													
授業外学習		■ 卒制脚本の執筆 ■ プレスリリース作成 ■ SNS展開 ■ チラシ・ポスター・チケットの配布 ■ 予告編制作 ほか													
教科書 参考文献		特になし													
評価項目 評価方法		①共同作業への積極的な取り組み 30% ②スタッフ・キャストとのコミュニケーション能力 30% ③映画制作・演出技術の習得 30% ④作品の評価 10% （準備・撮影・仕上げ・上映授業、それぞれの期間において2/3の出席を満たすこと） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		卒業制作〈公演〉						担当教員	天願大介、熊澤誓人 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	12	DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	4	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F	校舎	新百合・外部		40	40	20	20
履修条件		身体表現・俳優コース。特別にやむを得ない事情のない限り、全回出席することが履修の条件となる。												
授業概要		3年演出専門演習（3分エチュード）と2年映像制作実習（撮影照明、録音、編集コース合同授業）への参加を予定）。 卒業公演では、台本作、稽古、衣装・美術・小道具制作、音響・照明・制作の手伝い、宣伝美術などを各自責任を持って行い、俳優として舞台に立つ。												
到達目標		学んだ技術をすべて使って、役に取り組むこと。 精神と肉体の集中力、持久力を駆使して、表現すること。 相手役との関係、その変化に応じて自分の演技を柔軟に変化させること。 稽古、舞台作りの過程で、チームに貢献すること。												
授業計画	週数	内 容												
	—	4月 映像演技基礎訓練・アクションワークショップ 5月 3年演出専門演習（3分エチュード）への参加 6月 3年身体表現コース演劇公演の舞台及び美術制作、2年映像制作実習への参加 7月 2年映像制作実習への参加 8月 卒業公演の内容の検討。台本作り 9月 台本作りとスタッフ編成、キャスティング 10月 稽古 11月 稽古 諸準備 12月 卒業公演												
授業外学習		自分が演じる役の参考になる情報をできるかぎり集め、身体で表現できるように準備する。肉体訓練を継続する。 稽古場で与えられた課題を、翌日までにクリアしておく。スタッフとしての打合わせ、諸準備を行う。												
教科書 参考文献		適宜配布する。												
評価項目 評価方法		俳優技術の習得30%（最終的にそれが表現に至ったか） スタッフとしての役割20%（与えられた責任をきちんと果たしたか） 積極性25%（自分の役をよりよく面白くするために、どう発想し努力したか） チーム貢献度25%（稽古・公演ともに、全体のためにどれだけ行動したか） 卒業公演に関してはすべて出席すること。 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。												

科目名		卒業制作〈ドキュメンタリー〉						担当教員		島田隆一、北川常寛、安岡卓治 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数		12	DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	4	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F	校舎	白山・外部			40	40	20	20
履修条件		ドキュメンタリーコース													
授業概要		ドキュメンタリーに限らず、映画、ひいては表現活動すべてに底通する源泉は、一個一個の個人の中にある問題意識や美意識である。伝えたいという心、見せたいという心、それが源にある。学生ひとりひとりに固有の作品があるべきだ。これまでのドキュメンタリー制作を軸とした専門演習で、各学生はそれぞれの企画を練り上げてきた。これらを映画作品として作り上げることが本授業のプロセスである。学生各個人の企画提案を学生と講師で協議しながら、企画主旨を共有できるスタッフによって制作班を編成し、それぞれの企画の実現に取り組む。本授業の履修期間内に完成することが困難な企画や、具体的な取材対象者、団体等の協力によって制作班を編成し、それぞれの企画の実現に取り組む。本授業の履修期間内に完成することが困難な企画や、具体的な取材対象者、団体等の協力を得ることが困難な企画は制作対象から外れる場合がある。取材、撮影、編集・・・制作の過程で数々の困難や失敗を経験しながら、映画を知り、人間を知る。 映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰しも経験する。他者の目に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどめるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。													
到達目標		・一般の鑑賞に耐えうるレベルの作品にできるよう技術を向上させる。 ・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。													
授業計画	週数	内 容													
	—	～ 3 月上旬…企画書協議 + 班編成													
		～ 4 月上旬…班別協議 + 班別指導													
		～ 4 月上旬…撮影設計・スケジュール策定・取材調査													
		4 月上旬～ 7 月上旬…撮影、撮影後随時ラッシュチェック、映像デジタイズ・編集データ整理・文字起こし													
		7 月上旬…構成案策定													
		7 月下旬…第一次編集・音声調整													
		8 月上旬…編集チェック・再構成													
		9 月中旬…第二次編集、編集チェック・再構成・追加撮影・資料撮影 他													
		9 月下旬…最終編集、ゼミ内講評													
—	1 0 月上旬…編集直し・MA														
—	1 1 月下旬…合評会														
—	1 2 月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成														
—	1 2 月中旬…作品の展開とパブリシティ														
—	1 月下旬…劇場公開準備														
—	2 月…卒制作品劇場公開														
授業外学習		■取材・調査・企画練成 ■撮影・録音・編集等の技術錬成 ■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか													
教科書 参考文献		『ドキュメンタリー・ストーリーテリング―「クリエイティブ・ノンフィクション」の作り方』（フィルムアート社）、『ドキュメンタリーとは何か―土本典昭・記録映画作家の仕事』、『映画は生きものの仕事である―私論・ドキュメンタリー映画』（未来社）、『映画の瞬き―映像編集という仕事』（フィルムアート社）、『映画もまた編集である―ウォルター・マーチとの対話』（みすず書房）、『日本映画の国際ビジネス』（キネ旬ムック）、『映画・映像産業ビジネス白書』（キネマ旬報）													
評価項目 評価方法		○チーム貢献度（役割への取り組み）（60%） ○技能習熟度（作品での評価）（20%） ○上映授業の理解度（毎回のリアクションフォームの内容）（20%）													
		出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		卒業制作〈ドラマ〉（撮影照明コース）						担当教員		さのてつろう、清久素延 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	12	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	4	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F	校舎	新百合・外部		40	40	20	20	
履修条件		撮影照明コース													
授業概要		創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフイング、キャストイング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐える作品作りを目指す。完成した作品は学内で発表して講師・学生の講評を受ける。また外部上映会で一般の観客に向けて公開する。 映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰しも経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどけるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。													
到達目標		・作品として成立させるだけでなく、一般にも公開できるレベルの作品を制作できるよう、撮影技術を向上させる。 ・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。													
授業計画	週数	内 容													
	—	3月上旬…演出コース脚本提出→創作系講師により一次選考 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票 4月下旬…撮影作品決定、班編成、脚本直し開始 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャストイングなど 5月下旬…スケジュール試案、学校に提出 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認 7月上旬…撮影クランクIN（危険撮影は講師立ち合い）、ラッシュチェック 7月下旬…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ 9月中旬…オールラッシュ、整音開始 9月下旬…グレーディング 10月上旬…ダビング（MA） 10月下旬…0号試写、完成 11月下旬…合評会 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成 12月中旬…作品の展開とパブリシティ 1月下旬…劇場公開準備 卒制作品劇場公開													
授業外学習		■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか													
教科書 参考文献		「日本映画の国際ビジネス」キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネマ旬報													
評価項目 評価方法		*技術的理解度50％（今まで身に付けた技術を作品に反映できる・応用し作品のクオリティー向上に貢献できる） *協調30％（広く他パートと作品のクオリティー向上のためにコミュニケーションをとれた） *理論/教養20％（作品の技術的根拠を説明できる・作品の芸術性について論ずることができる） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		卒業制作<ドラマ>（録音コース）						担当教員		若林大介、弦巻裕 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	12	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	4	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F	校舎	新百合・外部		40	40	20	20	
履修条件		録音コース													
授業概要		創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフイング、キャストイング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐える作品作りを目指す。完成した作品は学内で発表して講師・学生の講評を受ける。また外部上映会で一般の観客に向けて公開する。 映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰しも経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどけるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。													
到達目標		・作品として成立させるだけでなく、一般にも公開できるレベルの作品を制作する。 ・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。													
授業計画	週数	内 容													
	—	3月上旬…創作系講師による卒業制作脚本一次選考。 4月～5月…資格試験（JPPA映像音響処理技術者資格試験）に向けた技術解説授業。 卒業制作で使用する機材の講義。録音ゼミ生のみ。 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票 4月下旬…撮影作品決定、班編成。脚本直し。 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャストイングなどの制作準備。 5月下旬…機材準備とカメラテスト。 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認。 6月下旬…撮影クランクIN（危険撮影は講師立ち合い）、ラッシュチェック。 7月下旬…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ。 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ。 9月上旬…オールラッシュ、整音開始、音声仕込み作業。 9月下旬…グレーディング作業。 10月中旬…ダビング。 10月下旬…0号試写、完成。 11月中旬…合評会 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成。 12月中旬…作品の展開とパブリシティ。 1月下旬…劇場公開準備。 卒制作品劇場公開。													
授業外学習		JPPA映像音響処理技術者資格試験用問題集を解く ■ 予告編制作 ほか													
教科書 参考文献		ポストプロダクション技術マニュアル（日本ポストプロダクション協会） 「日本映画の国際ビジネス」キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネマ旬報													
評価項目 評価方法		4月5月に行う授業における受講姿勢、授業内で行うテスト、新しい機材等の技術習得度を評価（10%） 卒業制作において、準備段階、撮影段階、仕上げ段階、公開準備作業の4段階に対し、制作への参加姿勢、作品の理解度、技術の習得度、共同作業へのコミュニケーション能力、作品の到達度、作品への貢献度を評価する。 準備段階（20%）、撮影段階（30%）、仕上げ段階（30%）、公開準備作業（10%） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		卒業制作〈ドラマ〉（編集コース）						担当教員		大永昌弘 ほか						
科目区分		専門		科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数		12	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		4	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F	校舎	新百合・外部			40	40	20	20
履修条件		編集コース														
授業概要		創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフイング、キャストイング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐える作品作りを目指す。完成した作品は学内で発表して講師・学生の講評を受ける。また外部上映会で一般の観客に向けて公開する。 また映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰も経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどめるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。														
到達目標		・作品として成立させるだけでなく、一般にも公開できるレベルの作品を制作する。 ・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。														
授業計画	回数	内 容														
	—	3月上旬…演出コース脚本提出→創作系講師により一次選考 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票 映画タイトルWS 4月下旬…撮影作品決定、班編成、脚本直し開始 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャストイングなど 5月下旬…スケジュール試案、学校に提出 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認 7月上旬…撮影クランクIN（危険撮影は講師立ち合い）、ラッシュチェック 7月下旬…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ 9月中旬…オールラッシュ、整音開始 9月下旬…グレーディング 10月上旬…ダビング（MA） 10月下旬…0号試写、完成 11月下旬…合評会 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成 12月中旬…作品の展開とパブリシティ 1月下旬…劇場公開準備 卒制作品劇場公開														
授業外学習		■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか														
教科書 参考文献		「映像作家サバイバル入門 自分で作る／広める／回収するために」松江哲明著 「日本映画の国際ビジネス」キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネ旬報														
評価項目 評価方法		技術：技術習熟度、プレゼンテーション力（卒業制作作品）：40％ 協調：積極性、主体性、チーム貢献度、役割への取り組み（卒業制作作品）：40％ 理論／教養：応用力、成長力（卒業制作作品）：20％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

科目名		卒業制作〈VFX特殊撮影ドラマ〉						担当教員		今井聡 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数		12	DPとの対応	技術	協調	理論	教養
履修学年	4	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F	校舎	白山・外部			40	40	20	20
履修条件		VFX特殊撮影コース。（2027年度開講）													
授業概要		創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフィング、キャスティング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐えうる作品作りを目指す。完成した作品は学内で発表して、講師・学生の講評を受ける。 また外部上映会で一般の観客に向けて公開する。映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰しも経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどめるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。 VFX特殊撮影コースは、コースの特性を発揮するために独自で企画・脚本を開発し、コース生主体による視覚効果を見所としたドラマ制作を行う。													
到達目標		・VFX・特撮シーケンスを核としたドラマ作品を自ら企画して制作する力を身につける。 ・企画から完成までの全制作工程を通して、視覚効果の役割を再確認する。 ・授業で獲得したVFX・特撮技術者としてのスキルが修得できたかを理解する。													
授業計画	週数	内 容													
	—	1月中…コース全員のプロット提出とコース内選考													
		2月～3月…選考プロットの脚本化と改訂													
		4月…脚本直しとプリプロの開始													
		5月…各パートの準備開始、ロケハン、美術準備、キャスティングなど													
		6月…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認													
		6月下旬…撮影クランクIN													
		7月中旬…撮影クランクUP													
		7月下旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ													
		8月下旬…オールラッシュ													
		9月…ポストプロ期間													
		10月上旬…ダビング（MA）10月下旬…0号試写、完成													
		11月下旬…合評会													
年明け1月 卒業制作作品劇場上映															
授業外学習		・プロット、脚本執筆、映画制作準備 ・編集ソフト、画像合成ソフトの習熟。													
教科書 参考文献		特になし													
評価項目 評価方法		技術理解度60％（身に付けた技術を作品に反映できる・応用して作品のクオリティー向上に貢献できる） 協調性20％（スタッフと作品のクオリティー向上のためにコミュニケーションをとれた） 積極性、主体性、創造性(工夫)20％ 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。													

科目名		卒業制作〈マネジメント〉						担当教員		菅野和佳奈、有吉司 ほか					
科目区分	専門			科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数	12	DPとの対応	技術	協調	理論	教養	
履修学年	4	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F	校舎	新百合・外部		40	40	20	20	
履修条件		マネジメントコース（2027年度開講）													
授業概要		4年次は、自らの企画で映画を制作し上映するまでを行う。2・3年次に学んできた、映画をゼロから生み、育て、作り上げ、世に送り出すことの集大成として、企画開発から脚本作成、撮影仕上げを経て作品を完成させ、宣伝をして劇場で上映し、さらに先の利用までも計画する。これら全ての流れを、与えられた予算とスケジュールの中で進めることがマネジメントコースの「卒業制作」となる。 「プロデュース班」は、自ら発案した企画を脚本化し、準備・撮影・仕上げを経て作品を完成させる。「マネジメント班」は、〈日本映画大学フェス〉を企画して実施に向けて準備し、開催したフェスの中で卒制作品の上映をおこなう。2班は協働しながら、スタッフの体調管理、安全に留意した制作を行いつつ、予算やスケジュール内で最高の作品仕上がりを目指して作品の質を護る。完成後は作品に相応しい宣伝と上映の計画を立てそれを実践するとともに、上映に向けたイベント等を立案し、より多くの観客の鑑賞が実現するよう最大限努力する。 マネジメントコースが目的とする、映画の始まりである企画プロデュースから始めて、制作後の観客に届けるという映画が流れ着く川下まで両端を学ぶことが、この「卒業制作」を経て完成する。													
到達目標		・制作ワークフローに則って企画開発から脚本作成、準備、撮影、仕上げのスケジュールを作成して実行できるようになる。 ・作品を完成させ、宣伝をして劇場で上映するだけでなく、その先の利用までも構想できるようになる。 ・2班（プロデュース班）（マネジメント班）が協働して制作と上映を実現できるようになる。													
授業計画	週数	内 容													
	—	～2月…脚本コースとの企画開発、脚本制作（プロデュース班） 日本映画大学フェス準備（マネジメント班） 3月～4月…脚本改訂（プロデュース班） 日本映画大学フェス準備（マネジメント班） 5月…各パートの準備開始、ロケハン、美術準備、キャスティングなど（プロデュース班） 日本映画大学フェス準備（マネジメント班） 6月…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認（プロデュース班） 日本映画大学フェス準備（マネジメント班） 7月上旬…撮影クランクIN（プロデュース班） 全ドラマ班に製作宣伝として参加（マネジメント班） 7月下旬…撮影クランクUP（プロデュース班） 全ドラマ班に製作宣伝として参加（マネジメント班） 8月下旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ（プロデュース班） ポスター・メイキング制作（マネジメント班） 9月中旬…オールラッシュ（プロデュース班） ポスター・メイキング制作・日本映画大学フェス準備（マネジメント班） 10月上旬…ダビング（MA） 10月下旬…0号試写、完成（プロデュース班） 日本映画大学フェス準備（マネジメント班） 11月下旬…合評会（プロデュース班）（マネジメント班） 9月～12月…日本映画大学フェス準備（プロデュース班）（マネジメント班） 年明け1月 日本映画大学フェス開催 卒業制作全作品劇場上映（プロデュース班）（マネジメント班）													
	授業外学習														
	・企画開発、脚本執筆、映画制作、＜日本映画大学フェス＞準備 ・劇場や映画祭に足を運び、できるだけ多くの作品を鑑賞しておく														
	教科書 参考文献		特になし												
	評価項目 評価方法		積極性30%（卒制・フェスの完遂に向けて前進に向けてどれだけ取り組んだか） 協働作業30%（卒制・フェスの進行に対してどれだけ貢献したか） スタッフとしての役割20%（与えられた職務をきちんと果たしたか） ノウハウ習得20%（映画制作・公開の工程の理解と進める術を身に着けたか） 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。												

科目名		卒業制作〈シナリオ〉						担当教員		青島武、荒井晴彦 ほか							
科目区分		専門		科目分類	選択必修	授業形態	演習		単位数		12	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		4	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F		校舎	白山		40		15	35	30
履修条件		脚本コース															
授業概要		卒業制作として250枚のシナリオを書き上げることを目標とする。個別指導によって、ここまで学んできたシナリオ作法と人としての成長を活かして、学外に発表できるレベルの長編シナリオを完成させる。															
到達目標		250枚のオリジナル脚本を書く能力を身につける。															
	週数	内 容															
	—	4月： 企画開発 5月～6月： プロット作り 7月～8月下旬： シナリオ執筆 9月上旬： シナリオ直し 9月下旬： シナリオの提出 これらの過程を経て、250枚のオリジナルシナリオを完成させ、9月末〆切のシナリオ作家協会主催の「新人シナリオコンクール」への応募を目指す。 10月からは、テレビドラマ（60分）のシナリオ作りにとりかかり、テレビドラマのシナリオコンクールへの応募を目指す。 参考となるテレビドラマを鑑賞し、分析と研究を経てから執筆にとりかかる。 1月からは、「卒業シナリオ集」の編集作業にとりかかる。															
授業外学習		プロット及びシナリオの執筆。															
教科書 参考文献		それぞれの書くシナリオの題材にあった映画、シナリオ、書籍などを、教員がその都度提示します。															
評価項目 評価方法		技能習熟度（完成したシナリオ）35% 積極性（文集への取り組み）10% 授業の理解度（受講態度）30% 知識の理解度（完成したシナリオ）25% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。															

科目名		卒業制作〈文芸〉						担当教員		大澤信亮、藤田直哉						
科目区分		専門		科目分類	選択必修	授業形態	演習	単位数		12	DPとの対応		技術	協調	理論	教養
履修学年		4	開講学期	通年	ターム	—	講義型	F	校舎	白山			40	15	35	30
履修条件		文芸コース														
授業概要		文芸コースの最終成果物として、小説（40,000字程度）か評論（20,000字程度）のいずれかを選択し、一年間を通して完成させる。受講者は、大澤・藤田のいずれかを主査、他方を副査とし、それぞれの指導を受けつつ、原則として自由に執筆を行うことになる。ただし、完成までには下記のプロセス（とくに①、②、③）を経ることが必須となり、そのつど求める課題の提出および連絡や報告の姿勢も成績評価の与件となる（最終成果物としてどれほど優れた作品を提出しても、下記のプロセスを守らなかった場合、不合格になる可能性がある）。														
到達目標		小説（40,000字程度、400字詰原稿用紙100枚程度）、あるいは、評論（20,000字程度、400字詰原稿用紙50枚程度）の完成。														
授業計画	回数	内 容														
	—	卒業制作作品提出までの間は、原則として大澤・藤田いずれかをそれぞれ主査・副査とし、以下のプロセスで作品完成まで進めていく。5月に計画書提出、7月に、中間発表会・講評会、9月に初稿提出および講評会を実施する（全員参加必須）。														
		それぞれのプロセスの具体的な日程については確定次第連絡する。														
		4月：卒業制作ガイダンス														
		5月上旬：卒業制作計画書①（テーマ・プロット・構成案・参考資料の提出）														
		7月下旬：卒制中間発表会②（4,000字程度の作品の断片の提出）														
		9月下旬：初稿提出③（原則として規定枚数を満たしていること）・講評														
		10月末：完成稿提出														
		11月以降：卒業文集の編集作業（ゲラ直し等）														
	12月中旬：卒業文集原稿校了															
1月中旬：卒業文集合評																
授業外学習		それぞれの作品の執筆														
教科書 参考文献		とくになし。														
評価項目 評価方法		技術習得度・応用力・成長力（最終課題）70% 積極性・主体性（計画書の内容）10%、（中間発表への取り組み）10%、（初稿の内容）10% 出席が2/3に満たない者は成績評価の対象としない。														

実務経験のある教員等による授業科目【2025年度】

科目区分	授業科目	年次	単位	授業担当教員	実務家教員	専門分野
教養	人間総合研究	1	8	ハン・トンヒョン、井土紀州、細野辰興 ほか	井土紀州	脚本家、映画監督
					細野辰興*	映画監督
教養	日本映画史 1	1	2	石坂健治	石坂健治	東京国際映画祭シニア・プログラマー
教養	日本映画史 2	1	2	細野辰興	細野辰興*	映画監督
教養	文芸映画論	1	2	大澤信亮	大澤信亮	批評家
教養	サブ・カルチャー論	1	2	藤田直哉	藤田直哉	文芸評論家
教養	映画と文学	1	2	関川夏央	関川夏央*	作家
教養	テーマ研究 1	1	2	石坂健治	石坂健治	東京国際映画祭シニア・プログラマー
教養	シナリオ研究 1	1	2	井土紀州	井土紀州	脚本家、映画監督
教養	映画流通論	2	2	石坂健治、富山省吾	石坂健治	東京国際映画祭シニア・プログラマー
					富山省吾*	映画プロデューサー、日本アカデミー賞事務局顧問
教養	映画と演劇	2	2	天願大介	天願大介	映画監督、脚本家
教養	文学	2	2	関川夏央	関川夏央*	作家
教養	美術史 1	2	2	家田奈穂	家田奈穂*	学芸員
教養	アニメーション・特撮文化論	3・4	2	藤田直哉	藤田直哉	文芸評論家
教養	シナリオ研究 2	3・4	2	青島武	青島武	脚本家、映画プロデューサー
教養	映画と音楽	3・4	2	岩瀬政雄	岩瀬政雄*	音楽プロデューサー
教養	こども映画教育 I	3・4	2	村上朗子	村上朗子*	川崎市アートセンター職員、映像教育
教養	こども映画教育 II	3・4	2	熊澤誓人 ほか	熊澤誓人	映画監督
教養	テーマ研究 5	3・4	2	細野辰興	細野辰興*	映画監督
教養	映像と美術	3・4	2	藤田直哉	藤田直哉	文芸評論家
教養	映画で学ぶ歴史と社会 6	3・4	2	今井友樹	今井友樹*	ドキュメンタリー映画監督
教養	キャリア・サポート	3	2	富山省吾 ほか	富山省吾*	映画プロデューサー、日本アカデミー賞事務局顧問
専門基礎	演劇WS	1	2	天願大介、熊澤誓人 ほか	天願大介	映画監督、脚本家
					熊澤誓人	映画監督
専門基礎	ドキュメンタリーWS	2	2	安岡卓治 ほか	安岡卓治*	映画プロデューサー
専門基礎	映像リテラシーWS	2	2	さのてつろう、若林大介 ほか	さのてつろう	撮影監督
					若林大介	録音技師
専門基礎	文芸WS	2	2	大澤信亮	大澤信亮	批評家
専門基礎	演出論 1	3	2	緒方明 ほか	緒方明	映画監督
専門基礎	録音WS	2	2	若林大介、弦巻裕 ほか	若林大介	録音技師
					弦巻裕*	録音技師
専門基礎	動画配信WS	2	2	さのてつろう、藤田直哉 ほか	さのてつろう	撮影監督
					藤田直哉	文芸評論家
専門基礎	映画プロデュースWS	2	2	有吉司、菅野和佳奈 ほか	有吉司	映画プロデューサー
					菅野和佳奈	映画プロデューサー
専門基礎	映画美術WS	2	2	緒方明、サトウトシキ、原正弘 ほか	緒方明	映画監督
					サトウトシキ	映画監督
					原正弘	映画監督
専門基礎	脚本創作論	3	2	青島武、荒井晴彦 ほか	青島武	脚本家、映画プロデューサー
					荒井晴彦*	脚本家、映画監督
専門基礎	編集実践技術論	3	2	大永昌弘 ほか	大永昌弘	編集技師
専門基礎	演出論 2	3	2	サトウトシキ、原正弘 ほか	サトウトシキ	映画監督
					原正弘	映画監督
専門基礎	特殊撮影・VFX WS 1	3	2	尾上克郎、緒方明 ほか	尾上克郎*	特撮監督、VFXスーパーバイザー
					緒方明	映画監督
専門基礎	特殊撮影・VFX WS 2	3	2	尾上克郎、緒方明 ほか	尾上克郎*	特撮監督、VFXスーパーバイザー
					緒方明	映画監督
専門基礎	上映企画WS I	3	2	石坂健治	石坂健治	東京国際映画祭シニア・プログラマー
専門基礎	上映企画WS II	4	2	石坂健治、菅野和佳奈	石坂健治	東京国際映画祭シニア・プログラマー
					菅野和佳奈	映画プロデューサー
合計	37科目	—	80	—	26名	

・「実務家教員」欄の*印は兼任講師、特任教員または招聘講師を表す。

科目別索引

あ アニメーション・特撮文化論 53

え 映画解釈論 37
 映画史概論（前期） 15
 映画史概論（後期） 17
 映画史基礎（1年生） 18
 映画史基礎（2年生） 36
 映画史基礎（4年生） 75
 映画制作基礎演習 78
 映画で学ぶ歴史と社会1〈ジェンダーとセクシュアリティ〉 28
 映画で学ぶ歴史と社会2〈現代の日本〉 29
 映画で学ぶ歴史と社会3〈国際情勢〉 64
 映画で学ぶ歴史と社会4〈ネイションとエスニシティ〉 66
 映画で学ぶ歴史と社会5〈現代思想〉 67
 映画で学ぶ歴史と社会6〈映像民俗学〉 68
 映画と演劇 42
 映画と音楽 59
 映画と哲学 60
 映画と文学 26
 映画と法 65
 映画美術WS 92
 映画プロデュースWS 91
 映画分析論（前期） 19
 映画分析論（後期） 21
 映画流通論 46
 英語1 49
 英語2 69
 英語3 72
 映像と美術 63
 映像リテラシーWS 86
 英米文学 62
 演劇史 61
 演劇WS 84
 演出基礎演習Ⅰ〈ドキュメンタリー〉 100
 演出基礎演習Ⅱ〈ワンシーン〉 107
 演出専門演習〈3分エチュード〉 114
 演出論1 88
 演出論2 96

か 韓国語 50

き 技術合同演習（撮影照明コース） 117
 技術合同演習（編集コース） 119
 技術合同演習（録音コース） 118

脚本専門演習Ⅰ〈短編映画制作〉 122
 脚本専門演習Ⅱ〈脚色〉 133
 脚本創作論 93
 キャリア・サポート 74

け 芸能概論 27

こ 合同制作（演出コース） 124
 合同制作（撮影照明コース） 126
 合同制作（身体表現・俳優コース） 125
 合同制作（編集コース） 128
 合同制作（録音コース） 127
 国際合同制作〈日韓合同映画制作〉 76
 こども映画教育Ⅰ 70
 こども映画教育Ⅱ 73

さ 撮影照明基礎演習 101
 撮影照明専門演習 108
 サブ・カルチャー論 23

し シナリオ基礎演習 77
 シナリオ研究Ⅰ 24
 シナリオ研究Ⅱ 54
 社会学 47
 写真論 43
 上映企画WSⅠ 98
 上映企画WSⅡ 99
 身体表現専門演習 115

そ 卒業制作〈公演〉 136
 卒業制作〈シナリオ〉 143
 卒業制作〈ドキュメンタリー〉 137
 卒業制作〈ドラマ〉（演出コース） 135
 卒業制作〈ドラマ〉（撮影照明コース） 138
 卒業制作〈ドラマ〉（編集コース） 140
 卒業制作〈ドラマ〉（録音コース） 139
 卒業制作〈VFX特殊撮影ドラマ〉（VFX特殊撮影コース） 141
 卒業制作〈文芸〉 144
 卒業制作〈マネジメント〉 142

ち 中国語 30
 長編シナリオ演習Ⅰ 79
 長編シナリオ演習Ⅰ（編入生） 81
 長編シナリオ演習Ⅱ 80
 長編シナリオ演習Ⅱ（再履修） 83
 長編シナリオ演習Ⅱ（編入生） 82

て	テーマ研究1〈アジア映画入門〉	22	ベーシック・スキル3〈日本語II〉	32
	テーマ研究2〈メロドラマの歴史、発展と想像力〉	38	編集基礎演習	103
	テーマ研究3〈ジョージ・A・ロメロとゾンビの世界〉	51	編集実践技術論	94
	テーマ研究4〈映画風景論〉	56	編集専門演習	110
	テーマ研究5〈シャレード概論〉	55		
	テーマ研究6〈1968年映画論〉	57	ま マネジメント基礎演習Ⅰ	105
	デジタル映像技術概論	48	マネジメント基礎演習Ⅱ	112
と	動画配信WS	90	マネジメント専門演習Ⅰ	121
	特殊撮影・VFXWS1	95	マネジメント専門演習Ⅱ〈プロデュース〉	131
	特殊撮影・VFXWS2	97	マネジメント専門演習Ⅱ〈マネジメント〉	132
	ドキュメンタリー映画史	35		
	ドキュメンタリー専門演習Ⅰ	116	ろ 録音基礎演習	102
	ドキュメンタリー専門演習Ⅱ	129	録音専門演習	109
	ドキュメンタリーWS	85	録音WS	89
に	日本映画史1(前期)	14		
	日本映画史1(後期)	16		
	日本映画史2〈今村昌平論〉	34		
	日本文化論	58		
	人間総合研究	13		
ひ	美術史1〈日本美術史〉	41		
	美術史2〈西洋美術史〉	45		
	表象文化論1	20		
	表象文化論2	39		
ふ	ファッション文化史	40		
	VFX特殊撮影基礎演習Ⅰ	104		
	VFX特殊撮影基礎演習Ⅱ	111		
	VFX特殊撮影専門演習Ⅰ	120		
	VFX特殊撮影専門演習Ⅱ	130		
	フィルム・アーカイヴ	52		
	文学	44		
	文芸映画論	25		
	文芸専門演習Ⅰ〈読解・ライティングWS〉	123		
	文芸専門演習Ⅱ〈批評〉	134		
	文芸WS	87		
	文章系基礎演習Ⅰ	106		
	文章系基礎演習Ⅱ	113		
	文章表現	71		
へ	ベーシック・スキル1	10		
	ベーシック・スキル2〈コミュニケーションⅠ〉	11		
	ベーシック・スキル2〈コミュニケーションⅠ〉(編入生)	33		
	ベーシック・スキル2〈日本語Ⅰ〉	12		
	ベーシック・スキル3〈コミュニケーションⅡ〉	31		

授業担当教員

あ 青島 武 [教授、脚本家、映画プロデューサー]

シナリオ研究2、シナリオ基礎演習、長編シナリオ演習Ⅰ、長編シナリオ演習Ⅱ、脚本創作論、文章系基礎演習Ⅱ、脚本専門演習Ⅰ、卒業制作

荒井晴彦 [名誉教授、脚本家、映画監督]

脚本創作論、脚本専門演習Ⅱ、卒業制作

有吉 司 [映画プロデューサー]

映画プロデュースWS、マネジメント基礎演習Ⅰ、マネジメント基礎演習Ⅱ、マネジメント専門演習Ⅰ、マネジメント専門演習Ⅱ、卒業制作

晏 妮 (アンニ) [特任教授、日中映画研究]

テーマ研究2、テーマ研究6

い 家田奈穂 [兼任講師、芸員]

美術史1

石坂健治 [教授、映画祭ディレクター]

日本映画史1、映画史基礎、ドキュメンタリー映画史、芸能概論、テーマ研究1、映画流通論、演劇史、映画と法、上映企画WSⅠ、上映企画WSⅡ

井土紀州 [准教授、脚本家、映画監督]

ベーシック・スキル1、人間総合研究、シナリオ研究1、シナリオ基礎演習、映画制作基礎演習、長編シナリオ演習Ⅰ、長編シナリオ演習Ⅱ

伊津野知多 [教授、映画理論]

映画史概論、映画史基礎、表象文化論1、表象文化論2、テーマ研究3、フィルム・アーカイヴ

今井 聡 [准教授、映像作家]

VFX特殊撮影基礎演習Ⅰ、VFX特殊撮影基礎演習Ⅱ、VFX特殊撮影専門演習Ⅰ、VFX特殊撮影専門演習Ⅱ、卒業制作

今井友樹 [兼任講師、ドキュメンタリー映画監督]

映画で学ぶ歴史と社会6

岩瀬政雄 [客員教授、音楽プロデューサー]

映画と音楽

お 大澤信亮 [教授、批評家]

文芸映画論、映画で学ぶ歴史と社会5、文章系基礎演習Ⅰ、文芸専門演習Ⅱ、卒業制作

大友りお [特任教授、文学]

映画で学ぶ歴史と社会1、英米文学

大永昌弘 [准教授、映画編集]

編集実践技術論、編集基礎演習、編集専門演習、技術合同演習、合同制作、卒業制作

緒方 明 [教授、映画監督]

映画美術WS、演出論1、特殊撮影・VFXWS1、特殊撮影・VFXWS2、演出基礎演習Ⅱ、卒業制作
尾上克郎 [特任教授、特撮監督・VFXスーパーバイザー]

特殊撮影・VFXWS1、特殊撮影・VFXWS2、VFX特殊撮影基礎演習Ⅰ、VFX特殊撮影基礎演習Ⅱ、VFX特殊撮影専門演習Ⅰ、VFX特殊撮影専門演習Ⅱ、卒業制作

か 菅野和佳奈 [映画プロデューサー]

映画プロデュースWS、上映企画WSⅡ、マネジメント基礎演習Ⅰ、マネジメント基礎演習Ⅱ、マネジメント専門演習Ⅰ、マネジメント専門演習Ⅱ、卒業制作

上原 遼 [兼任講師、大学院博士課程]

英語1、英語2、英語3

き 北川帯寛 [専任講師、ドキュメンタリー映画監督]

演出基礎演習Ⅰ、ドキュメンタリー専門演習Ⅰ、ドキュメンタリー専門演習Ⅱ、卒業制作

清久素延 [准教授、撮影監督]

撮影照明基礎演習、撮影照明専門演習、技術合同演習、合同制作、卒業制作

く 熊岡路矢 [名誉教授、国際協力、NPO法人代表理事]

映画で学ぶ歴史と社会3

熊澤誓人 [准教授、映画監督]

こども映画教育Ⅱ、演劇WS、合同制作、卒業制作

さ 佐川美智子 [兼任講師、美術史家、版画史]

美術史2

サトウトシキ [教授、映画監督]

映画美術WS、演出論2、演出専門演習、合同制作

さのてつろう [教授、撮影監督]

映像リテラシーWS、動画配信WS、撮影照明基礎演習、撮影照明専門演習、技術合同演習、合同制作、卒業制作

し 島田隆一 [准教授、映画監督、プロデューサー]

演出基礎演習Ⅰ、ドキュメンタリー専門演習Ⅰ、ドキュメンタリー専門演習Ⅱ、卒業制作

せ 関川夏央 [特任教授、作家]

文学、映画と文学

た 高橋世織 [名誉教授、文芸評論家]

日本文化論、芸能概論

田辺秋守 [教授、映画批評]

映画史基礎、テーマ研究4、映画解釈論、映画分析

論、芸能概論、映画と哲学

で学ぶ歴史と社会 2

つ 弦巻 裕 [名誉教授、録音]
録音WS、録音基礎演習、録音専門演習、技術合同演習、合同制作、卒業制作

リ 劉 書明 [兼任講師、日本古典文学]
中国語

て 寺浦久仁香 [兼任講師、日本語教育]
ベーシック・スキル2
天願大介 [教授、映画監督、脚本家]
芸能概論、映画と演劇、国際合同制作、演劇WS、身体表現専門演習、卒業制作

わ 若林大介 [准教授、録音]
映像リテラシーWS、録音WS、録音基礎演習、録音専門演習、技術合同演習、合同制作、卒業制作

と 富山省吾 [本学園理事長、映画プロデューサー]
映画流通論、キャリア・サポート

は 原 正弘 [准教授、映画監督]
映画美術WS、演出論2、演出専門演習、合同制作
ハン・トンヒョン [教授、社会学]
ベーシック・スキル1、人間総合研究、ファッション文化史、映画で学ぶ歴史と社会4、社会学、韓国語

ふ 藤田直哉 [准教授、文芸評論家]
サブ・カルチャー論、アニメーション・特撮文化論、映像と美術、動画配信WS、文章系基礎演習Ⅰ、文芸専門演習Ⅰ、卒業制作

ほ 細野辰興 [特任教授、映画監督]
ベーシック・スキル1、人間総合研究、日本映画史2、テーマ研究5、映画制作基礎演習

み 港 郁雄 [兼任講師、日本映画・テレビ録音協会]
デジタル映像技術概論

む 村上朗子 [兼任講師、映像教育]
こども映画教育Ⅰ

も 守内映子 [准教授、日本語教育]
ベーシック・スキル2、ベーシック・スキル3、文章表現

や 安岡卓治 [特任教授、映画プロデューサー]
ドキュメンタリーWS、演出基礎演習Ⅰ、ドキュメンタリー専門演習Ⅰ、ドキュメンタリー専門演習Ⅱ、卒業制作

よ 横田和子 [准教授、日本語教育]
ベーシック・スキル2、ベーシック・スキル3、映画